男女共同参画にかかる府民意識調査
報　告　書

令和６年１２月

大　阪　府

令和６年（2024 年）12 月

発 行　大阪府府民文化部男女参画・府民協働課

〒540-0008 大阪市中央区大手前１－３－４９
TEL：06-6210-9321

－ 目次 －

Ⅰ．調査の概要 1
１．調査目的 1
２．調査項目 1
３．調査設計 1
４．調査標本数及び回収数 1
５．調査地域区分 2
６．サンプルデザイン 3
７．報告書の見方 5
８．標本誤差 5

Ⅱ．回答者の属性 6

Ⅲ．調査結果の分析 10
１　男女の地位の平等について 10
（１）男女平等の現状認識 10
（２）女性の増加が望まれる職業・役職 16
２　男女の役割分担について 17
（１）性別役割分担意識 17
（２）「男は仕事、女は家庭」と思う理由 21
（３）「男は仕事、女は家庭」と思わない理由 22
３　家庭生活について 23
（１）結婚、離婚に関する考え方 23
（２）家庭の仕事の役割分担 25
（３）仕事、家事、育児、介護に要する時間【平日】 29
（４）仕事、家事、育児、介護に要する時間【休日】 38
４　介護について 47
（１）介護される場合の希望 47
（２）介護してもらいたい相手 49
５　職業生活について 51
（１）女性の働き方についての考え 51
（２）実際の女性の働き方 54
（３）男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因 56
（４）女性が働き続けるために必要なこと 57
（５）女性が再就職しやすくなるために必要なこと 60
（６）男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと 63
（７）社会・職場・家庭における男女共同参画の進展 66
（８）職場において男女格差を感じること 67
（９）生活の中で優先すること【１】希望 75
（10）生活の中で優先すること【２】現実 78

（11）今後の就労意向 81
（12）働けない理由 82
（13）働きたくない理由 83
６　コロナ禍前後の生活について 84
（１）コロナ禍間の生活の変化 84
（２）コロナ禍後の生活の変化 85
７　ドメスティック・バイオレンスについて 86
（１）暴力だと思うこと 86
（２）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度 87
（３）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知手段 89
（４）メディアにおける性・暴力表現 90
（５）配偶者等からの暴力(ＤＶ)などをなくすためにもっと取組が必要なこと 93
８　男女共同参画に関する用語の認知度 94
（１）見聞きしたことがある言葉 94
（２）男女平等の実現にとって最も重要なこと 96
９　男女共同参画社会の推進に向けて 99
（１）男女共同参画社会を推進するために府や市町村がするべきこと 99
１０　暴力の被害経験について 102
（１）性暴力・性犯罪被害経験 102
（２）性暴力・性犯罪被害の相談先 103
（３）性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由 104
（４）交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験 105
（５）配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験 111
（６）配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験 117
（７）デートＤＶ、ＤＶの被害の相談先 118
（８）デートＤＶ、ＤＶの被害を相談しなかった理由 124

Ⅳ．調査結果のまとめ 126

Ⅴ．自由意見のまとめ 133

資料編　調査票

Ⅰ．調査の概要

１．調査目的

大阪府では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成 14 年 4 月に「大阪府男女共同参画推進条例」を制定するとともに、平成 13 年以降、5 年ごとに「おおさか男女共同参画プラン」を策定し、施策を推進してきた。

その後、社会情勢の変化の中で、男女の意識や行動がどのように変化してきているのかを明らかにし、今後の施策推進の参考とするために、本調査を行うものである。

２．調査項目

（１）男女の地位の平等について
（２）男女の役割分担について
（３）家庭生活について
（４）介護について
（５）職業生活について
（６）コロナ禍前後の生活について
（７）ドメスティック・バイオレンスについて
（８）男女共同参画に関する用語の認知度
（９）男女共同参画社会の推進に向けて
（10）暴力の被害経験について

３．調査設計

（１）調査地域　大阪府内全域
（２）調査対象　満 18 歳以上の男女府民
（３）標本数　3,000
（４）抽出台帳　住民基本台帳
（５）抽出方法　層化二段無作為抽出法及び等間隔抽出法
（６）調査方法　配布は郵送方式、回収は郵送方式及びＷＥＢ方式（回答者による選択）
（７）調査時期　令和 6 年 8 月 7 日～8 月 30 日
（８）調査機関　株式会社　エム・アールビジネス

４．調査標本数及び回収数

（１）標本数　3,000（100.0%）
（２）有効回収数　986（32.9%）

【調査標本数及び回収数】

地域区分	標本数	有効回収数	有効回収率
大阪市	967	291	30.1
三島	384	124	32.3
豊能	222	84	37.8
北河内	382	150	39.3
中河内	279	83	29.7
南河内	198	74	37.4
泉北	385	130	33.8
泉南	183	49	26.8
不明	0	1	-
計	3000	986	32.9

５．調査地域区分

【当該市町村】

大阪市－大阪市

三　島－吹田市・高槻市・茨木市・
　　摂津市・島本町

豊　能－豊中市・池田市・箕面市・
　　豊能町・能勢町

北河内－守口市・枚方市・寝屋川市・
　　大東市・門真市・四條畷市・
　　交野市

中河内－八尾市・柏原市・東大阪市

南河内－富田林市・河内長野市・松原市・
　　羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・
　　太子町・河南町・千早赤阪村

泉　北－堺市・泉大津市・和泉市・
　　高石市・忠岡町

泉　南－岸和田市・貝塚市・泉佐野市・
　　泉南市・阪南市・熊取町・
　　田尻町・岬町

６．サンプルデザイン

（１）母集団　　大阪府に居住する満 18 歳以上の男女府民

（２）標本数　　3,000

（３）標本配分　　住民基本台帳登録者数の人口比により按分した。

（４）抽出方法

ア　層化二段無作為抽出方法（住民基本台帳からの抽出者）

（ア）　標本数 3,000

（イ）　地点数 244

（ウ）　層化（調査地点を抽出する際、類似の性格をもった地点をあらかじめグループに分け、その中から抽出を行う。このグループ分けを「層化」という。）

ａ　大阪府の市町村を、次の 8 地域に分類した。（５．調査地域区分を参照のこと）
（大阪市・三島・豊能・北河内・中河内・南河内・泉北・泉南）

ｂ　各地域については、「人口 100 万以上の市」「人口 30 万以上 100 万未満の市」「人口 20 万以上 30 万未満の市」「人口 10 万以上 20 万未満の市」「人口 10 万未満の市」「郡部」と、人口規模別に分類し、それぞれを層とした。

（エ）　標本数の配分
各層における推定母集団の規模により、3,000 の標本を男女等分に配分した。

（オ）　抽出方法（まず、国勢調査の調査区「調査地点」を無作為に抽出し、次に住民基本台帳から個人を抽出する。抽出手続きが二段になるので「二段抽出」という。）

ａ　１次抽出単位となる調査地点として、町字を使用した。

ｂ　調査地点（町字）の抽出数については、１調査地点あたりの標本数が 8～13 程度になるように、各層に割当てられた標本数から算出して決めた。

ｃ　調査地点（町字）の抽出は、

$$\frac{\text{層における満 18 歳以上人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間}$$

を算出し、等間隔抽出法によって当該人数番目のものが含まれる基本単位区を抽出し、抽出の起点とした。

ｄ　抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和 6 年 1 月 1 日時点における総務省指定の市町村コードの順序に従った。

ｅ　第 2 次抽出単位となる対象者の抽出は、調査地点（町・丁目）内から、住民基本台帳によって等間隔抽出法で抽出した。

ｆ　層化に割当てられた標本数が男女ほぼ等分になるように抽出した。

ｇ　以上の作業の結果得られた地域別の標本数・地点数は次のとおりである。

【標本割当計画】

地域区分	人口規模別	標本数	女	男	地点数	推定母集団
大阪市	100 万以上の市	967	484	483	75	2,430,160
三島	30 万～100 万未満	249	124	125	20	625,884
	20 万～30 万未満	96	48	48	8	242,487
	10 万未満	29	15	14	3	74,038
	郡部	10	5	5	1	25,385
豊能	30 万～100 万未満	133	66	67	11	334,904
	10 万～20 万未満	80	40	40	7	201,597
	郡部	9	5	4	1	23,764
北河内	30 万～100 万未満	133	66	67	11	334,304
	20 万～30 万未満	77	39	38	7	194,467
	10 万～20 万未満	129	64	65	10	324,526
	10 万未満	43	22	21	4	109,087
中河内	30 万～100 万未満	168	84	84	14	422,164
	20 万～30 万未満	88	44	44	7	222,201
	10 万未満	23	11	12	2	58,230
南河内	10 万～20 万未満	113	57	56	9	284,036
	10 万未満	74	37	37	6	187,172
	郡部	11	5	6	1	28,094
泉北	30 万～100 万未満	275	138	137	22	692,105
	10 万～20 万未満	61	30	31	5	152,709
	10 万未満	43	22	21	4	109,071
	郡部	6	3	3	1	13,921
泉南	10 万～20 万未満	63	31	32	5	158,227
	10 万未満	98	49	49	8	246,961
	郡部	22	11	11	2	55,793
合　計		3,000	1,500	1,500	244	7,551,287

７．報告書の見方

（１）回答は各設問の回答者数（ｎ）を基数とした百分率（％）で示してある。小数点以下第２位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0％を上下することがある。

（２）複数回答を依頼した質問では、回答比率の合計が100.0％を超える。

８．標本誤差

本調査の主な標本誤差の幅は次のとおりである。

層化二段抽出、信頼度95％の場合

標本誤差 $$\pm 2\sqrt{2\frac{N-n}{N-1}\cdot\frac{p(100-p)}{n}}$$

ただし、 $$\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$$

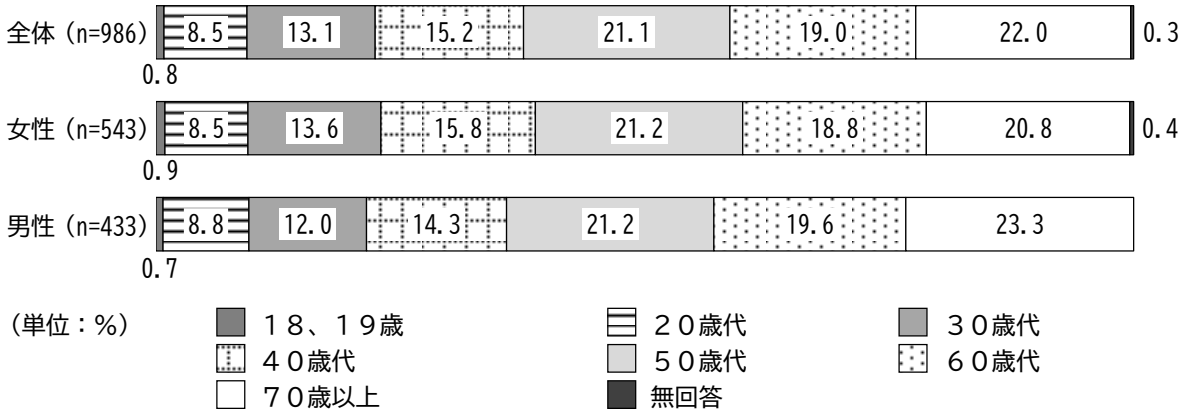
Ｎ＝母集団
ｎ＝基数（有効回答数）
ｐ＝回答率（％）

Ⅱ．回答者の属性

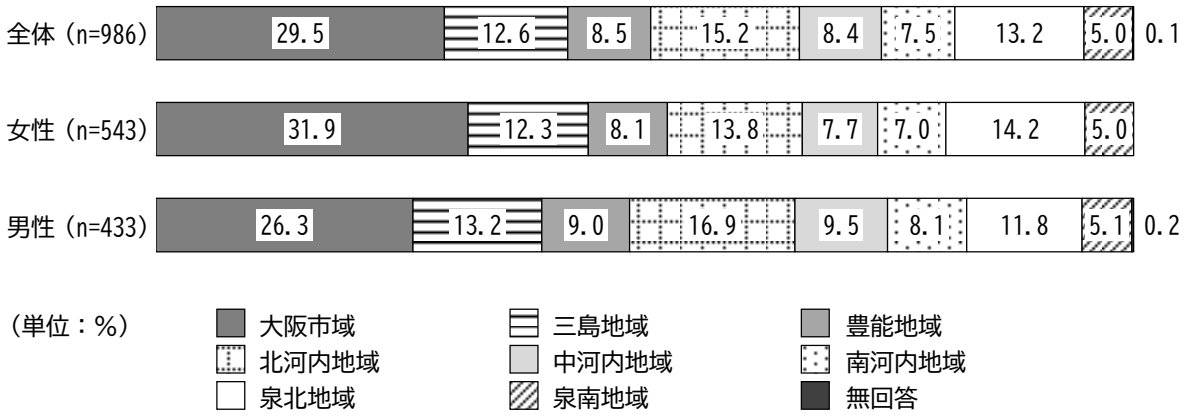
1　回答者の属性

（ａ）性別

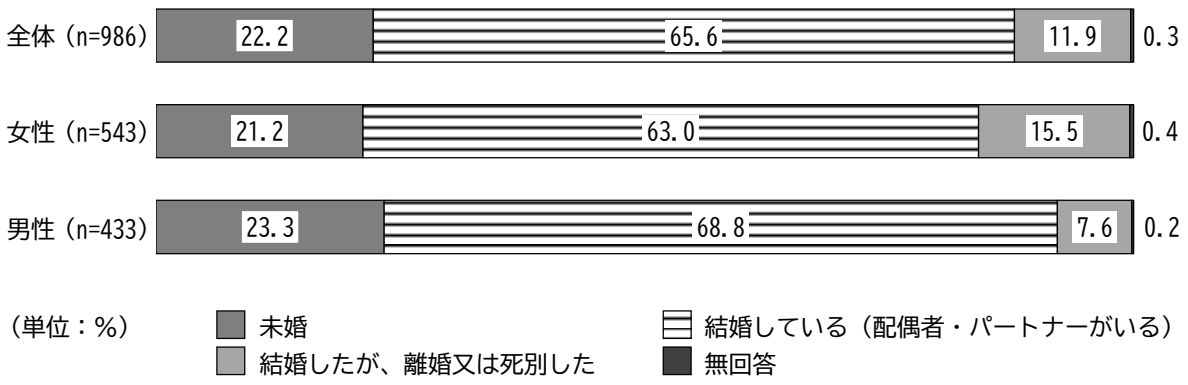
（ｂ）年齢



（ｃ）居住地域

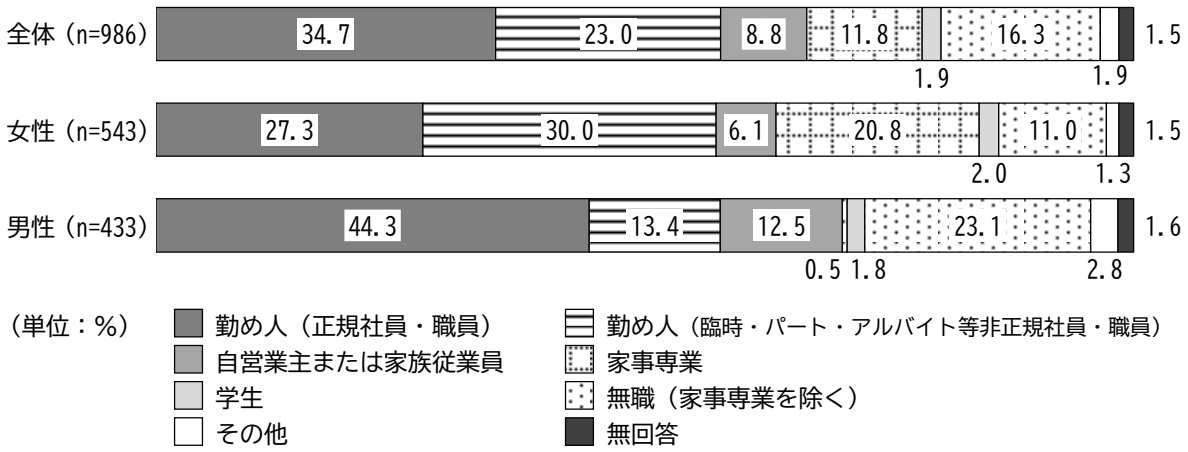


（d）配偶関係

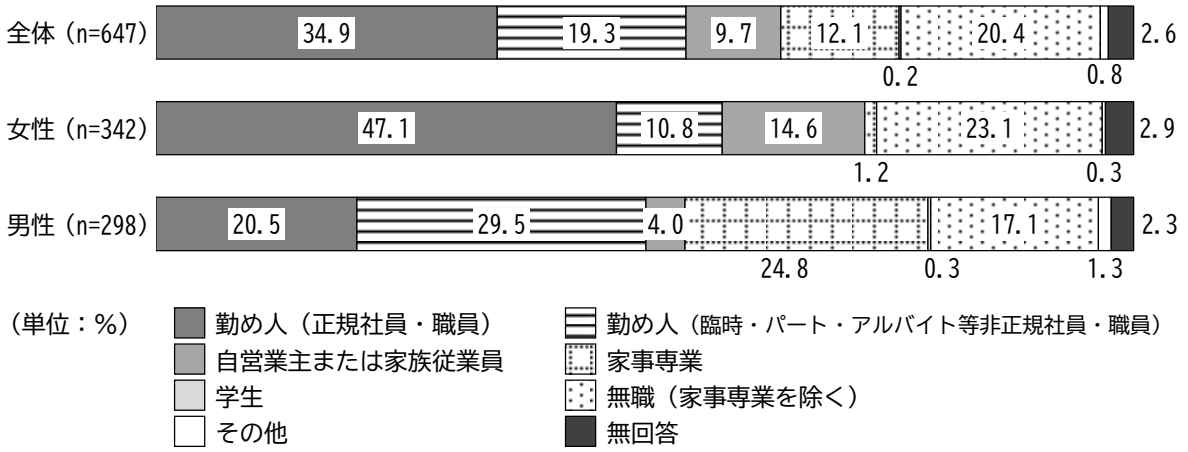


（e）就労形態

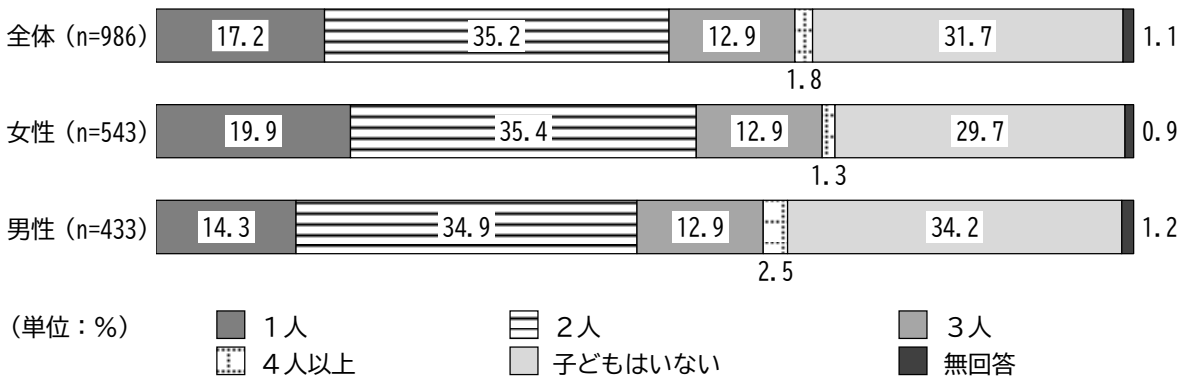
〈ご自身〉



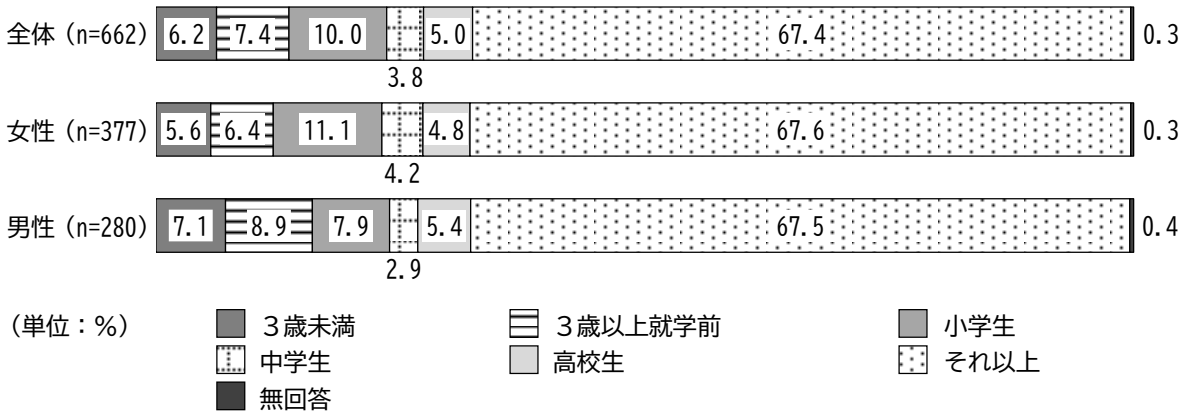
〈配偶者・パートナー〉



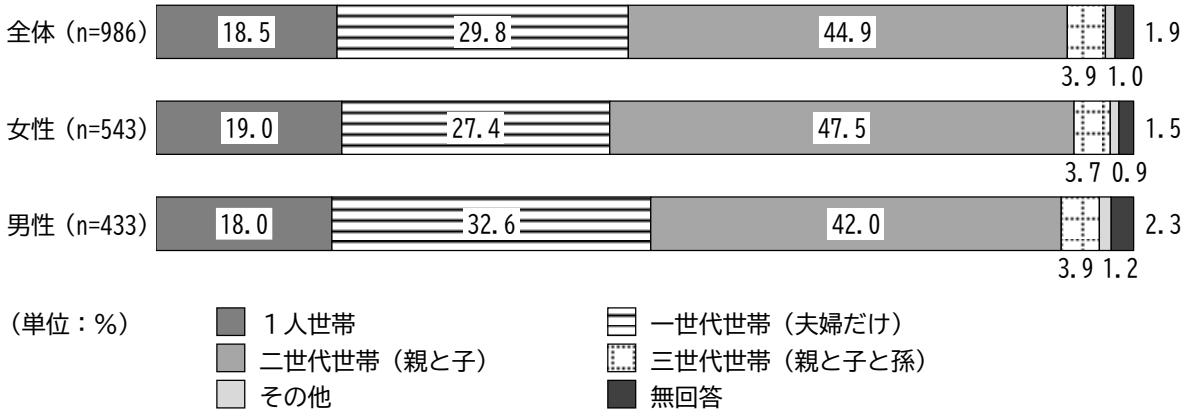
（ｆ）子どもの有無



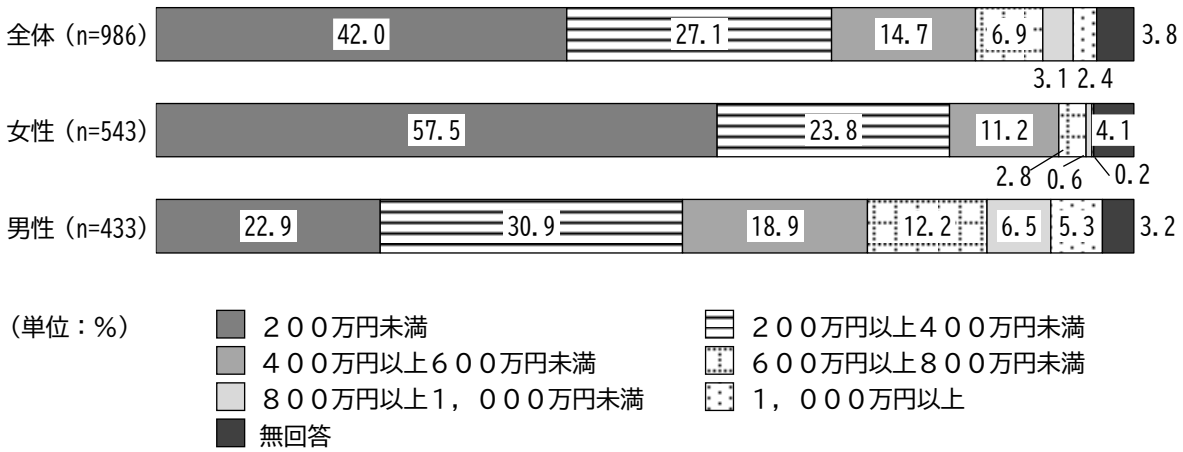
（ｇ）末子の成長段階



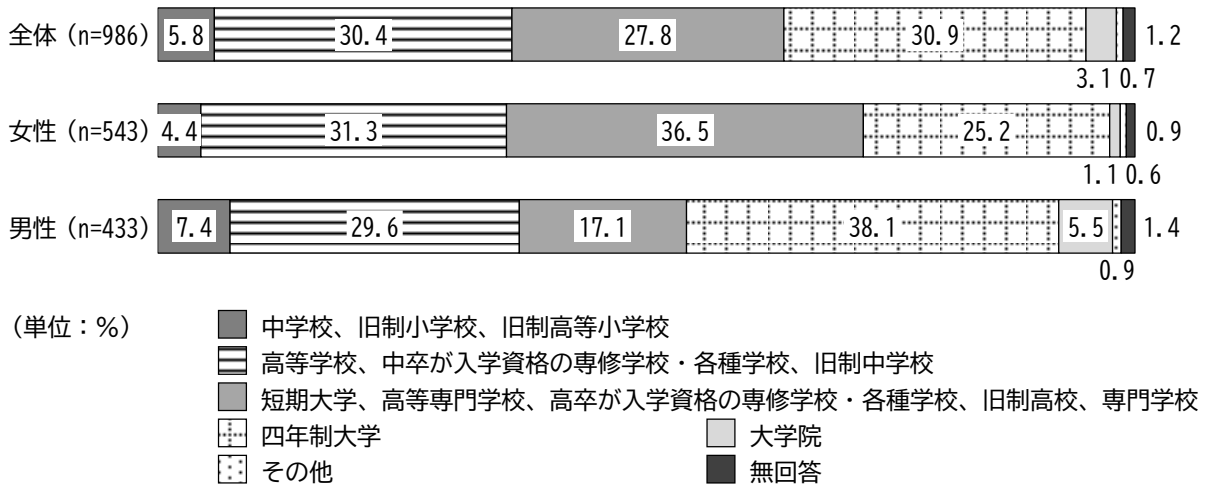
（ｈ）家族構成



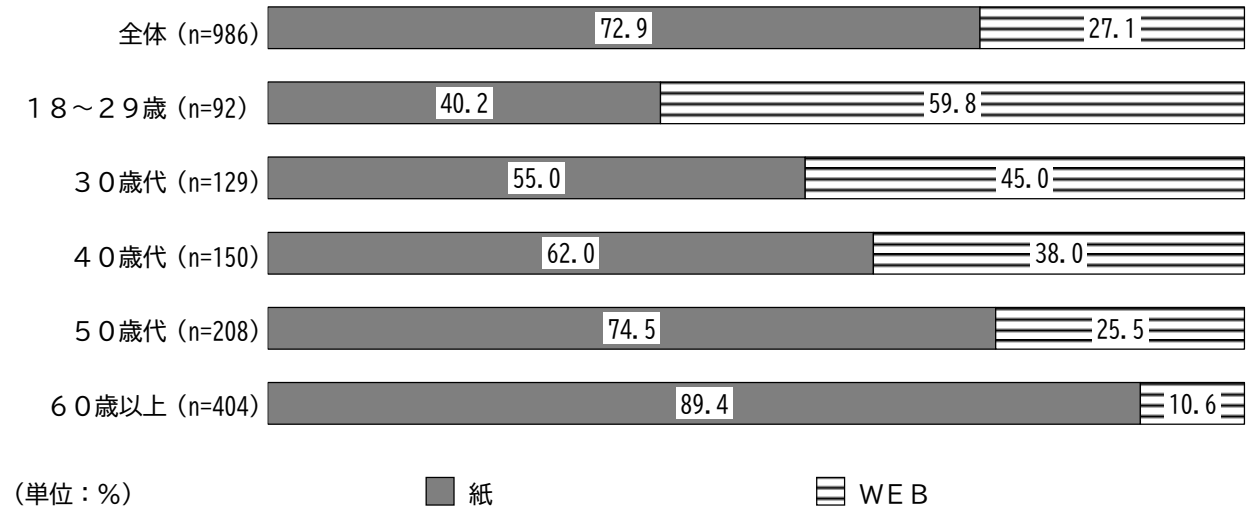
（ｉ）世帯の年収



（ｊ）最終学歴



（ｋ）回収方法



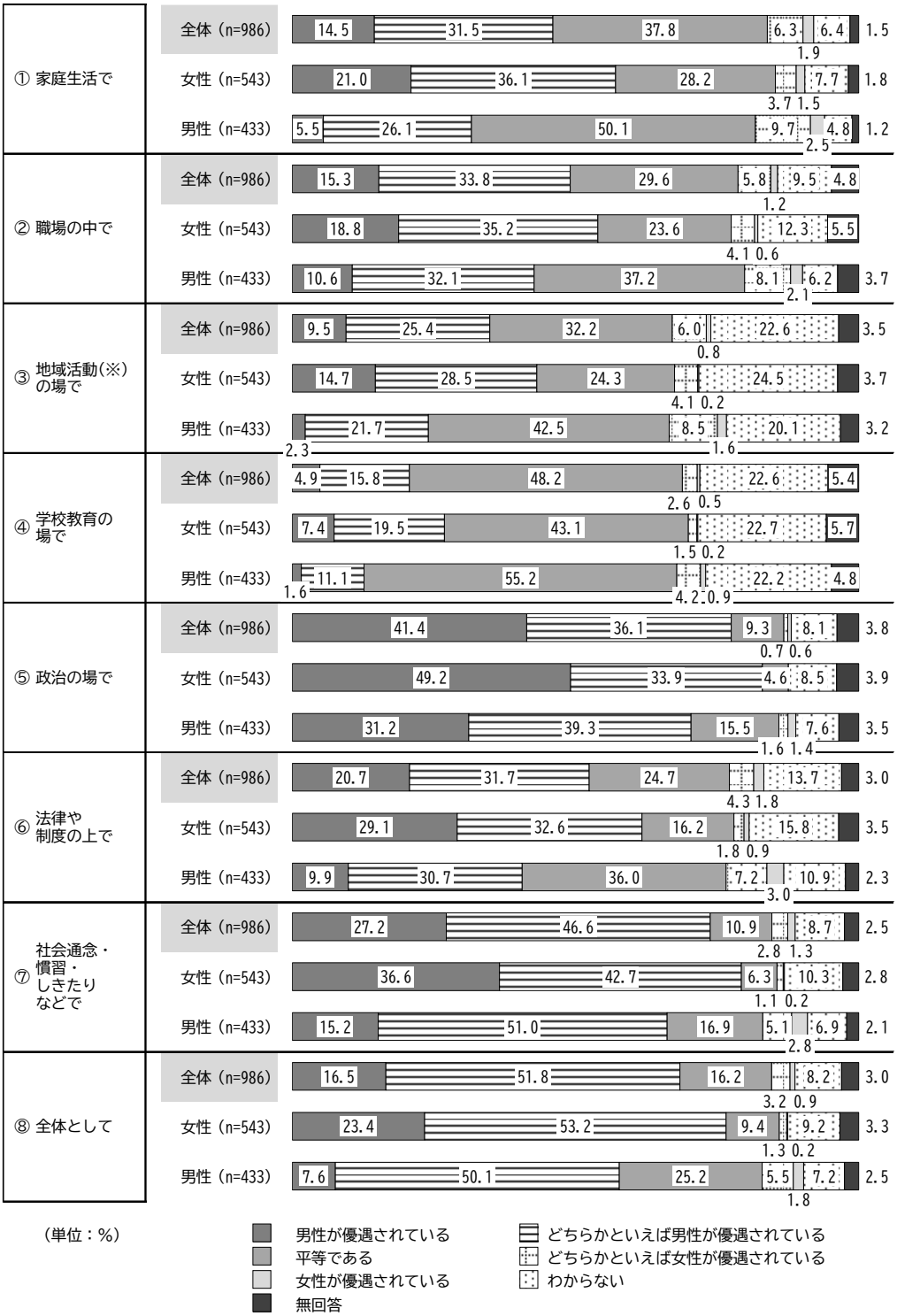
Ⅲ．調査結果の分析

1　男女の地位の平等について

（1）男女平等の現状認識

問１　次にあげる分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 1-1　男女平等の現状認識（性別）〕



※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

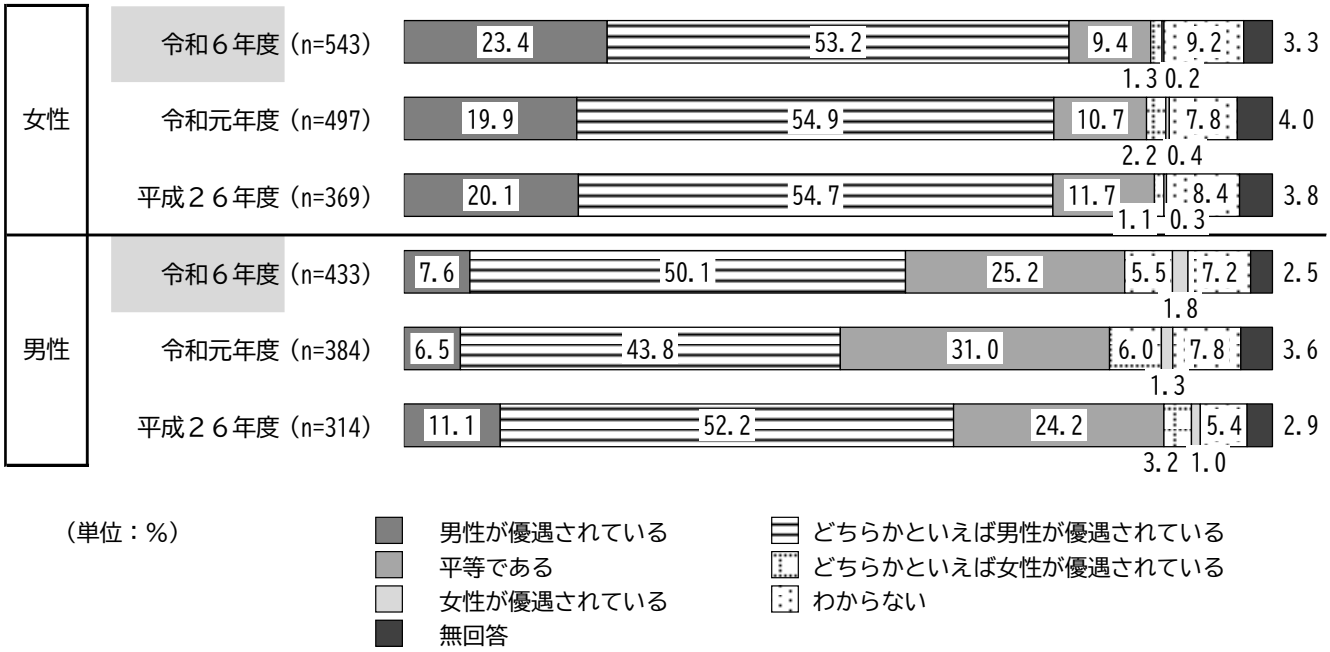
男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で、『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）が特に高く、女性で約 8 割、男性で約 6～7 割となっている。「全体として」は、女性の 76.6%、男性の 57.7%が『男性優遇』と感じている。「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性 43.1%、男性 55.2%となっている。(図表 1-1)

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、「全体として」は、女性では『男性優遇』と感じている割合が前回から 1.8 ポイント上昇している。男性では、『男性優遇』と感じている割合が令和元年度にかけて減少したが、今回 7.4 ポイント増加している。(図表 1-1-1)

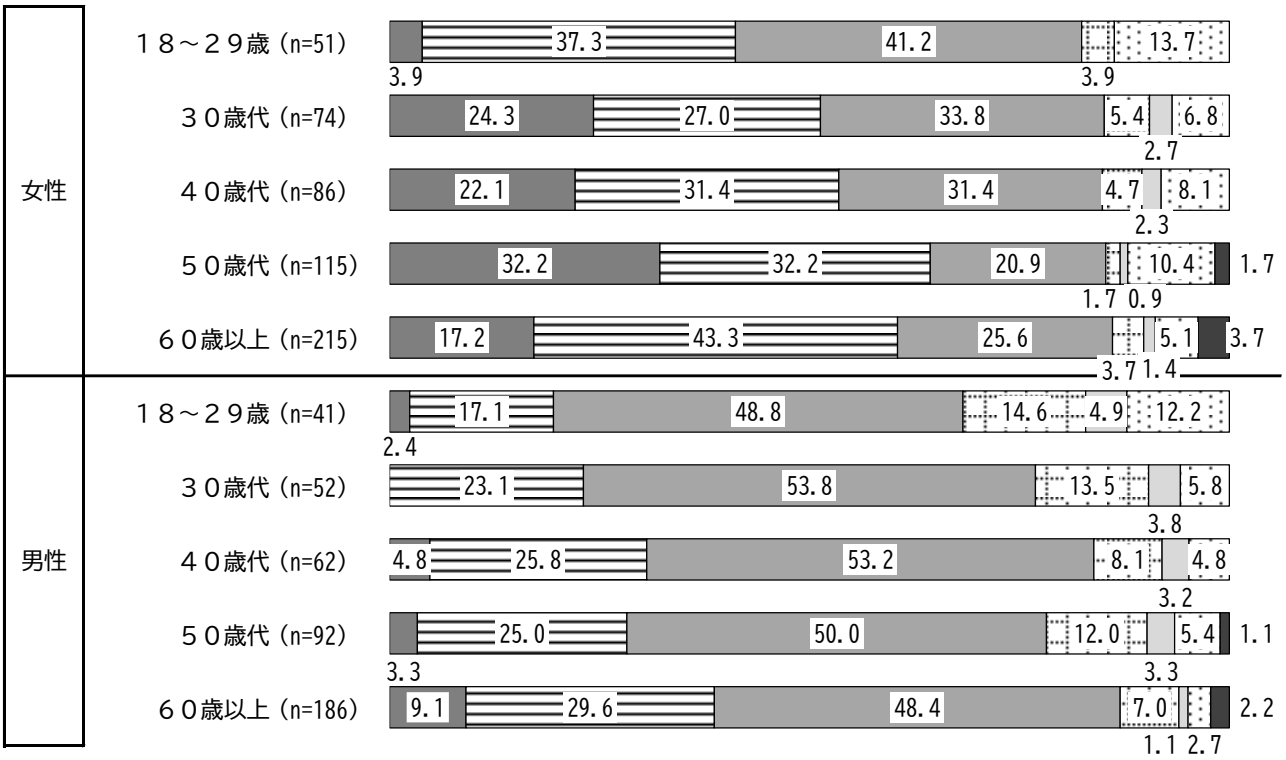
⑧全体として

〔図表 1-1-1　男女平等の現状認識（**過去調査との比較**）〕



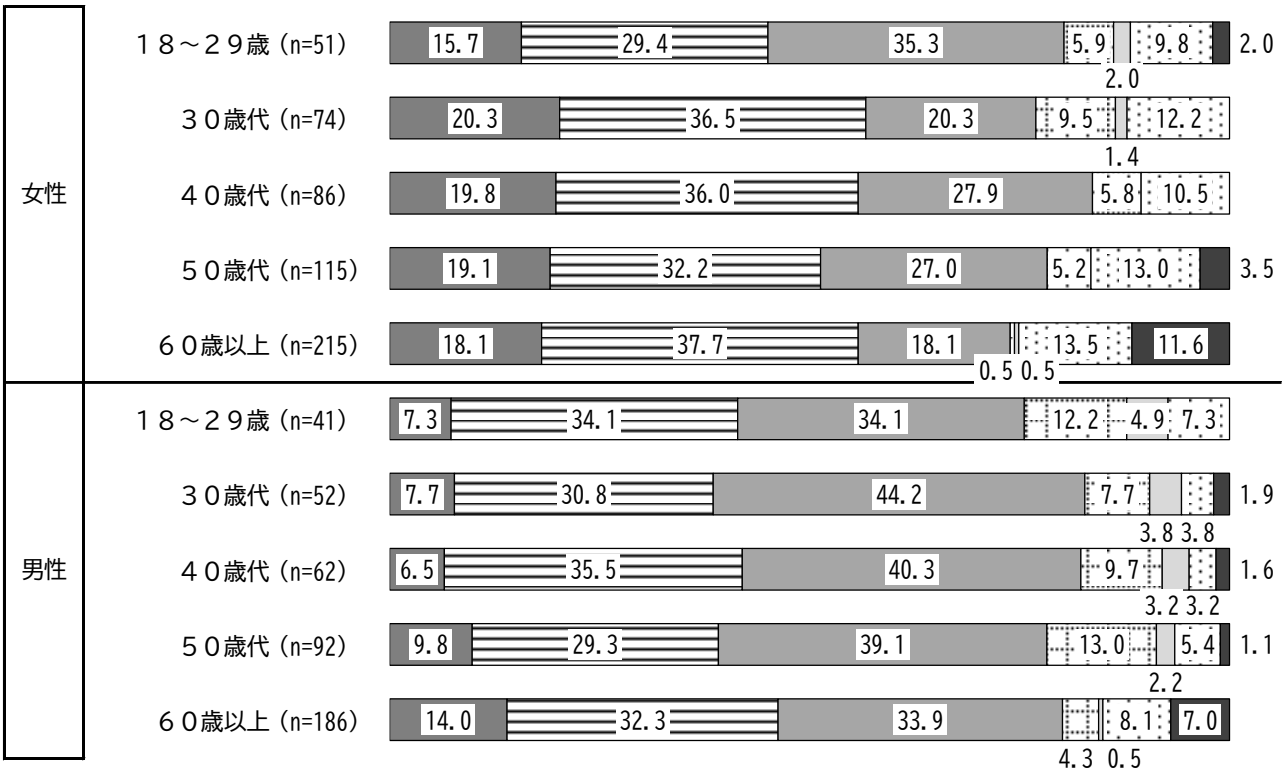
①家庭生活で

〔図表 1-1-2　男女平等の現状認識（性・年代別）〕



②職場の中で

〔図表 1-1-3　男女平等の現状認識（性・年代別）〕

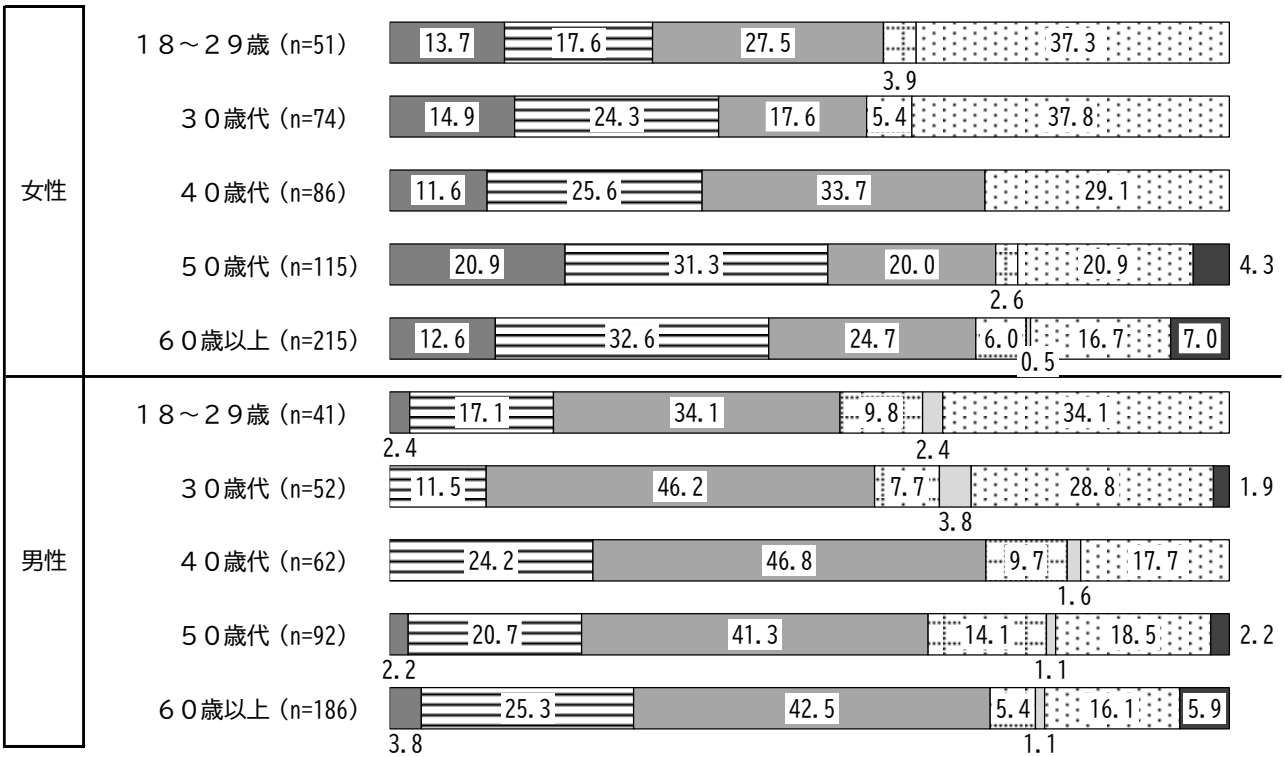


（単位：％）

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

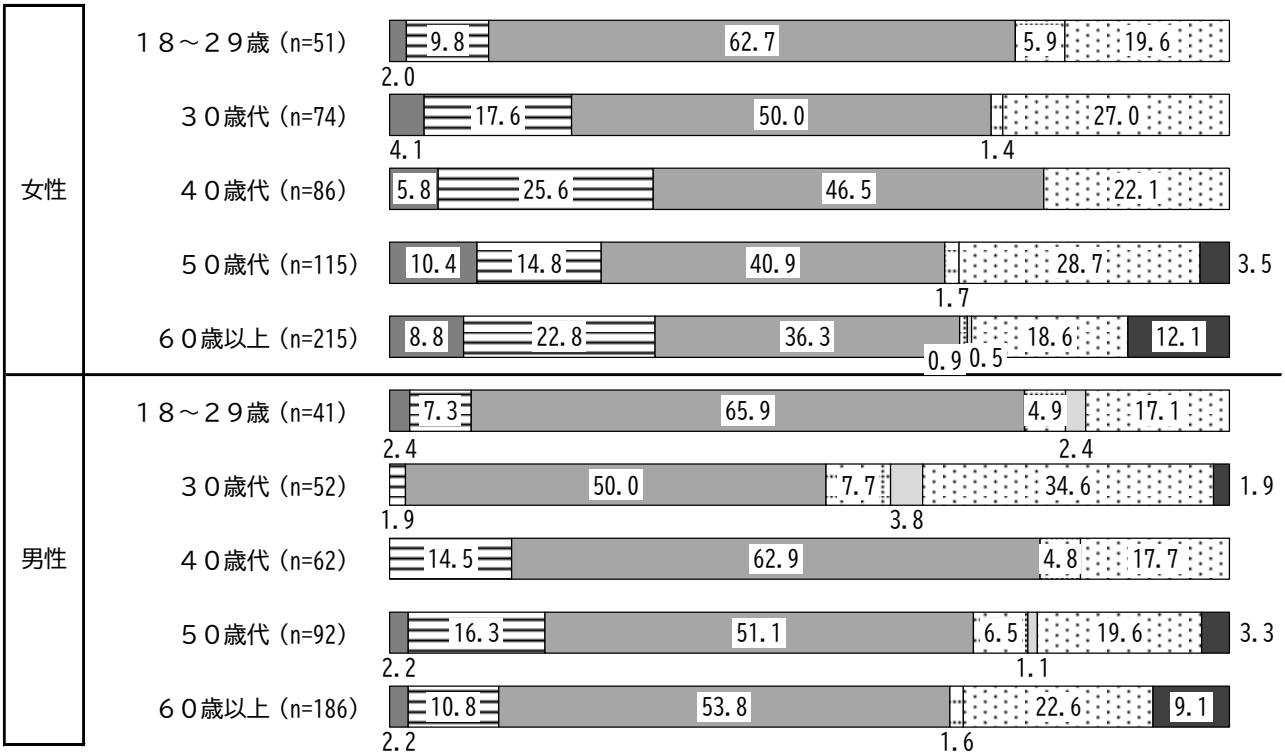
③地域活動の場で

〔図表 1-1-4　男女平等の現状認識（性・年代別）〕



④学校教育の場で

〔図表 1-1-5　男女平等の現状認識（性・年代別）〕

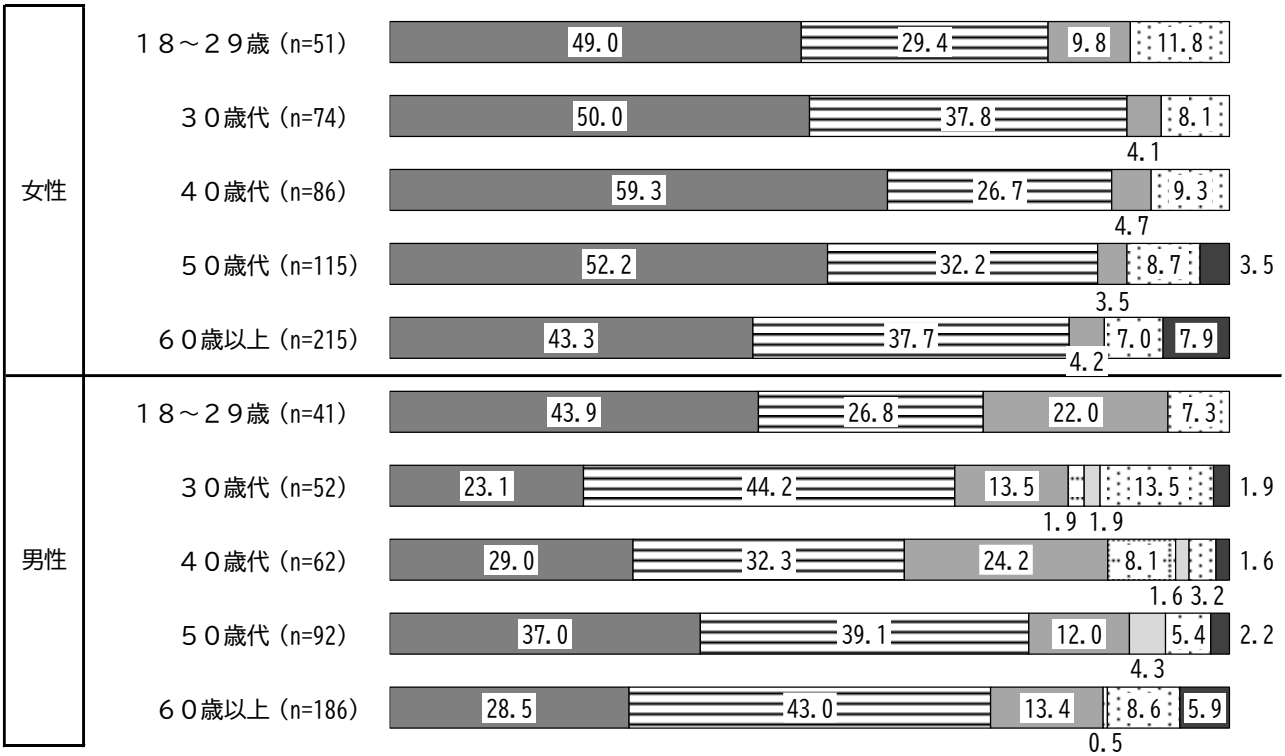


（単位：％）

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

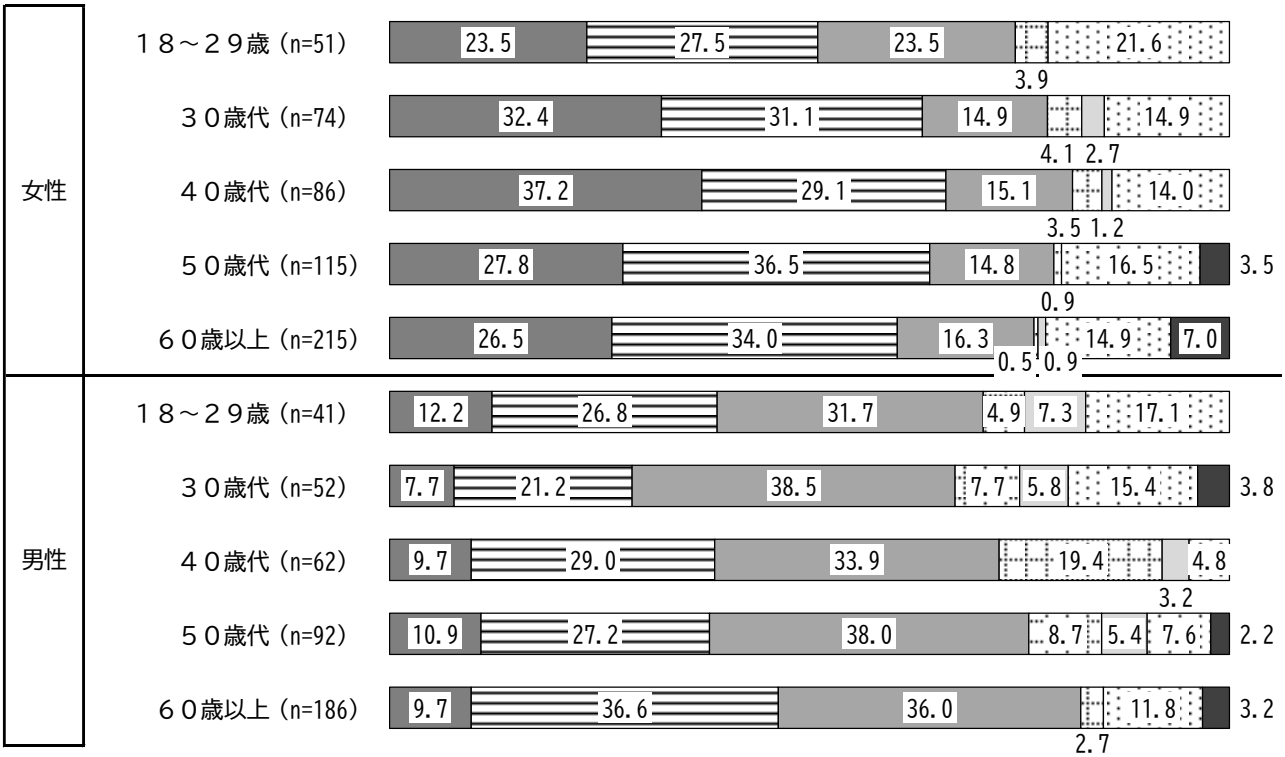
⑤政治の場で

〔図表 1-1-6　男女平等の現状認識（性・年代別）〕



⑥法律や制度の上で

〔図表 1-1-7　男女平等の現状認識（性・年代別）〕

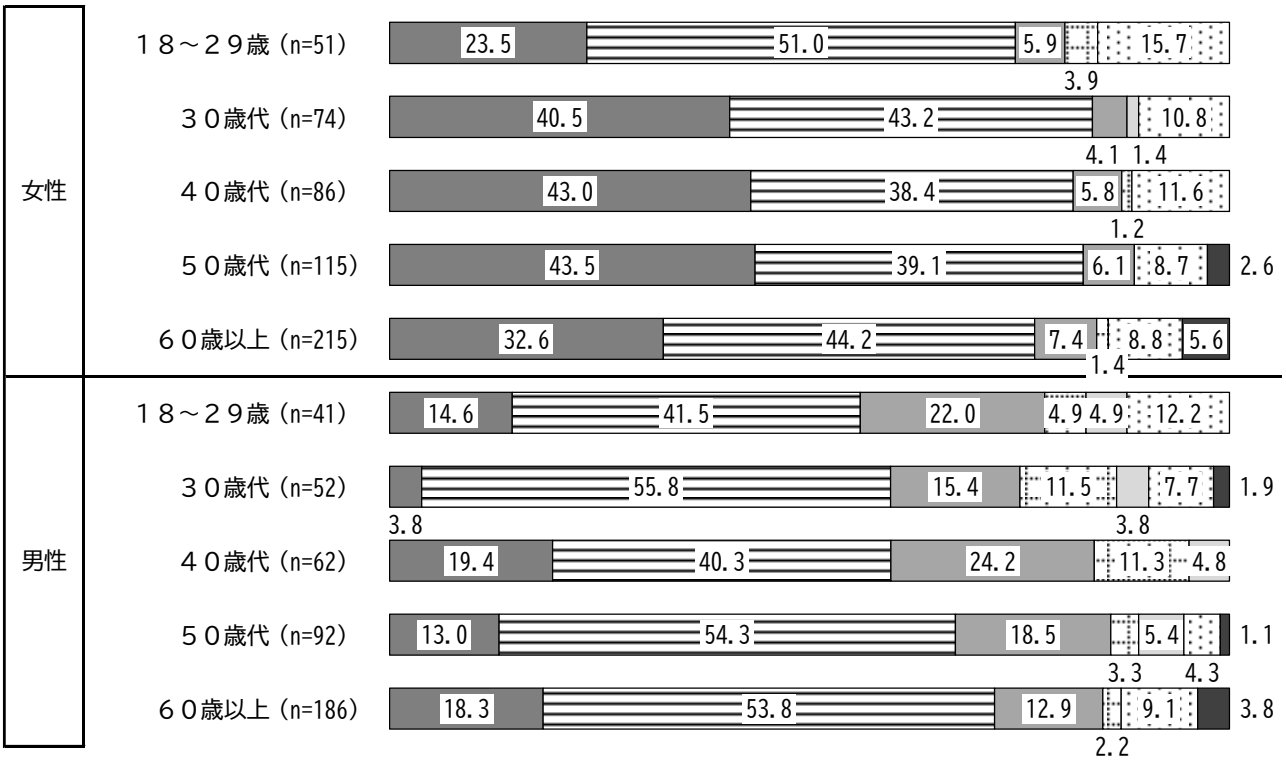


（単位：％）

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

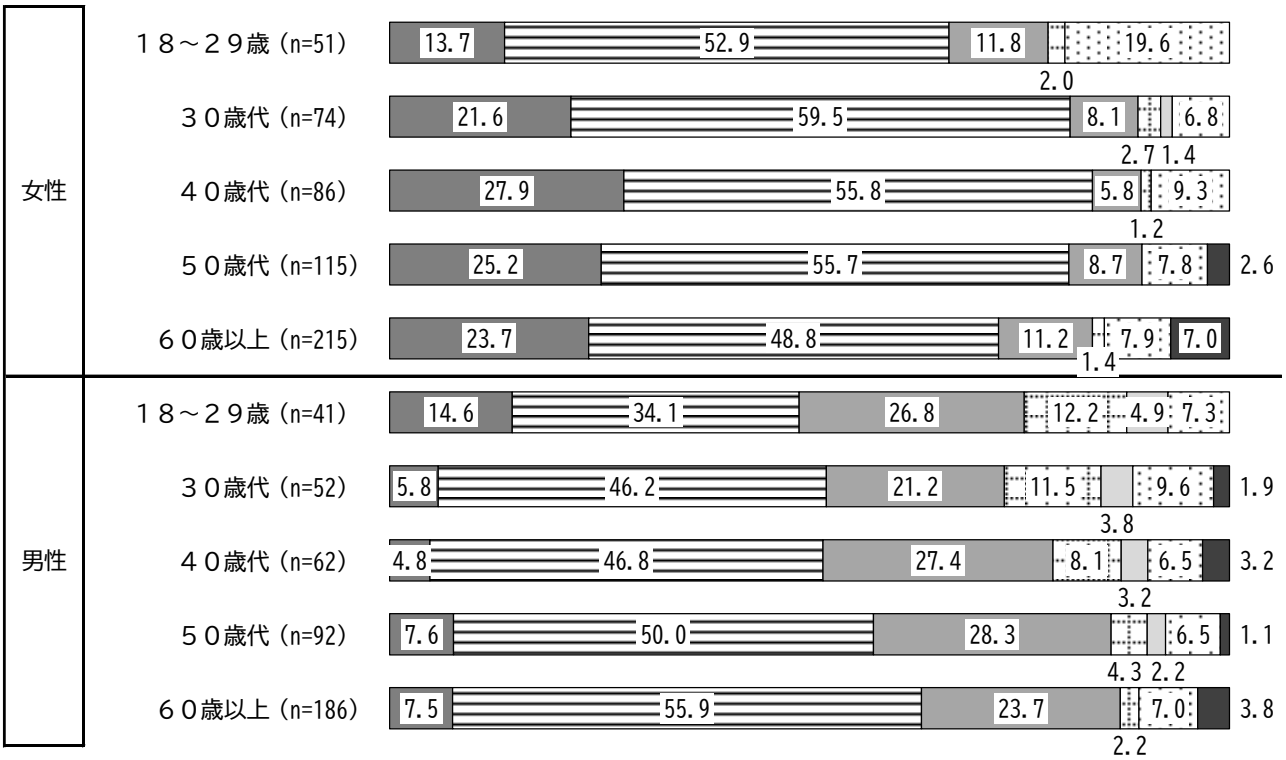
⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

〔図表 1-1-8　男女平等の現状認識（性・年代別）〕



⑧全体として

〔図表 1-1-9　男女平等の現状認識（性・年代別）〕



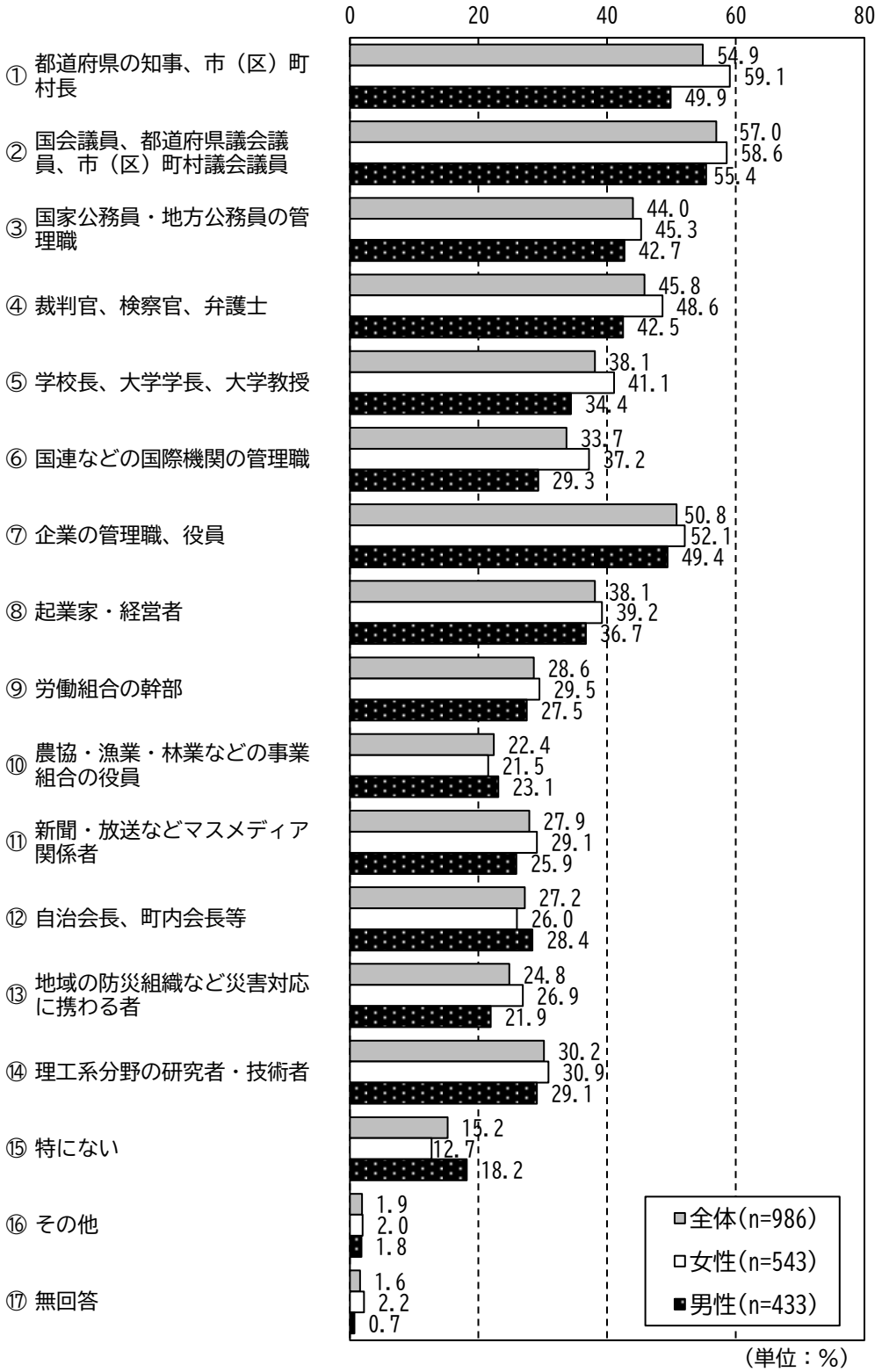
（単位：％）

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

（２）女性の増加が望まれる職業・役職

問２　次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方が良いと思うのはどれですか。この中からいくつでもあげてください。（○はいくつでも）

〔図表 1-2　女性の増加が望まれる職業・役職（**性別**）〕



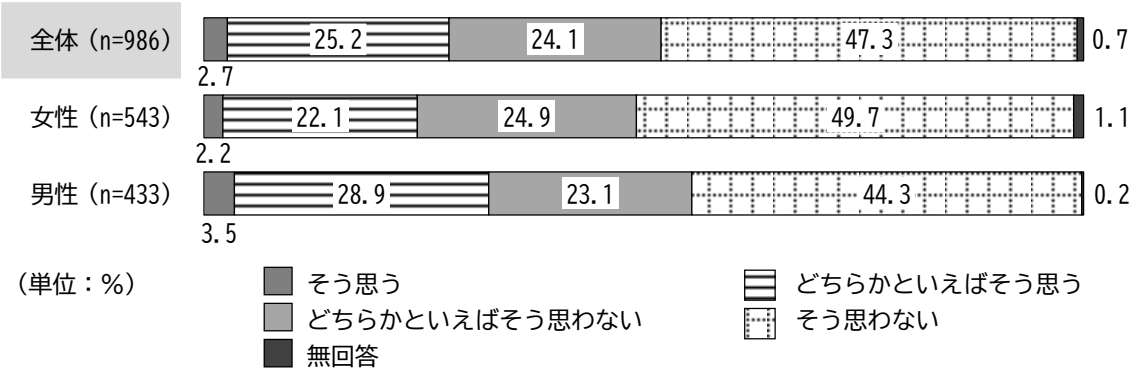
女性が増える方が良いと思う職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が 57.0%、「都道府県の知事、市（区）町村長」が 54.9%、「企業の管理職、役員」が 50.8%となっている。（図表 1-2）

2　男女の役割分担について

（１）性別役割分担意識

問３　「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。（○は１つだけ）

〔図表 2-1　性別役割分担意識（**性別**）〕



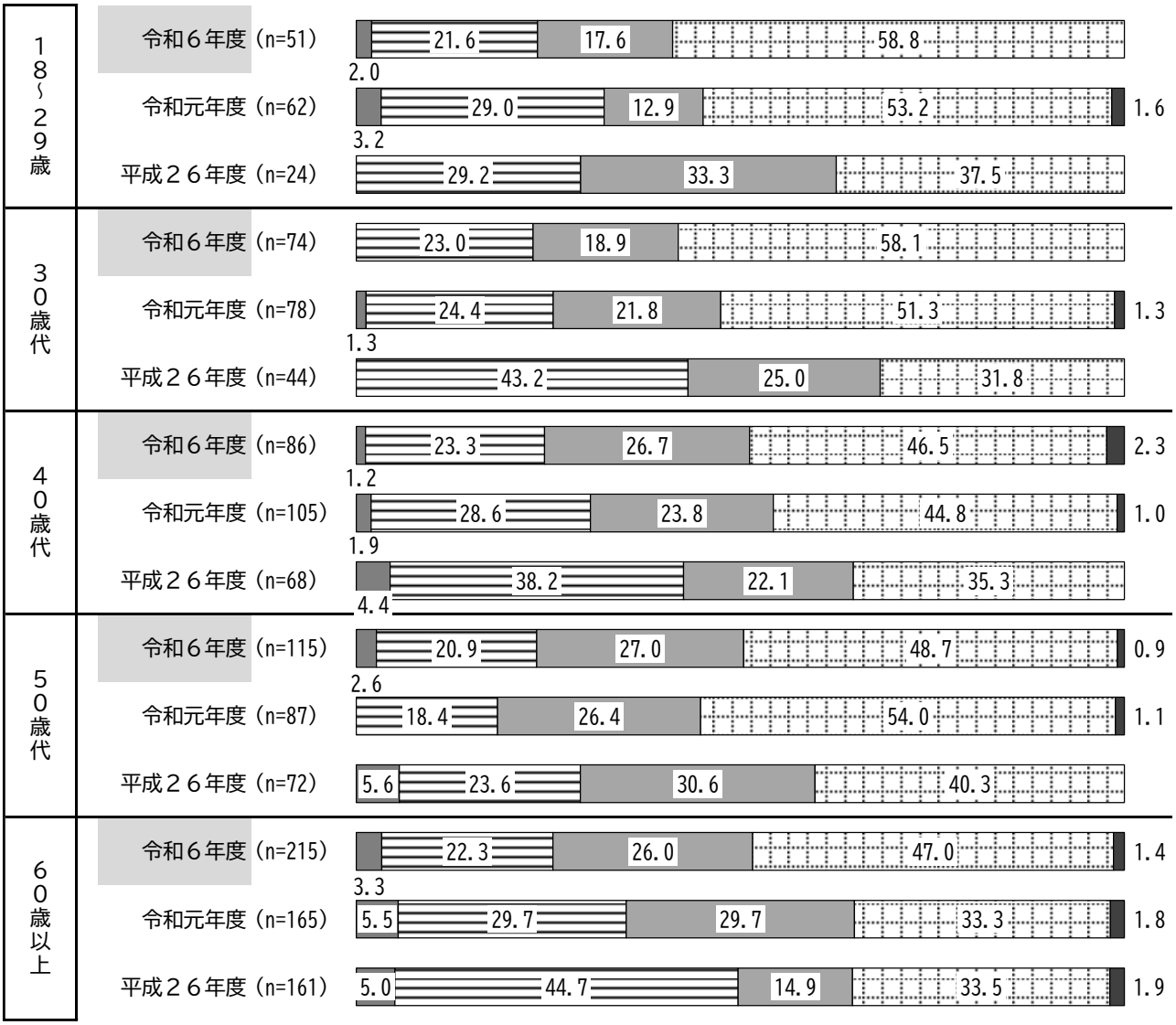
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は 27.9%、『同感しない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合）は 71.4%となっている。性別でみると、『同感する』は、女性 24.3%、男性 32.4%で、女性の方が 8.1 ポイント低くなっている。（図表 2-1）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、概ね全ての年代で男女共に『同感する』割合が減少傾向にあり、男性の 40 歳代以下で特に顕著である。（図表 2-1-1）

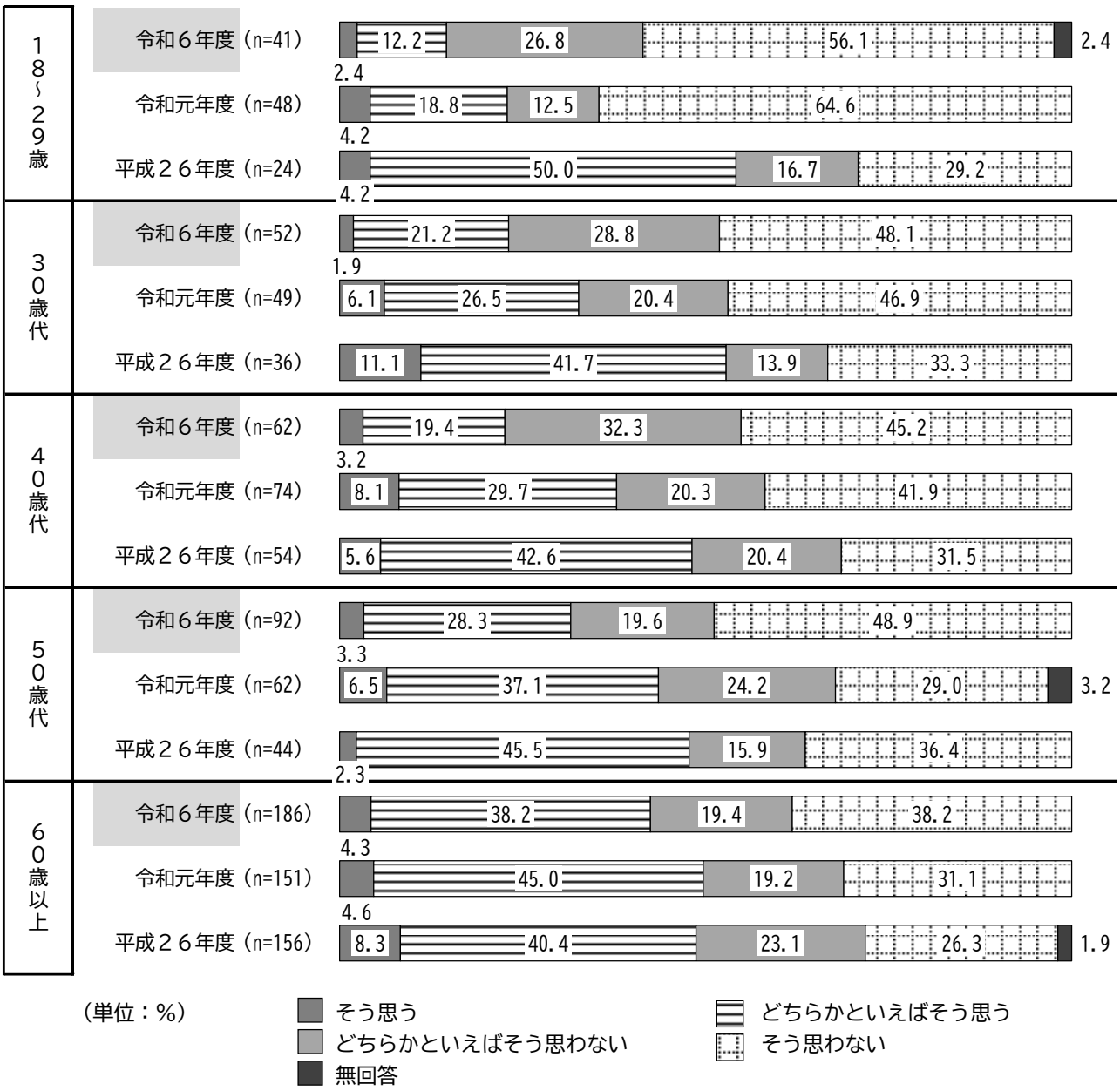
〔図表 2-1-1　性別役割分担意識（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



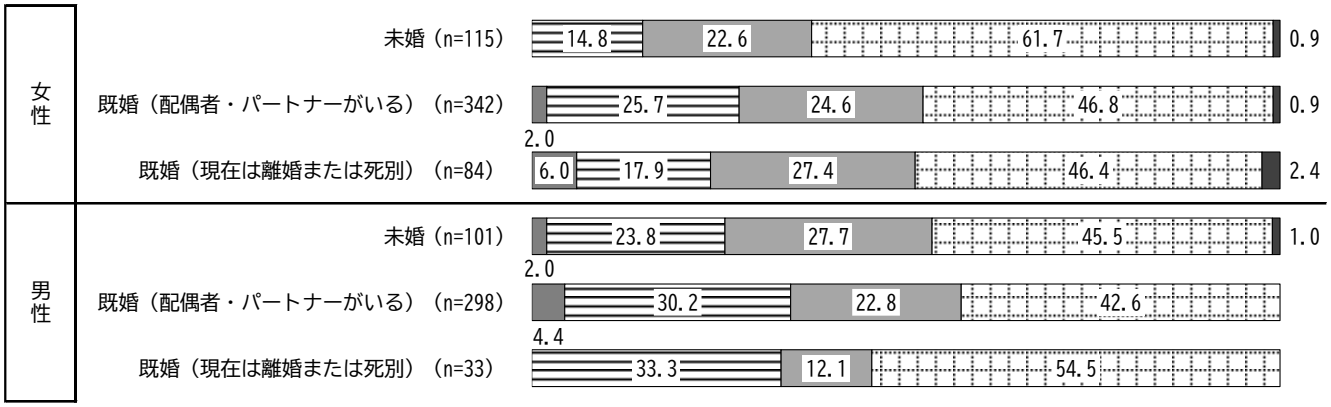
※平成 26 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定、令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

〈男性〉

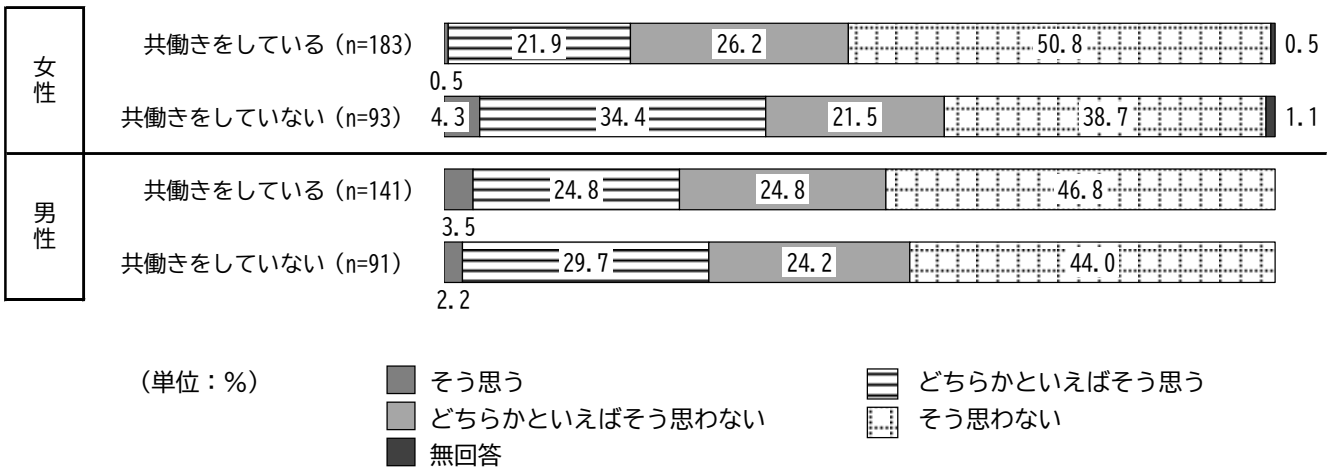


※平成 26 年度は満 20 歳以上を調査対象に設定、令和元年度より調査対象に 18、19 歳を追加

〔図表 2-1-2　性別役割分担意識（性・配偶関係別）〕



〔図表 2-1-3　性別役割分担意識（性・共働状況別）〕



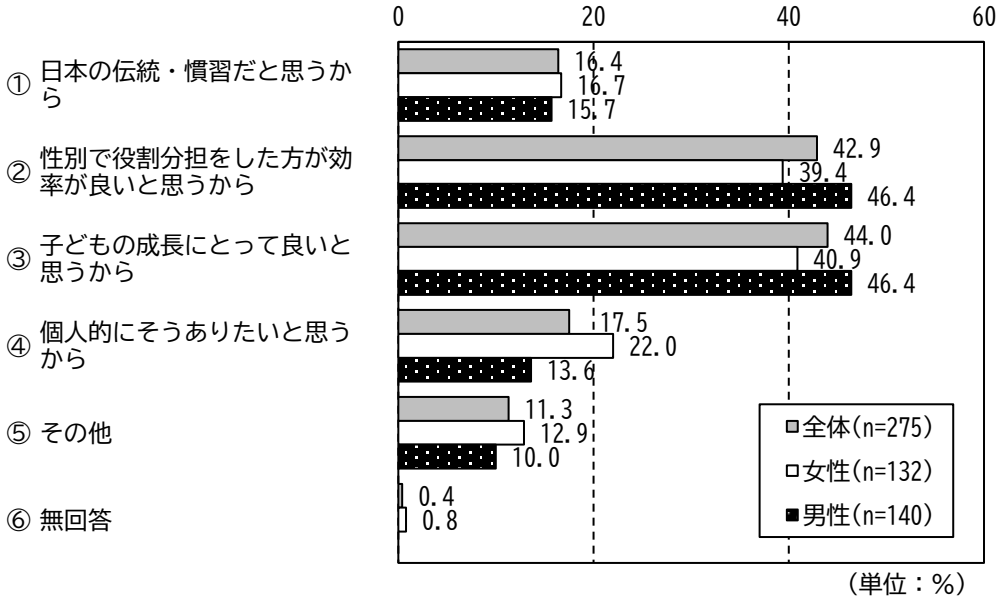
（単位：%）

そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない
そう思わない
無回答

（２）「男は仕事、女は家庭」と思う理由

問３－１　そう思う理由を教えてください。（○はいくつでも）

〔図表 2-2　「男は仕事、女は家庭」と思う理由（**性別**）〕

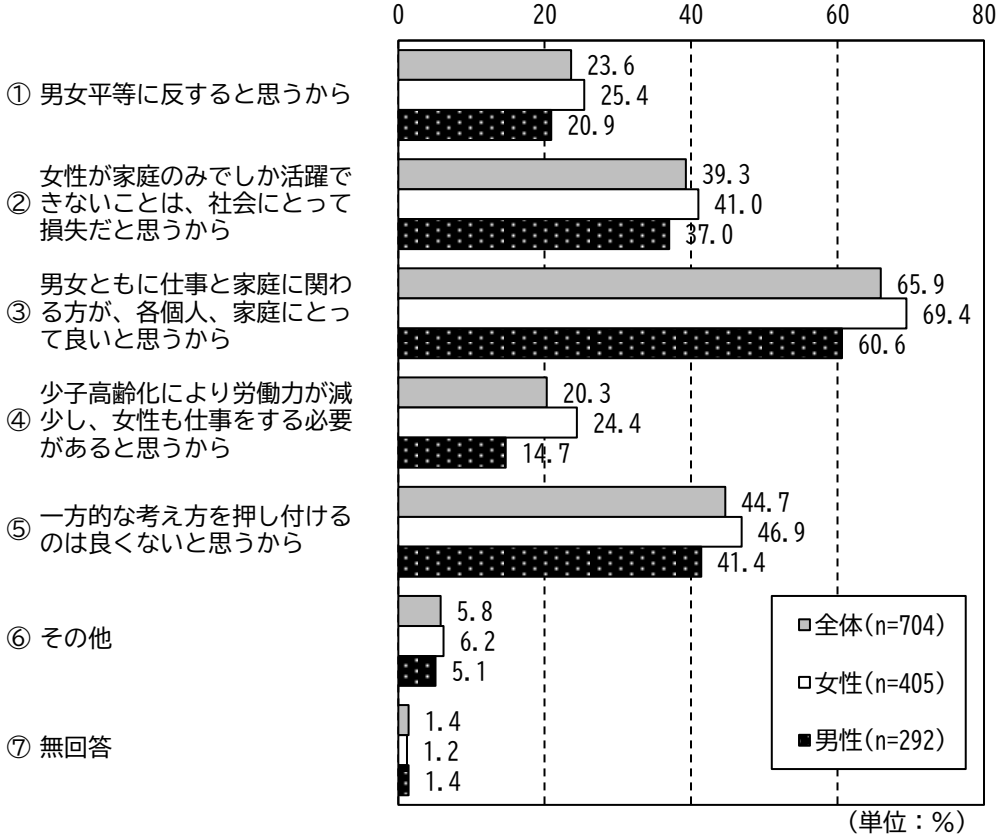


「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が 44.0%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が 42.9%となっている。性別でみると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が 8.4 ポイント高く、22.0%となっている。（図表 2-2）

（３）「男は仕事、女は家庭」と思わない理由

問３－２　そう思わない理由を教えてください。（○はいくつでも）

〔図表 2-3　「男は仕事、女は家庭」と思わない理由（性別）〕



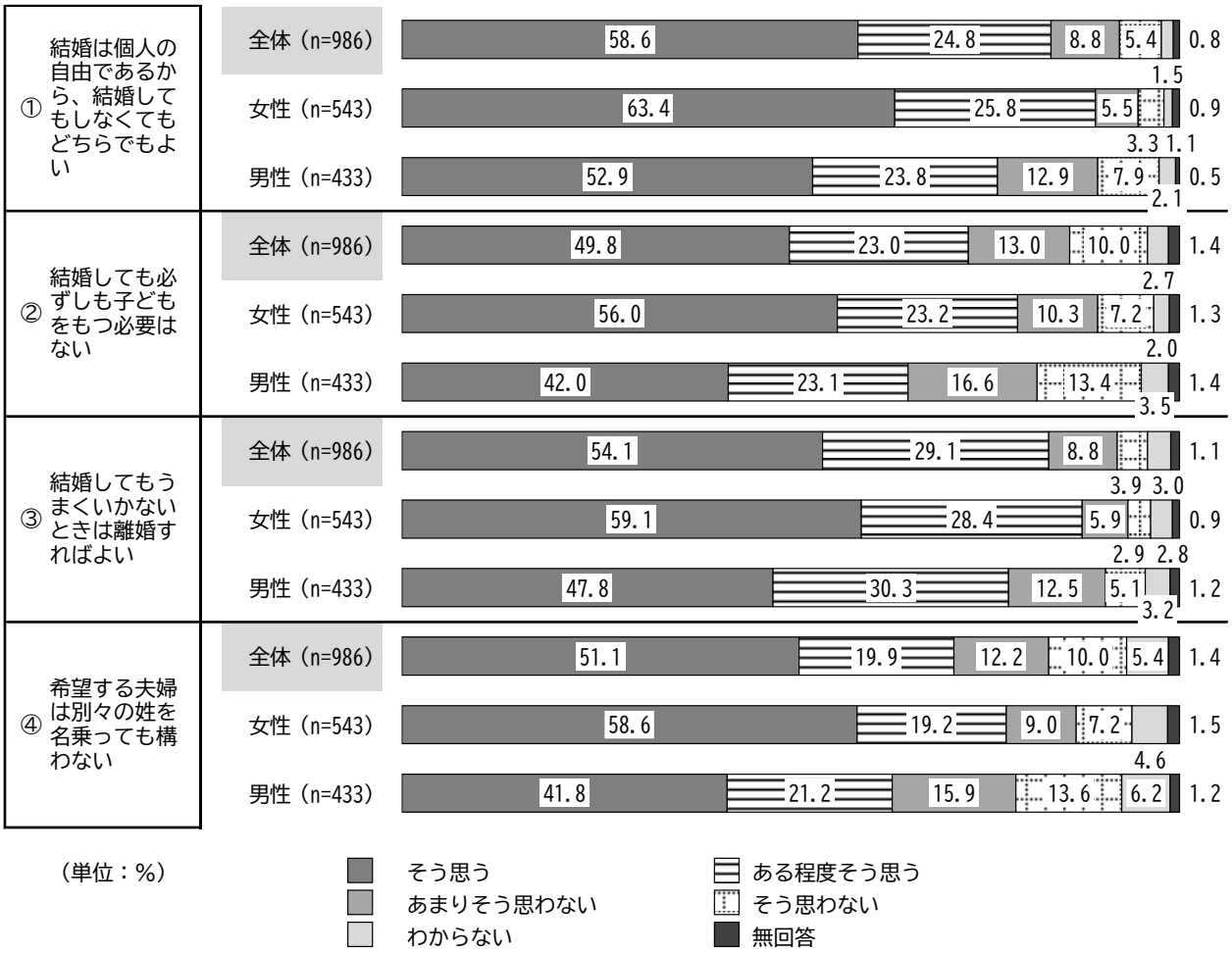
「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 65.9%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が 44.7%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が 39.3%となっている。（図表 2-3）

3　家庭生活について

（1）結婚、離婚に関する考え方

問４　次にあげることがらについて、どのように思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 3-1　結婚、離婚に関する考え方（性別）〕



結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『そう思う』（「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた割合）は 83.4%、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」の『そう思う』は 83.2%となっている。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」について、『そう思う』は、それぞれ 72.8%、71.0%となっている。（図表 3-1）

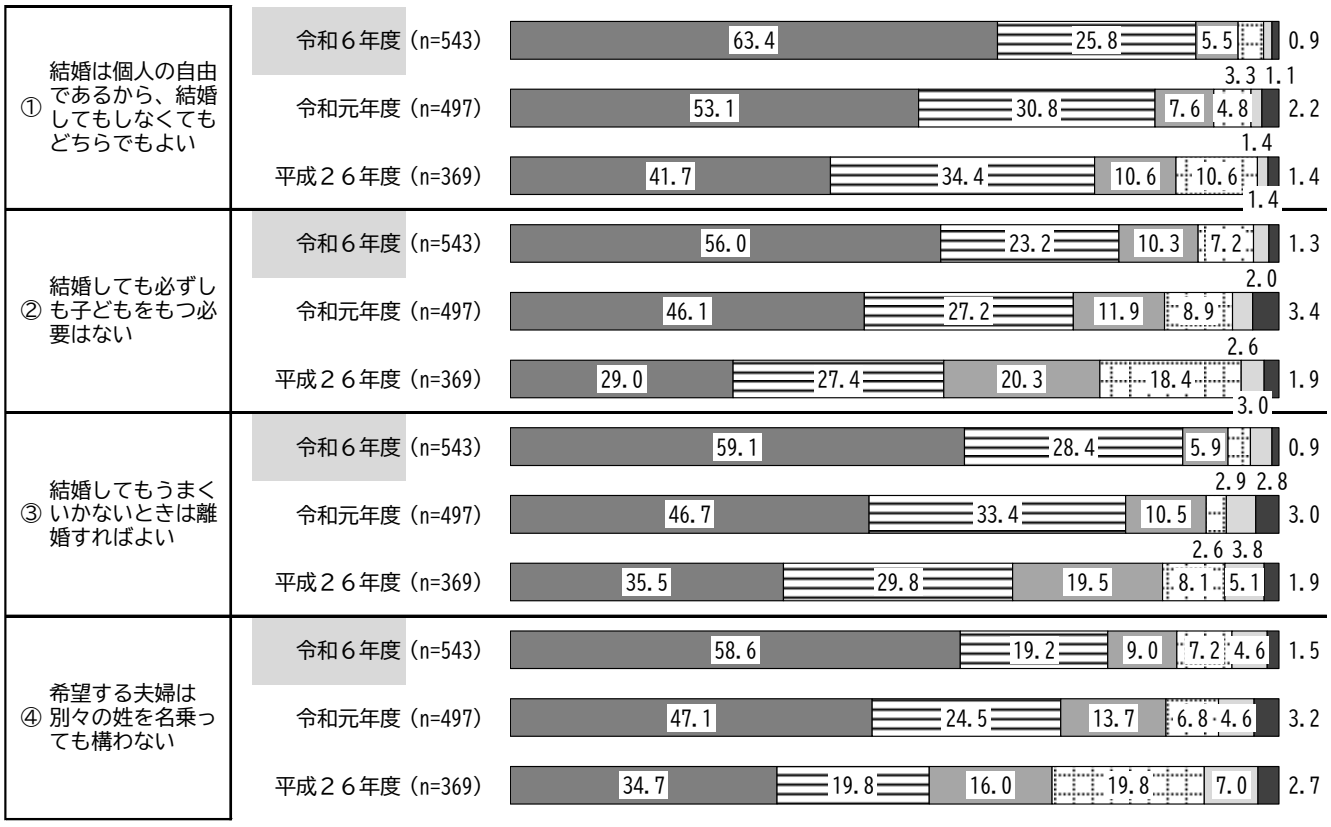
【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女ともに各項目で『そう思う』が増加している。

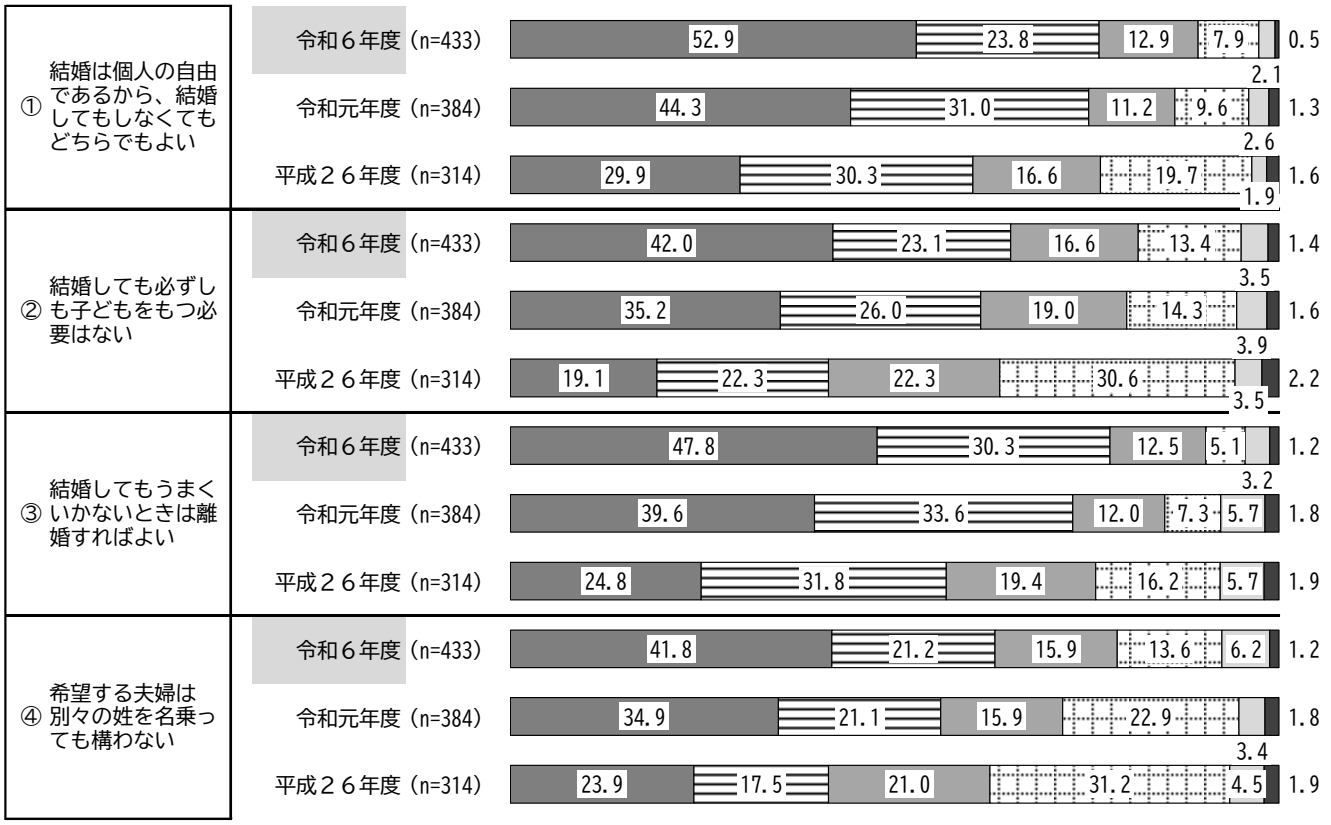
女性では「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」が令和元年度より 7.4 ポイント増加しており、男性では、「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」が 7.0 ポイント増加している。（図表 3-1-1）

〔図表 3-1-1　結婚、離婚に関する考え方（過去調査との比較）〕

〈女性〉



〈男性〉



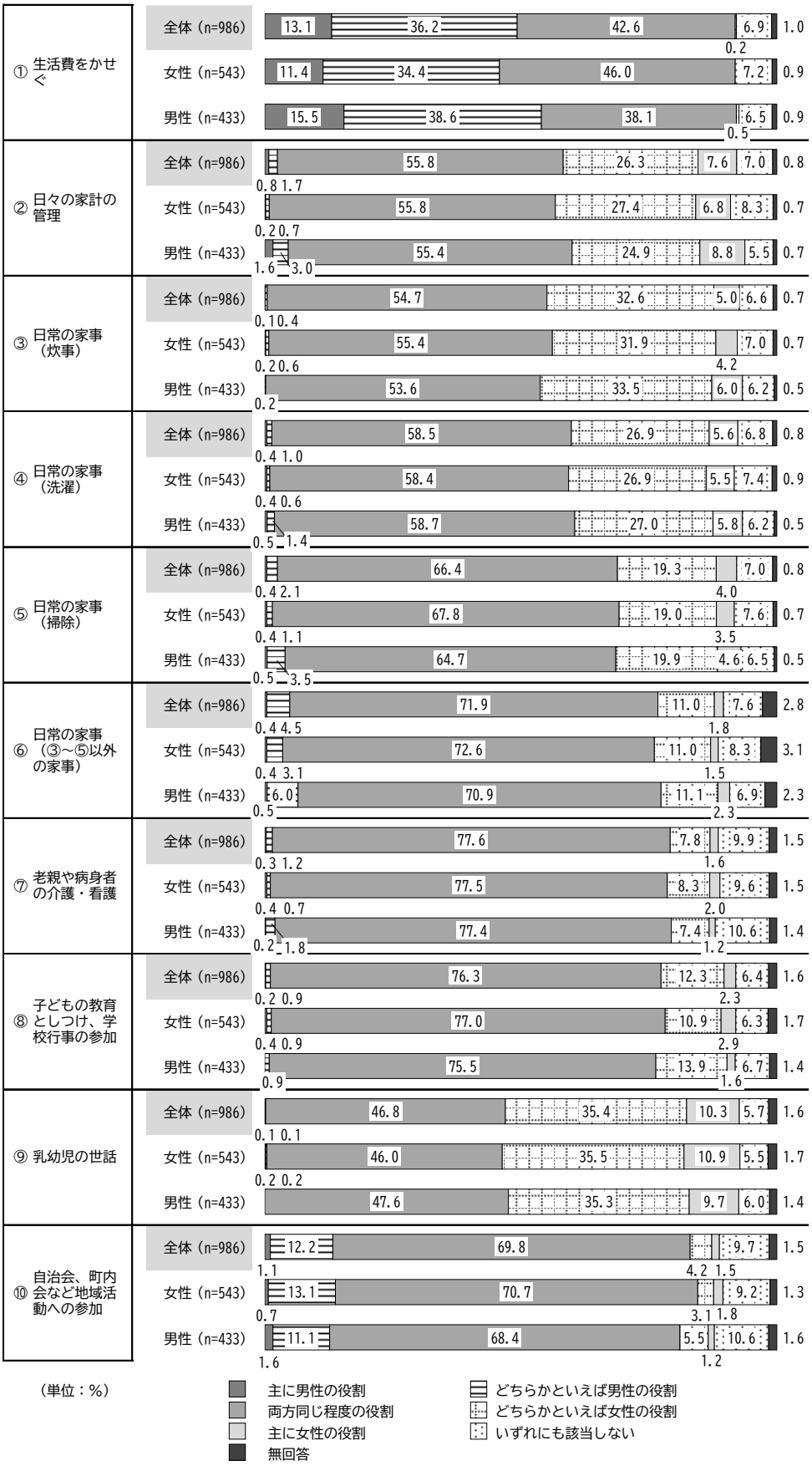
（単位：％）

そう思う　ある程度そう思う
あまりそう思わない　そう思わない
わからない　無回答

（２）家庭の仕事の役割分担

問５　次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 3-2　家庭の仕事の役割分担（**性別**）〕



家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』(「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が49.3%で最も高くなっている。

一方、「乳幼児の世話」は、『女性の役割』(「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人が45.7%で最も高くなっている。

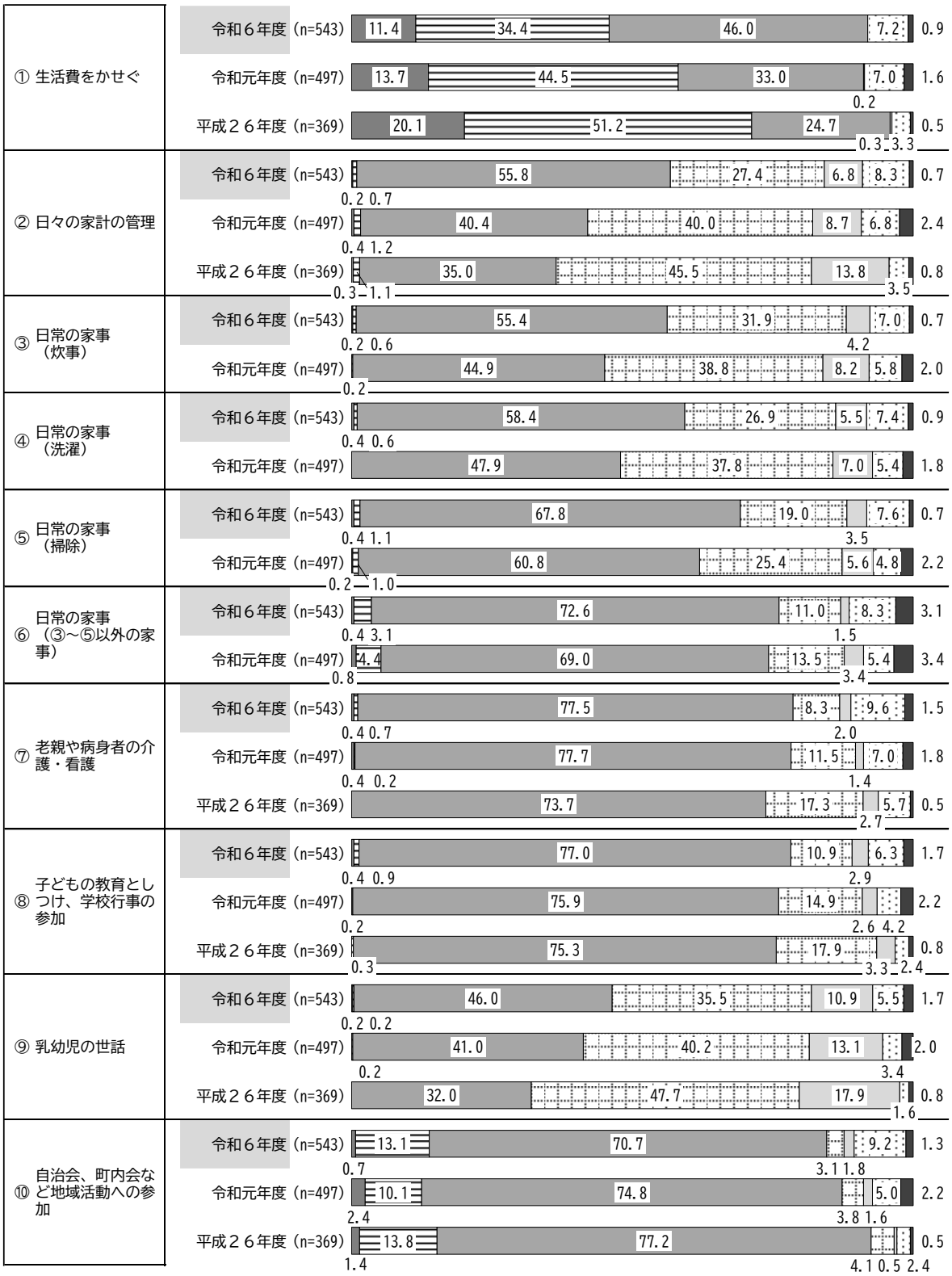
また、「日常の家事（炊事、洗濯、掃除以外の家事)」「老親や病身者の介護・看護」「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」「自治会、町内会など地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が高くなっている。(図表3-2)

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成26年度調査と比較をすると、男女ともに「生活費をかせぐ」が『男性の役割』と考える人が減少しており、「日々の家計の管理」「乳幼児の世話」が『女性の役割』と考える人が減少している。(図表3-2-1)

〔図表 3-2-1　家庭の仕事の役割分担（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉

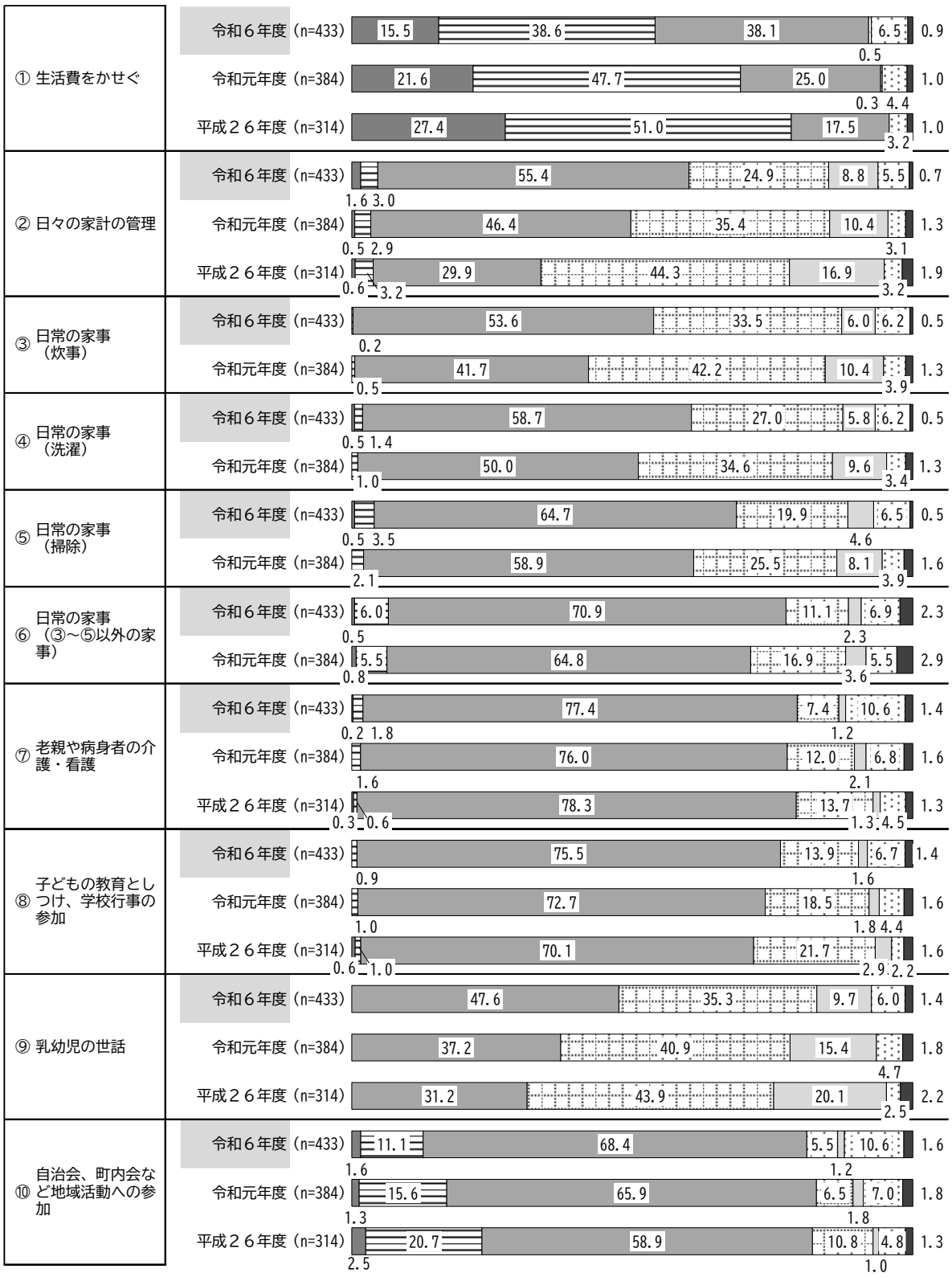


（単位：％）

- 主に男性の役割
- 両方同じ程度の役割
- 主に女性の役割
- 無回答
- どちらかといえば男性の役割
- どちらかといえば女性の役割
- いずれにも該当しない

※　令和元年度より、「日常の家事」を「日常の家事（炊事）」「日常の家事（洗濯）」「日常の家事（掃除）」「日常の家事（③～⑤以外の家事）」に分割

〈男性〉



（単位：％）

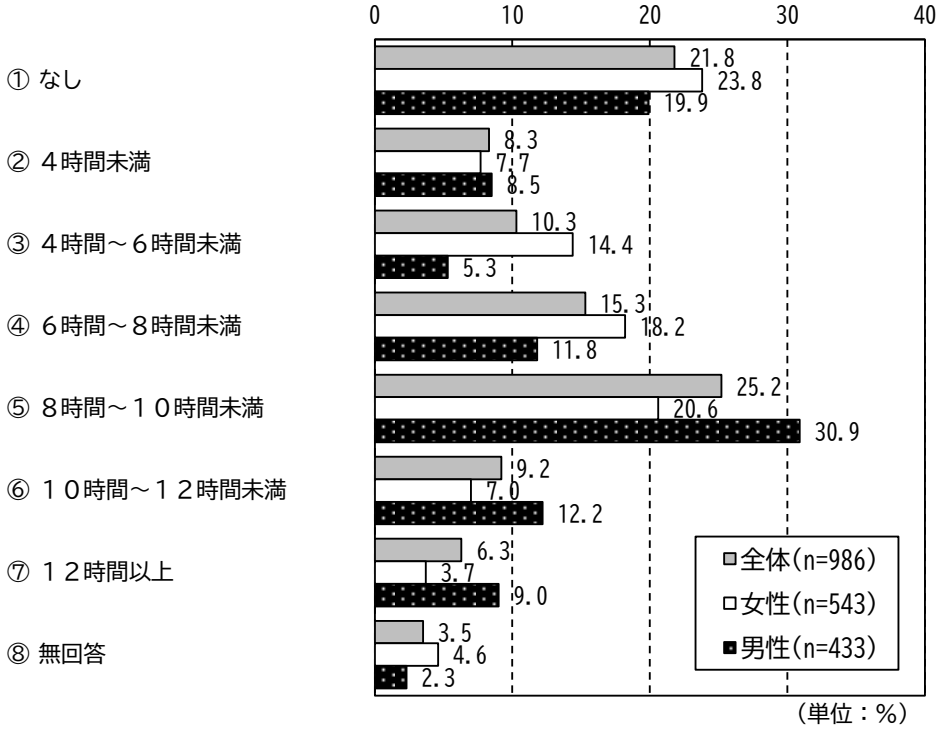
- 主に男性の役割
- 両方同じ程度の役割
- 主に女性の役割
- 無回答
- どちらかといえば男性の役割
- どちらかといえば女性の役割
- いずれにも該当しない

※ 令和元年度より、「日常の家事」を「日常の家事（炊事）」「日常の家事（洗濯）」「日常の家事（掃除）」「日常の家事（③～⑤以外の家事）」に分割

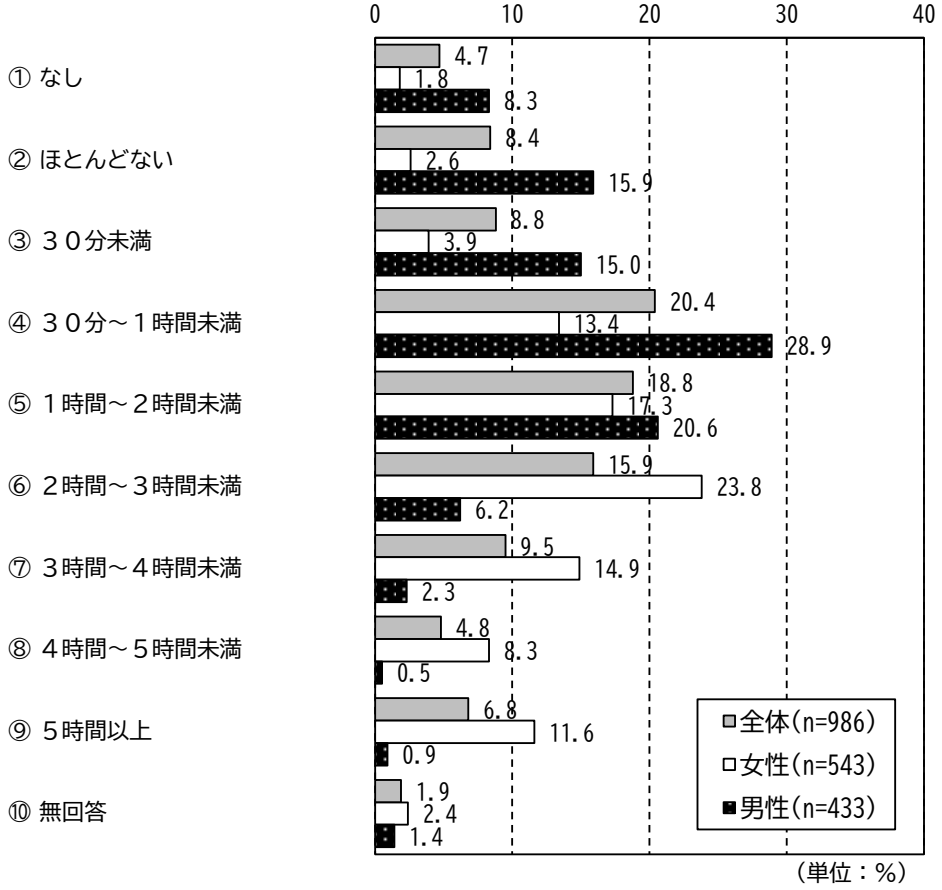
（３）仕事、家事、育児、介護に要する時間【平日】

問６　１日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。（○はそれぞれ１つずつ）

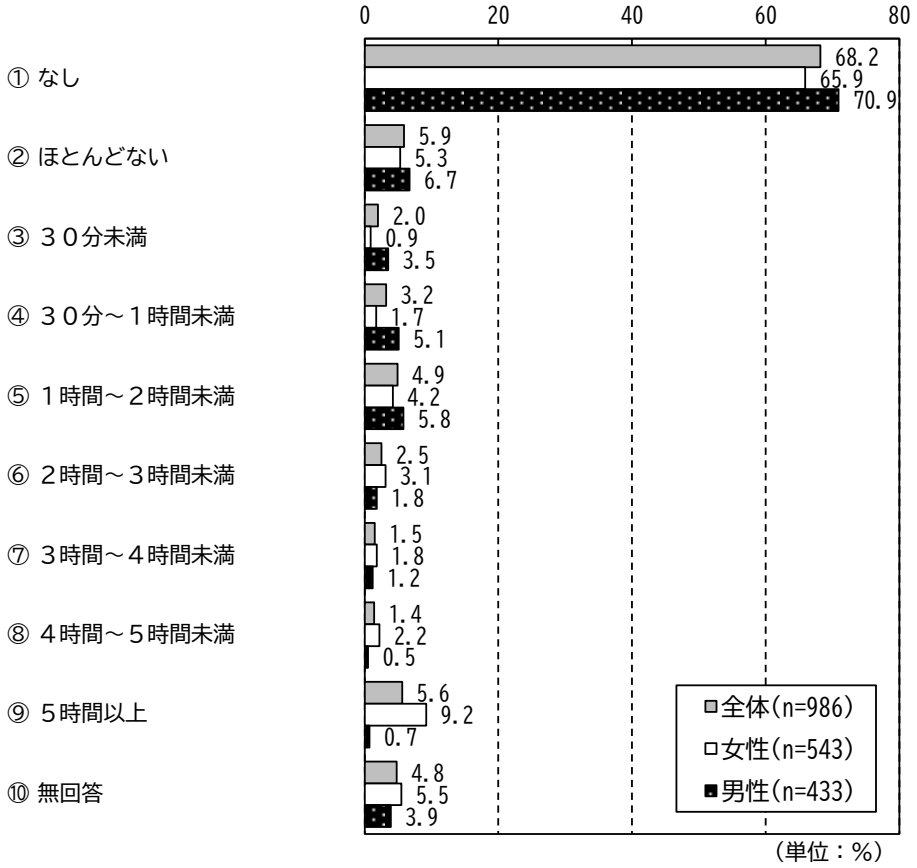
〔図表 3-3①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【平日】**(性別)**〕



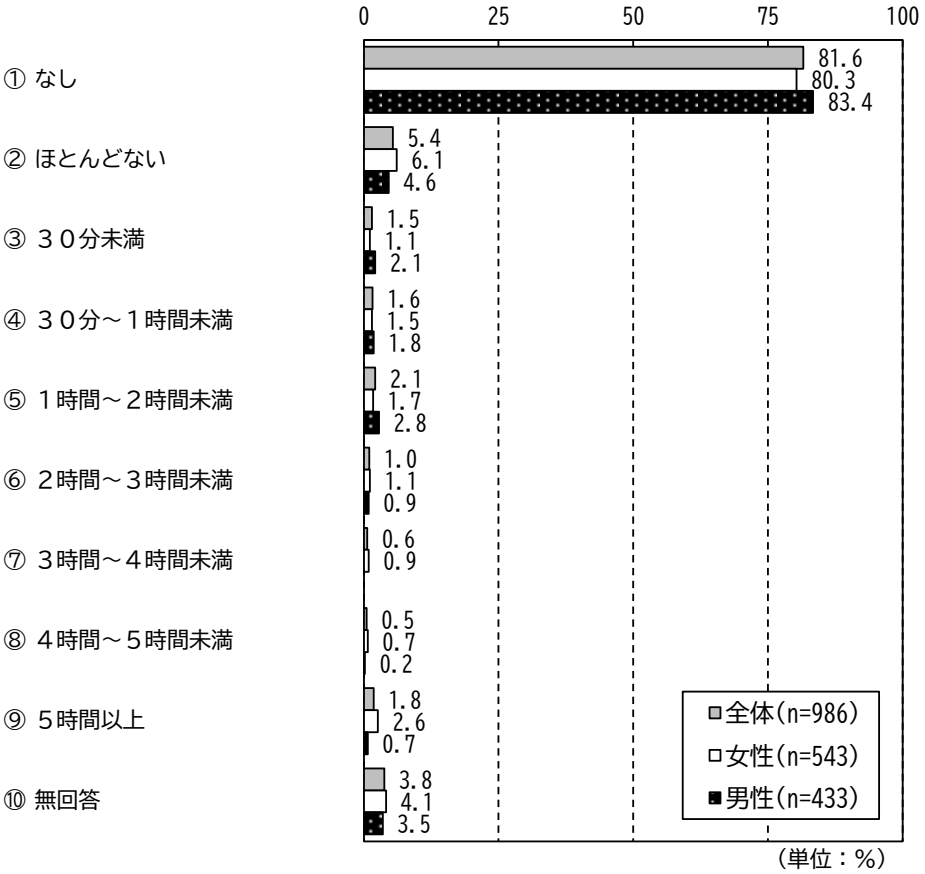
〔図表 3-3②　家事に要する時間【平日】**(性別)**〕



〔図表 3-3③　育児に要する時間【平日】(性別)〕



〔図表 3-3④　介護に要する時間【平日】(性別)〕



＜仕事（通勤時間を含む）に要する時間＞

仕事に要する時間をみると、平日で『8 時間以上』が女性は 31.3%、男性で 52.1%となっている。（図表 3-3①）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、女性では『8 時間以上』が 6.3 ポイント減少し、『4 時間～8 時間未満』が 7.6 ポイント増加している。男性では、「10 時間～12 時間未満」が 5.2 ポイント減少し、「8 時間～10 時間未満」が 5.4 ポイント増加している。（図表 3-3-1①）

＜家事に要する時間＞

家事に要する時間をみると、女性は「2 時間～3 時間未満」が 23.8%で最も高く、『2 時間以上』でみると 58.6%となっている。一方、男性では『2 時間以上』は 9.9%にとどまり、『 1 時間未満』が 68.1%となっている。（図表 3-3②）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、女性では「1 時間～2 時間未満」が 3.0 ポイント減少し、「2 時間～3 時間未満」が 3.3 ポイント増加している。男性では、「なし」まで含めた『30 分未満』が 14.2 ポイント減少し、「30 分～1 時間未満」が 6.2 ポイント、「1 時間～2 時間未満」が 8.1 ポイント増加している。（図表 3-3-1②）

＜育児に要する時間＞

育児に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 68.2%となっているが、「5 時間以上」は女性で 9.2%、男性で 0.7%となっている。（図表 3-3③）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、概ね傾向は変わらないが、女性では「5 時間以上」が前回調査と比べて 2.2 ポイント増加、男性では、「ほとんどない」が 2.4 ポイント減少している。（図表 3-3-1③）

＜介護に要する時間＞

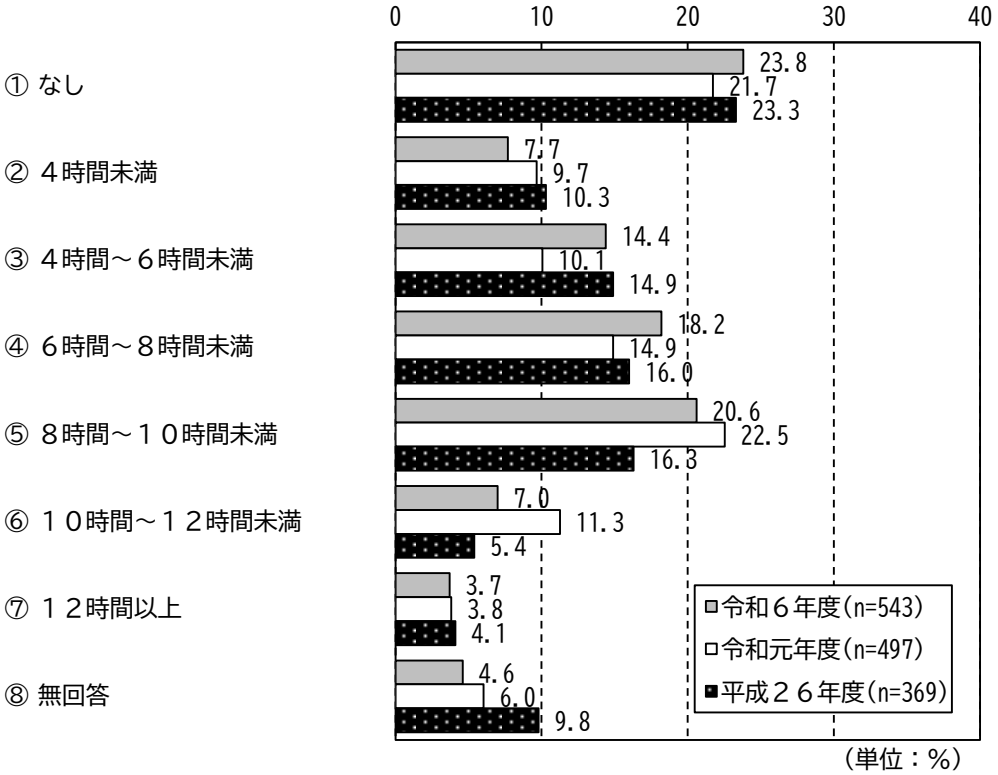
介護に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 81.6%となっている。（図表 3-3④）

【過去の調査との比較】

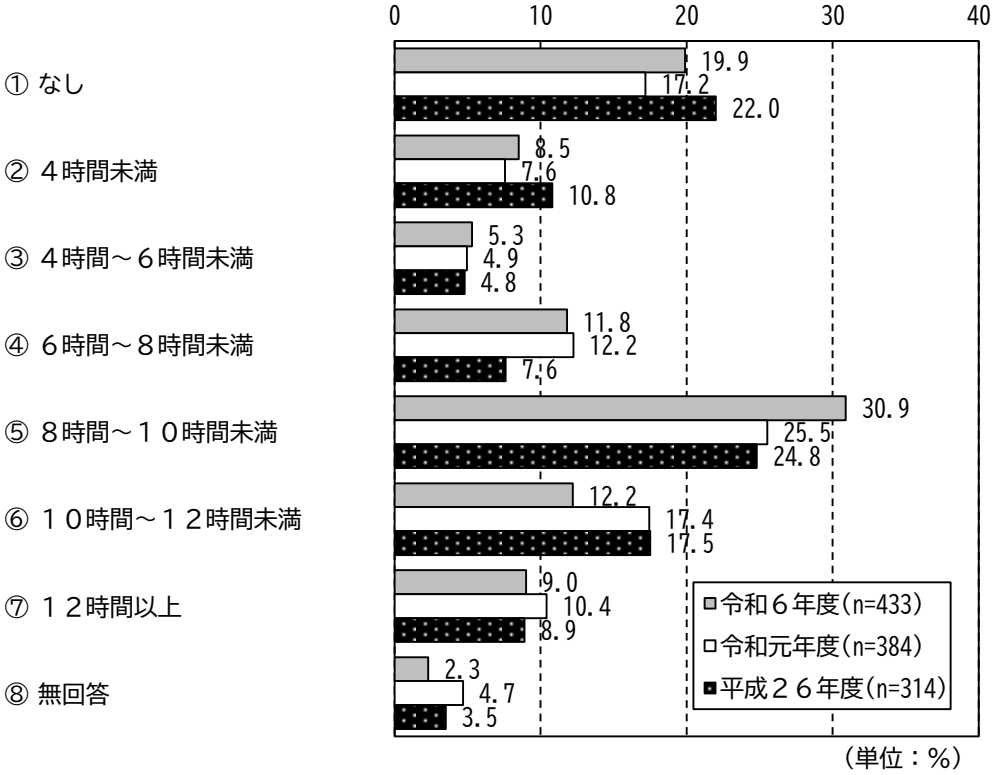
令和元年度調査と比較をすると、概ね傾向は変わらないが、男性では、「なし」が 7.6 ポイント増加している。（図表 3-3-1④）

〔図表 3-3-1①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【平日】**（過去調査との比較）**〕

〈女性〉

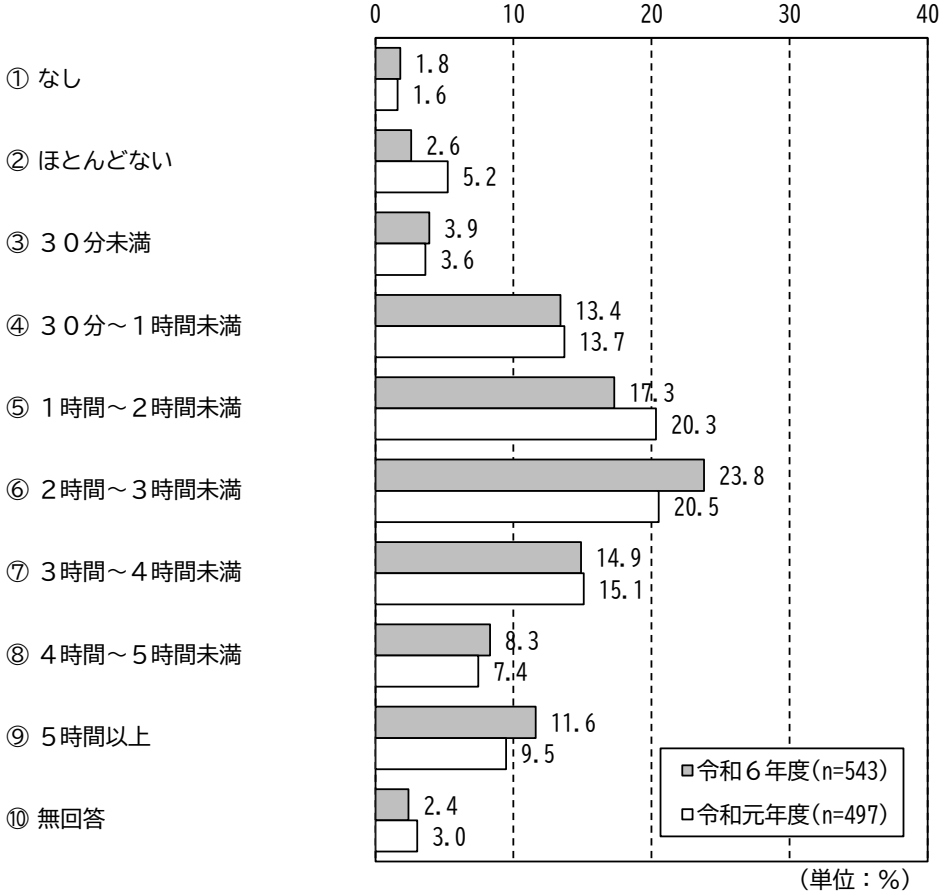


〈男性〉

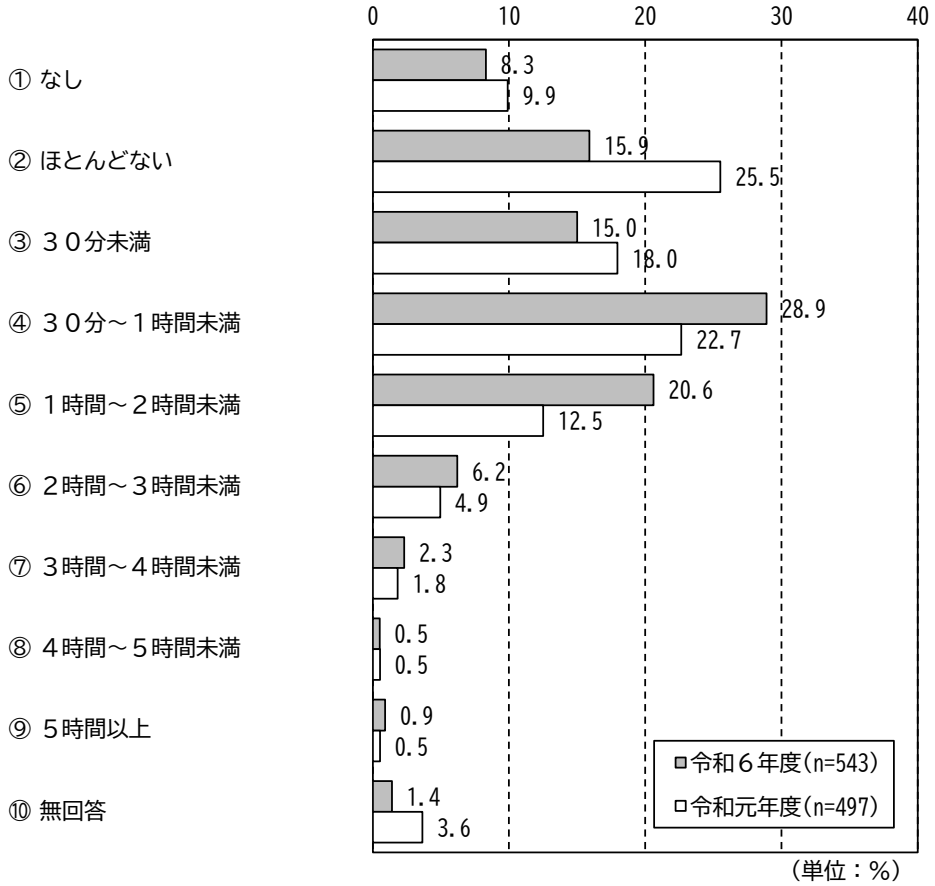


〔図表 3-3-1②　家事に要する時間【平日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉

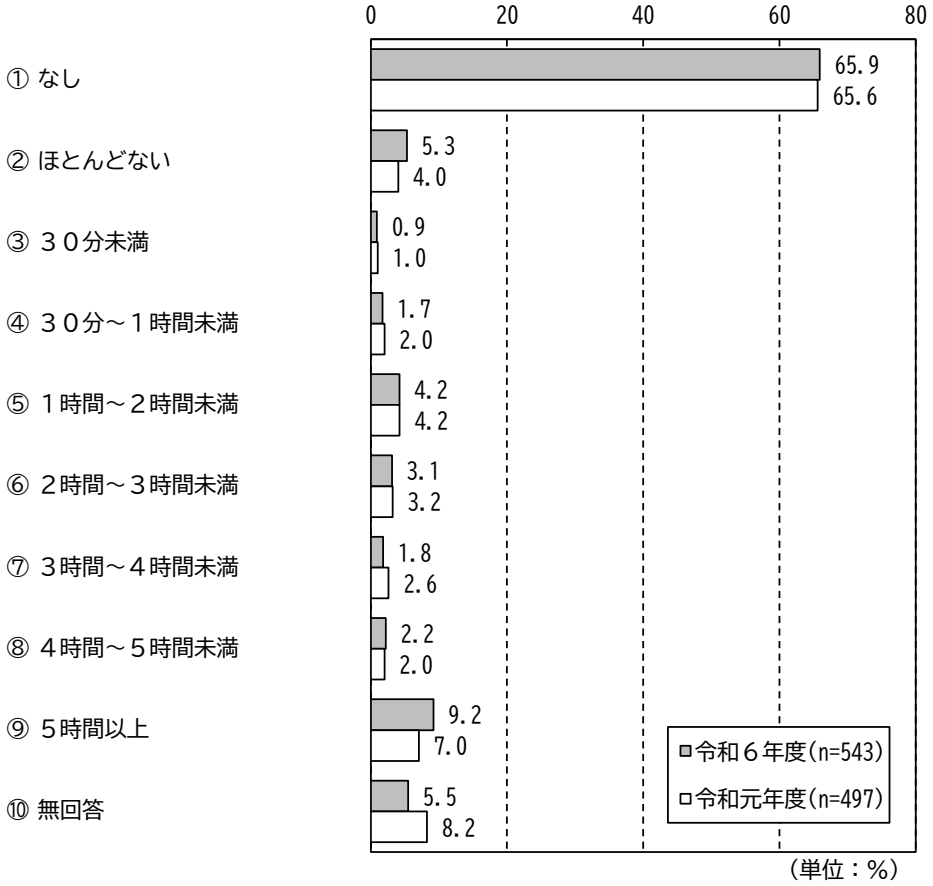


〈男性〉

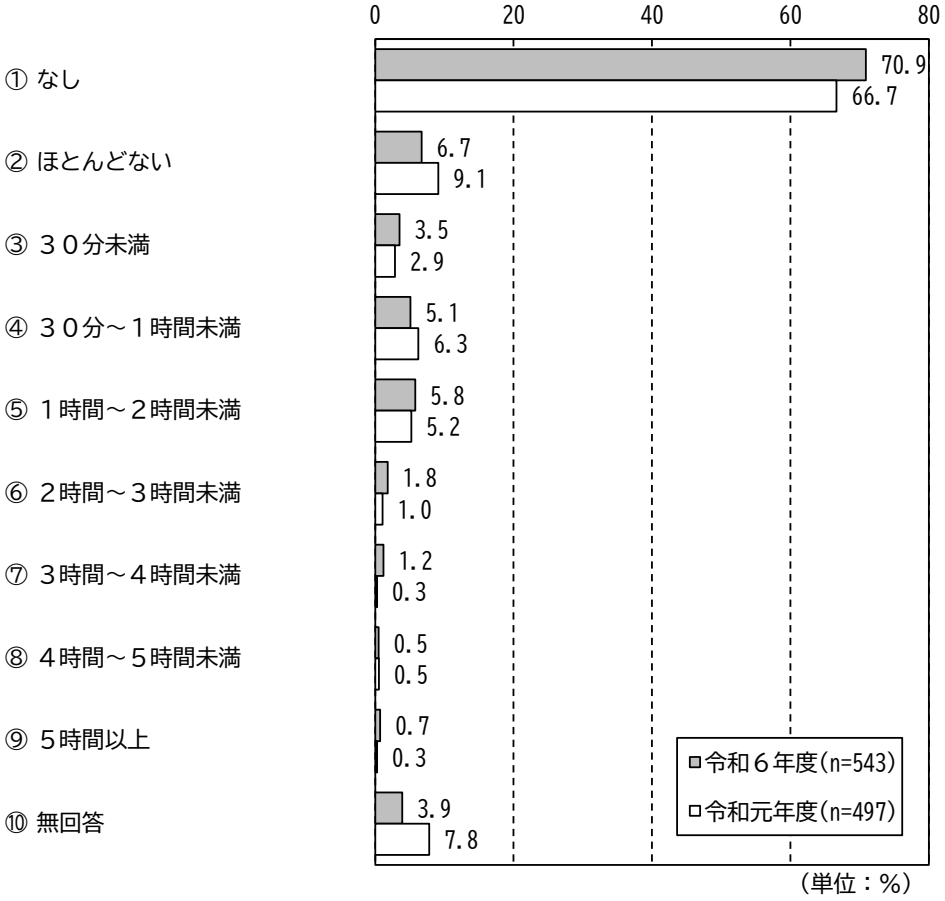


〔図表 3-3-1③　育児に要する時間【平日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉

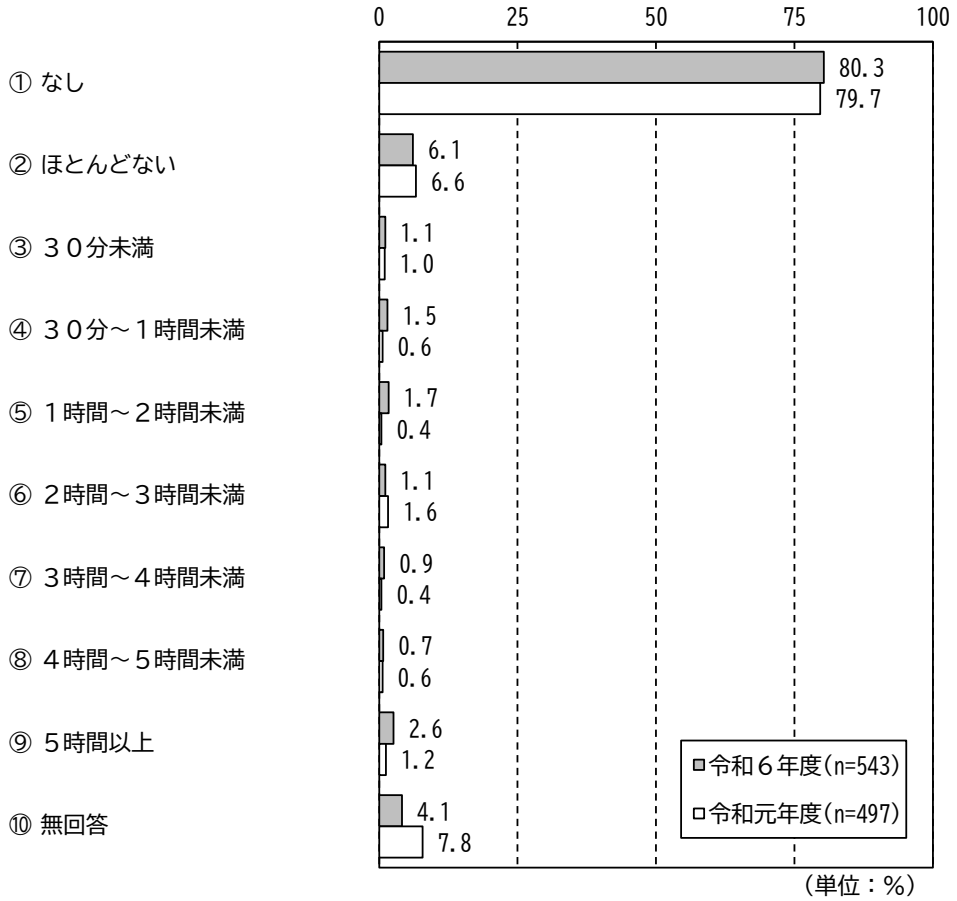


〈男性〉

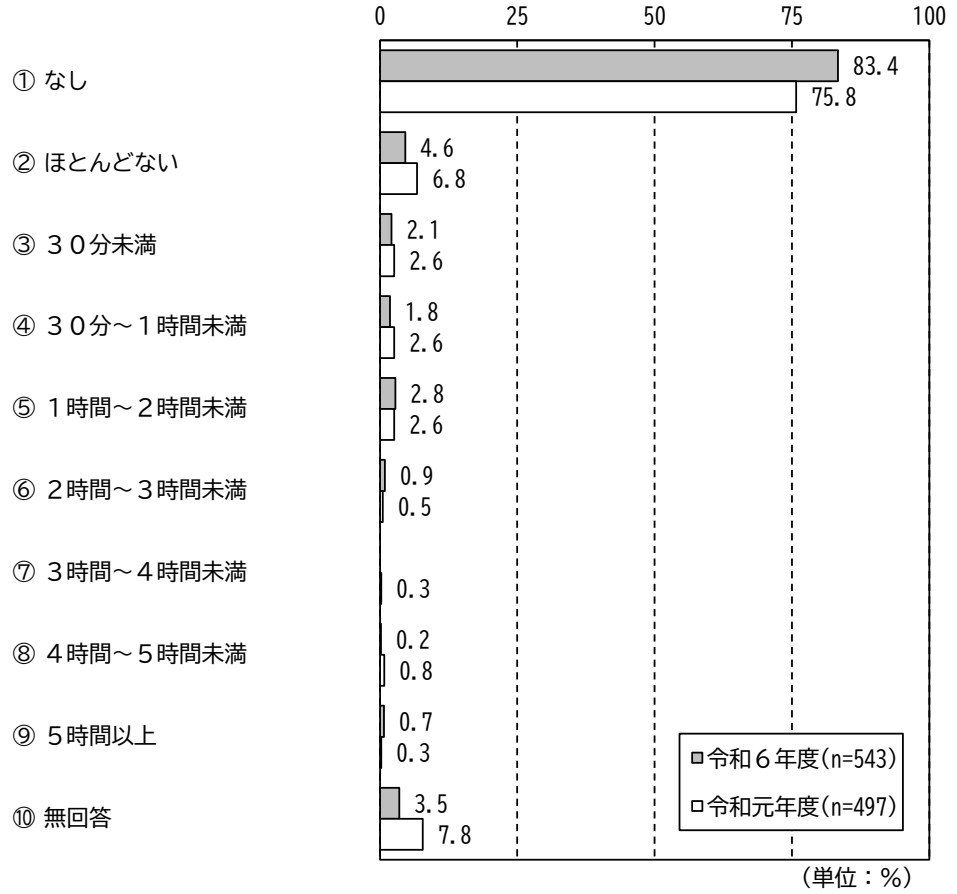


〔図表 3-3-1④　介護に要する時間【平日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉



〈男性〉



〔図表 3-3-2①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②4時間未満	③4時間～6時間未満	④6時間～8時間未満	⑤8時間～10時間未満	⑥10時間～12時間未満	⑦12時間以上	⑧無回答
全　体			986	21.8	8.3	10.3	15.3	25.2	9.2	6.3	3.5
性×年代別	女性	18～29歳	51	13.7	7.8	3.9	19.6	29.4	15.7	9.8	－
		30歳代	74	21.6	4.1	6.8	17.6	36.5	8.1	5.4	－
		40歳代	86	10.5	3.5	22.1	20.9	34.9	3.5	3.5	1.2
		50歳代	115	13.9	6.1	12.2	27.8	21.7	10.4	5.2	2.6
		60歳以上	215	37.7	11.6	17.7	12.1	6.5	4.2	0.9	9.3
	男性	18～29歳	41	17.1	9.8	2.4	7.3	36.6	17.1	9.8	－
		30歳代	52	3.8	5.8	－	5.8	50.0	17.3	17.3	－
		40歳代	62	4.8	8.1	－	14.5	33.9	17.7	21.0	－
		50歳代	92	8.7	3.3	3.3	7.6	47.8	19.6	9.8	－
		60歳以上	186	35.5	11.8	10.2	15.6	15.1	4.3	2.2	5.4
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	1.1	9.8	23.5	26.8	25.1	9.8	3.8	－
		共働きをしていない	93	52.7	5.4	16.1	10.8	7.5	1.1	1.1	5.4
	男性	共働きをしている	141	1.4	4.3	4.3	13.5	42.6	19.1	14.9	－
		共働きをしていない	91	12.1	9.9	7.7	19.8	24.2	13.2	12.1	1.1

※ ■は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2②　家事に要する時間【平日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	4.7	8.4	8.8	20.4	18.8	15.9	9.5	4.8	6.8	1.9
性×年代別	女性	18～29歳	51	3.9	11.8	17.6	29.4	17.6	11.8	3.9	2.0	2.0	－
		30歳代	74	1.4	1.4	4.1	17.6	18.9	20.3	18.9	1.4	16.2	－
		40歳代	86	1.2	2.3	3.5	14.0	14.0	25.6	16.3	8.1	15.1	－
		50歳代	115	－	0.9	1.7	11.3	21.7	24.3	11.3	12.2	15.7	0.9
		60歳以上	215	2.8	1.9	1.9	9.3	15.8	26.5	17.7	10.2	8.8	5.1
	男性	18～29歳	41	17.1	17.1	4.9	34.1	12.2	9.8	2.4	－	2.4	－
		30歳代	52	1.9	19.2	5.8	25.0	40.4	3.8	3.8	－	－	－
		40歳代	62	4.8	17.7	16.1	29.0	21.0	8.1	1.6	1.6	－	－
		50歳代	92	4.3	16.3	27.2	29.3	14.1	5.4	1.1	1.1	－	1.1
		60歳以上	186	11.3	14.0	13.4	28.5	19.9	5.9	2.7	－	1.6	2.7
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	0.5	－	1.1	5.5	16.9	30.6	21.3	9.8	14.2	－
		共働きをしていない	93	－	－	2.2	7.5	11.8	22.6	20.4	12.9	22.6	－
	男性	共働きをしている	141	3.5	13.5	20.6	27.0	26.2	5.7	2.1	0.7	0.7	－
		共働きをしていない	91	6.6	20.9	16.5	27.5	16.5	9.9	1.1	－	－	1.1

※ ■は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2③　育児に要する時間【平日】(性・年代別、性・共働状況別、性・末子年齢別)〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	68.2	5.9	2.0	3.2	4.9	2.5	1.5	1.4	5.6	4.8
性×年代別	女性	18～29歳	51	92.2	-	-	-	-	-	-	2.0	5.9	-
		30歳代	74	35.1	1.4	-	1.4	2.7	8.1	5.4	9.5	36.5	-
		40歳代	86	41.9	11.6	2.3	4.7	16.3	4.7	7.0	2.3	8.1	1.2
		50歳代	115	70.4	7.0	1.7	2.6	4.3	5.2	-	0.9	5.2	2.6
		60歳以上	215	78.1	4.7	0.5	0.5	0.9	0.5	-	0.5	3.3	11.2
	男性	18～29歳	41	87.8	-	-	-	4.9	4.9	-	-	2.4	-
		30歳代	52	46.2	5.8	11.5	9.6	13.5	5.8	3.8	1.9	-	1.9
		40歳代	62	46.8	8.1	3.2	17.7	14.5	1.6	4.8	1.6	1.6	-
		50歳代	92	76.1	13.0	4.3	2.2	2.2	-	-	-	-	2.2
		60歳以上	186	79.6	4.8	1.6	2.2	2.7	1.1	-	-	0.5	7.5
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	49.2	6.6	2.2	4.4	9.3	4.9	3.3	5.5	13.7	1.1
		共働きをしていない	93	59.1	3.2	1.1	-	4.3	6.5	2.2	-	20.4	3.2
	男性	共働きをしている	141	48.2	13.5	7.1	9.2	10.6	4.3	3.5	0.7	0.7	2.1
		共働きをしていない	91	70.3	5.5	5.5	7.7	7.7	2.2	-	-	-	1.1
性×末子年齢	女性	６歳未満	45	4.4	-	-	2.2	4.4	6.7	6.7	15.6	60.0	-
		小学生	42	7.1	2.4	2.4	2.4	23.8	14.3	14.3	4.8	28.6	-
		中学生・高校生	34	8.8	23.5	5.9	11.8	23.5	17.6	2.9	2.9	2.9	-
	男性	６歳未満	45	8.9	4.4	11.1	20.0	22.2	13.3	11.1	4.4	4.4	-
		小学生	22	13.6	13.6	18.2	18.2	36.4	-	-	-	-	-
		中学生・高校生	23	39.1	39.1	4.3	13.0	4.3	-	-	-	-	-

※ ▭は、属性中トップの項目

〔図表 3-3-2④　介護に要する時間【平日】(性・年代別、性・共働状況別)〕

（単位：%）

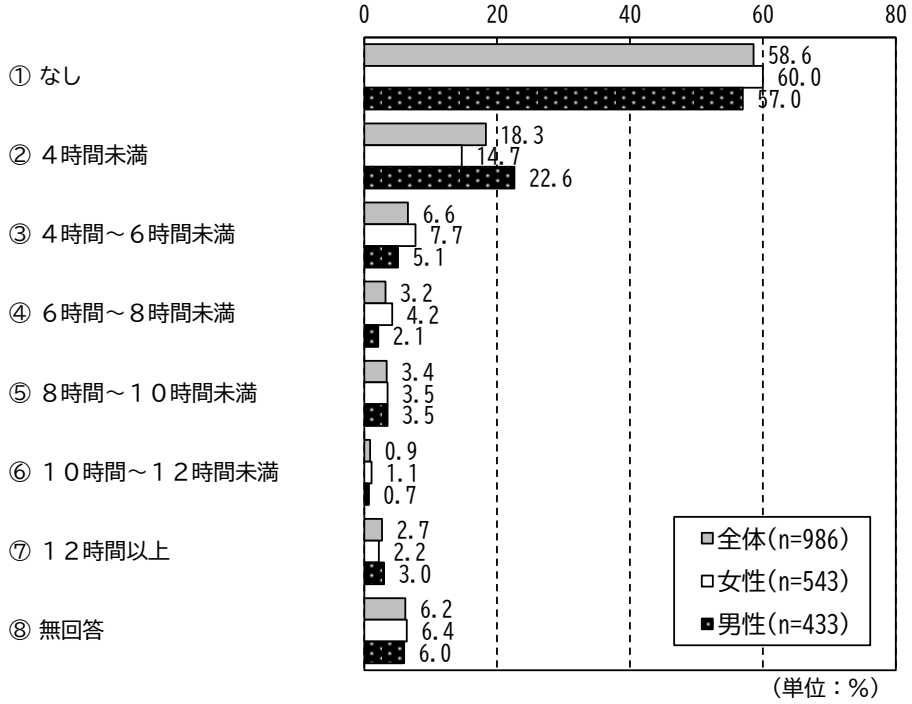
			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	81.6	5.4	1.5	1.6	2.1	1.0	0.6	0.5	1.8	3.8
性×年代別	女性	18～29歳	51	98.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
		30歳代	74	97.3	1.4	-	-	1.4	-	-	-	-	-
		40歳代	86	93.0	1.2	-	1.2	-	1.2	-	-	2.3	1.2
		50歳代	115	71.3	13.0	3.5	2.6	0.9	0.9	2.6	0.9	2.6	1.7
		60歳以上	215	70.7	7.4	0.9	1.9	2.8	1.9	0.9	1.4	4.2	7.9
	男性	18～29歳	41	97.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	52	90.4	1.9	3.8	-	1.9	1.9	-	-	-	-
		40歳代	62	88.7	6.5	1.6	1.6	1.6	-	-	-	-	-
		50歳代	92	81.5	6.5	2.2	2.2	4.3	1.1	-	-	-	2.2
		60歳以上	186	77.4	4.3	2.2	2.7	3.2	1.1	-	0.5	1.6	7.0
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	81.4	9.8	0.5	2.2	1.1	0.5	0.5	1.1	2.2	0.5
		共働きをしていない	93	81.7	7.5	1.1	2.2	2.2	2.2	2.2	-	1.1	-
	男性	共働きをしている	141	85.8	7.1	2.1	0.7	2.1	0.7	-	-	-	1.4
		共働きをしていない	91	82.4	5.5	2.2	4.4	1.1	1.1	-	1.1	-	2.2

※ ▭は、属性中トップの項目

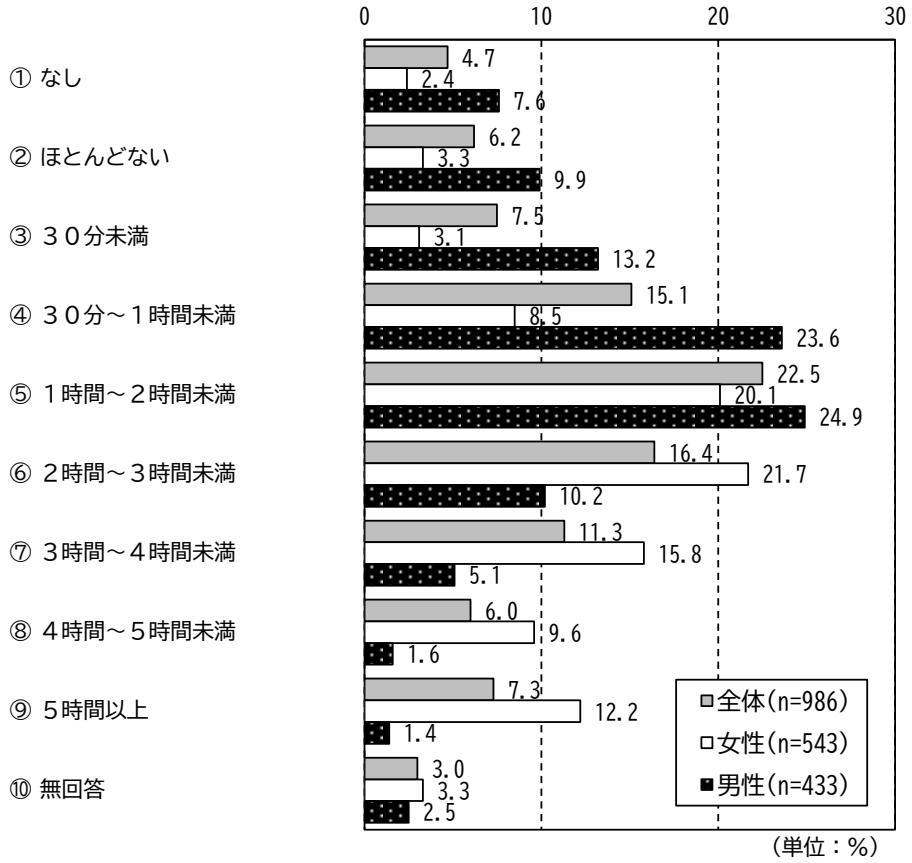
（４）仕事、家事、育児、介護に要する時間【休日】

問６　１日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。（○はそれぞれ１つずつ）

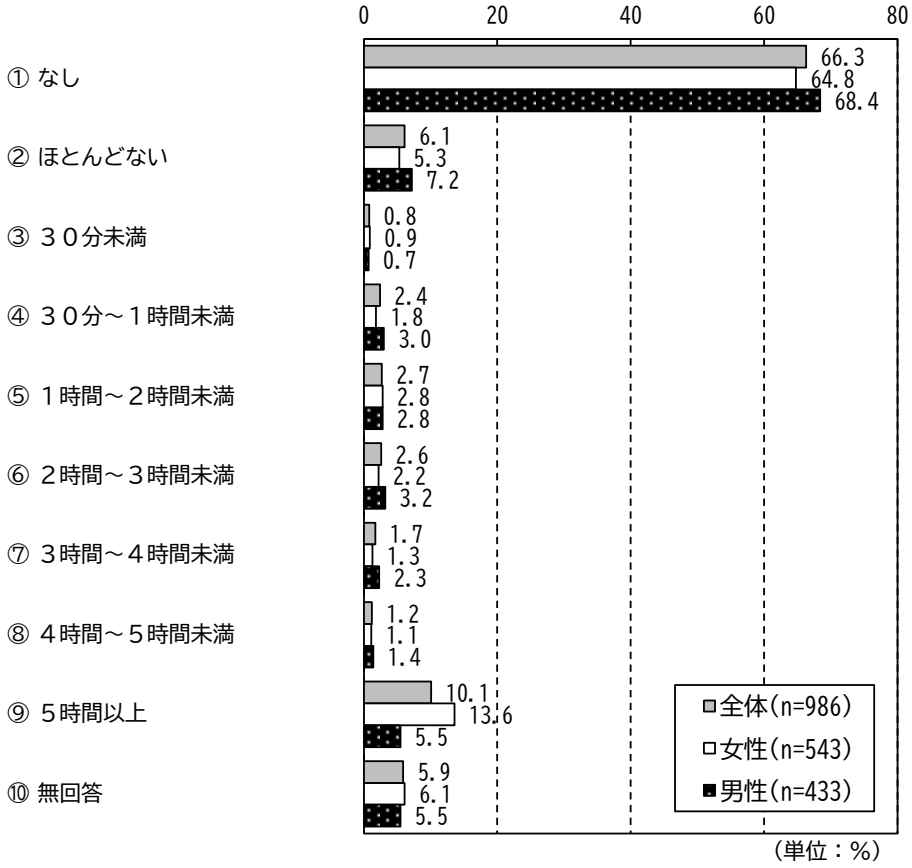
〔図表 3-4①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【休日】**(性別)**〕



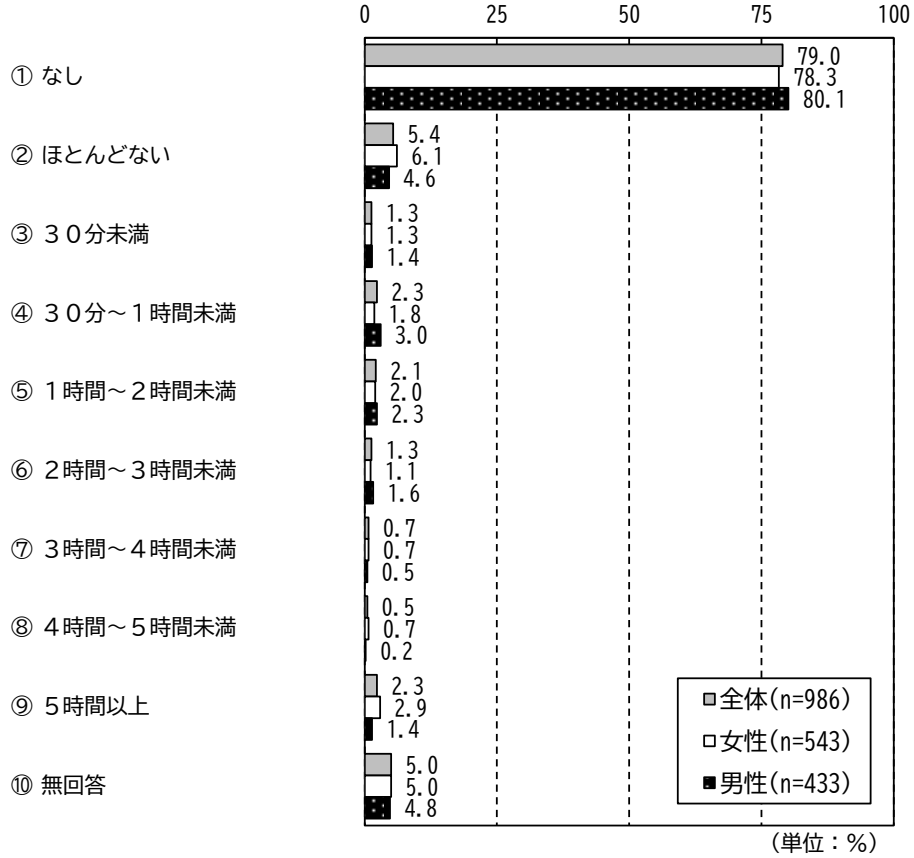
〔図表 3-4②　家事に要する時間【休日】**(性別)**〕



〔図表 3-4③　育児に要する時間【休日】(性別)〕



〔図表 3-4④　介護に要する時間【休日】(性別)〕



＜仕事（通勤時間を含む）に要する時間＞

仕事に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 58.6%、次に「4 時間未満」が 18.3%となっている。（図表 3-4①）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、女性は「なし」が増加傾向、「4 時間未満」が減少傾向にある。男性は前回から「なし」が 7.5 ポイント増加し、「4 時間未満」が 6.6 ポイント減少している。（図表 3-4-1①）

＜家事に要する時間＞

家事に要する時間は、女性は平日とほとんど変わらず「2 時間～3 時間未満」が 21.7%で最も高く『2 時間以上』でみると 59.3%となっている。男性は「30 分～1 時間未満」「1 時間～2 時間未満」がそれぞれ約 2 割で高くなっている。（図表 3-4②）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、女性では概ね傾向は変わらないが、「5 時間以上」が前回調査と比べて 2.3 ポイント増加している。男性では、「ほとんどない」が 9.4 ポイント減少し、「30 分～1 時間未満」「1 時間～2 時間未満」「2 時間～3 時間未満」がそれぞれ 3 ポイント前後増加している。（図表 3-4-1②）

＜育児に要する時間＞

育児に要する時間をみると、平日と同様に「なし」が最も高く 66.3%となっているが、「5 時間以上」は女性で 13.6%、男性で 5.5%となっている。（図表 3-4③）

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、概ね傾向は変わらないが、男性で、「なし」が 4.6 ポイント増加している。（図表 3-4-1③）

＜介護に要する時間＞

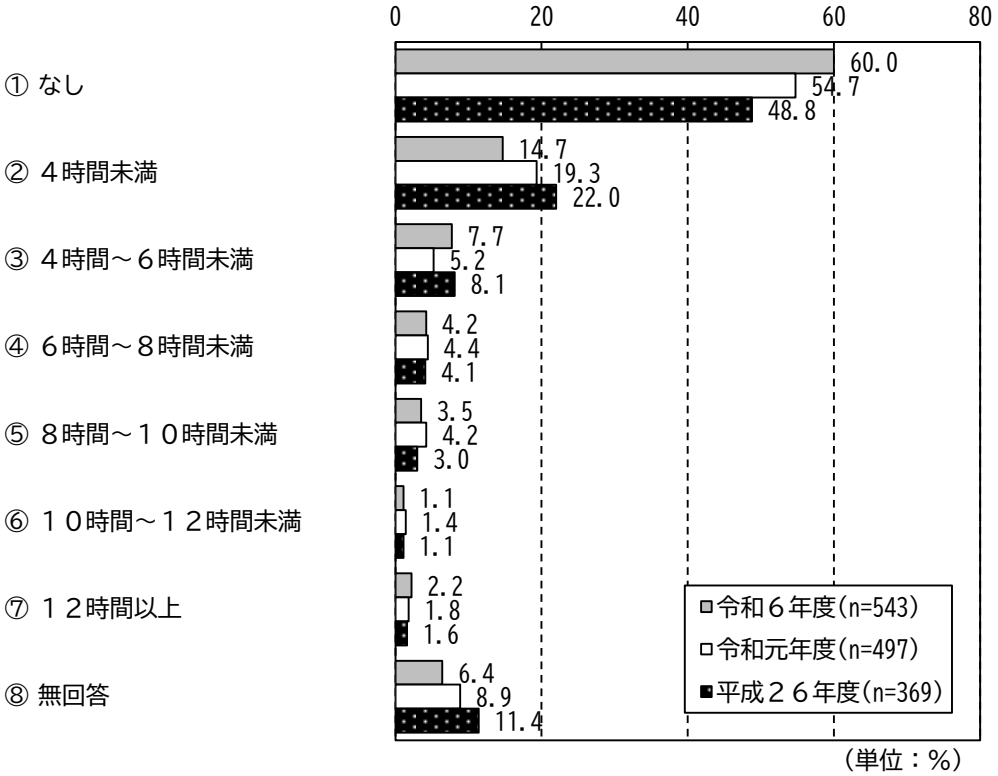
介護に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 79.0%となっている。（図表 3-4④）

【過去の調査との比較】

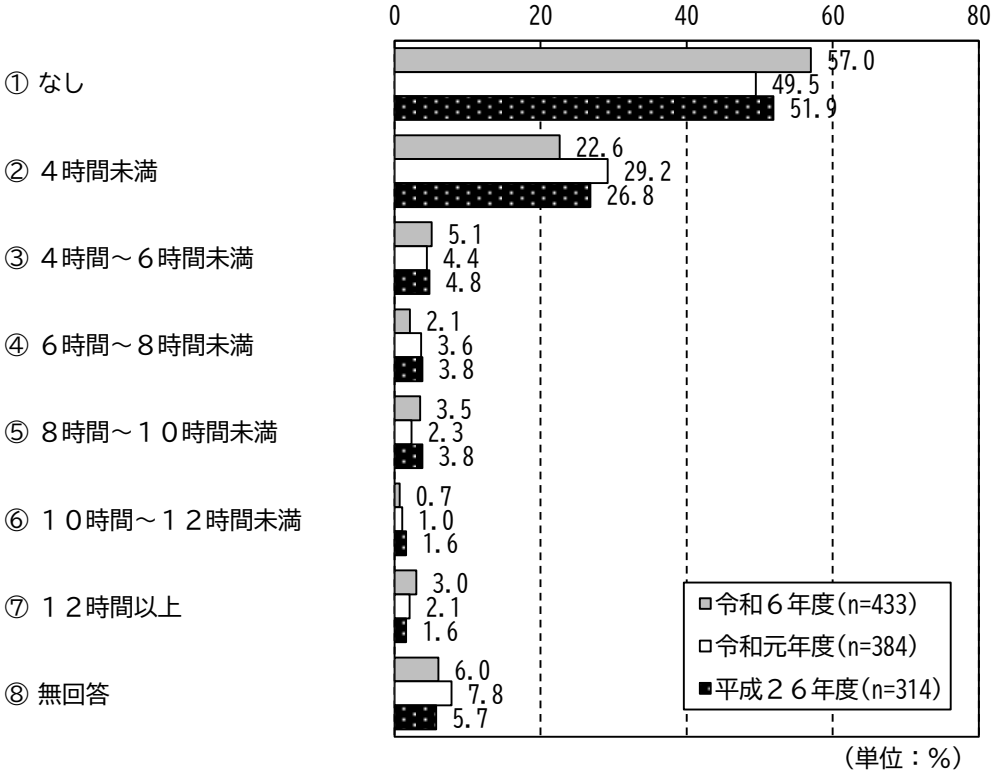
令和元年度調査と比較をすると、概ね傾向は変わらないが、男性では、「なし」が 6.9 ポイント増加している。（図表 3-4-1④）

〔図表 3-4-1①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【休日】**（過去調査との比較）**〕

〈女性〉

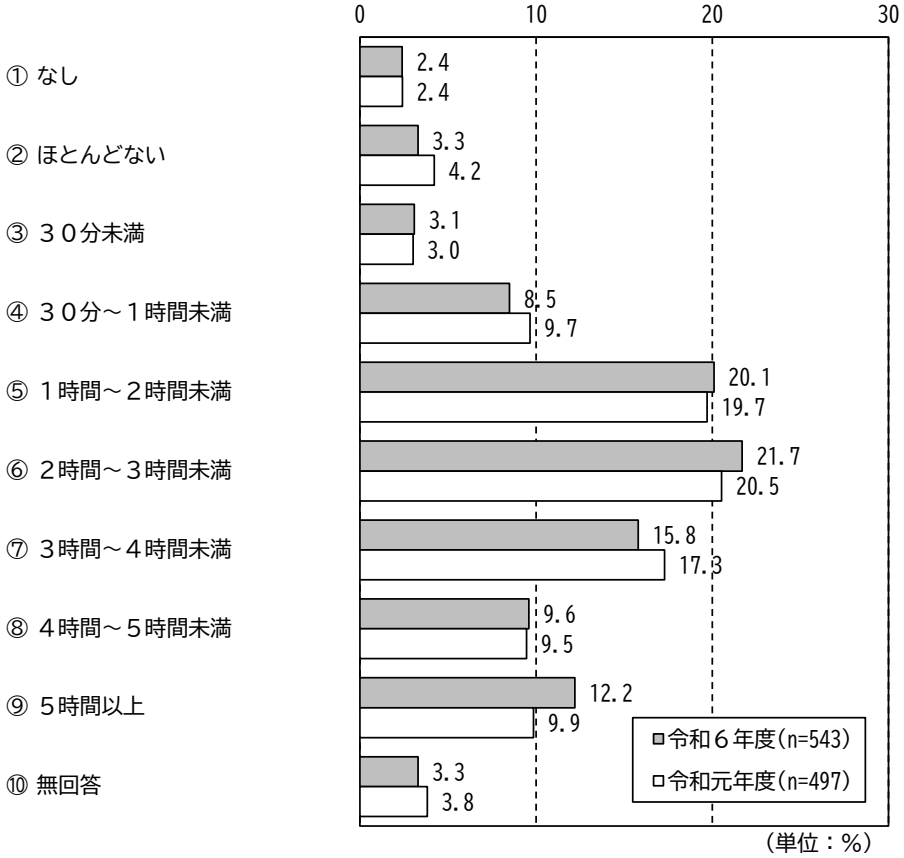


〈男性〉

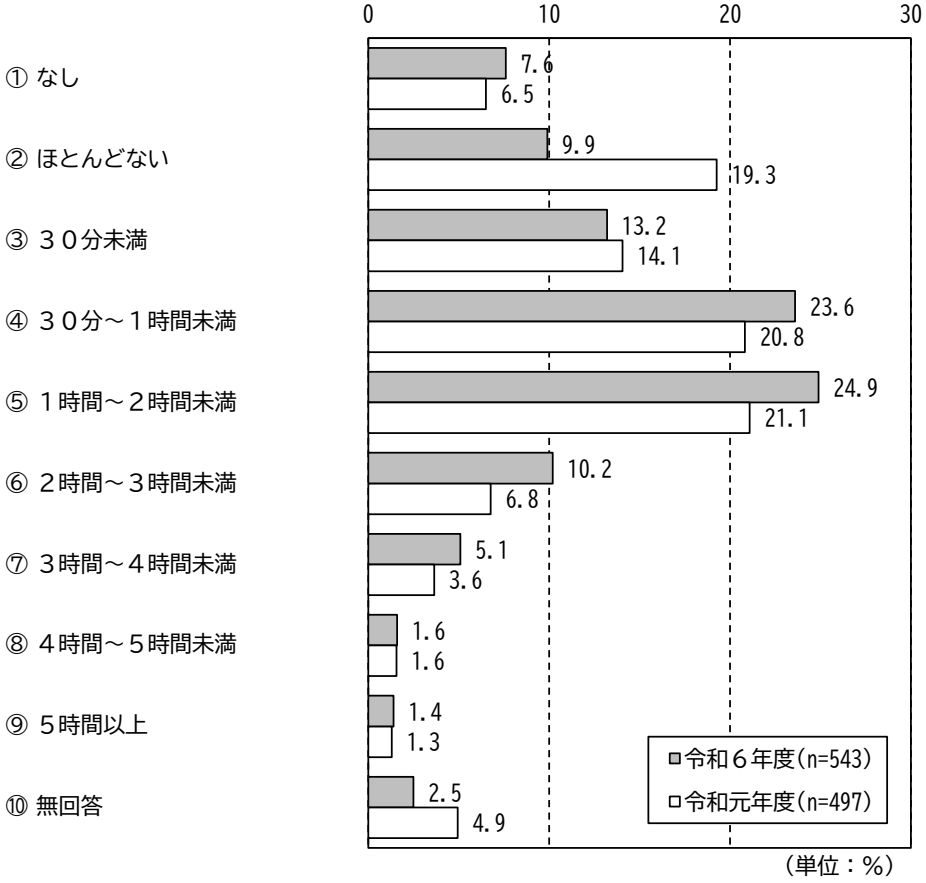


〔図表 3-4-1②　家事に要する時間【休日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉

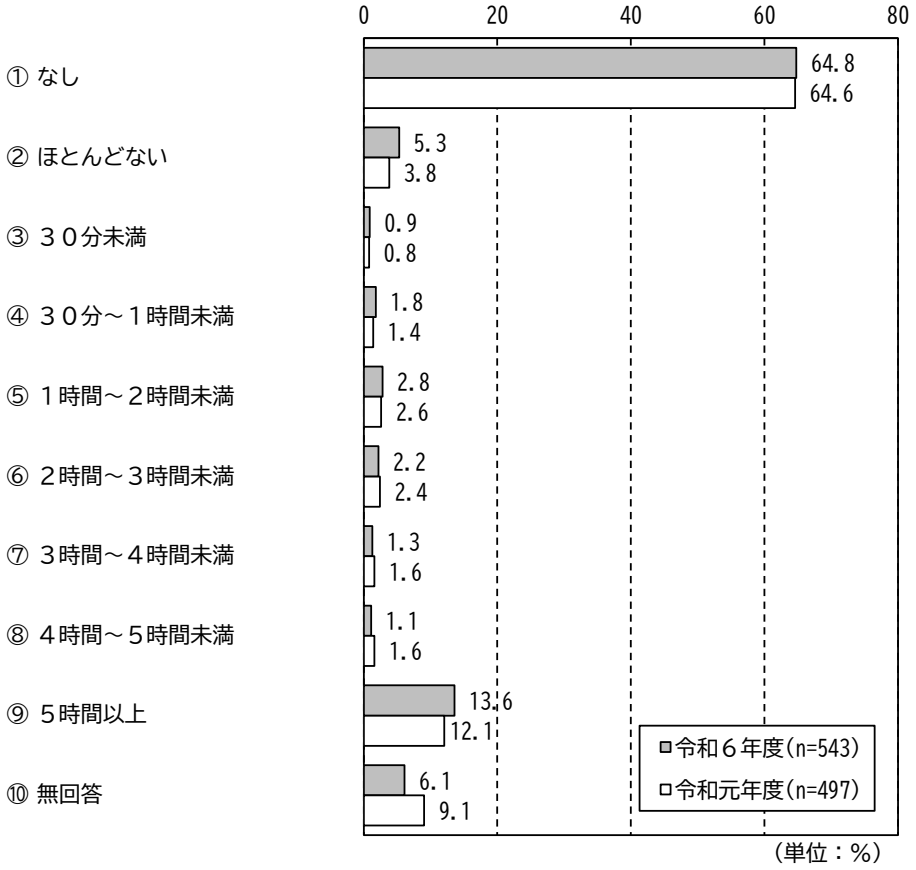


〈男性〉

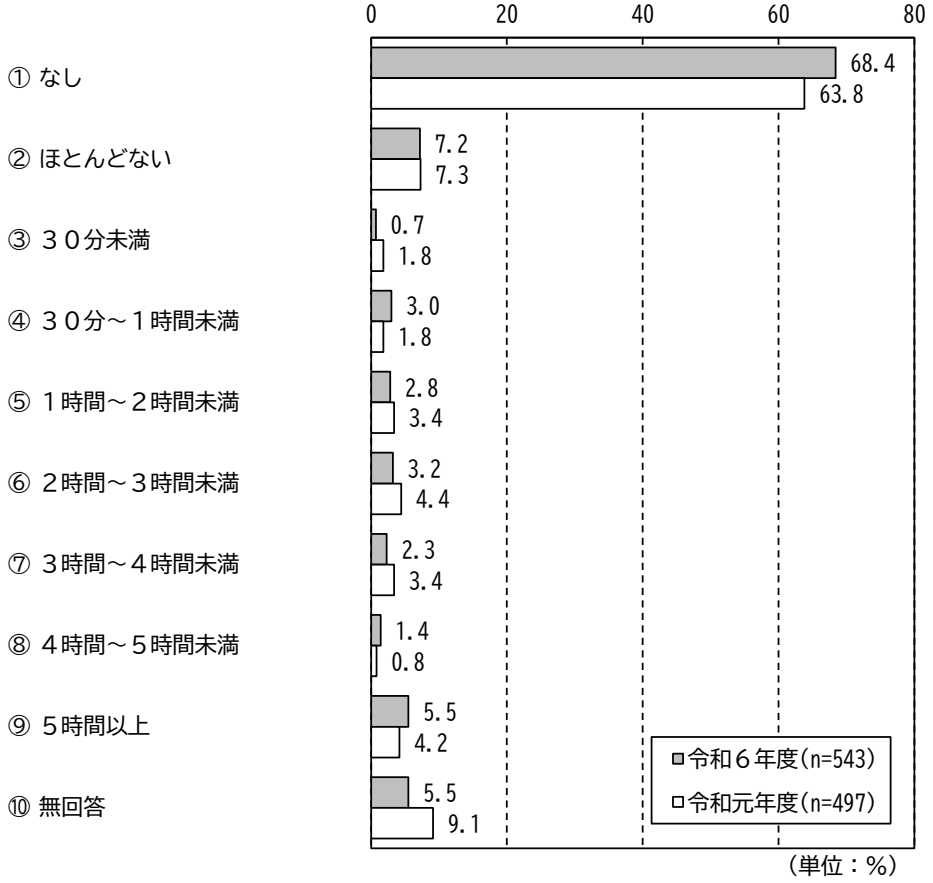


〔図表 3-4-1③　育児に要する時間【休日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉

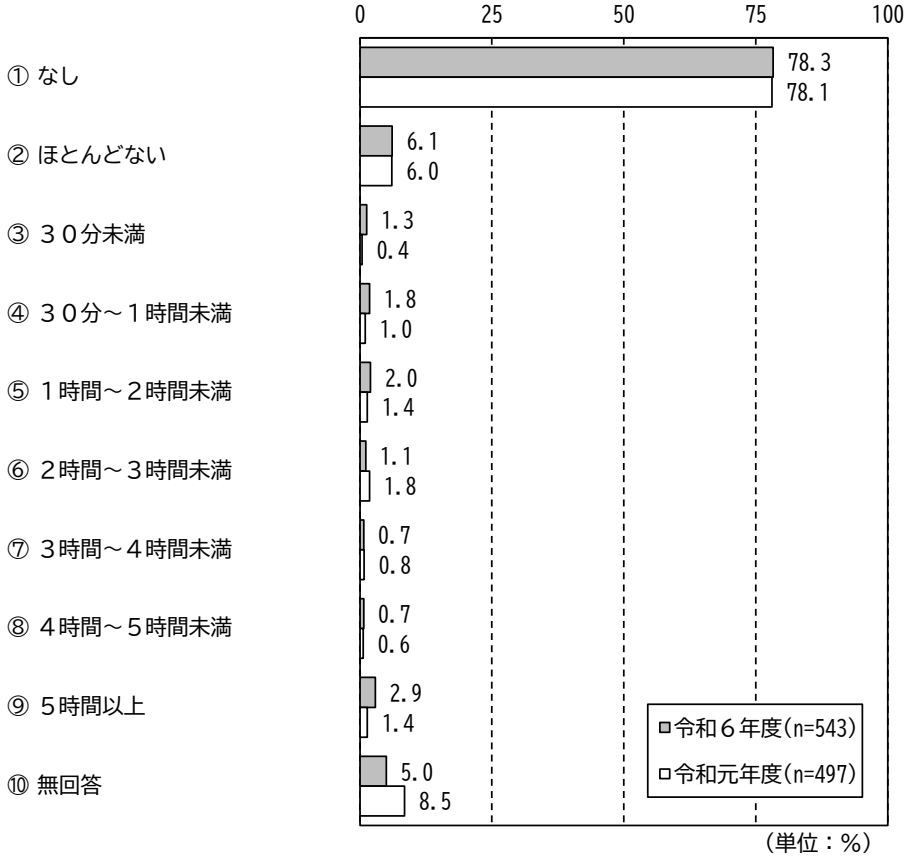


〈男性〉

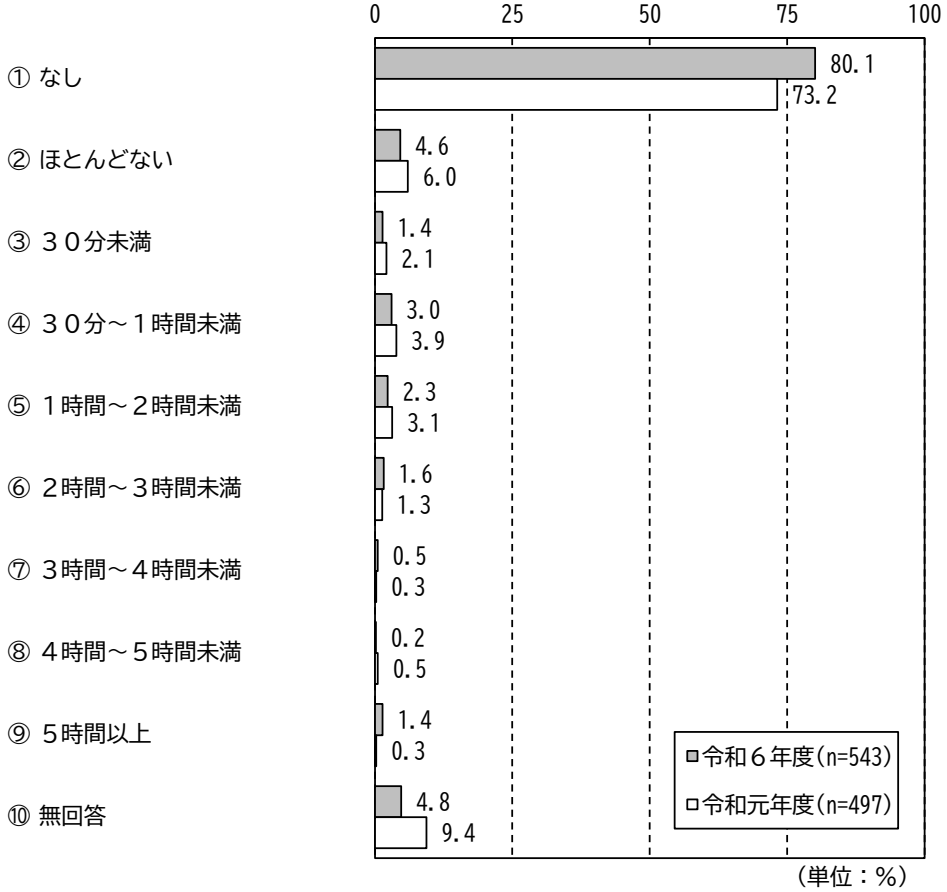


〔図表 3-4-1④　介護に要する時間【休日】（過去調査との比較）〕

〈女性〉



〈男性〉



〔図表 3-4-2①　仕事（通勤時間を含む）に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②4時間未満	③4時間～6時間未満	④6時間～8時間未満	⑤8時間～10時間未満	⑥10時間～12時間未満	⑦12時間以上	⑧無回答
全　体			986	58.6	18.3	6.6	3.2	3.4	0.9	2.7	6.2
性×年代別	女性	18～29歳	51	60.8	11.8	9.8	3.9	7.8	2.0	3.9	－
		30歳代	74	75.7	6.8	2.7	6.8	5.4	1.4	1.4	－
		40歳代	86	60.5	20.9	5.8	2.3	3.5	－	2.3	4.7
		50歳代	115	58.3	16.5	7.8	4.3	3.5	0.9	3.5	5.2
		60歳以上	215	55.3	14.9	9.8	4.2	1.9	1.4	1.4	11.2
	男性	18～29歳	41	68.3	12.2	－	4.9	4.9	2.4	7.3	－
		30歳代	52	46.2	26.9	5.8	3.8	7.7	1.9	7.7	－
		40歳代	62	53.2	27.4	9.7	－	6.5	－	1.6	1.6
		50歳代	92	54.3	22.8	3.3	4.3	5.4	－	1.1	8.7
		60歳以上	186	60.2	22.0	5.4	0.5	－	0.5	2.2	9.1
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	60.1	14.8	9.3	4.9	2.7	2.2	2.2	3.8
		共働きをしていない	93	73.1	8.6	7.5	2.2	3.2	－	1.1	4.3
	男性	共働きをしている	141	55.3	27.0	5.7	2.8	2.8	0.7	3.5	2.1
		共働きをしていない	91	53.8	27.5	5.5	－	5.5	1.1	2.2	4.4

※ ▭ は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2②　家事に要する時間【休日】（性・年代別、性・共働状況別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	4.7	6.2	7.5	15.1	22.5	16.4	11.3	6.0	7.3	3.0
性×年代別	女性	18～29歳	51	5.9	13.7	11.8	19.6	15.7	19.6	2.0	5.9	5.9	－
		30歳代	74	1.4	1.4	2.7	9.5	21.6	23.0	21.6	2.7	16.2	－
		40歳代	86	－	1.2	1.2	8.1	23.3	22.1	16.3	8.1	18.6	1.2
		50歳代	115	－	1.7	0.9	6.1	25.2	20.9	13.9	13.9	15.7	1.7
		60歳以上	215	4.2	3.3	3.3	7.0	16.7	21.9	18.1	11.2	7.9	6.5
	男性	18～29歳	41	17.1	14.6	4.9	22.0	26.8	4.9	4.9	2.4	2.4	－
		30歳代	52	5.8	5.8	1.9	15.4	32.7	23.1	9.6	3.8	－	1.9
		40歳代	62	6.5	8.1	14.5	24.2	22.6	11.3	8.1	1.6	3.2	－
		50歳代	92	3.3	6.5	20.7	23.9	26.1	12.0	3.3	2.2	－	2.2
		60歳以上	186	8.6	12.4	14.0	25.8	22.6	6.5	3.8	0.5	1.6	4.3
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	－	1.6	0.5	2.7	18.0	22.4	23.5	12.6	17.5	1.1
		共働きをしていない	93	2.2	1.1	3.2	7.5	14.0	23.7	18.3	8.6	21.5	－
	男性	共働きをしている	141	2.1	7.8	10.6	24.8	29.1	15.6	7.1	0.7	2.1	－
		共働きをしていない	91	3.3	13.2	18.7	27.5	18.7	8.8	5.5	2.2	－	2.2

※ ▭ は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2③　育児に要する時間【休日】(性・年代別、性・共働状況別、性・末子年齢別)〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	66.3	6.1	0.8	2.4	2.7	2.6	1.7	1.2	10.1	5.9
性×年代別	女性	18～29歳	51	92.2	-	-	-	-	-	-	2.0	5.9	-
		30歳代	74	35.1	1.4	-	-	-	5.4	1.4	2.7	54.1	-
		40歳代	86	41.9	12.8	2.3	4.7	10.5	4.7	5.8	2.3	14.0	1.2
		50歳代	115	68.7	7.0	1.7	3.5	3.5	3.5	-	0.9	7.8	3.5
		60歳以上	215	76.3	4.2	0.5	0.9	0.9	-	0.5	-	4.7	12.1
	男性	18～29歳	41	87.8	-	-	-	2.4	2.4	-	2.4	4.9	-
		30歳代	52	44.2	3.8	-	7.7	3.8	5.8	3.8	5.8	21.2	3.8
		40歳代	62	43.5	11.3	1.6	6.5	6.5	9.7	8.1	-	12.9	-
		50歳代	92	72.8	12.0	2.2	2.2	1.1	2.2	1.1	1.1	1.1	4.3
		60歳以上	186	76.9	5.9	-	1.6	2.2	1.1	1.1	0.5	1.1	9.7
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	46.4	7.7	2.2	4.4	6.0	3.3	2.7	2.2	23.0	2.2
		共働きをしていない	93	59.1	3.2	1.1	1.1	2.2	5.4	1.1	1.1	22.6	3.2
	男性	共働きをしている	141	46.8	12.8	1.4	7.1	2.8	7.1	3.5	1.4	14.2	2.8
		共働きをしていない	91	70.3	5.5	1.1	3.3	5.5	4.4	3.3	3.3	1.1	2.2
性×末子年齢	女性	６歳未満	45	4.4	-	-	-	-	2.2	-	4.4	88.9	-
		小学生	42	7.1	4.8	2.4	4.8	9.5	11.9	9.5	7.1	42.9	-
		中学生・高校生	34	8.8	23.5	5.9	11.8	23.5	14.7	5.9	-	5.9	-
	男性	６歳未満	45	8.9	4.4	-	11.1	6.7	15.6	8.9	4.4	40.0	-
		小学生	22	13.6	9.1	-	9.1	18.2	18.2	13.6	9.1	9.1	-
		中学生・高校生	23	30.4	43.5	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	-	-	-

※ ■は、属性中トップの項目

〔図表 3-4-2④　介護に要する時間【休日】(性・年代別、性・共働状況別)〕

（単位：%）

			サンプル数	①なし	②ほとんどない	③30分未満	④30分～1時間未満	⑤1時間～2時間未満	⑥2時間～3時間未満	⑦3時間～4時間未満	⑧4時間～5時間未満	⑨5時間以上	⑩無回答
全　体			986	79.0	5.4	1.3	2.3	2.1	1.3	0.7	0.5	2.3	5.0
性×年代別	女性	18～29歳	51	96.1	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-
		30歳代	74	97.3	1.4	-	1.4	-	-	-	-	-	-
		40歳代	86	90.7	3.5	-	-	-	-	1.2	-	3.5	1.2
		50歳代	115	68.7	11.3	3.5	3.5	3.5	1.7	1.7	0.9	2.6	2.6
		60歳以上	215	68.4	7.0	1.4	2.3	2.8	1.9	0.5	1.4	4.7	9.8
	男性	18～29歳	41	97.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	52	86.5	1.9	1.9	3.8	-	-	-	-	3.8	1.9
		40歳代	62	87.1	4.8	1.6	3.2	-	1.6	-	1.6	-	-
		50歳代	92	78.3	6.5	1.1	4.3	2.2	3.3	-	-	1.1	3.3
		60歳以上	186	73.1	4.8	1.6	2.7	4.3	1.6	1.1	-	1.6	9.1
性×共働状況別	女性	共働きをしている	183	80.3	8.2	0.5	1.6	2.7	0.5	0.5	1.1	2.7	1.6
		共働きをしていない	93	78.5	9.7	2.2	3.2	3.2	1.1	1.1	-	1.1	-
	男性	共働きをしている	141	83.7	6.4	1.4	2.8	0.7	2.1	0.7	-	0.7	1.4
		共働きをしていない	91	80.2	4.4	-	4.4	4.4	2.2	-	1.1	-	3.3

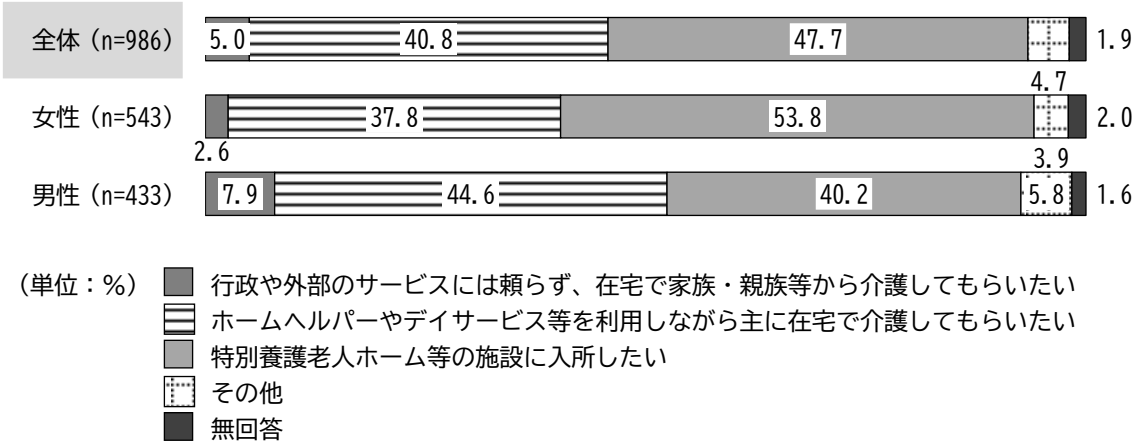
※ ■は、属性中トップの項目

4　介護について

（1）介護される場合の希望

問７　もしあなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。
（○は１つだけ）

〔図表 4-1　介護される場合の希望（性別）〕



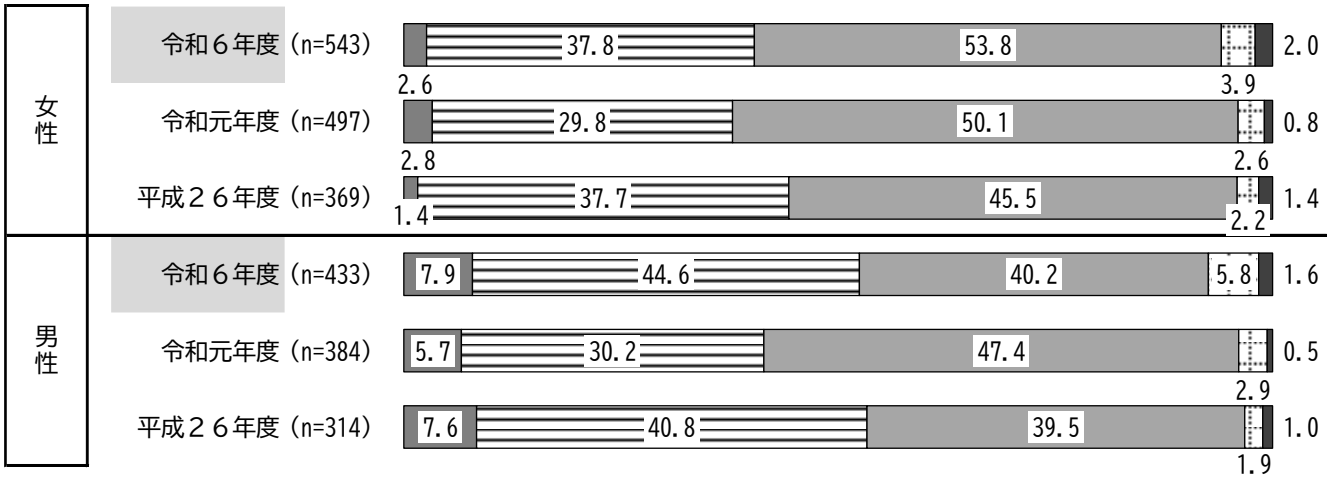
介護される場合の希望は、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 47.7%、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が 40.8%となっている。

性別でみると、女性は「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 53.8%で最も高く、男性は「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が 44.6%で最も高くなっている。また、「行政や外部のサービスには頼らず、在宅で家族・親族等から介護してもらいたい」と望む割合は、男性では 7.9%となっており、女性(2.6%)の約 3 倍となっている。(図表 4-1)

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、男性は前回から「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が 14.4 ポイント増加し、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 7.2 ポイント減少している。(図表 4-1-1)

〔図表 4-1-1　介護される場合の希望（**過去調査との比較**）〕



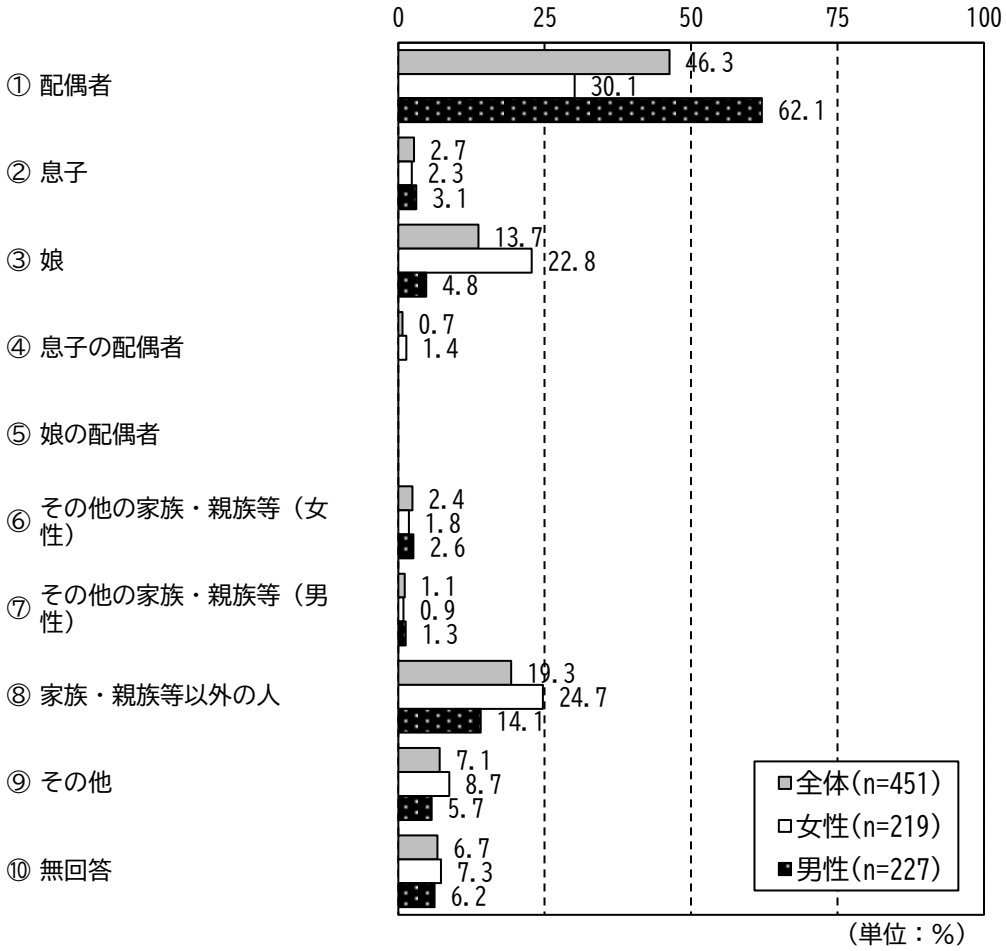
※令和６年度より「わからない」を削除

（単位：％）
- 行政や外部のサービスには頼らず、在宅で家族・親族等から介護してもらいたい
- ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい
- 特別養護老人ホーム等の施設に入所したい
- その他
- 無回答

（２）介護してもらいたい相手

問７－１　在宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。（○は１つだけ）

〔図表 4-2　介護してもらいたい相手（**性別**）〕



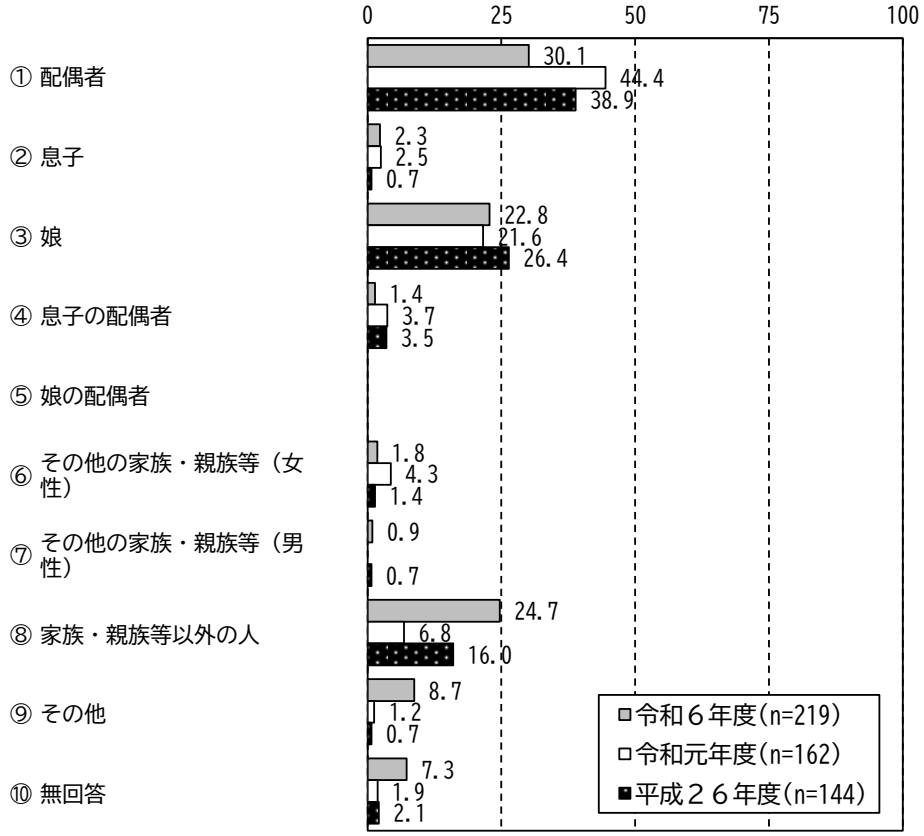
介護してもらいたい相手は、男女とも「配偶者」が最も高く（46.3%）、女性 30.1%、男性 62.1%となっている。女性では次いで「家族・親族等以外の人」(24.7%)、「娘」(22.8%)が高くなっている。(図表 4-2)

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、女性では「配偶者」が 14.3 ポイント減少し、「家族・親族等以外の人」が 17.9 ポイント増加している。男性は、「配偶者」が減少傾向であり、「家族・親族等以外の人」が 9.0 ポイント増加している。(図表 4-2-1)

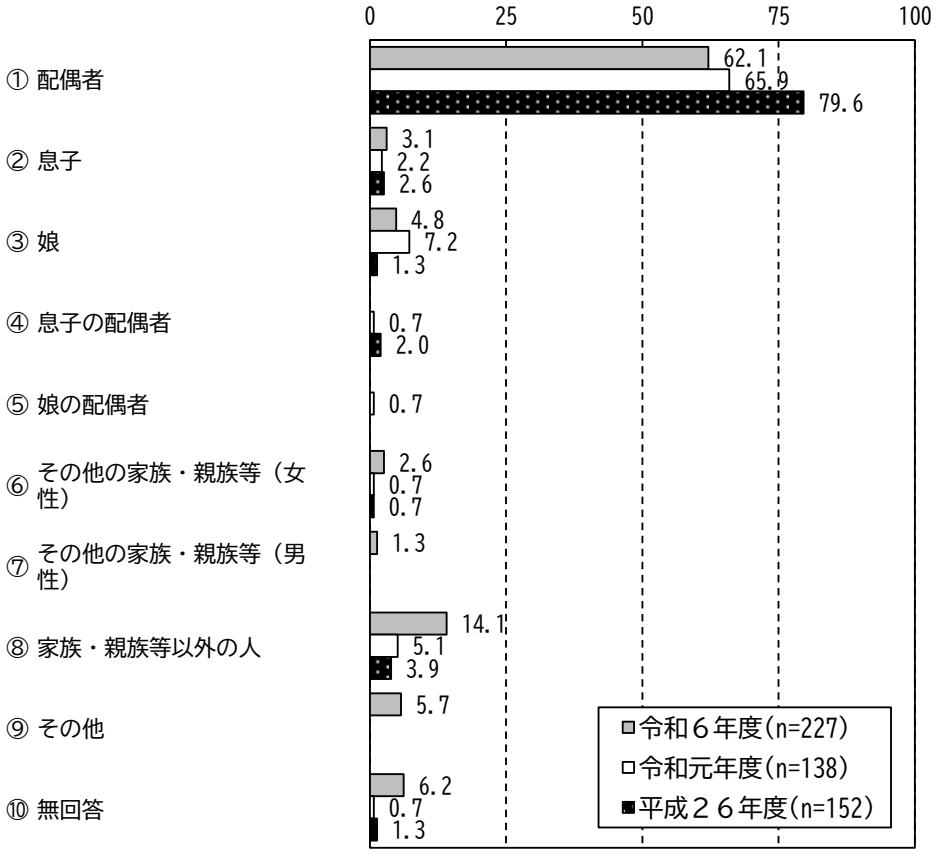
〔図表 4-2-1　介護してもらいたい相手（過去調査との比較）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



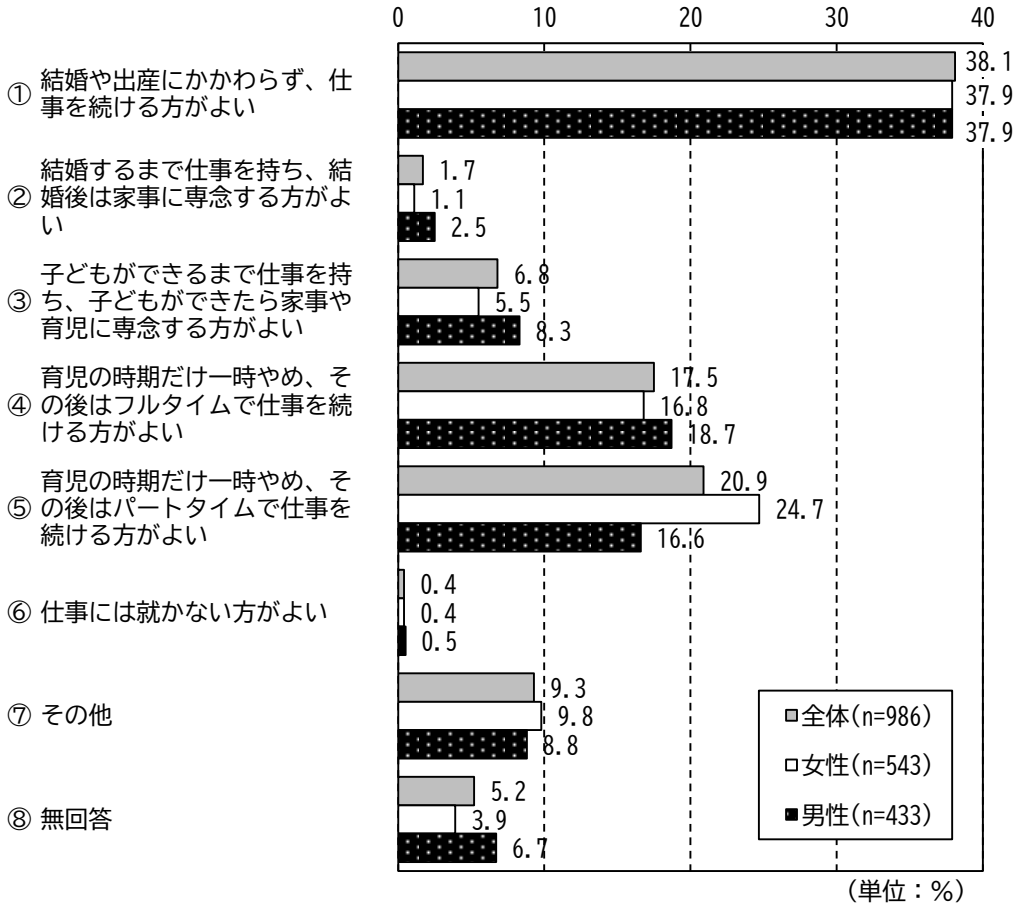
※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

5　職業生活について

（１）女性の働き方についての考え

問８　女性の働き方について、あなたはどのようにお考えですか。（○は１つだけ）

〔図表 5-1　女性の働き方についての考え（性別）〕



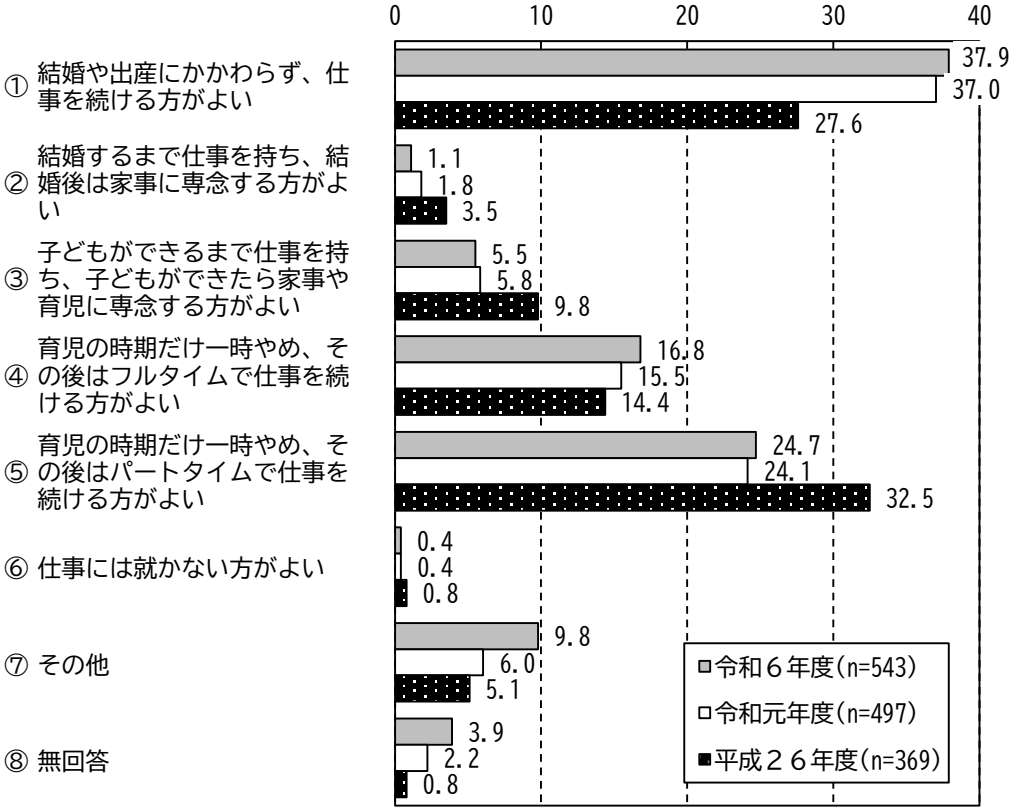
女性の働き方についての考えは、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が 38.1%で最も高く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が 20.9%となっている。性別でみると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」は、女性の方が男性より 8.1 ポイント高くなっている。（図表 5-1）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が男女ともに増加している。（図表 5-1-1）

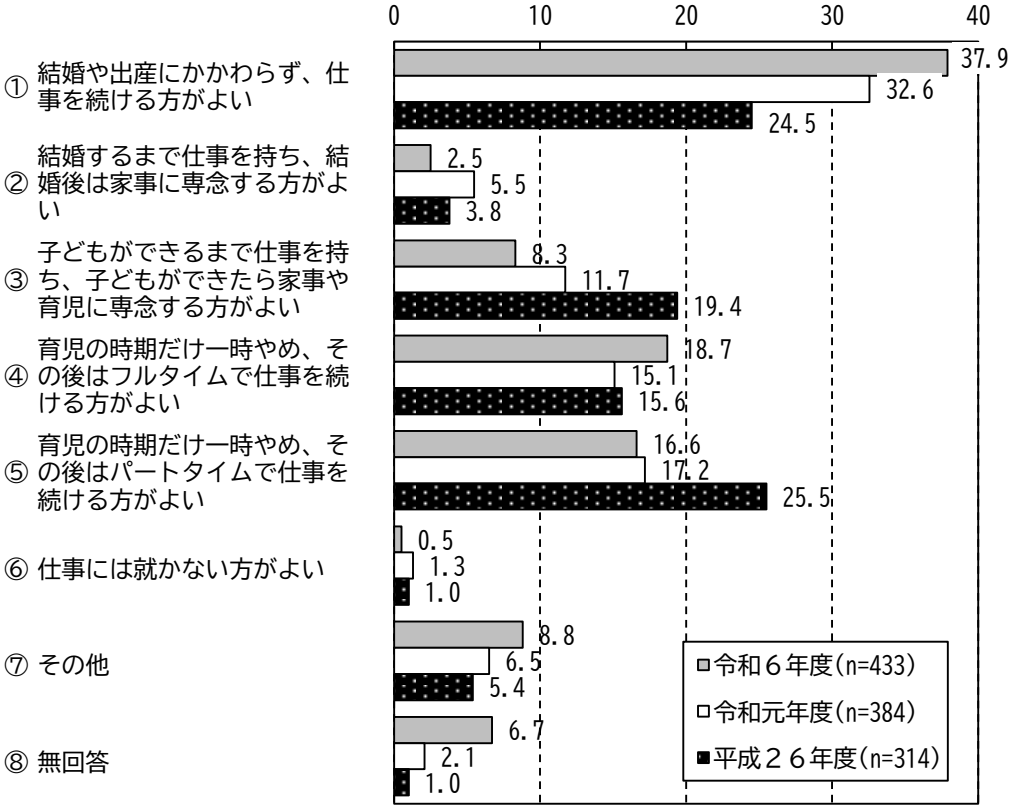
〔図表 5-1-1　女性の働き方についての考え（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〔図表 5-1-2　女性の働き方についての考え（性・年代別）〕

（単位：%）

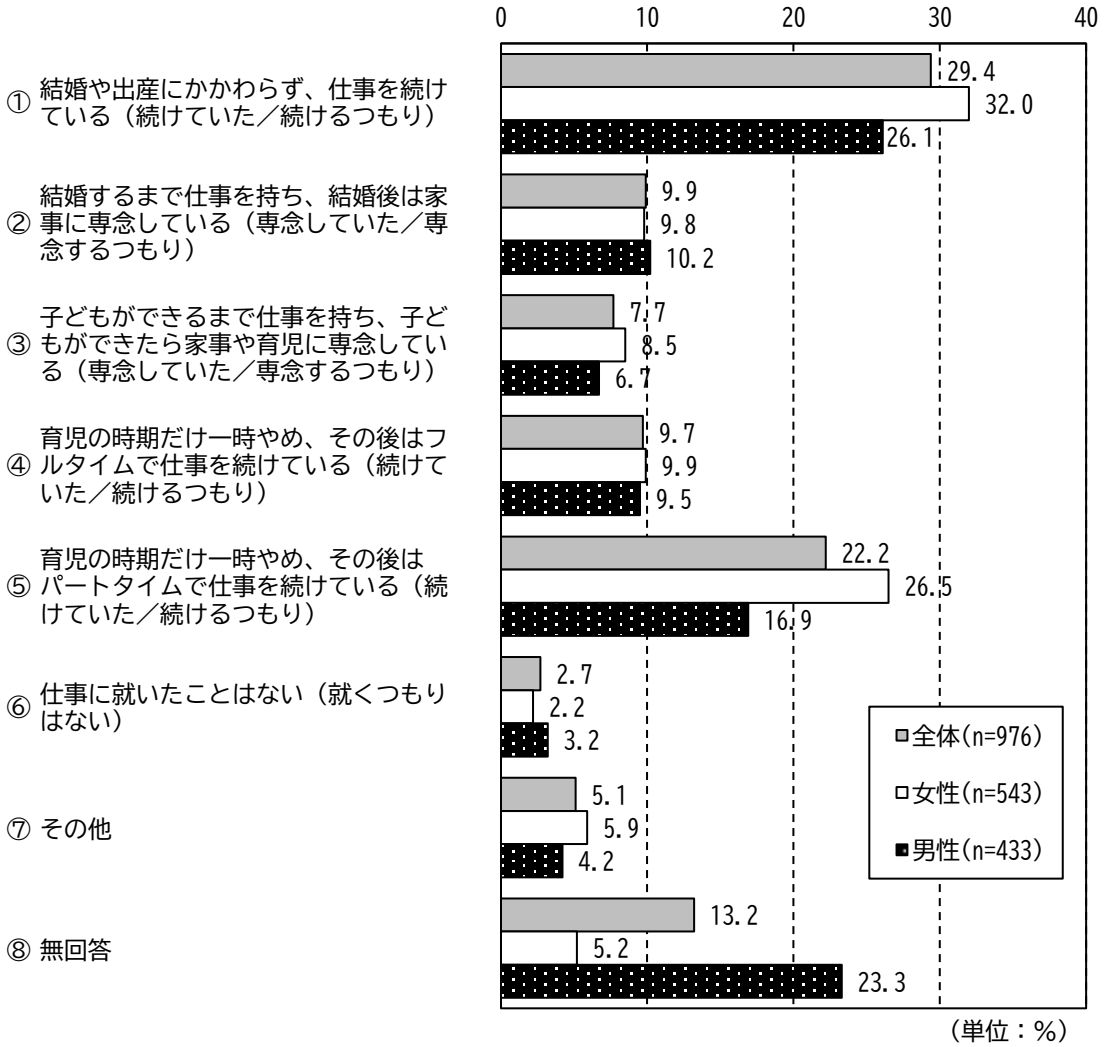
			サンプル数	①結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい	②結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい	③子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や育児に専念する方がよい	④育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい	⑤育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい	⑥仕事には就かない方がよい	⑦その他	⑧無回答
全　体			986	38.1	1.7	6.8	17.5	20.9	0.4	9.3	5.2
性×年代別	女性	18～29歳	51	23.5	5.9	5.9	27.5	25.5	3.9	7.8	－
		30歳代	74	36.5	－	5.4	12.2	29.7	－	13.5	2.7
		40歳代	86	37.2	－	1.2	16.3	27.9	－	16.3	1.2
		50歳代	115	47.8	0.9	4.3	17.4	14.8	－	11.3	3.5
		60歳以上	215	36.7	0.9	7.9	15.3	27.0	－	5.6	6.5
	男性	18～29歳	41	31.7	2.4	－	26.8	24.4	－	14.6	－
		30歳代	52	46.2	－	11.5	13.5	13.5	1.9	13.5	－
		40歳代	62	43.5	3.2	6.5	19.4	11.3	－	12.9	3.2
		50歳代	92	42.4	－	4.3	15.2	16.3	1.1	9.8	10.9
		60歳以上	186	32.8	4.3	11.8	19.9	17.7	－	4.3	9.1

※ ■は、属性中トップの項目

（２）実際の女性の働き方

問８－１　【女性】あなたの場合、次のどれにあてはまりますか。又は、どのようにされるつもりですか。【男性】あなたの配偶者・パートナーの場合、次のどれにあてはまりますか。（配偶者・パートナーがいない場合は、いるとした場合、どのようにされると思うかをご回答ください。）（○は１つだけ）

〔図表 5-2　実際の女性の働き方（**性別**）〕



実際の女性の働き方をみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」が 29.4%で最も高い。次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」が 22.2%となっている。

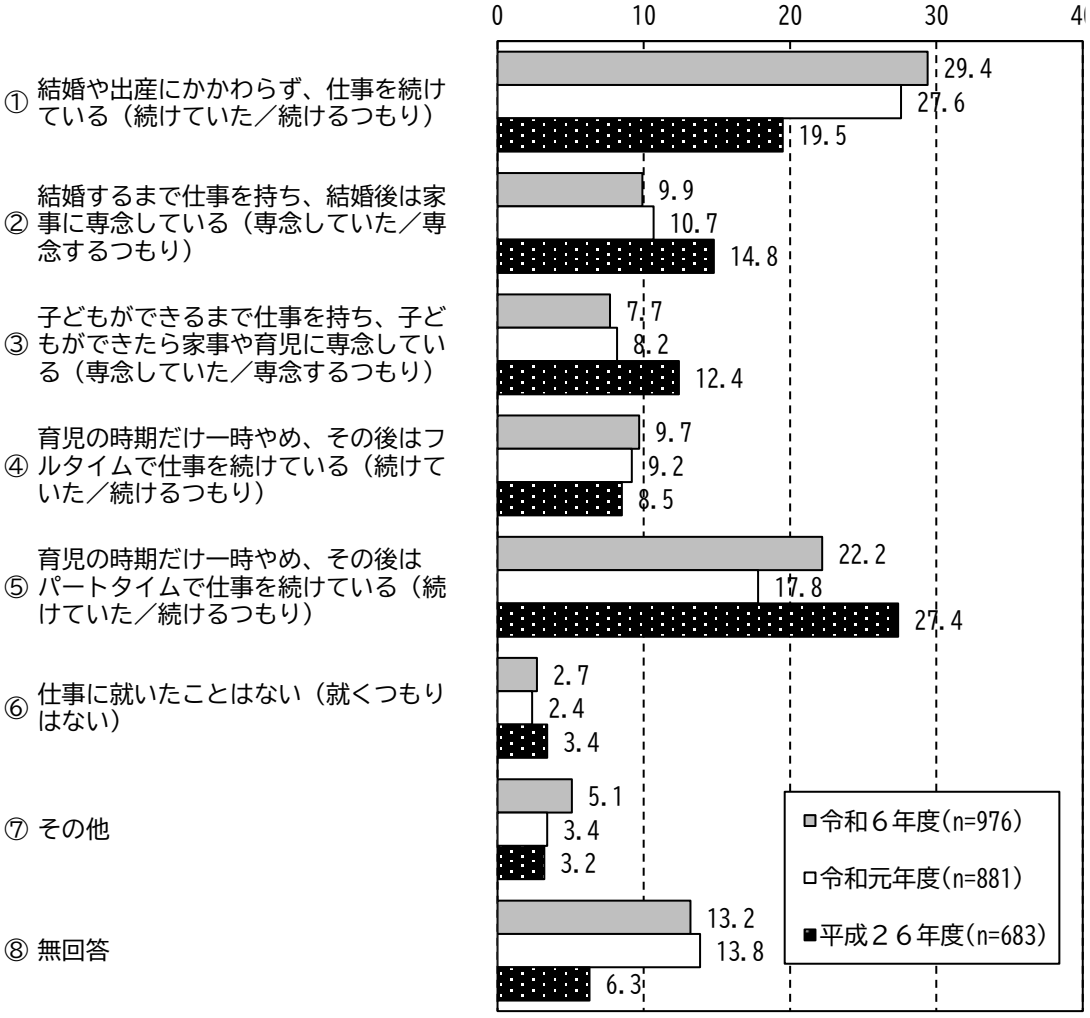
性別でみると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」は、女性の方が男性より 9.6 ポイント高くなっている。（図表 5-2）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」が増加傾向にある。（図表 5-2-1）

〔図表 5-2-1　実際の女性の働き方（**過去調査との比較**）〕

〈全体〉



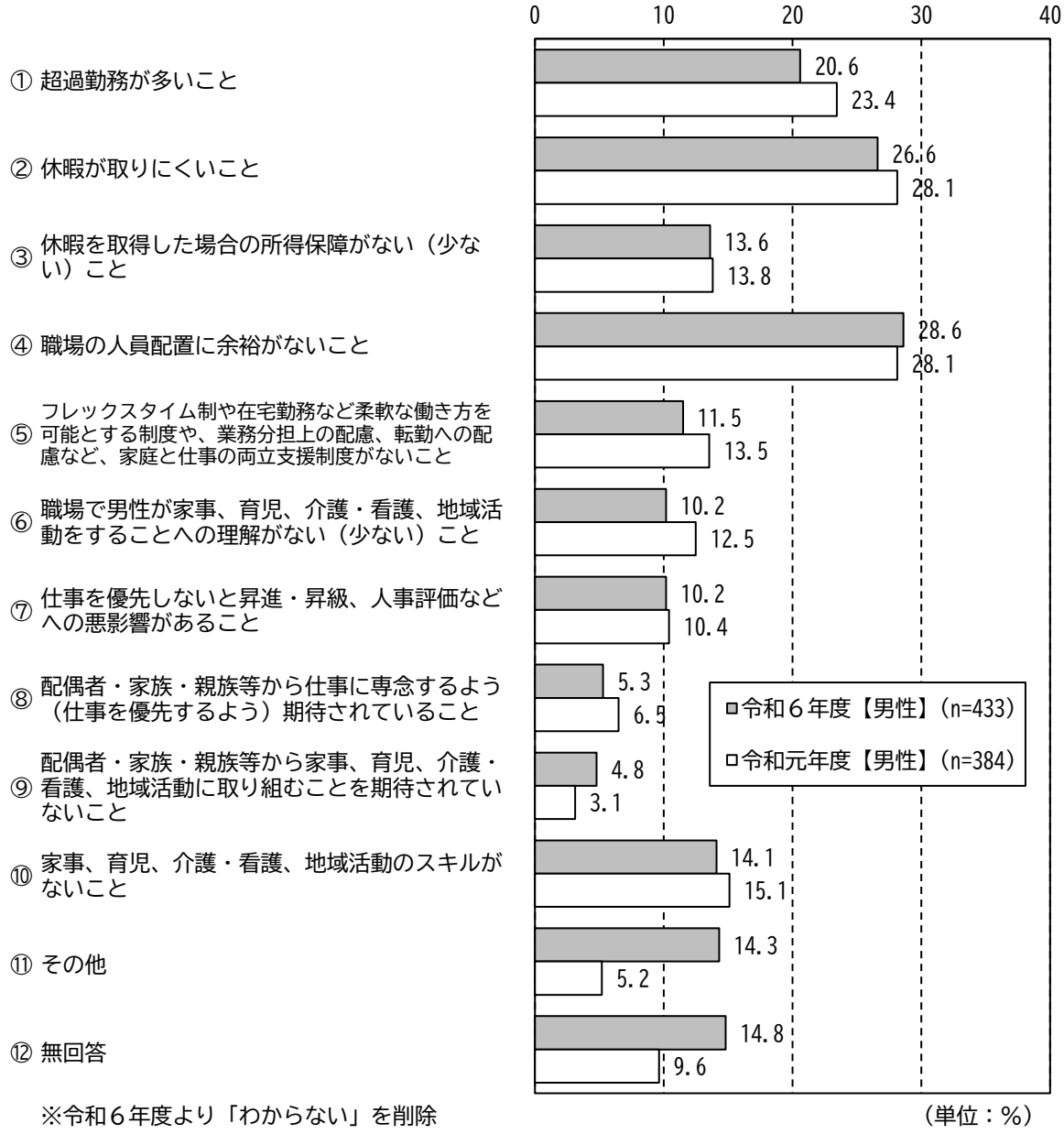
※令和６年度より「わからない」を削除

（単位：％）

（３）男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因

問９　【男性】あなたが今以上に家事、育児、介護・看護、地域活動（※）をすることを難しくしている理由は何ですか。（○はいくつでも）
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

〔図表 5-3　男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因**（性別、過去調査との比較）**〕



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：％）

男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因は、「職場の人員配置に余裕がないこと」が 28.6％で最も高く、次いで「休暇が取りにくいこと」が 26.6％となっている。（図表 5-3）

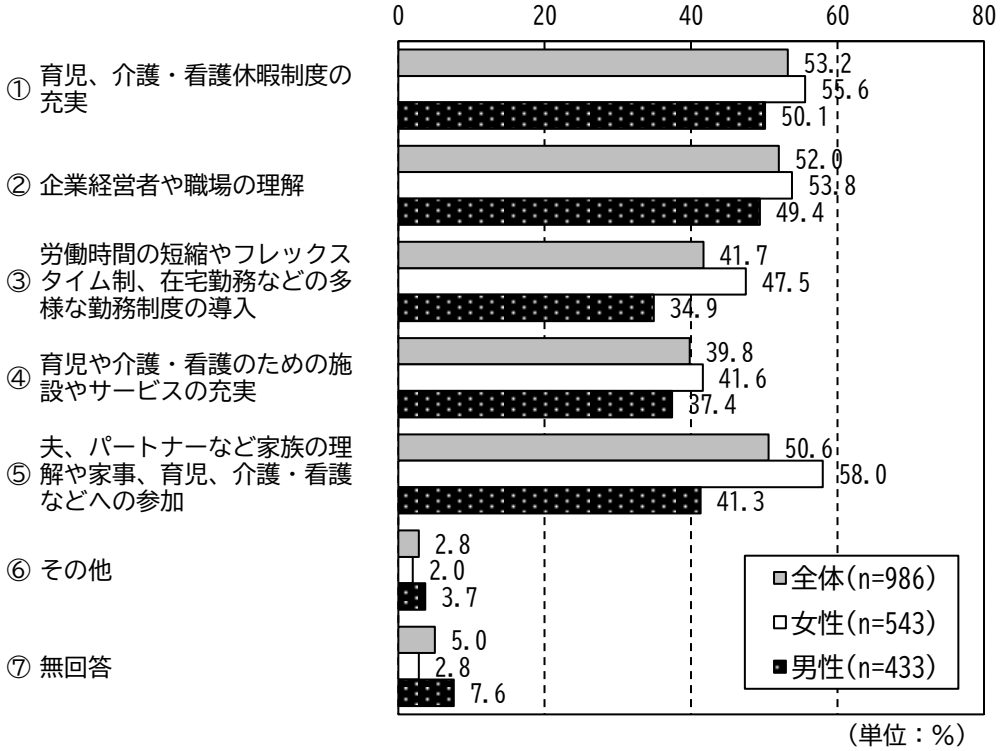
【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較をすると、「超過勤務が多いこと」が 2.8 ポイント、「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方を可能とする制度や、業務分担上の配慮、転勤への配慮など、家庭と仕事の両立支援制度がないこと」「職場で男性が家事、育児、介護・看護、地域活動をすることへの理解がない（少ない）こと」も 2 ポイント程度減少している。（図表 5-3）

（4）女性が働き続けるために必要なこと

問１０　出産、育児、介護・看護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

〔図表 5-4　女性が働き続けるために必要なこと（**性別**）〕



女性が働き続けるために必要なことは、「育児、介護・看護休暇制度の充実」(53.2%)、「企業経営者や職場の理解」(52.0%)、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」(50.6%)が 5 割を超え高くなっている。

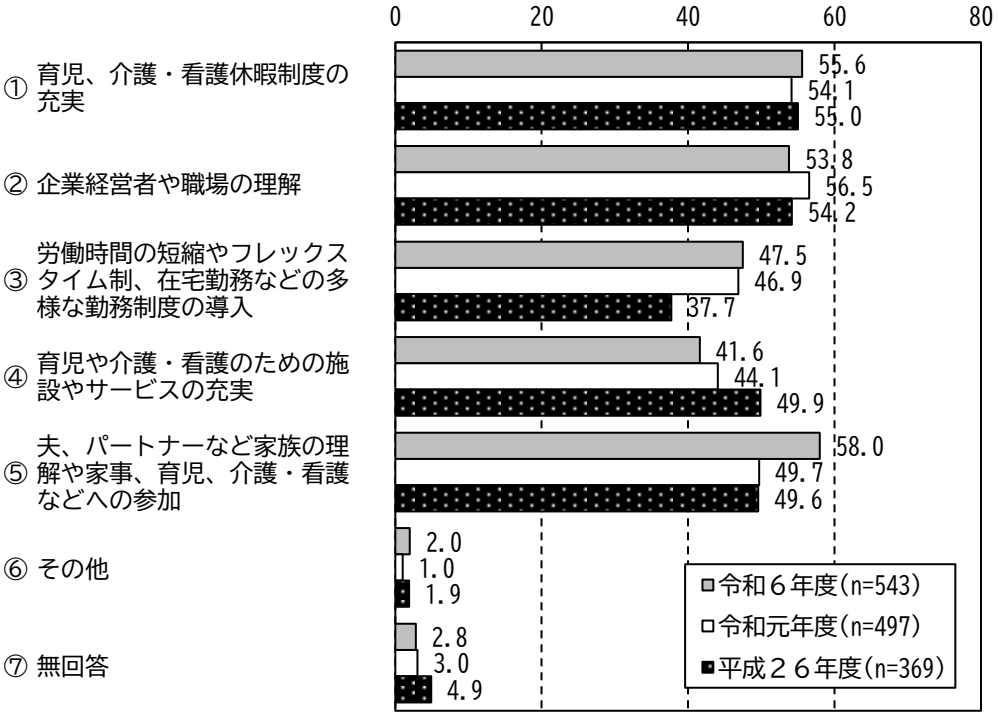
性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は女性の方が男性より 16.7 ポイント高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」も 12.6 ポイント高くなっている。(図表 5-4)

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、女性は「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が 8.3 ポイント増加し、「育児や介護・看護のための施設やサービスの充実」が減少傾向にある。(図表 5-4-1)

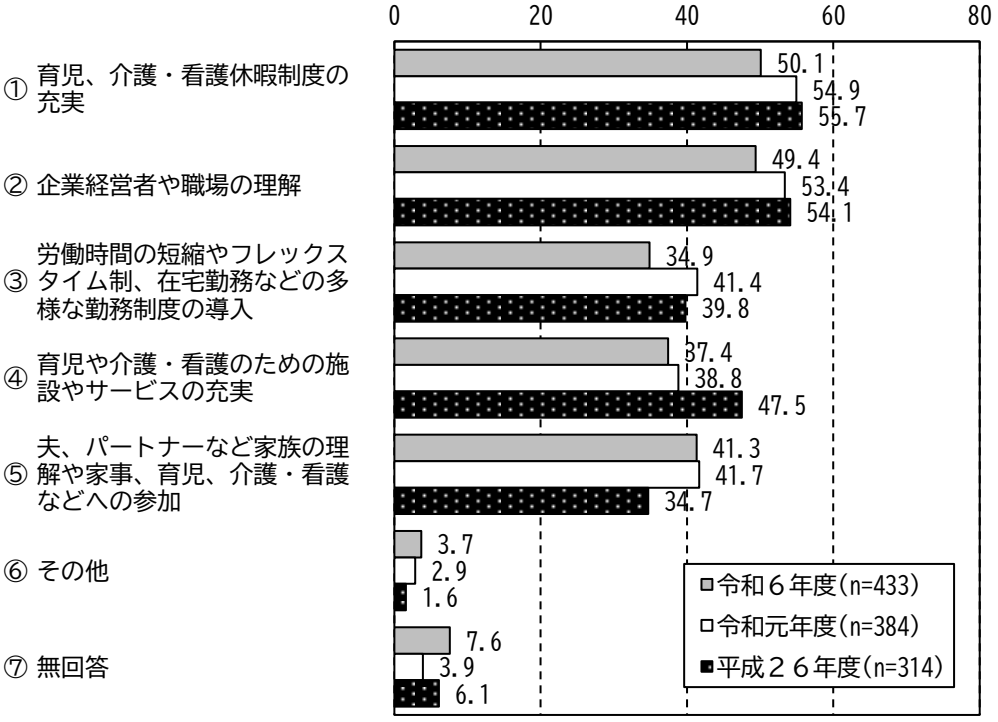
〔図表 5-4-1　女性が働き続けるために必要なこと（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〔図表 5-4-2　女性が働き続けるために必要なこと（性・年代別、性・職業別）〕

（単位：％）

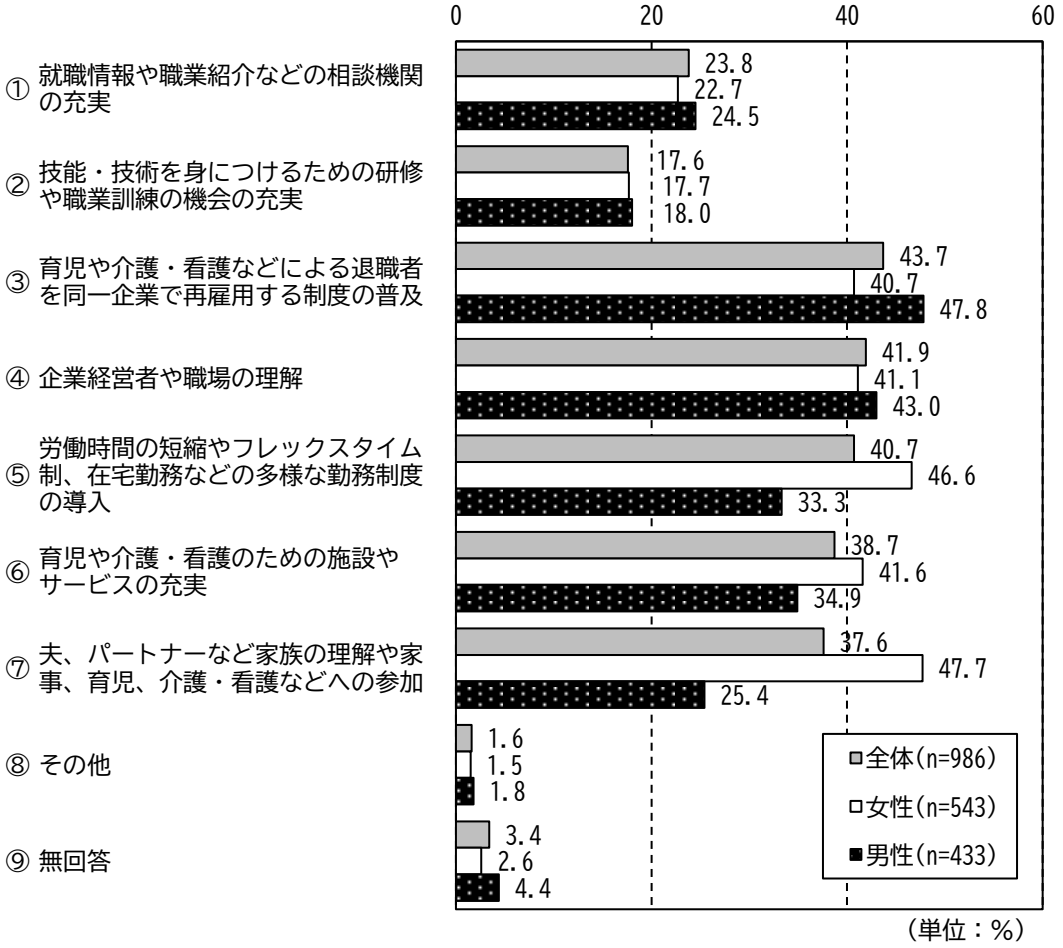
			サンプル数	①育児、介護・看護休暇制度の充実	②企業経営者や職場の理解	③労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入	④育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	⑤夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加	⑥その他	⑦無回答
全　体			986	53.2	52.0	41.7	39.8	50.6	2.8	5.0
性×年代別	女性	18～29歳	51	68.6	51.0	60.8	39.2	54.9	3.9	－
		30歳代	74	58.1	54.1	68.9	35.1	67.6	5.4	－
		40歳代	86	53.5	52.3	60.5	38.4	58.1	4.7	1.2
		50歳代	115	52.2	59.1	49.6	49.6	61.7	0.9	0.9
		60歳以上	215	54.4	51.6	30.7	41.4	53.5	－	6.0
	男性	18～29歳	41	73.2	48.8	53.7	34.1	46.3	2.4	2.4
		30歳代	52	63.5	57.7	46.2	25.0	51.9	9.6	－
		40歳代	62	46.8	59.7	35.5	43.5	43.5	4.8	－
		50歳代	92	47.8	53.3	34.8	37.0	40.2	5.4	6.5
		60歳以上	186	43.5	41.9	27.4	39.8	37.1	1.1	14.0
性×職業別	女性	正規社員・職員	148	58.1	54.1	59.5	44.6	62.2	2.7	－
		臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員	163	58.9	60.7	45.4	38.7	61.3	1.2	－
		自営業主または家族従業員	33	54.5	39.4	69.7	42.4	66.7	3.0	－
		家事専業	113	54.0	54.9	40.7	40.7	54.9	0.9	7.1
		学生	11	63.6	45.5	45.5	36.4	54.5	9.1	－
		無職（家事専業を除く）	60	45.0	40.0	26.7	43.3	46.7	1.7	8.3
	男性	正規社員・職員	192	59.9	56.3	38.5	39.1	42.7	5.2	1.6
		臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員	58	44.8	43.1	27.6	36.2	36.2	3.4	15.5
		自営業主または家族従業員	54	37.0	46.3	35.2	31.5	53.7	3.7	3.7
		家事専業	2	－	－	100.0	100.0	50.0	－	－
		学生	8	62.5	62.5	75.0	12.5	50.0	12.5	－
		無職（家事専業を除く）	100	41.0	44.0	29.0	37.0	34.0	1.0	16.0

※ ■は、属性中トップの項目

（５）女性が再就職しやすくなるために必要なこと

問１１　出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

〔図表 5-5　女性が再就職しやすくなるために必要なこと（**性別**）〕



女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」（43.7%）、「企業経営者や職場の理解」（41.9%）、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」（40.7%）が高くなっている。

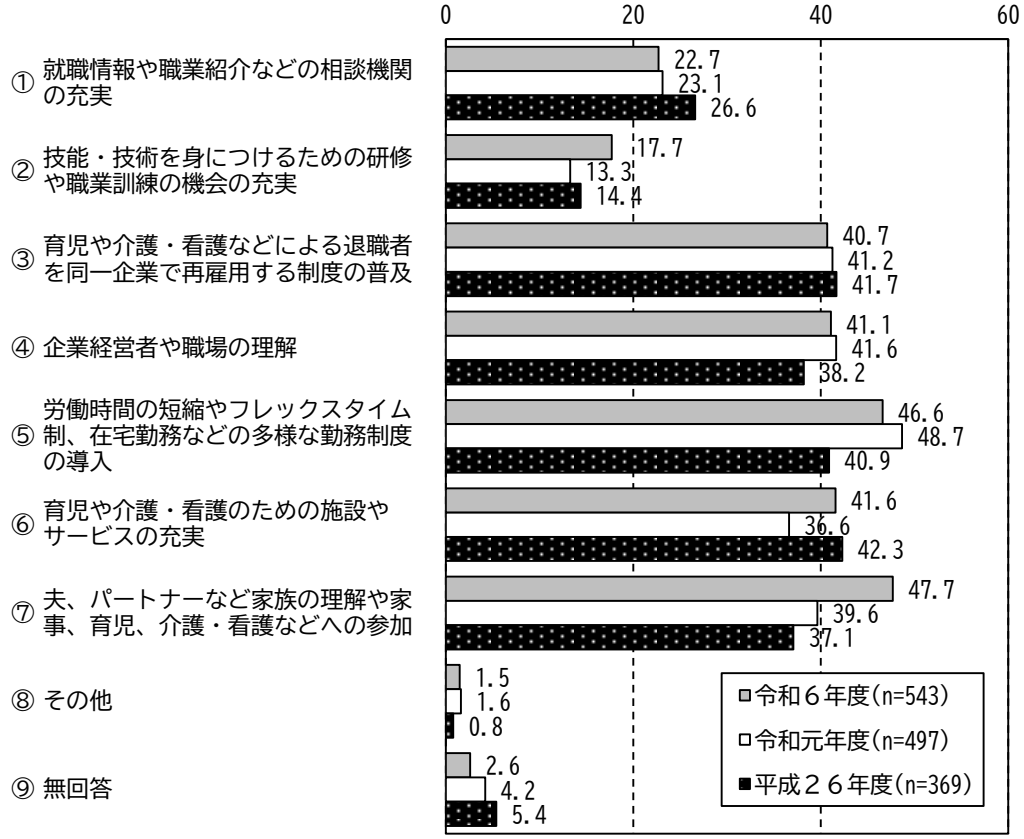
性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は女性の方が男性より 22.3 ポイント高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」も 13.3 ポイント高くなっている。（図表 5-5）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、女性は「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」が 8.1 ポイント増加しているが、男性は 2.7 ポイント減少している。「技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実」は女性で 4.4 ポイント、男性で 4.2 ポイント増加している。（図表 5-5-1）

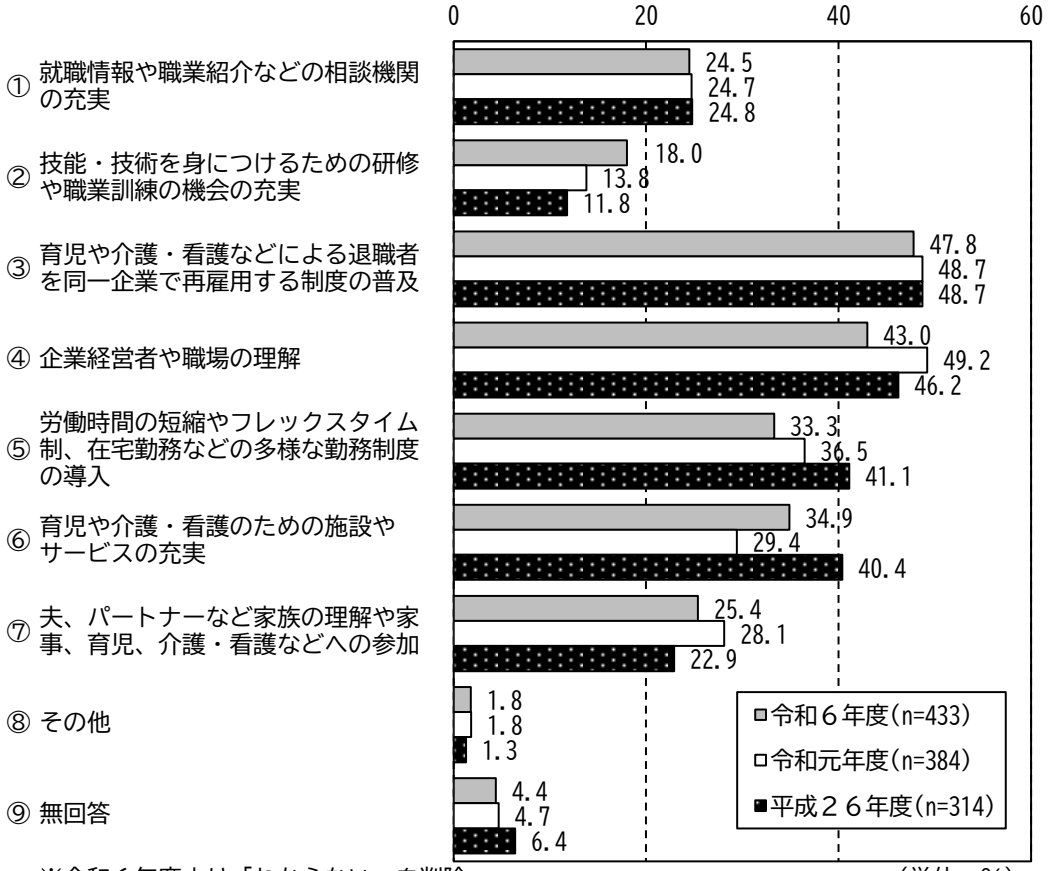
〔図表 5-5-1　女性が再就職しやすくなるために必要なこと（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〔図表 5-5-2　女性が再就職しやすくなるために必要なこと（性・年代別、性・職業別）〕

（単位：%）

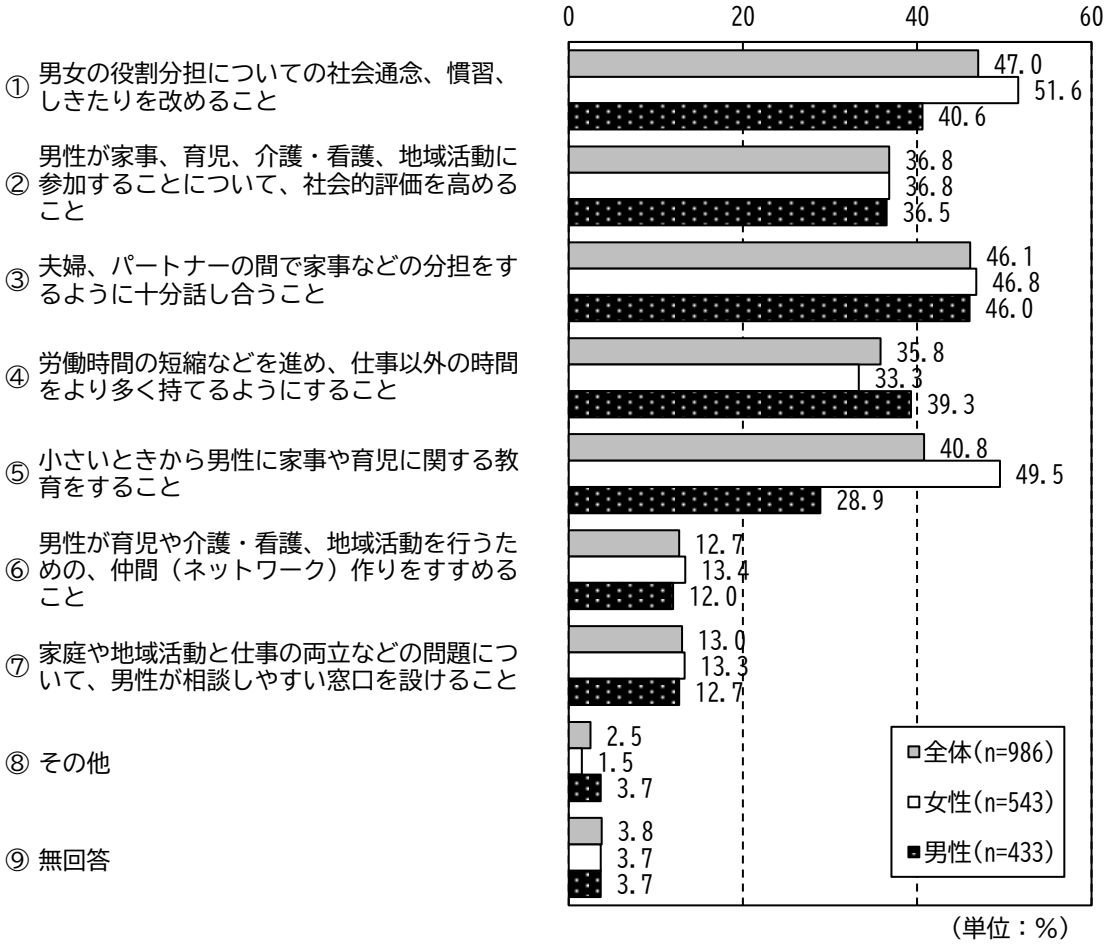
			サンプル数	①就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	②技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	③育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	④企業経営者や職場の理解	⑤労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入	⑥育児や介護・看護のための施設やサービスの充実	⑦夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加	⑧その他	⑨無回答
全　体			986	23.8	17.6	43.7	41.9	40.7	38.7	37.6	1.6	3.4
性×年代別	女性	18～29歳	51	31.4	15.7	54.9	41.2	54.9	29.4	43.1	3.9	－
		30歳代	74	20.3	18.9	47.3	47.3	55.4	39.2	56.8	1.4	－
		40歳代	86	20.9	16.3	46.5	36.0	60.5	33.7	52.3	3.5	1.2
		50歳代	115	26.1	23.5	32.2	39.1	49.6	43.5	54.8	0.9	1.7
		60歳以上	215	20.5	15.3	37.2	41.4	34.4	47.4	40.0	0.5	5.1
	男性	18～29歳	41	24.4	29.3	43.9	48.8	41.5	34.1	26.8	2.4	－
		30歳代	52	25.0	30.8	50.0	40.4	38.5	26.9	25.0	3.8	－
		40歳代	62	24.2	21.0	46.8	48.4	30.6	45.2	25.8	1.6	－
		50歳代	92	28.3	16.3	48.9	37.0	40.2	31.5	21.7	3.3	4.3
		60歳以上	186	22.6	11.8	47.8	43.5	27.4	35.5	26.9	0.5	8.1
性×職業別	女性	正規社員・職員	148	25.7	21.6	52.7	35.1	58.8	35.8	48.6	2.0	0.7
		臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員	163	28.2	16.0	38.0	42.3	44.2	43.6	51.5	0.6	0.6
		自営業主または家族従業員	33	18.2	9.1	33.3	45.5	57.6	57.6	51.5	－	－
		家事専業	113	14.2	18.6	38.1	48.7	40.7	44.2	46.9	0.9	4.4
		学生	11	27.3	18.2	36.4	45.5	45.5	18.2	45.5	－	－
		無職（家事専業を除く）	60	18.3	15.0	30.0	35.0	30.0	41.7	41.7	3.3	8.3
	男性	正規社員・職員	192	22.9	21.9	56.8	42.2	37.0	35.9	23.4	1.6	0.5
		臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員	58	24.1	10.3	41.4	44.8	34.5	29.3	19.0	3.4	5.2
		自営業主または家族従業員	54	29.6	22.2	35.2	42.6	31.5	33.3	27.8	1.9	5.6
		家事専業	2	－	－	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	－	－
		学生	8	12.5	25.0	37.5	62.5	37.5	37.5	37.5	12.5	－
		無職（家事専業を除く）	100	25.0	13.0	43.0	43.0	27.0	36.0	28.0	1.0	10.0

※ ■は、属性中トップの項目

（６）男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと

問１２　今後、男性が家事、育児、介護・看護、地域活動（※）などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

〔図表 5-6　男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと（**性別**）〕



男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（47.0%）、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」（46.1%）が高くなっている。

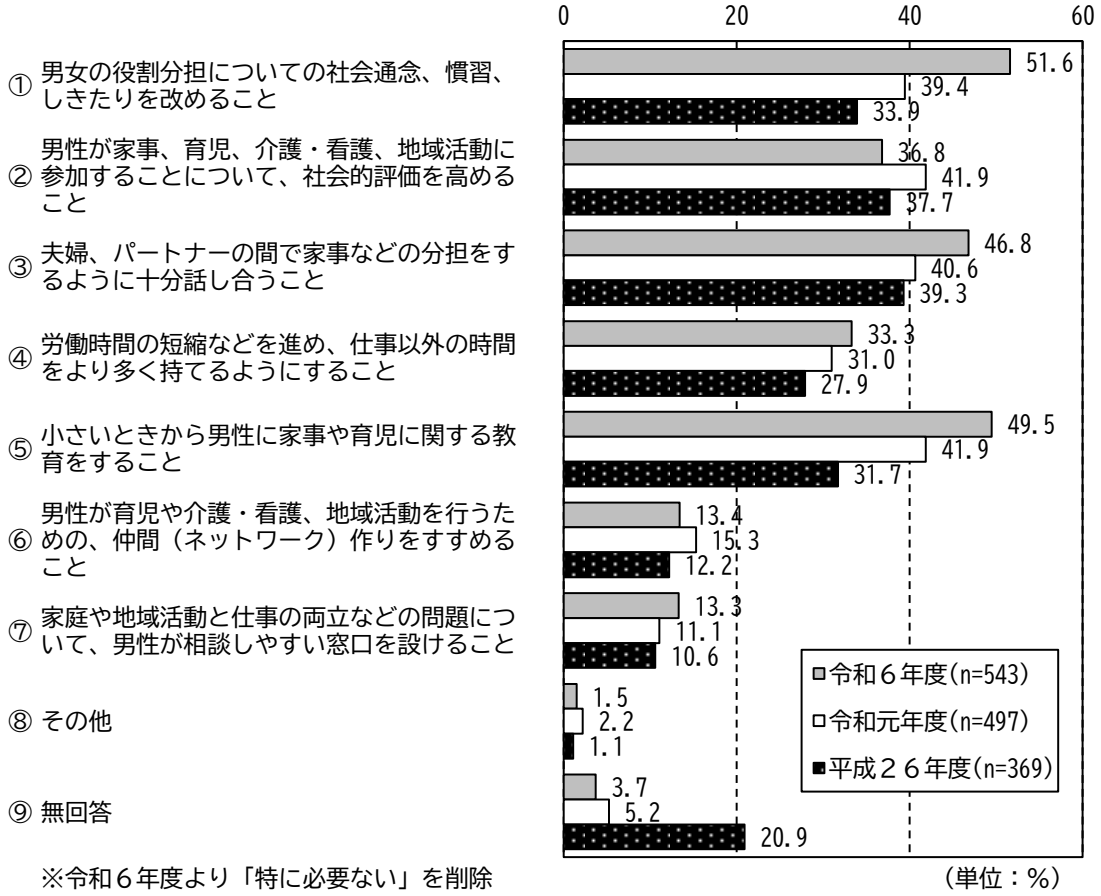
性別でみると、「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」は女性の方が男性より 20.6 ポイント高く、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」も 11.0 ポイント高くなっている。（図表 5-6）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女とも「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が増加傾向にあり、女性は「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」も増加傾向が顕著。（図表 5-6-1）

〔図表 5-6-1　男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと（過去調査との比較）〕

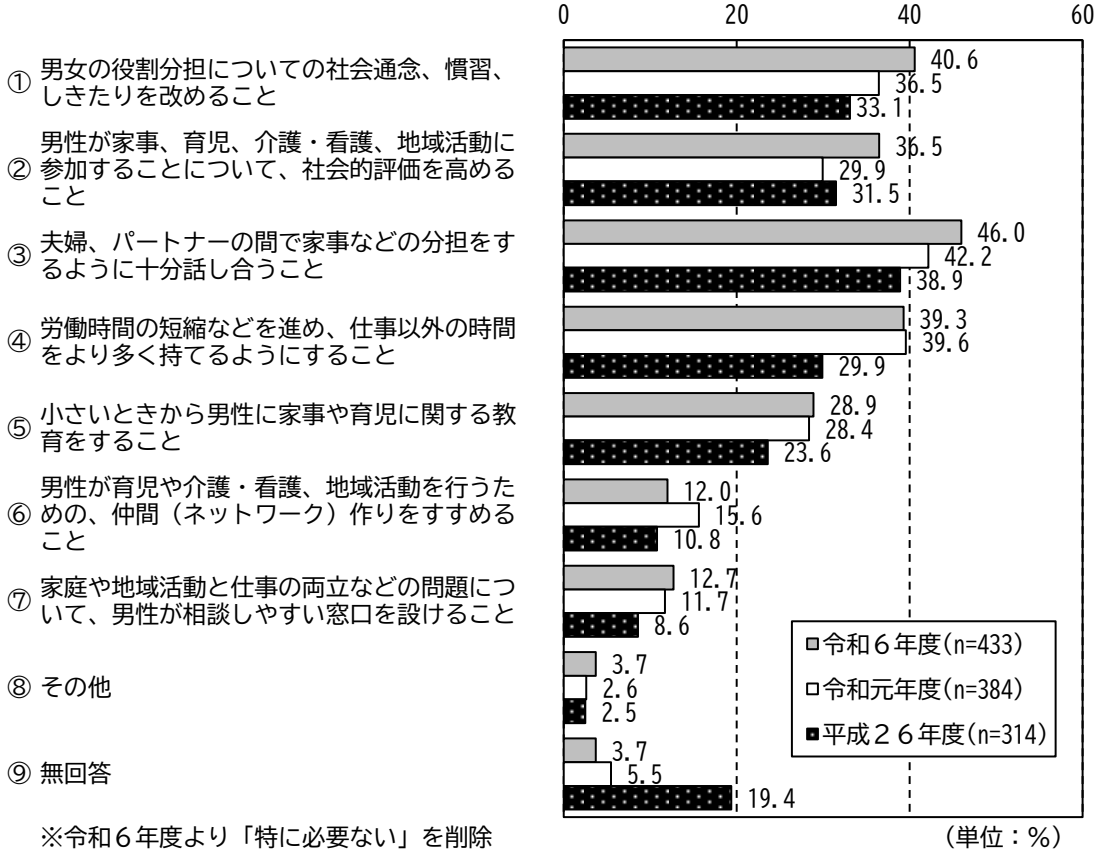
〈女性〉



※令和６年度より「特に必要ない」を削除

（単位：％）

〈男性〉



※令和６年度より「特に必要ない」を削除

（単位：％）

〔図表 5-6-2　男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと
（性・年代別）〕

（単位：％）

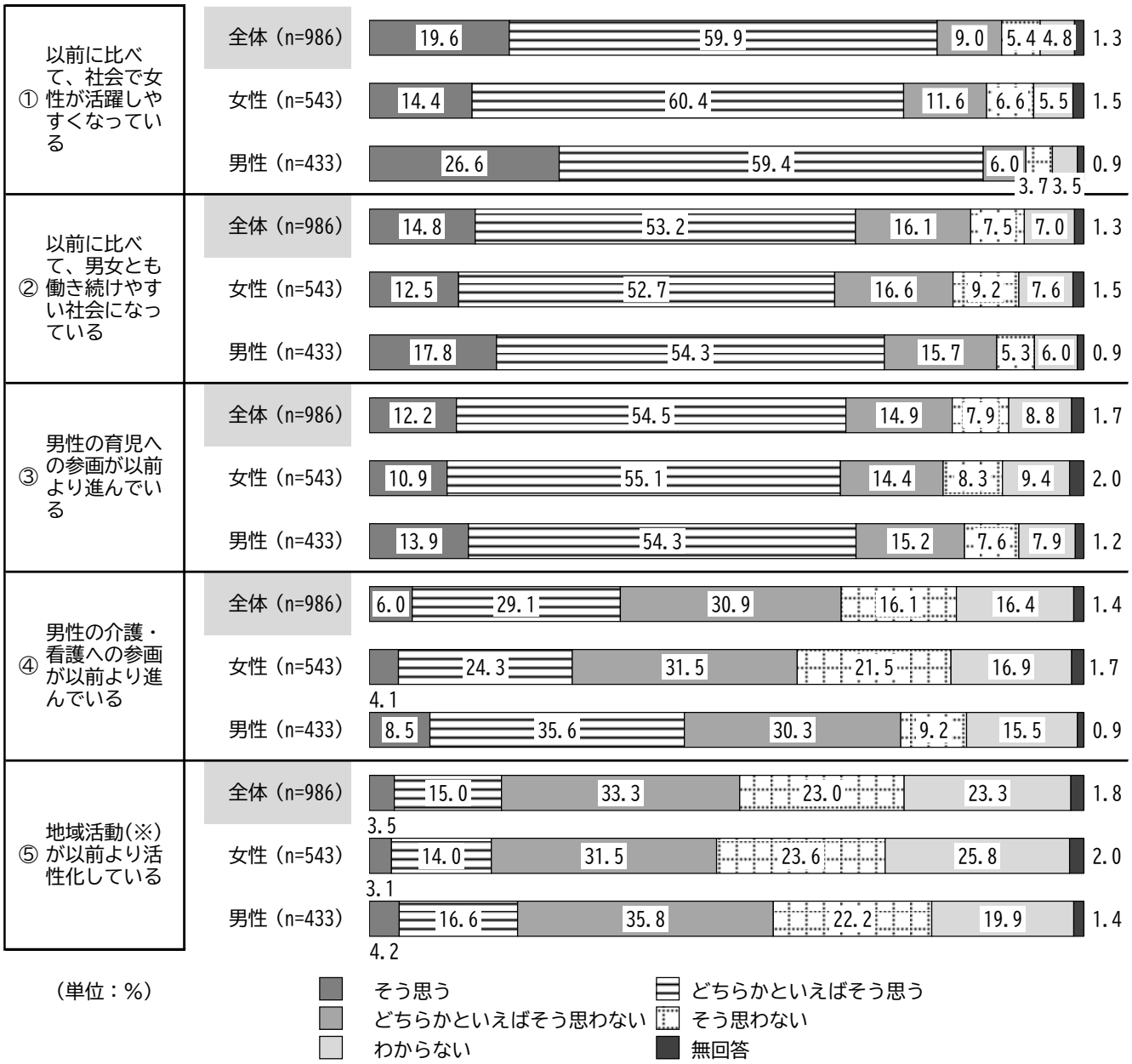
			サンプル数	①男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	②男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること	③夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	④労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	⑤小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	⑥男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	⑦家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	⑧その他	⑨無回答
全　体			986	47.0	36.8	46.1	35.8	40.8	12.7	13.0	2.5	3.8
性×年代別	女性	18～29歳	51	47.1	29.4	56.9	35.3	47.1	21.6	15.7	2.0	－
		30歳代	74	47.3	39.2	43.2	43.2	55.4	13.5	14.9	2.7	－
		40歳代	86	44.2	41.9	45.3	37.2	46.5	15.1	10.5	3.5	2.3
		50歳代	115	64.3	35.7	47.0	34.8	55.7	11.3	15.7	0.9	0.9
		60歳以上	215	50.2	36.7	46.0	27.4	46.0	12.1	12.1	0.5	7.4
	男性	18～29歳	41	31.7	41.5	46.3	56.1	31.7	17.1	7.3	2.4	－
		30歳代	52	48.1	36.5	57.7	51.9	21.2	13.5	11.5	3.8	－
		40歳代	62	32.3	40.3	30.6	50.0	35.5	19.4	11.3	4.8	－
		50歳代	92	40.2	32.6	39.1	42.4	28.3	12.0	16.3	6.5	4.3
		60歳以上	186	43.5	36.0	51.1	26.9	28.5	8.1	12.9	2.2	6.5

※ ■は、属性中トップの項目

（7）社会・職場・家庭における男女共同参画の進展

問１３　あなたご自身の経験に照らして、次のことがらについて、あなたのお考えに最も近いと思われるものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 5-7　社会・職場・家庭における男女共同参画の進展（**性別**）〕



社会・職場・家庭における男女共同参画の進展について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合をみると、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」が 79.5%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている」が 68.0%、「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が 66.7%、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」が 35.1%、「地域活動が以前より活性化している」が 18.5%となっている。

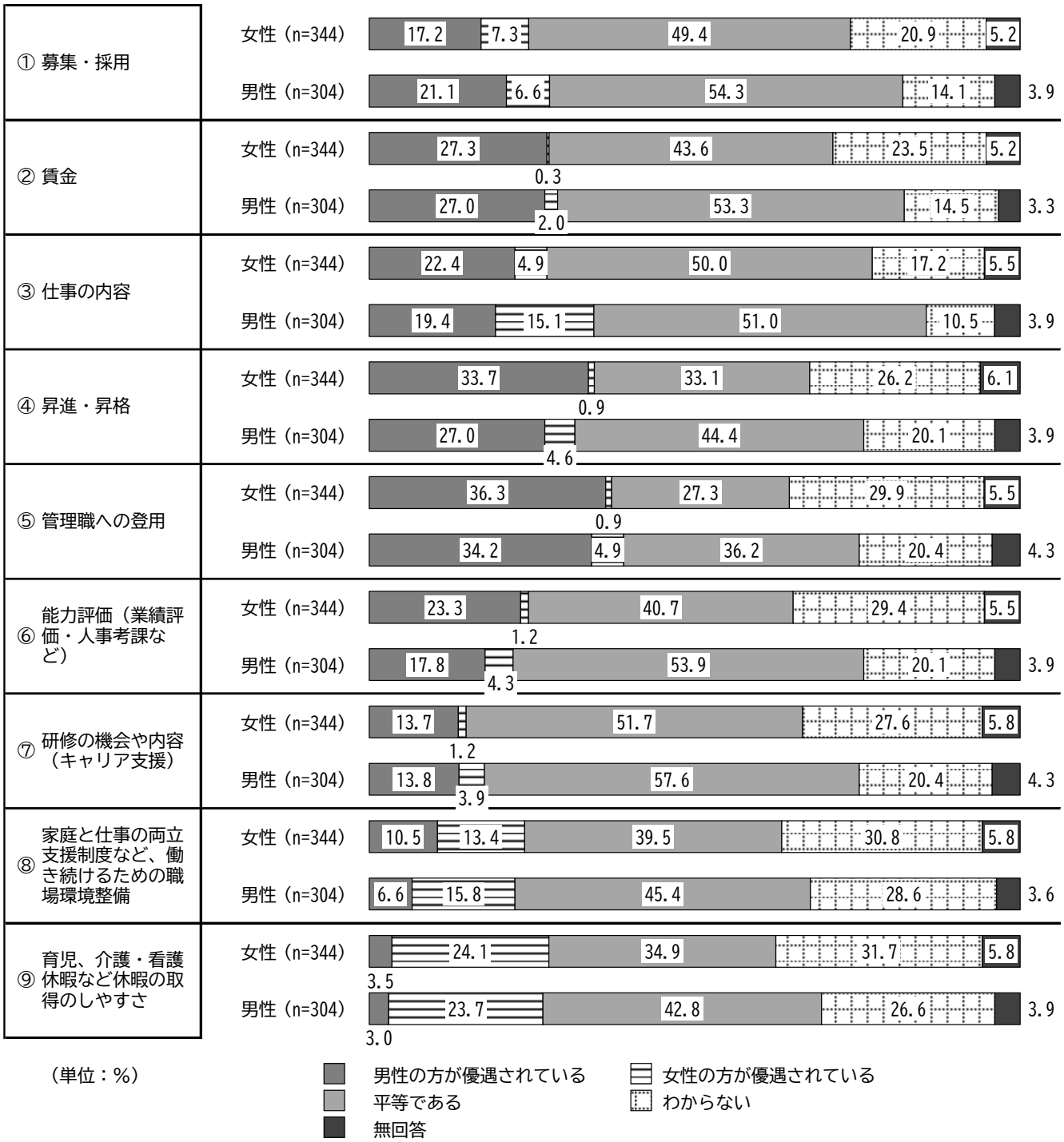
性別でみると、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」は女性の方が男性より 15.7 ポイント低く、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」も 11.2 ポイント低くなっている。（図表 5-7）

※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

（８）職場において男女格差を感じること

問１４　【現在仕事をしている方にお聞きします。】あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 5-8　職場において男女格差を感じること（性別）〕



「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」（女性 36.3%、男性 34.2%）が最も高く、次いで「昇進・昇格」（女性 33.7%、男性 27.0%）となっている。

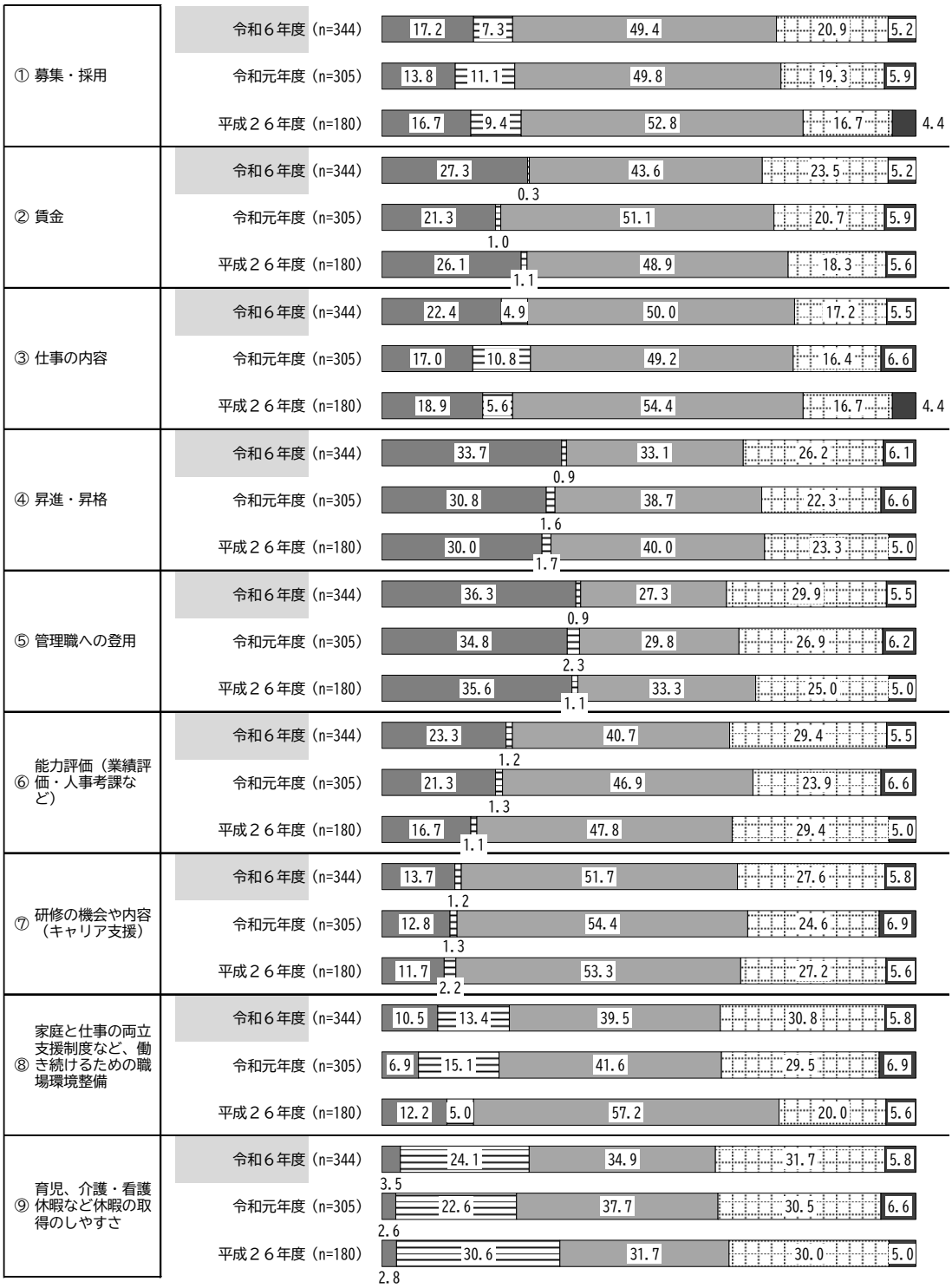
「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性 24.1%、男性 23.7%）が高くなっている。また「平等である」は、「研修の機会や内容（キャリア支援）」（女性 51.7%、男性 57.6%）が高くなっている。（図表 5-8）

【過去の調査との比較】

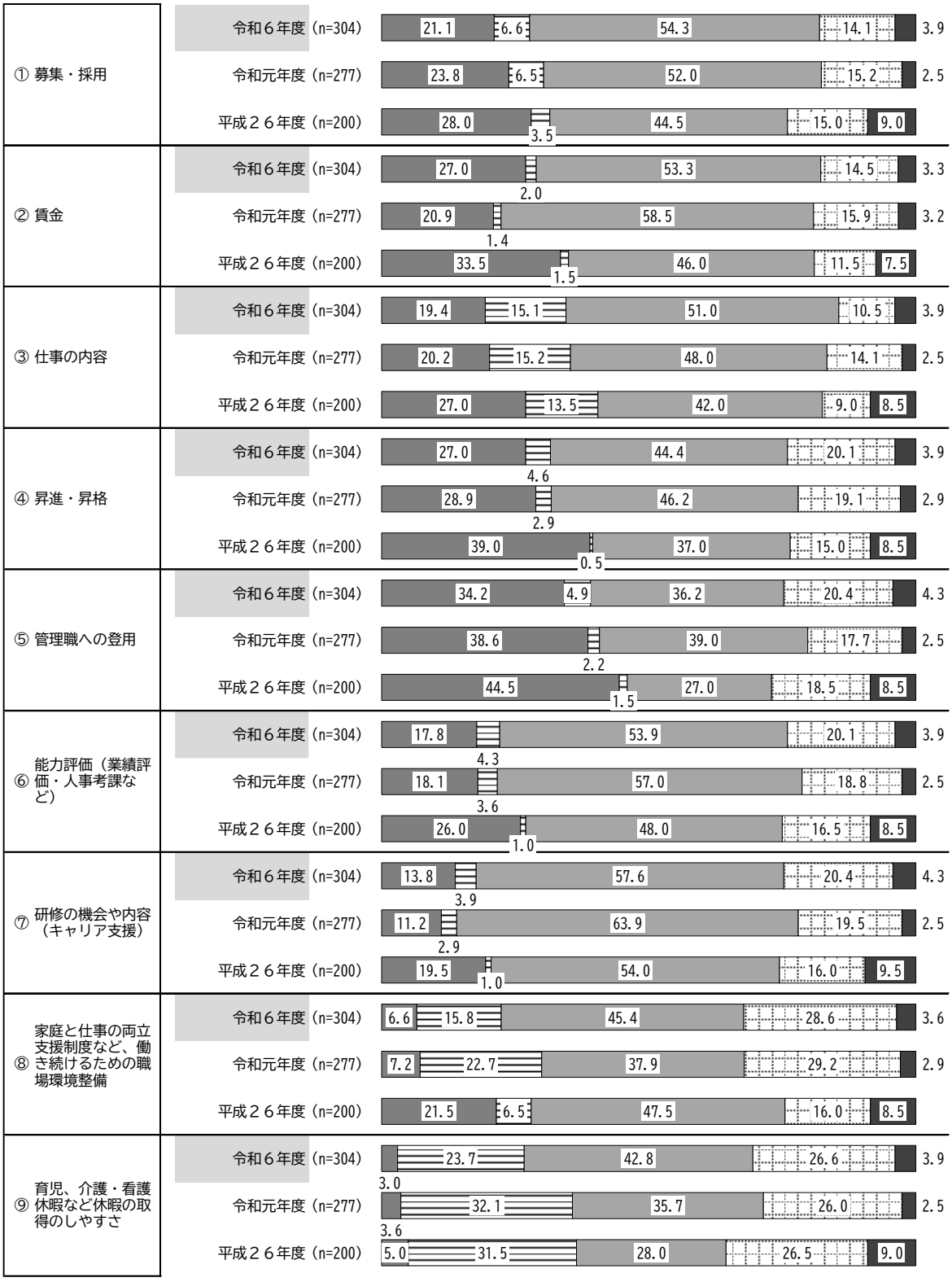
令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、女性は「昇進・昇格」「管理職への登用」「能力評価（業績評価・人事考課など）」「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」で「平等である」が減少傾向、男性は「募集・採用」「仕事の内容」「育児、介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ」で「平等である」が増加傾向となっている。（図表 5-8-1）

〔図表 5-8-1　職場において男女格差を感じること（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



〈男性〉


① 募集・採用
令和６年度（n=304） 21.1 6.6 54.3 14.1 3.9
令和元年度（n=277） 23.8 6.5 52.0 15.2 2.5
平成２６年度（n=200） 28.0 3.5 44.5 15.0 9.0
② 賃金
令和６年度（n=304） 27.0 2.0 53.3 14.5 3.3
令和元年度（n=277） 20.9 1.4 58.5 15.9 3.2
平成２６年度（n=200） 33.5 1.5 46.0 11.5 7.5
③ 仕事の内容
令和６年度（n=304） 19.4 15.1 51.0 10.5 3.9
令和元年度（n=277） 20.2 15.2 48.0 14.1 2.5
平成２６年度（n=200） 27.0 13.5 42.0 9.0 8.5
④ 昇進・昇格
令和６年度（n=304） 27.0 4.6 44.4 20.1 3.9
令和元年度（n=277） 28.9 2.9 46.2 19.1 2.9
平成２６年度（n=200） 39.0 0.5 37.0 15.0 8.5
⑤ 管理職への登用
令和６年度（n=304） 34.2 4.9 36.2 20.4 4.3
令和元年度（n=277） 38.6 2.2 39.0 17.7 2.5
平成２６年度（n=200） 44.5 1.5 27.0 18.5 8.5
⑥ 能力評価（業績評価・人事考課など）
令和６年度（n=304） 17.8 4.3 53.9 20.1 3.9
令和元年度（n=277） 18.1 3.6 57.0 18.8 2.5
平成２６年度（n=200） 26.0 1.0 48.0 16.5 8.5
⑦ 研修の機会や内容（キャリア支援）
令和６年度（n=304） 13.8 3.9 57.6 20.4 4.3
令和元年度（n=277） 11.2 2.9 63.9 19.5 2.5
平成２６年度（n=200） 19.5 1.0 54.0 16.0 9.5
⑧ 家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備
令和６年度（n=304） 6.6 15.8 45.4 28.6 3.6
令和元年度（n=277） 7.2 22.7 37.9 29.2 2.9
平成２６年度（n=200） 21.5 6.5 47.5 16.0 8.5
⑨ 育児、介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ
令和６年度（n=304） 3.0 23.7 42.8 26.6 3.9
令和元年度（n=277） 3.6 32.1 35.7 26.0 2.5
平成２６年度（n=200） 5.0 31.5 28.0 26.5 9.0
（単位：％）
男性の方が優遇されている
女性の方が優遇されている
平等である
わからない
無回答

①募集・採用

〔図表 5-8-2　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	19.4	6.9	51.1	18.0	4.7
性×年代別	女性	18～29歳	37	24.3	5.4	59.5	10.8	-
		30歳代	60	18.3	10.0	53.3	18.3	-
		40歳代	73	20.5	8.2	45.2	26.0	-
		50歳代	91	12.1	11.0	57.1	18.7	1.1
		60歳以上	83	15.7	1.2	37.3	25.3	20.5
	男性	18～29歳	29	17.2	6.9	58.6	13.8	3.4
		30歳代	50	12.0	6.0	68.0	12.0	2.0
		40歳代	58	31.0	1.7	48.3	17.2	1.7
		50歳代	82	19.5	12.2	51.2	17.1	-
		60歳以上	85	22.4	4.7	51.8	10.6	10.6

※ ■ は、属性中トップの項目

②賃金

〔図表 5-8-3　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	27.3	1.1	47.6	19.7	4.4
性×年代別	女性	18～29歳	37	24.3	-	59.5	16.2	-
		30歳代	60	25.0	-	56.7	18.3	-
		40歳代	73	38.4	-	30.1	31.5	-
		50歳代	91	24.2	-	53.8	22.0	-
		60歳以上	83	24.1	1.2	27.7	25.3	21.7
	男性	18～29歳	29	13.8	3.4	65.5	17.2	-
		30歳代	50	14.0	4.0	64.0	16.0	2.0
		40歳代	58	36.2	-	48.3	13.8	1.7
		50歳代	82	32.9	3.7	46.3	17.1	-
		60歳以上	85	27.1	-	52.9	10.6	9.4

※ ■ は、属性中トップの項目

③仕事の内容

〔図表 5-8-4　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	21.0	9.8	50.0	14.2	5.0
性×年代別	女性	18～29歳	37	32.4	-	54.1	13.5	-
		30歳代	60	21.7	8.3	51.7	18.3	-
		40歳代	73	27.4	4.1	50.7	15.1	2.7
		50歳代	91	19.8	3.3	58.2	18.7	-
		60歳以上	83	16.9	7.2	37.3	18.1	20.5
	男性	18～29歳	29	13.8	17.2	55.2	13.8	-
		30歳代	50	6.0	20.0	60.0	12.0	2.0
		40歳代	58	27.6	24.1	36.2	10.3	1.7
		50歳代	82	22.0	15.9	53.7	8.5	-
		60歳以上	85	21.2	4.7	51.8	10.6	11.8

※ ■ は、属性中トップの項目

④昇進・昇格

〔図表 5-8-5　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	30.8	2.6	38.1	23.3	5.2
性×年代別	女性	18～29歳	37	37.8	-	45.9	16.2	-
		30歳代	60	41.7	1.7	35.0	21.7	-
		40歳代	73	47.9	-	28.8	23.3	-
		50歳代	91	26.4	1.1	42.9	27.5	2.2
		60歳以上	83	21.7	1.2	19.3	34.9	22.9
	男性	18～29歳	29	20.7	6.9	51.7	20.7	-
		30歳代	50	14.0	6.0	62.0	16.0	2.0
		40歳代	58	34.5	1.7	43.1	19.0	1.7
		50歳代	82	28.0	6.1	42.7	22.0	1.2
		60歳以上	85	30.6	3.5	34.1	21.2	10.6

※ ■ は、属性中トップの項目

⑤管理職への登用

〔図表 5-8-6　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	35.7	2.7	31.3	25.3	5.0
性×年代別	女性	18～29歳	37	45.9	-	37.8	16.2	-
		30歳代	60	48.3	3.3	31.7	16.7	-
		40歳代	73	42.5	-	27.4	30.1	-
		50歳代	91	30.8	1.1	29.7	37.4	1.1
		60歳以上	83	24.1	-	16.9	37.3	21.7
	男性	18～29歳	29	37.9	6.9	41.4	13.8	-
		30歳代	50	24.0	4.0	46.0	22.0	4.0
		40歳代	58	37.9	5.2	37.9	15.5	3.4
		50歳代	82	34.1	4.9	36.6	24.4	-
		60歳以上	85	36.5	4.7	27.1	21.2	10.6

※ ▭ は、属性中トップの項目

⑥能力評価（業績評価・人事考課など）

〔図表 5-8-7　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	20.7	2.6	46.5	25.3	4.9
性×年代別	女性	18～29歳	37	32.4	-	51.4	16.2	-
		30歳代	60	21.7	1.7	46.7	30.0	-
		40歳代	73	30.1	-	42.5	27.4	-
		50歳代	91	19.8	1.1	47.3	30.8	1.1
		60歳以上	83	18.1	2.4	22.9	34.9	21.7
	男性	18～29歳	29	6.9	10.3	65.5	13.8	3.4
		30歳代	50	8.0	2.0	70.0	18.0	2.0
		40歳代	58	25.9	-	55.2	17.2	1.7
		50歳代	82	24.4	6.1	48.8	20.7	-
		60歳以上	85	15.3	4.7	44.7	24.7	10.6

※ ▭ は、属性中トップの項目

⑦研修の機会や内容（キャリア支援）

〔図表 5-8-8　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	13.9	2.4	54.1	24.4	5.2
性×年代別	女性	18～29歳	37	16.2	5.4	64.9	13.5	-
		30歳代	60	13.3	-	63.3	23.3	-
		40歳代	73	17.8	-	50.7	31.5	-
		50歳代	91	12.1	-	59.3	27.5	1.1
		60歳以上	83	10.8	2.4	30.1	33.7	22.9
	男性	18～29歳	29	13.8	6.9	58.6	17.2	3.4
		30歳代	50	2.0	4.0	80.0	12.0	2.0
		40歳代	58	19.0	1.7	53.4	24.1	1.7
		50歳代	82	19.5	6.1	52.4	22.0	-
		60歳以上	85	11.8	2.4	51.8	22.4	11.8

※ ■ は、属性中トップの項目

⑧家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備

〔図表 5-8-9　職場において男女格差を感じること（性・年代別）〕

（単位：%）

			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	8.5	14.5	42.1	30.0	4.9
性×年代別	女性	18～29歳	37	13.5	27.0	48.6	10.8	-
		30歳代	60	13.3	25.0	41.7	20.0	-
		40歳代	73	11.0	12.3	39.7	37.0	-
		50歳代	91	9.9	11.0	40.7	37.4	1.1
		60歳以上	83	7.2	2.4	32.5	34.9	22.9
	男性	18～29歳	29	-	17.2	65.5	17.2	-
		30歳代	50	4.0	16.0	56.0	22.0	2.0
		40歳代	58	6.9	20.7	44.8	25.9	1.7
		50歳代	82	8.5	17.1	34.1	40.2	-
		60歳以上	85	8.2	10.6	43.5	27.1	10.6

※ ■ は、属性中トップの項目

⑨育児・介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ

〔図表 5-8-10　職場において男女格差を感じること（**性・年代別**）〕

（単位：%）

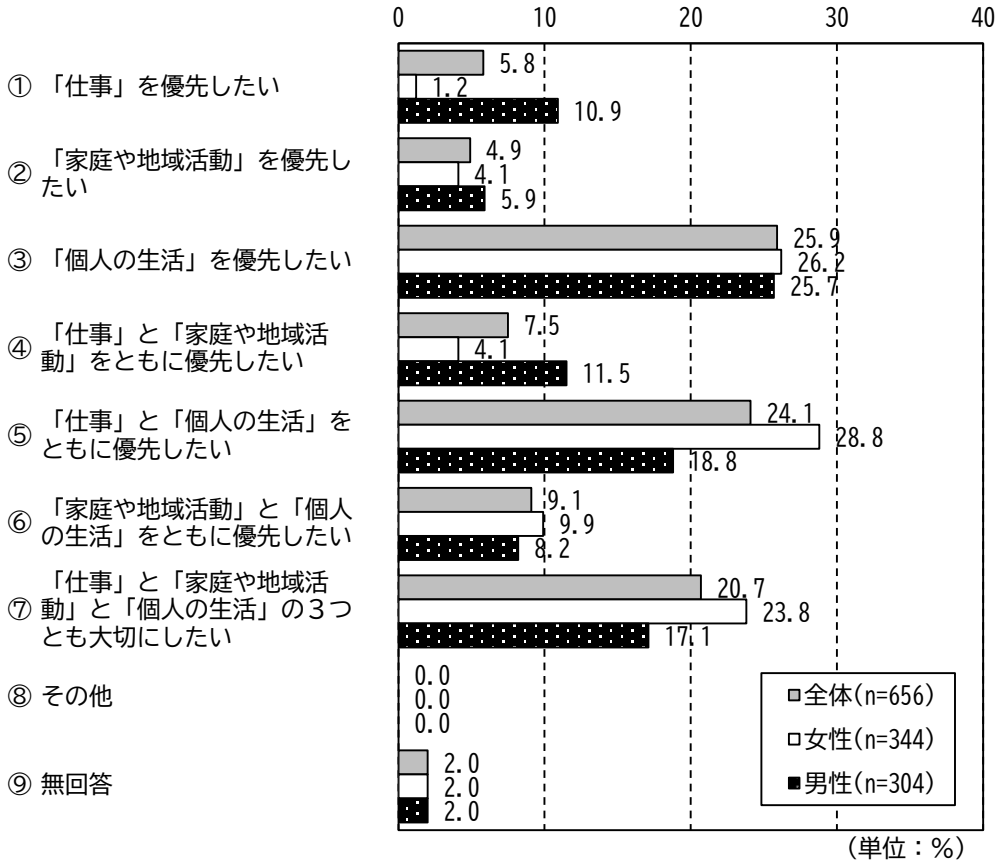
			サンプル数	①男性の方が優遇されている	②女性の方が優遇されている	③平等である	④わからない	⑤無回答
全　体			656	3.2	23.9	38.6	29.3	5.0
性×年代別	女性	18～29歳	37	2.7	48.6	35.1	13.5	-
		30歳代	60	5.0	43.3	35.0	16.7	-
		40歳代	73	1.4	24.7	34.2	39.7	-
		50歳代	91	5.5	16.5	40.7	36.3	1.1
		60歳以上	83	2.4	7.2	28.9	38.6	22.9
	男性	18～29歳	29	-	31.0	51.7	17.2	-
		30歳代	50	2.0	28.0	44.0	24.0	2.0
		40歳代	58	5.2	29.3	37.9	24.1	3.4
		50歳代	82	2.4	23.2	39.0	35.4	-
		60歳以上	85	3.5	15.3	45.9	24.7	10.6

※ ■は、属性中トップの項目

（９）生活の中で優先すること【１】希望

問１５　あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動（※）」、「個人の生活」で何を優先しますか。
あなたの希望に最も近いものをそれぞれ１つお答えください。
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

〔図表 5-9　生活の中で優先すること【１】希望（性別）〕



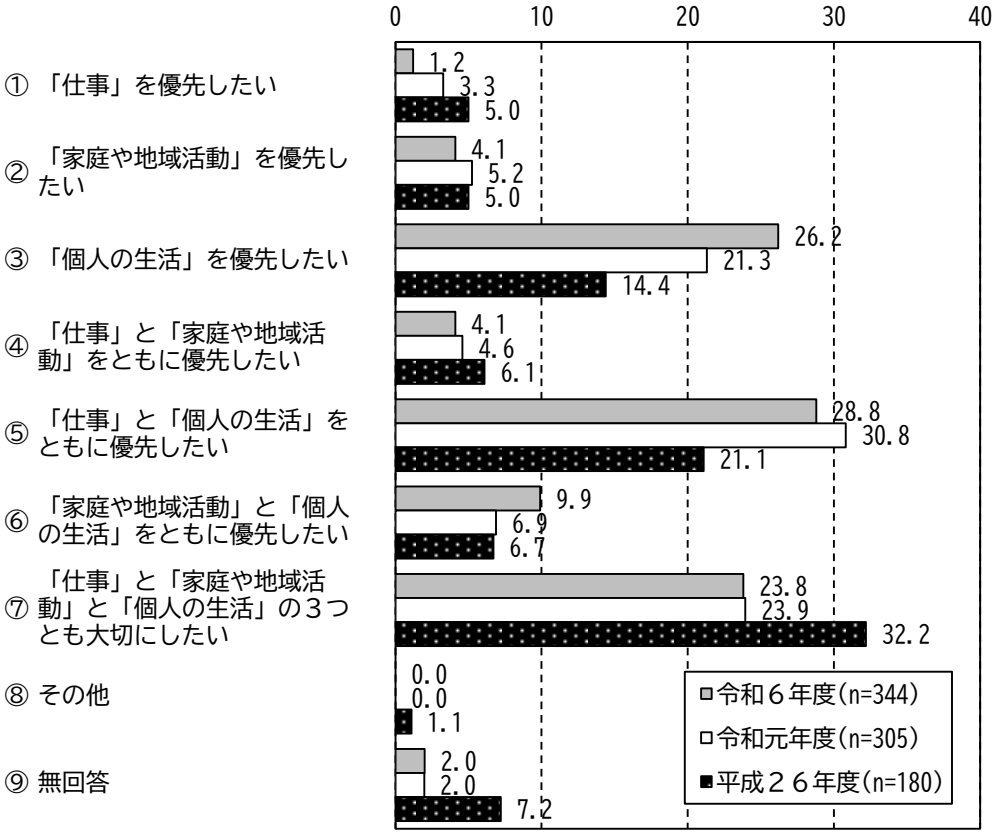
生活の中で優先したいことは、『「個人の生活」を優先したい』（25.9％）と、『「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい』（24.1％）が高く、次いで、『「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしたい』が 20.7％となっている。性別でみると、『「仕事」を優先したい』は男性の方が女性より 9.7 ポイント高く、『「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい』は、女性の方が男性より 10.0 ポイント高くなっている。（図表 5-9）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女ともに『「個人の生活」を優先したい』が増加傾向にある。（図表 5-9-1）

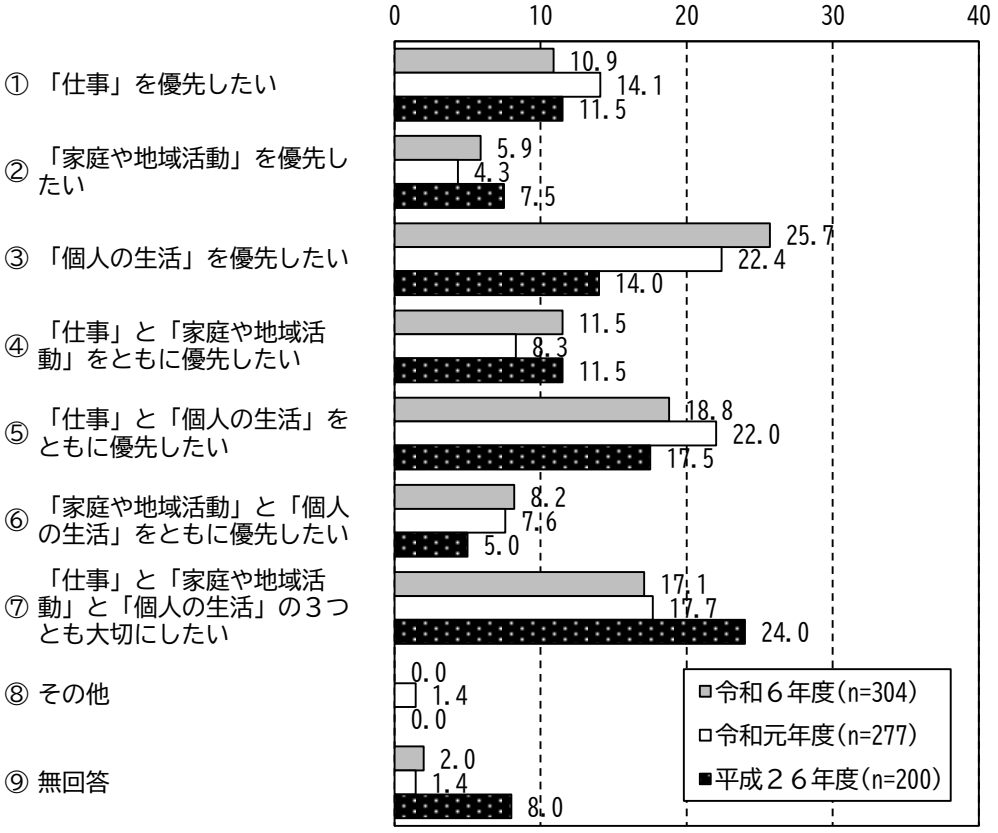
〔図表 5-9-1　生活の中で優先すること【１】希望（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〔図表 5-9-2　生活の中で優先すること【１】希望（性・年代別）〕

（単位：％）

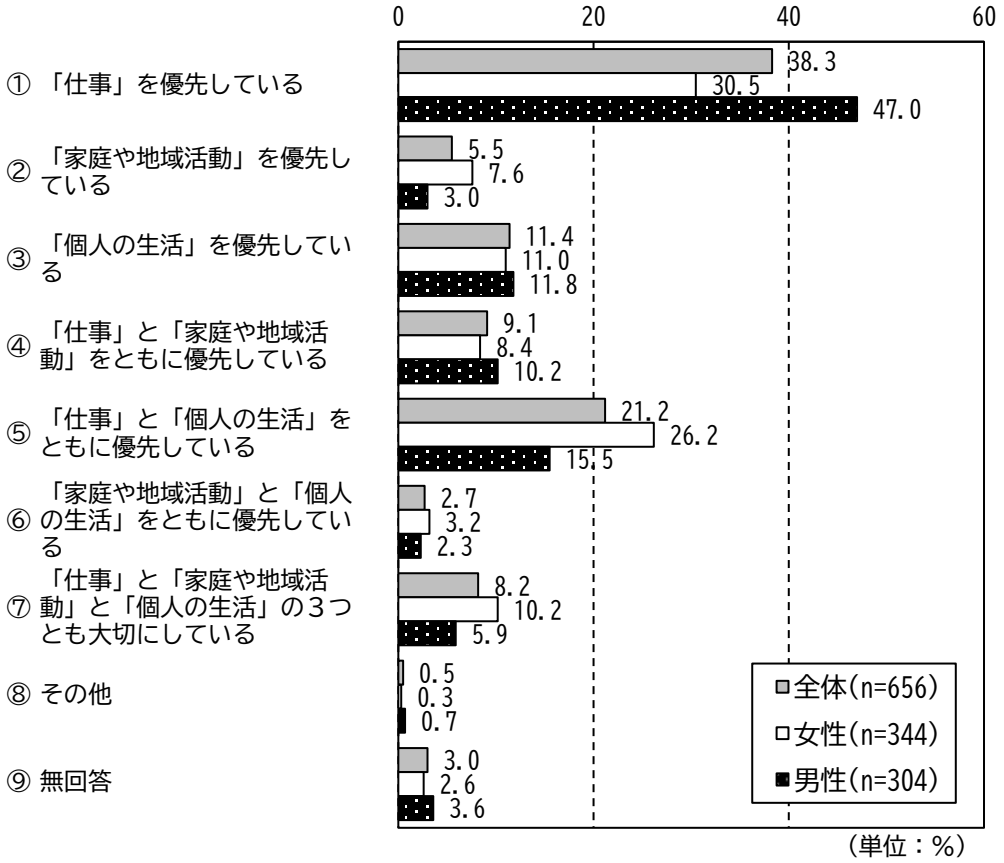
			サンプル数	①「仕事」を優先したい	②「家庭や地域活動」を優先したい	③「個人の生活」を優先したい	④「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい	⑤「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい	⑥「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい	⑦「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしたい	⑧その他	⑨無回答
全　体			656	5.8	4.9	25.9	7.5	24.1	9.1	20.7	－	2.0
性×年代別	女性	18～29歳	37	－	2.7	43.2	2.7	8.1	10.8	32.4	－	－
		30歳代	60	－	8.3	23.3	10.0	21.7	16.7	20.0	－	－
		40歳代	73	1.4	4.1	20.5	5.5	31.5	12.3	24.7	－	－
		50歳代	91	－	4.4	25.3	3.3	35.2	6.6	25.3	－	－
		60歳以上	83	3.6	1.2	26.5	－	33.7	6.0	20.5	－	8.4
	男性	18～29歳	29	－	13.8	20.7	6.9	24.1	17.2	17.2	－	－
		30歳代	50	2.0	10.0	12.0	16.0	22.0	8.0	28.0	－	2.0
		40歳代	58	12.1	6.9	27.6	8.6	17.2	13.8	13.8	－	－
		50歳代	82	19.5	3.7	32.9	9.8	18.3	2.4	12.2	－	1.2
		60歳以上	85	10.6	2.4	27.1	14.1	16.5	7.1	17.6	－	4.7

※ ▭ は、属性中トップの項目

（10）生活の中で優先すること【２】現実

問１５　あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動（※）」、「個人の生活」で何を優先しますか。
あなたの現実（現状）に最も近いものをそれぞれ１つお答えください。
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

〔図表 5-10　生活の中で優先すること【２】現実（**性別**）〕



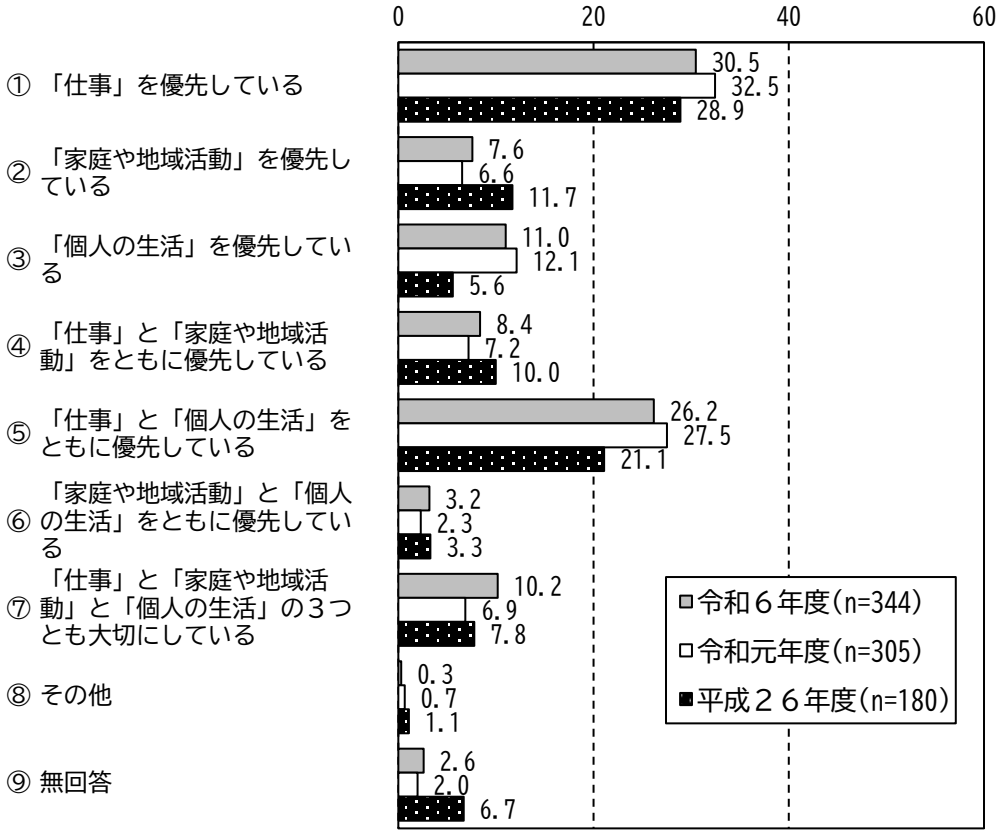
現実に生活の中で優先していることについては、『「仕事」を優先している』が男女とも最も高く 38.3%、特に男性は 47.0%と高くなっている。女性では、『「仕事」を優先している』が 30.5%、次いで『「仕事」と「個人の生活」をともに優先している』が 26.2%となっている。（図表 5-10）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、現実には男女とも『「仕事」を優先している』が最も高いものの、男性は前回から 6.4 ポイント減少している。（図表 5-10-1）

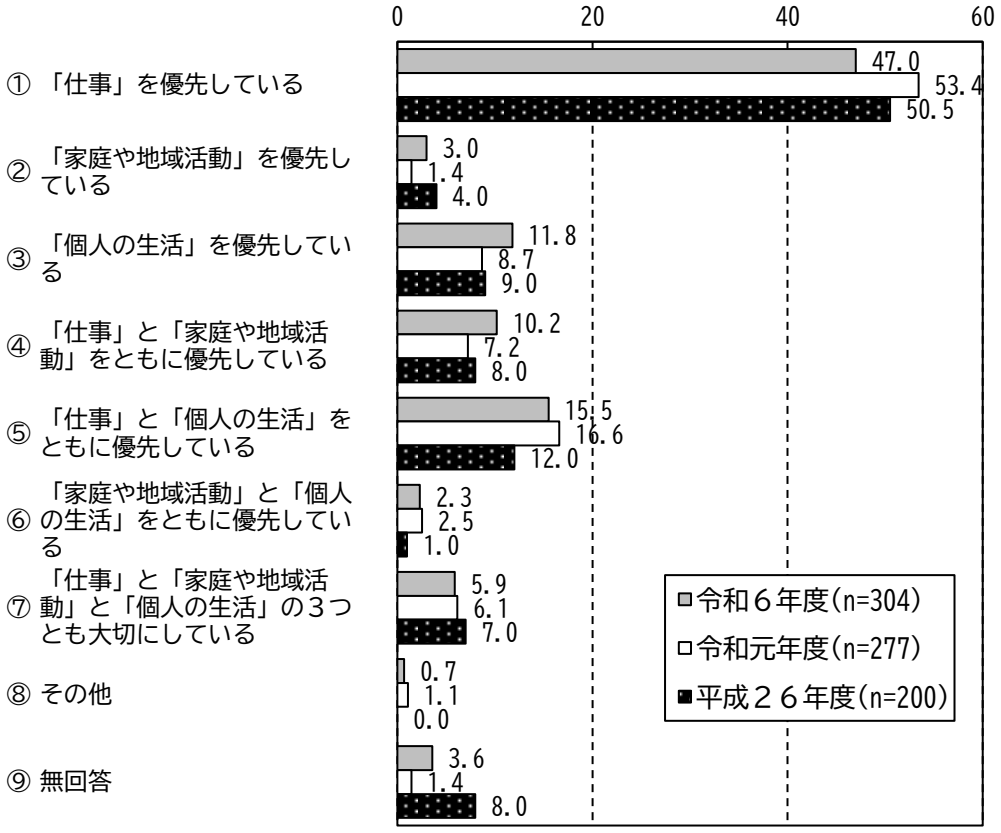
〔図表 5-10-1　生活の中で優先すること【２】現実（過去調査との比較）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除　　（単位：%）

〔図表 5-10-2　生活の中で優先すること【２】現実（性・年代別）〕

（単位：％）

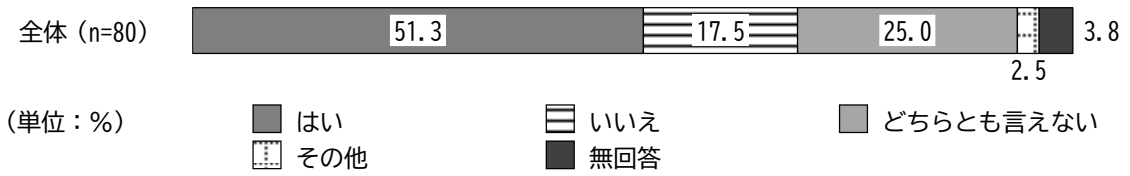
			サンプル数	①「仕事」を優先している	②「家庭や地域活動」を優先している	③「個人の生活」を優先している	④「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している	⑤「仕事」と「個人の生活」をともに優先している	⑥「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している	⑦「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしている	⑧その他	⑩無回答
全　体			656	38.3	5.5	11.4	9.1	21.2	2.7	8.2	0.5	3.0
性×年代別	女性	18～29歳	37	29.7	－	16.2	2.7	43.2	5.4	2.7	－	－
		30歳代	60	30.0	16.7	8.3	11.7	21.7	3.3	8.3	－	－
		40歳代	73	35.6	9.6	6.8	11.0	16.4	4.1	15.1	－	1.4
		50歳代	91	36.3	8.8	8.8	11.0	24.2	2.2	7.7	1.1	－
		60歳以上	83	20.5	1.2	16.9	3.6	32.5	2.4	13.3	－	9.6
	男性	18～29歳	29	55.2	10.3	10.3	6.9	13.8	3.4	－	－	－
		30歳代	50	36.0	2.0	18.0	20.0	10.0	2.0	6.0	－	6.0
		40歳代	58	53.4	3.4	13.8	6.9	19.0	－	3.4	－	－
		50歳代	82	59.8	－	1.2	9.8	15.9	2.4	6.1	2.4	2.4
		60歳以上	85	34.1	3.5	17.6	8.2	16.5	3.5	9.4	－	7.1

※ ▭ は、属性中トップの項目

（11）今後の就労意向

問１６　【64 歳以下の方で、現在、家事専業または、無職の方(学生は除く)にお聞きします。】
あなたは今後働きたいとお考えですか。あてまるものの番号を１つだけ選んでください。

〔図表 5-11　今後の就労意向（**性別**）〕

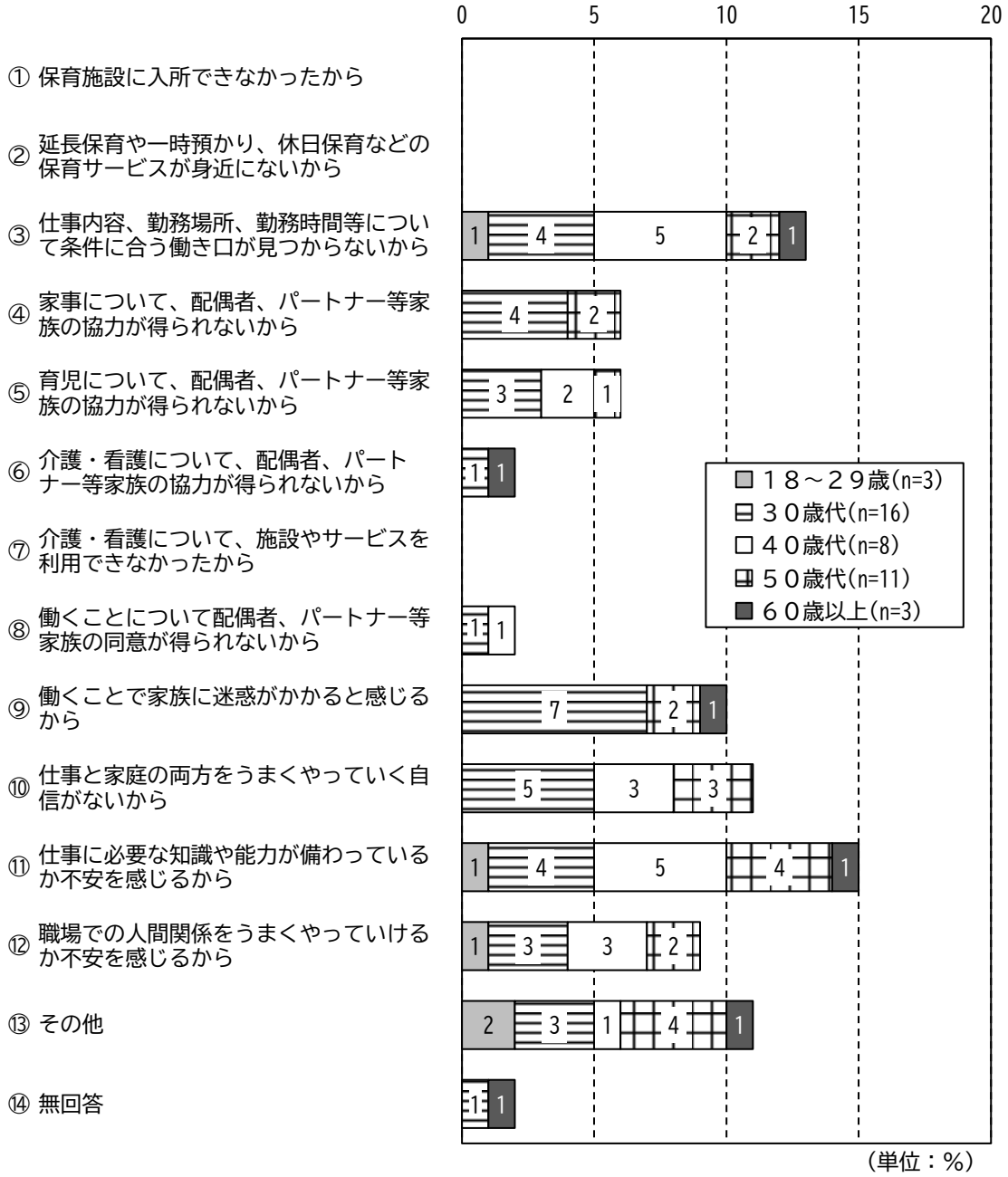


今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く 51.3%、「いいえ」が 17.5%、「どちらとも言えない」が 25.0%となっている。(図表 5-11)

（12）働けない理由

問１６－１　【64 歳以下の方で、現在、家事専業または、無職の方(学生は除く)にお聞きします。】
今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。あてはまるものの番号をすべて選んでください。（○はいくつでも）

〔図表 5-12　働けない理由（**年代別**）〕



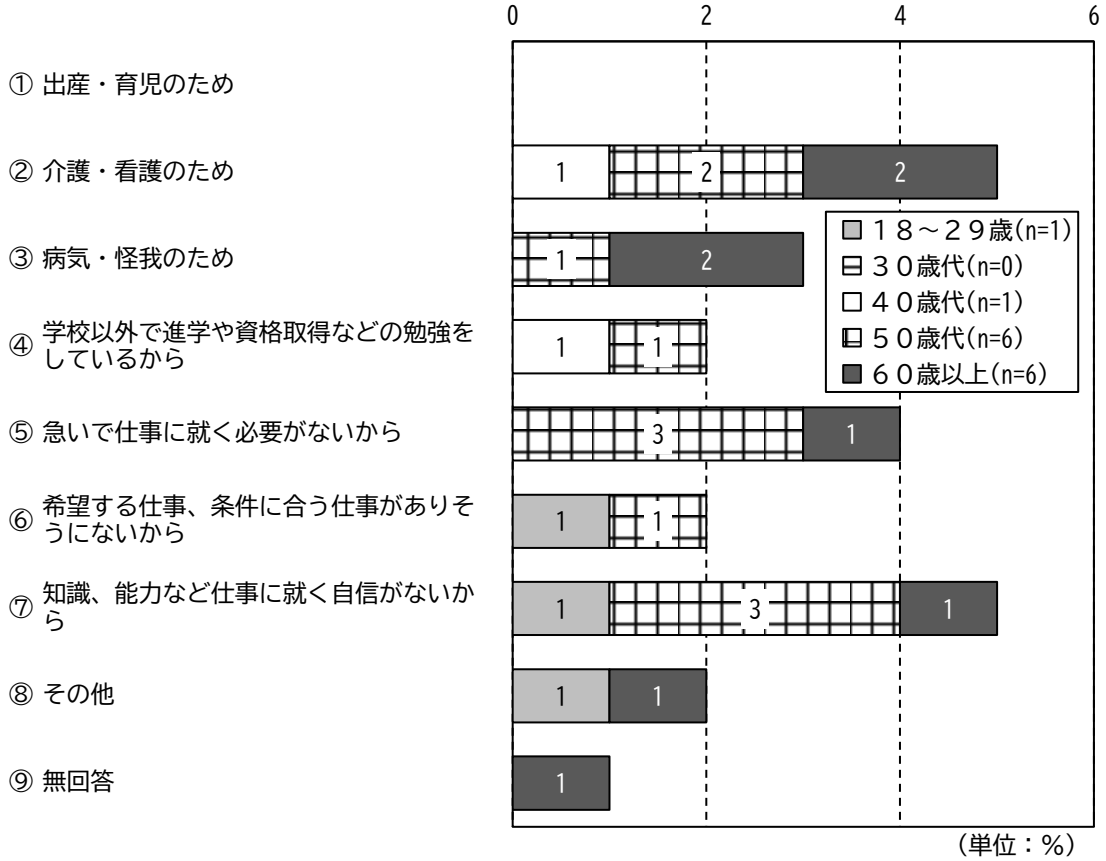
※本データについてはサンプル数が少ないため参考値とする

現在働けない理由を実数でみると、「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから」が最も多い。次いで、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」となっている。（図表 5-12）

（13）働きたくない理由

問１６－２　【64 歳以下の方で、現在、家事専業または、無職の方(学生は除く)にお聞きします。】
「いいえ」と回答された理由は何ですか。(○はいくつでも)

〔図表 5-13　働きたくない理由（**年代別**)〕



※本データについてはサンプル数が少ないため参考値とする

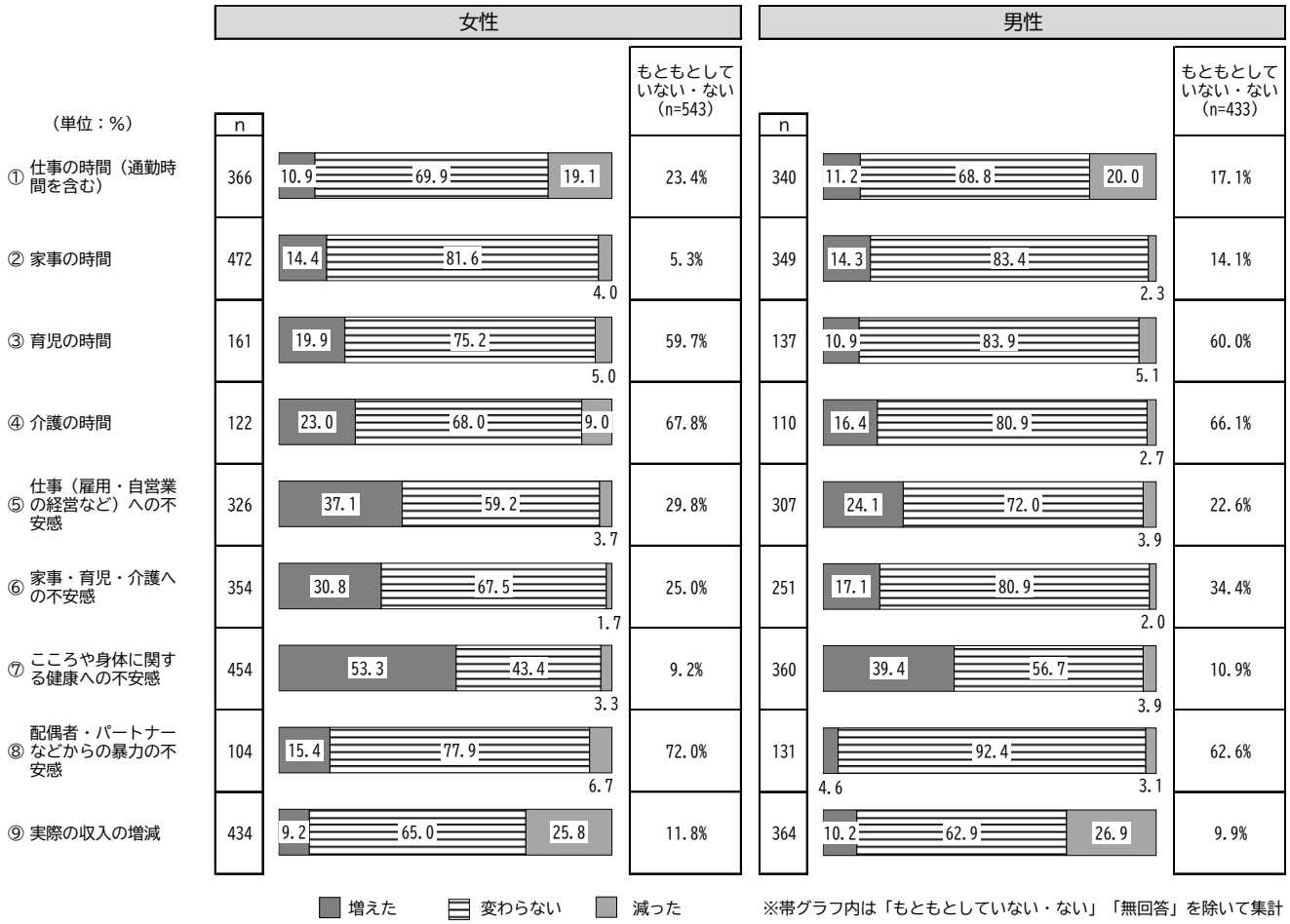
働きたくない理由を実数でみると、「介護・看護のため」「知識、能力など仕事に就く自信がないから」が最も多い。次いで、「急いで仕事に就く必要がないから」となっている。(図表 5-13)

6　コロナ禍前後の生活について

（１）コロナ禍間の生活の変化

問１７－１　**新型コロナウイルス感染症拡大（以下「コロナ禍」）前**と比べ、**コロナ禍の間**の生活に変化がありましたか。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 6-1　コロナ禍間の生活の変化（性別）〕



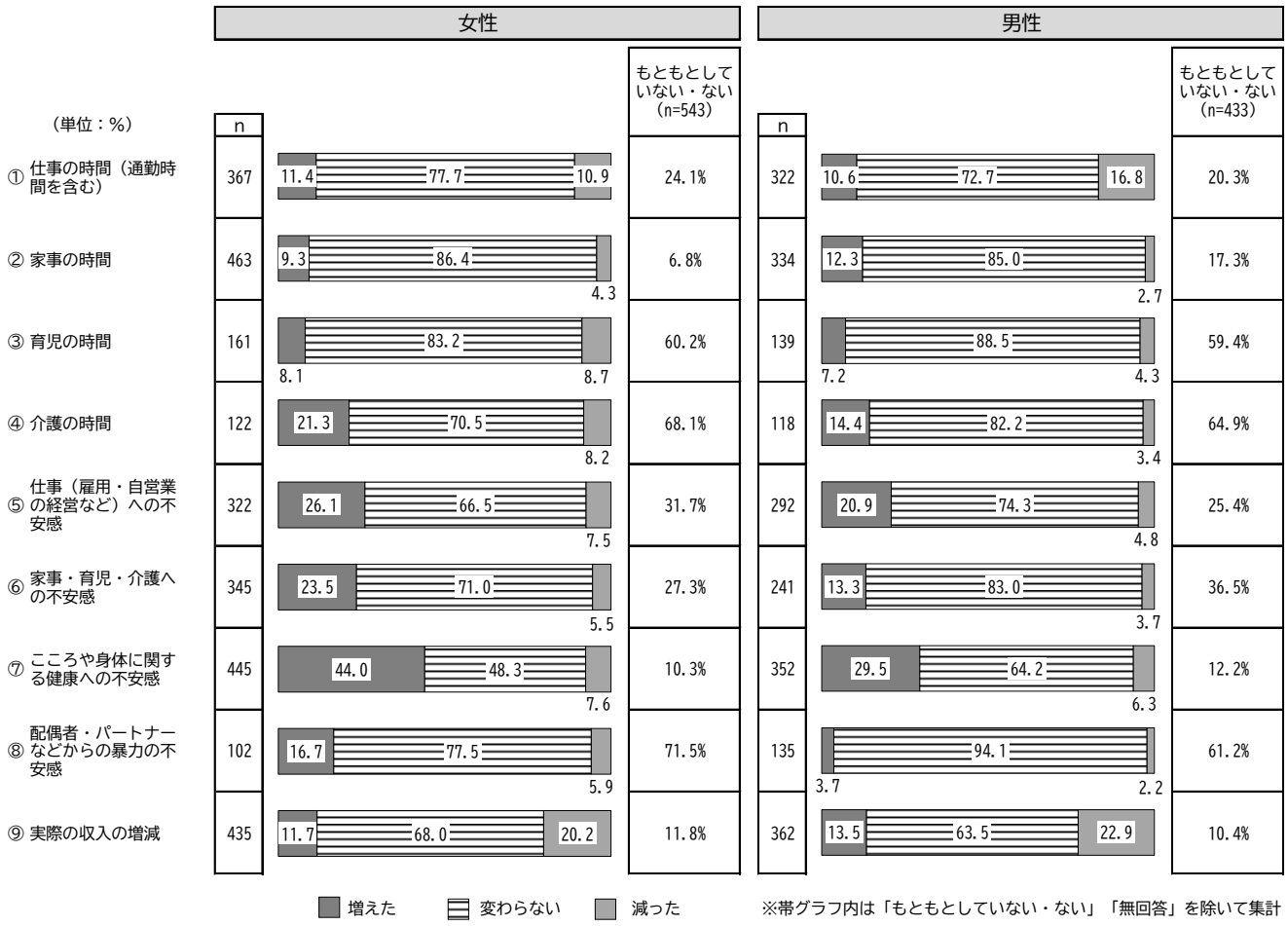
コロナ禍間の生活の変化について、「増えた」をみると、男女とも「こころや身体に関する健康への不安感」が最も高く、女性で 53.3％、男性で 39.4％となっている。次いで「仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感」が高くなっている。

「減った」を見ると、男女とも「実際の収入の増減」が 2 割半、「仕事の時間（通勤時間を含む）」が約 2 割で高くなっている。（図表 6-1）

（２）コロナ禍後の生活の変化

問１７－２　**コロナ禍前**と比べ、**現在（５類感染症への移行後）**の生活に変化がありましたか。
（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 6-2　コロナ禍後の生活の変化（**性別**）〕



コロナ禍後の生活の変化について、「増えた」をみると、男女とも「こころや身体に関する健康への不安感」が最も高く、女性で 44.0％、男性で 29.5％となっている。次いで「仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感」が 2 割台で高くなっている。

「減った」を見ると、「実際の収入の増減」が女性で 20.2％、男性で 22.9％と高い。（図表 6-2）

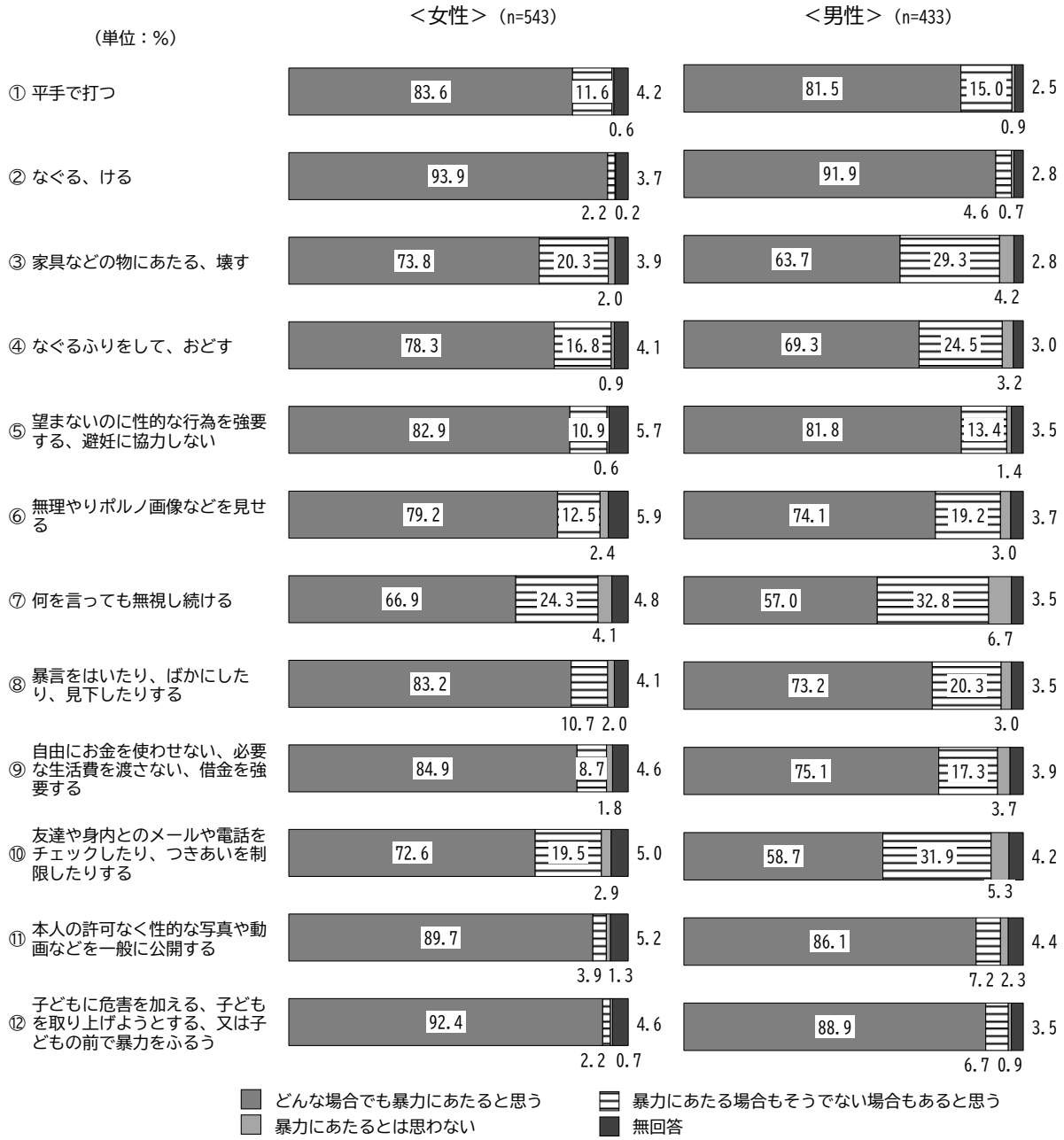
コロナ禍間とコロナ禍後で比較すると、「こころや身体に関する健康への不安感」が「増えた」はコロナ禍間からコロナ禍後に、女性で 9.3 ポイント、男性で 9.9 ポイント減少している。「実際の収入の増減」が「減った」はコロナ禍間からコロナ禍後に、女性で 5.6 ポイント、男性で 4.0 ポイント減少している。（図表 6-1、6-2）

7　ドメスティック・バイオレンスについて

（1）暴力だと思うこと

問１８　あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 7-1　暴力だと思うこと（性別）〕



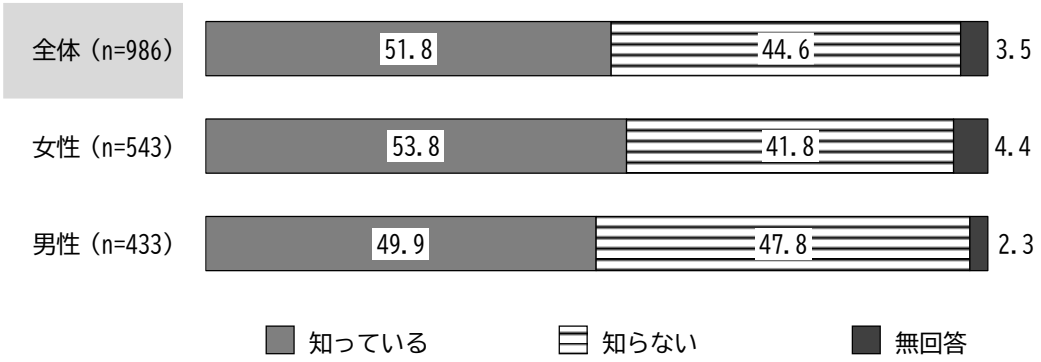
暴力だと思うことについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」は男女とも 9 割を超え、「子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう」は女性で 9 割を超えている。

性別でみると、全ての項目で女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高く、半数の項目で約 10 ポイント上回っている。特に「友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」は男性と比べて 13.9 ポイント高くなっている。（図表 7-1）

（２）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度

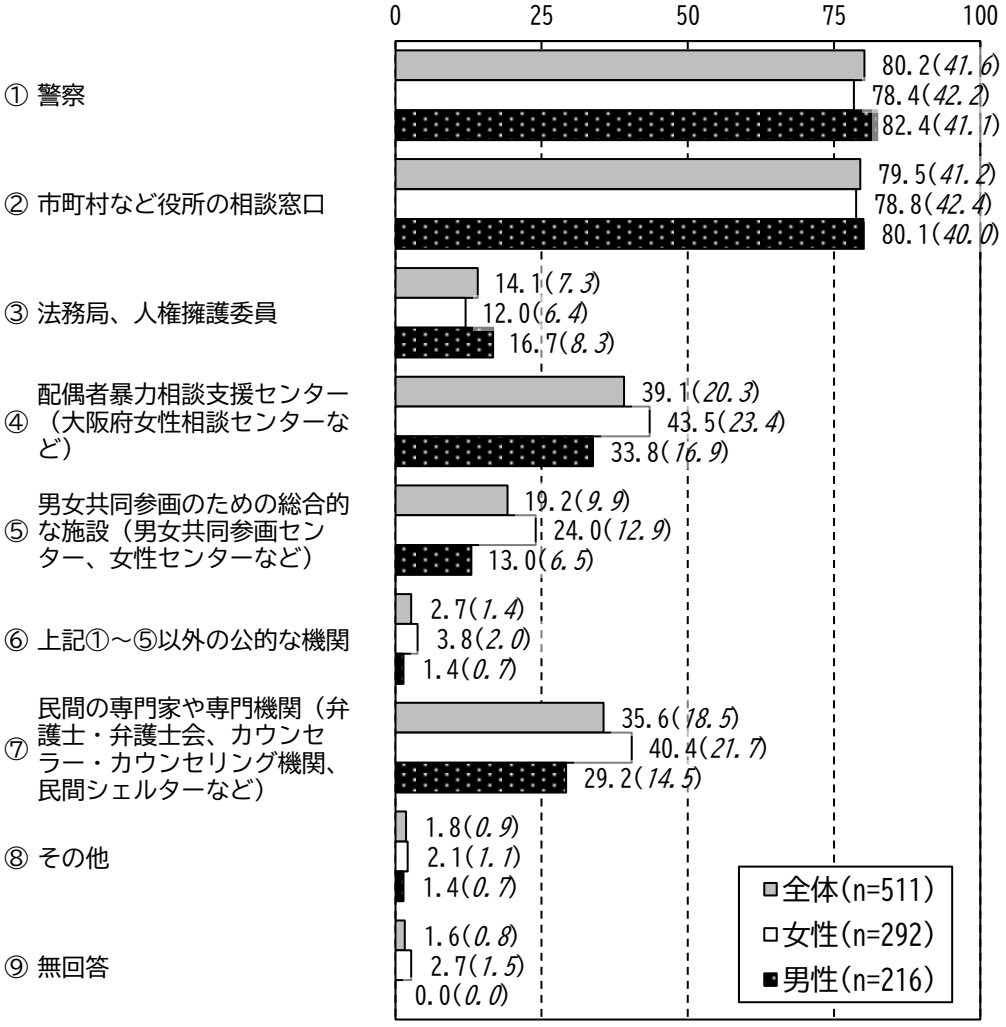
問１９　あなたは、配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなど身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか。

〔図表 7-2　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度（**性別**）〕



問１９－１　相談窓口としてどのようなものを知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

〔図表 7-2-1　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度（**性別**）〕



※カッコ内は「知らない」「無回答」を含む回答者全体における割合　　（単位：％）

配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口を「知っている」割合は約半数の 51.8%で、女性の方が男性より 3.9 ポイント高い。(図表 7-2)

相談窓口では「警察」が 80.2%(*41.6%*)で最もよく認知されており、「市町村など役所の相談窓口」も 79.5%(*41.2%*)と、認知率が高い。次いで「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど)」が 39.1%(*20.3%*)、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)」が 35.6%(*18.5%*)となっている。(図表 7-2-1)

※カッコ内は「知らない」「無回答」を含む回答者全体における割合

〔図表 7-2-2　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度（**性・年代別、性・暴力経験別**)〕

（単位：%）

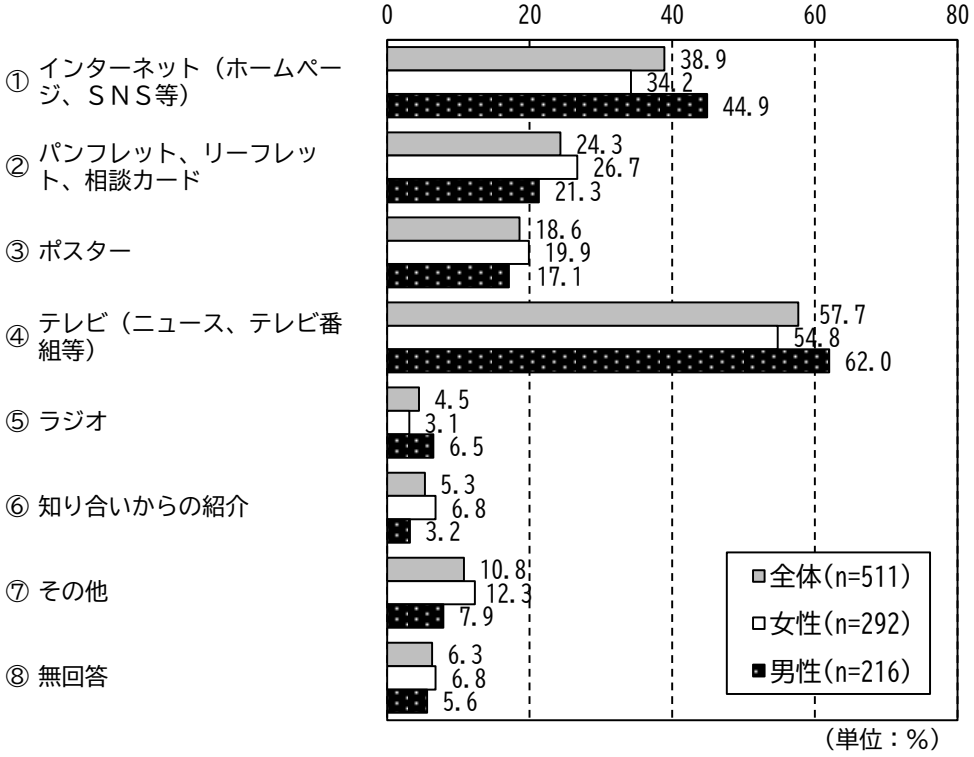
			サンプル数	①警察	②市町村など役所の相談窓口	③法務局、人権擁護委員	④配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）	⑤男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）	⑥①～⑤以外の公的な機関	⑦民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）	⑧その他	⑨無回答
全　体			511	80.2	79.5	14.1	39.1	19.2	2.7	35.6	1.8	1.6
性×年代別	女性	18～29歳	21	90.5	66.7	14.3	38.1	42.9	14.3	42.9	4.8	－
		30歳代	35	80.0	80.0	8.6	54.3	25.7	2.9	48.6	－	2.9
		40歳代	53	69.8	84.9	9.4	41.5	20.8	1.9	45.3	3.8	－
		50歳代	74	74.3	77.0	6.8	40.5	27.0	8.1	41.9	4.1	2.7
		60歳以上	109	82.6	78.9	17.4	44.0	19.3	－	33.9	－	4.6
	男性	18～29歳	16	75.0	62.5	12.5	25.0	－	－	18.8	－	－
		30歳代	23	82.6	78.3	8.7	30.4	4.3	－	21.7	－	－
		40歳代	31	83.9	87.1	9.7	35.5	19.4	－	32.3	－	－
		50歳代	54	83.3	87.0	9.3	38.9	18.5	3.7	37.0	3.7	－
		60歳以上	92	82.6	77.2	26.1	32.6	12.0	1.1	27.2	1.1	－
性×暴力経験別	女性	受けたことがある	85	72.9	80.0	7.1	42.4	22.4	2.4	47.1	－	3.5
		受けたことがない	157	80.9	79.0	13.4	44.6	24.8	2.5	38.9	2.5	1.9
	男性	受けたことがある	29	82.8	86.2	10.3	27.6	13.8	－	31.0	3.4	－
		受けたことがない	148	81.8	80.4	18.9	35.1	12.2	2.0	27.7	1.4	－

※ ■ は、属性中トップの項目

（3）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知手段

問１９－２　相談窓口をどのような手段で知りましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

〔図表 7-3　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知手段（**性別**）〕



相談窓口の認知手段は、「テレビ（ニュース、テレビ番組等）」が 57.7％で最も高い。次いで、「インターネット（ホームページ、ＳＮＳ等）」が 38.9％、「パンフレット、リーフレット、相談カード」が 24.3％である。（図表 7-3）

〔図表 7-3-1　配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知手段（**性・年代別**）〕

（単位：％）

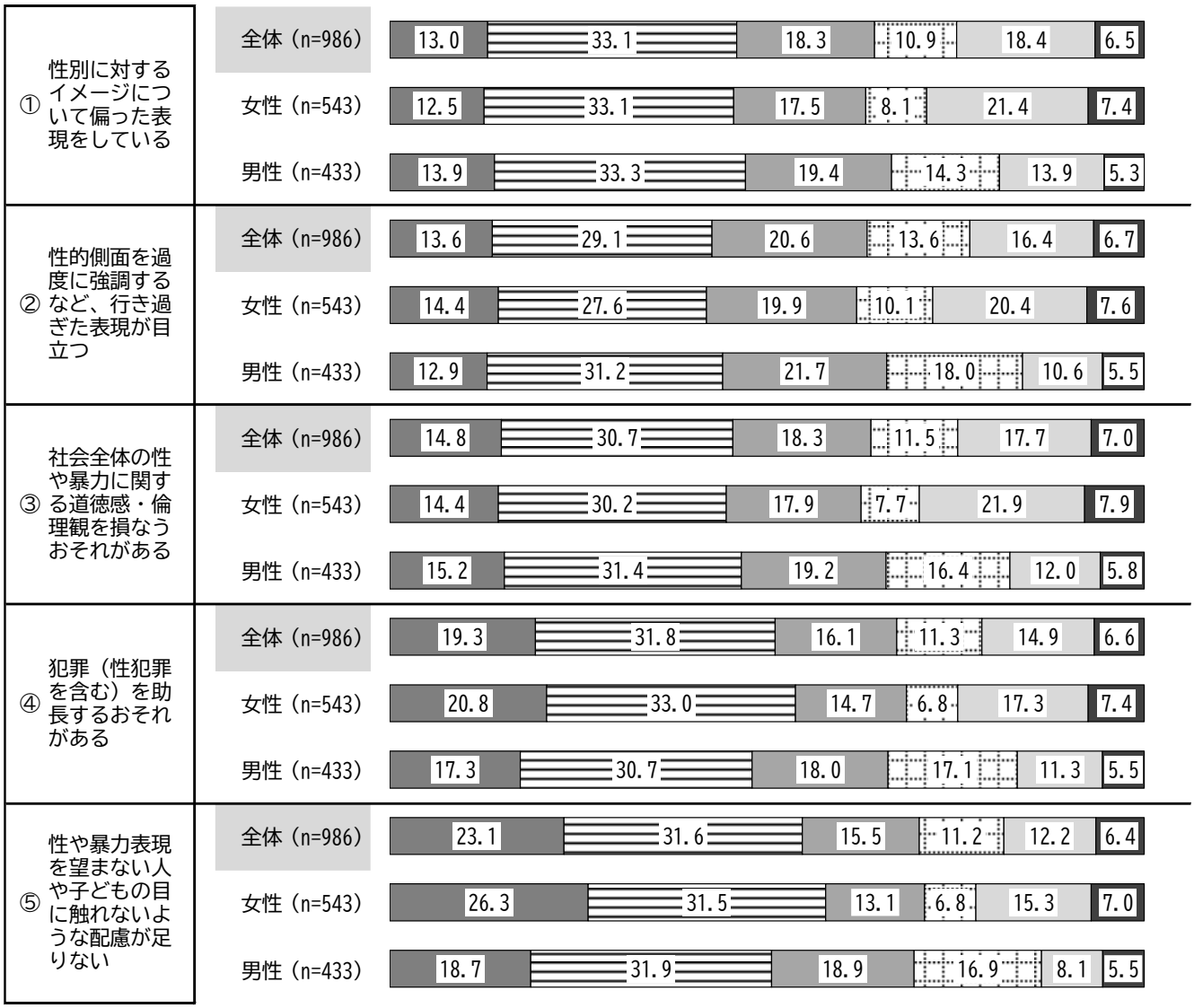
			サンプル数	①インターネット（ホームページ、ＳＮＳ等）	②パンフレット、リーフレット、相談カード	③ポスター	④テレビ（ニュース、テレビ番組等）	⑤ラジオ	⑥知り合いからの紹介	⑦その他	⑧無回答
全　体			511	38.9	24.3	18.6	57.7	4.5	5.3	10.8	6.3
性×年代別	女性	18～29歳	21	42.9	23.8	33.3	47.6	－	－	9.5	9.5
		30歳代	35	60.0	31.4	31.4	42.9	－	2.9	2.9	11.4
		40歳代	53	41.5	30.2	11.3	37.7	－	7.5	18.9	5.7
		50歳代	74	36.5	25.7	16.2	56.8	－	2.7	16.2	2.7
		60歳以上	109	19.3	24.8	20.2	67.0	8.3	11.9	10.1	8.3
	男性	18～29歳	16	56.3	25.0	12.5	50.0	－	12.5	6.3	6.3
		30歳代	23	56.5	34.8	26.1	52.2	－	4.3	－	－
		40歳代	31	54.8	16.1	16.1	61.3	－	3.2	－	－
		50歳代	54	46.3	11.1	14.8	55.6	7.4	1.9	11.1	5.6
		60歳以上	92	35.9	25.0	17.4	70.7	10.9	2.2	10.9	8.7

※ ■は、属性中トップの項目

（4）メディアにおける性・暴力表現

問２０　テレビ、新聞、雑誌、書籍（本）、インターネットなどメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 7-4　メディアにおける性・暴力表現（性別）〕



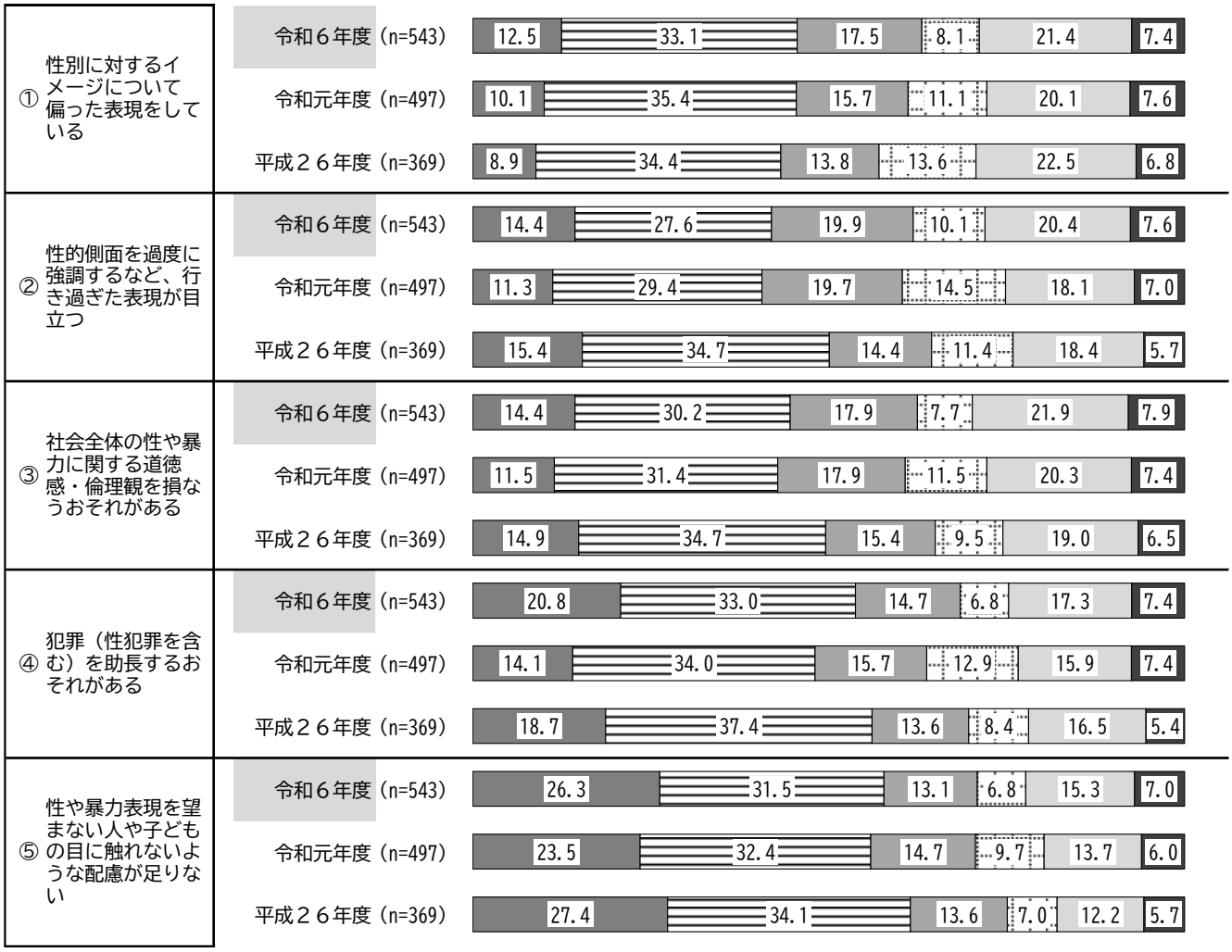
メディアにおける性・暴力表現について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）が最も高いのは「性や暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で 54.7%となっており、女性の方が男性より 7.2 ポイント高い。（図表 7-4）

【過去の調査との比較】

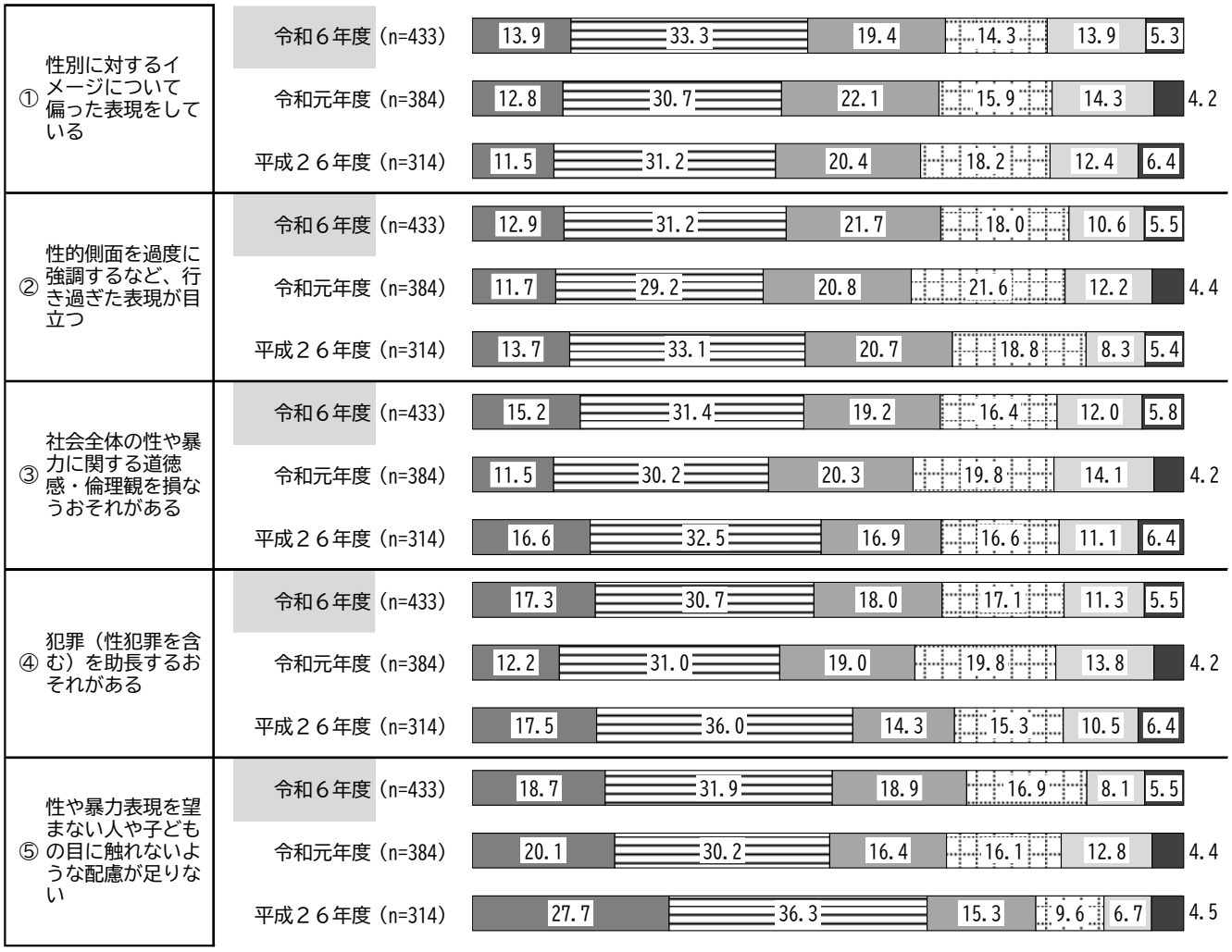
令和元年度調査と比較をすると、男女とも全ての項目で前回から『そう思う』の割合が増加している。（図表 7-4-1）

〔図表 7-4-1　メディアにおける性・暴力表現（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



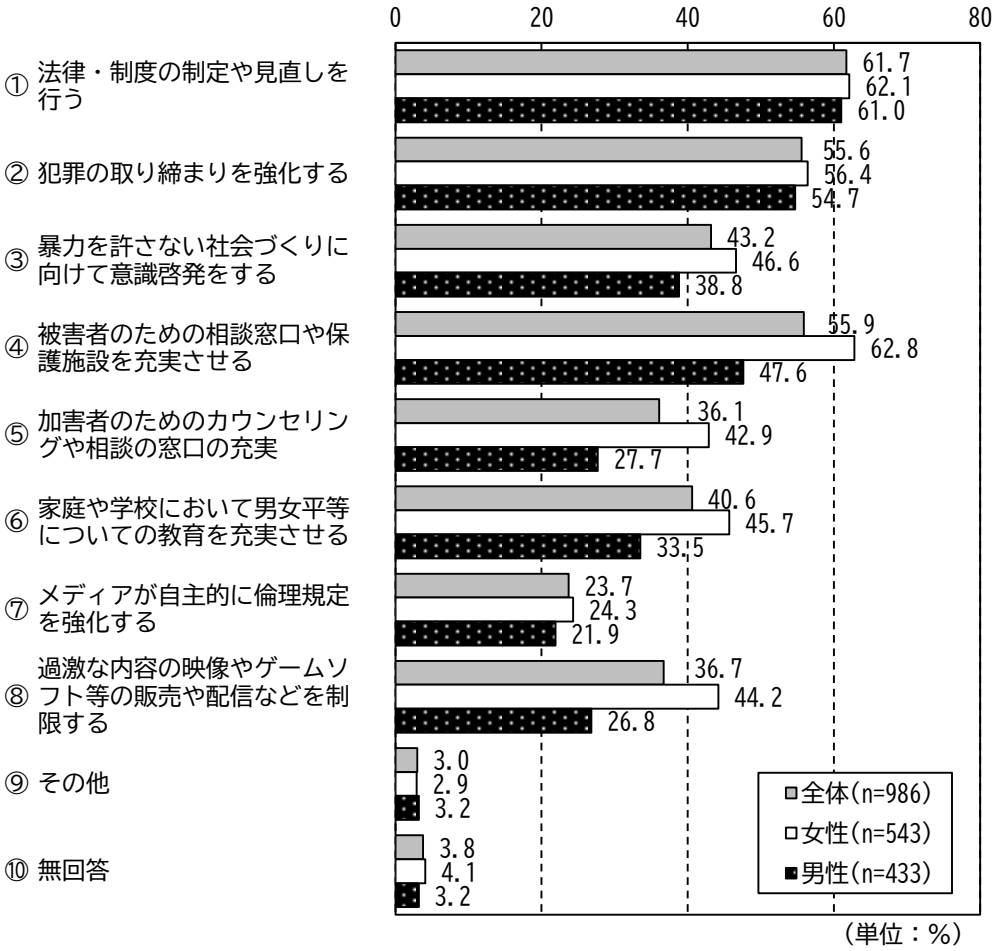
〈男性〉


① 性別に対するイメージについて偏った表現をしている
令和６年度（n=433） 13.9 33.3 19.4 14.3 13.9 5.3
令和元年度（n=384） 12.8 30.7 22.1 15.9 14.3 4.2
平成２６年度（n=314） 11.5 31.2 20.4 18.2 12.4 6.4
② 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
令和６年度（n=433） 12.9 31.2 21.7 18.0 10.6 5.5
令和元年度（n=384） 11.7 29.2 20.8 21.6 12.2 4.4
平成２６年度（n=314） 13.7 33.1 20.7 18.8 8.3 5.4
③ 社会全体の性や暴力に関する道徳感・倫理観を損なうおそれがある
令和６年度（n=433） 15.2 31.4 19.2 16.4 12.0 5.8
令和元年度（n=384） 11.5 30.2 20.3 19.8 14.1 4.2
平成２６年度（n=314） 16.6 32.5 16.9 16.6 11.1 6.4
④ 犯罪（性犯罪を含む）を助長するおそれがある
令和６年度（n=433） 17.3 30.7 18.0 17.1 11.3 5.5
令和元年度（n=384） 12.2 31.0 19.0 19.8 13.8 4.2
平成２６年度（n=314） 17.5 36.0 14.3 15.3 10.5 6.4
⑤ 性や暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
令和６年度（n=433） 18.7 31.9 18.9 16.9 8.1 5.5
令和元年度（n=384） 20.1 30.2 16.4 16.1 12.8 4.4
平成２６年度（n=314） 27.7 36.3 15.3 9.6 6.7 4.5
（単位：％）
そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない
そう思わない
わからない
無回答

（５）配偶者等からの暴力（ＤＶ）などをなくすためにもっと取組が必要なこと

問２１　配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などをなくすために、もっと取組を進める必要があるのはどのようなことですか。（○はいくつでも）

〔図表 7-5　配偶者等からの暴力（ＤＶ）などをなくすためにもっと取組が必要なこと（性別）〕



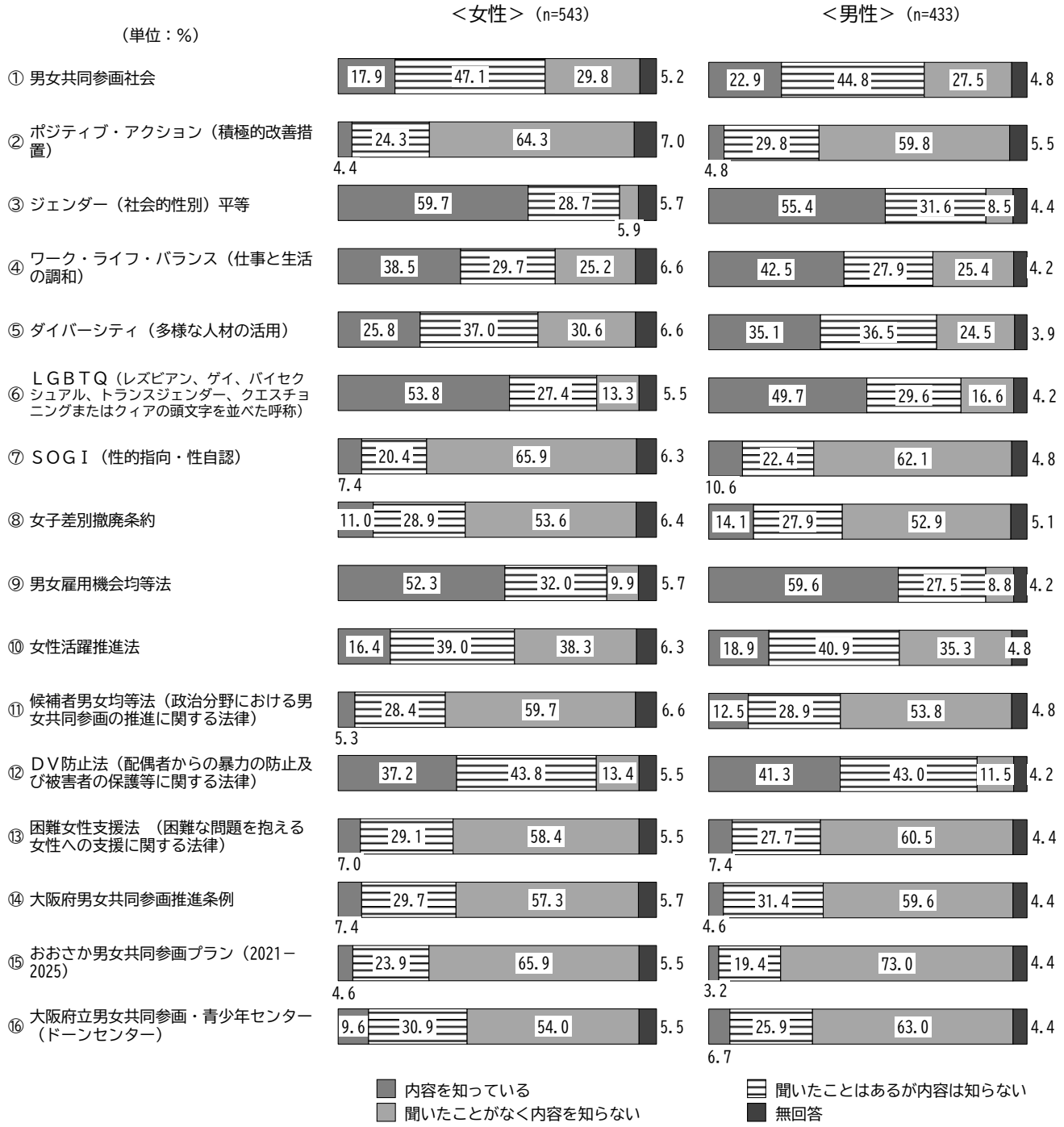
配偶者等からの暴力（ＤＶ）などをなくすために必要な取組は、「法律・制度の制定や見直しを行う」が 61.7％で最も高く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 55.9％、「犯罪の取り締まりを強化する」が 55.6％となっている。性別でみると、全ての項目で女性の方が男性より高く、特に「過激な内容の映像やゲームソフト等の販売や配信などを制限する」で 17.4 ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口の充実」で 15.2 ポイント男性より高くなっている。（図表 7-5）

8　男女共同参画に関する用語の認知度

（1）見聞きしたことがある言葉

問２２　次にあげる項目のうち、あなたがご存じのものはありますか。あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 8-1　見聞きしたことがある言葉（性別）〕



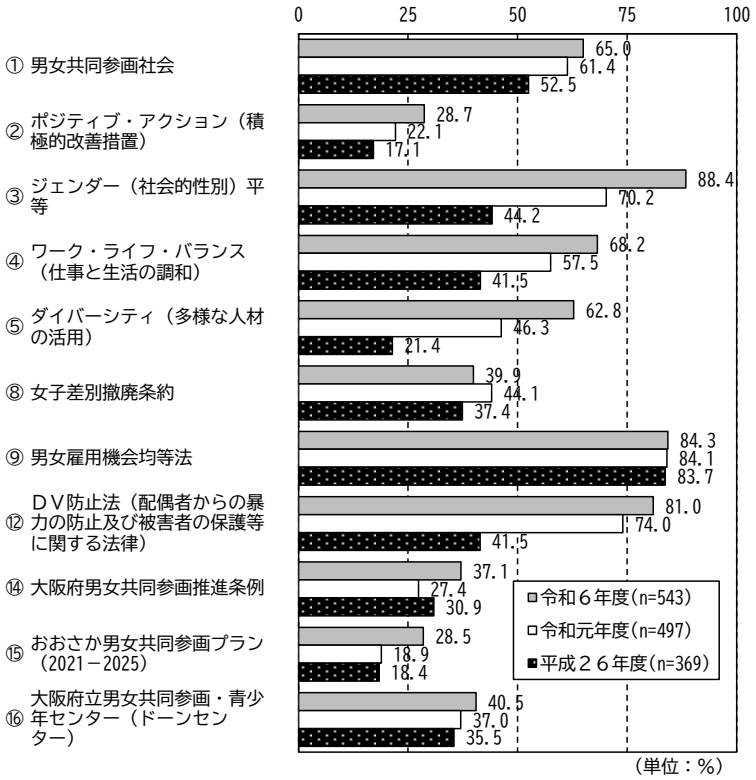
男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』（「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合）でみると、「ジェンダー（社会的性別）平等」（女性 88.4%、男性で 87.0%）が女性で最も高く、「男女雇用機会均等法」（女性 84.3%、男性で 87.1%）が男性で最も高い。次いで「ＤＶ防止法」「ＬＧＢＴＱ」が約 8 割で続いている。（図表 8-1）

【過去の調査との比較】

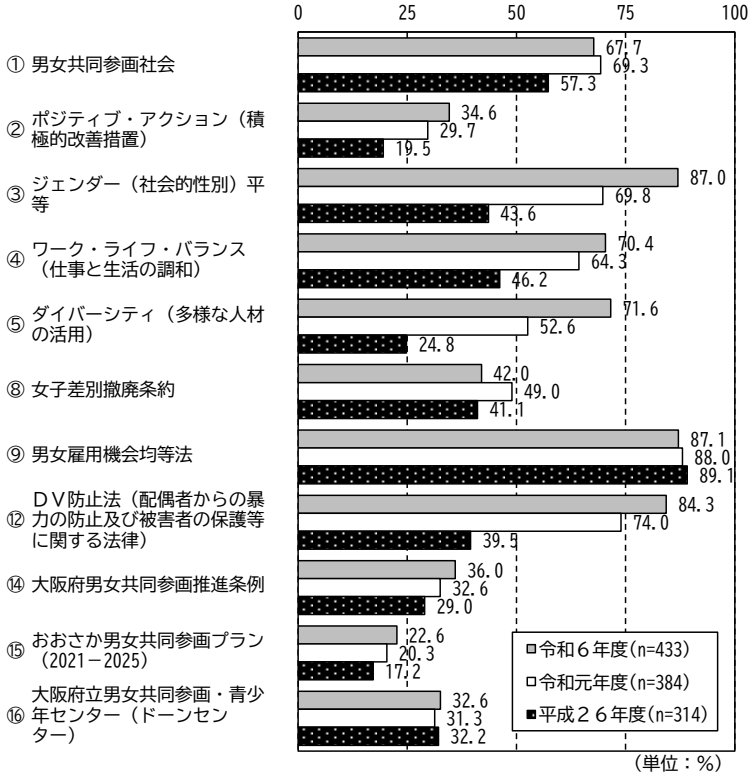
令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女ともに概ねどの項目も増加傾向がみられるが、特に「ジェンダー（社会的性別）平等」「ダイバーシティ（多様な人材の活用）」「ＤＶ防止法」は認知率が大きく上昇している。（図表 8-1-1）

〔図表 8-1-1　見聞きしたことがある言葉（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



〈男性〉

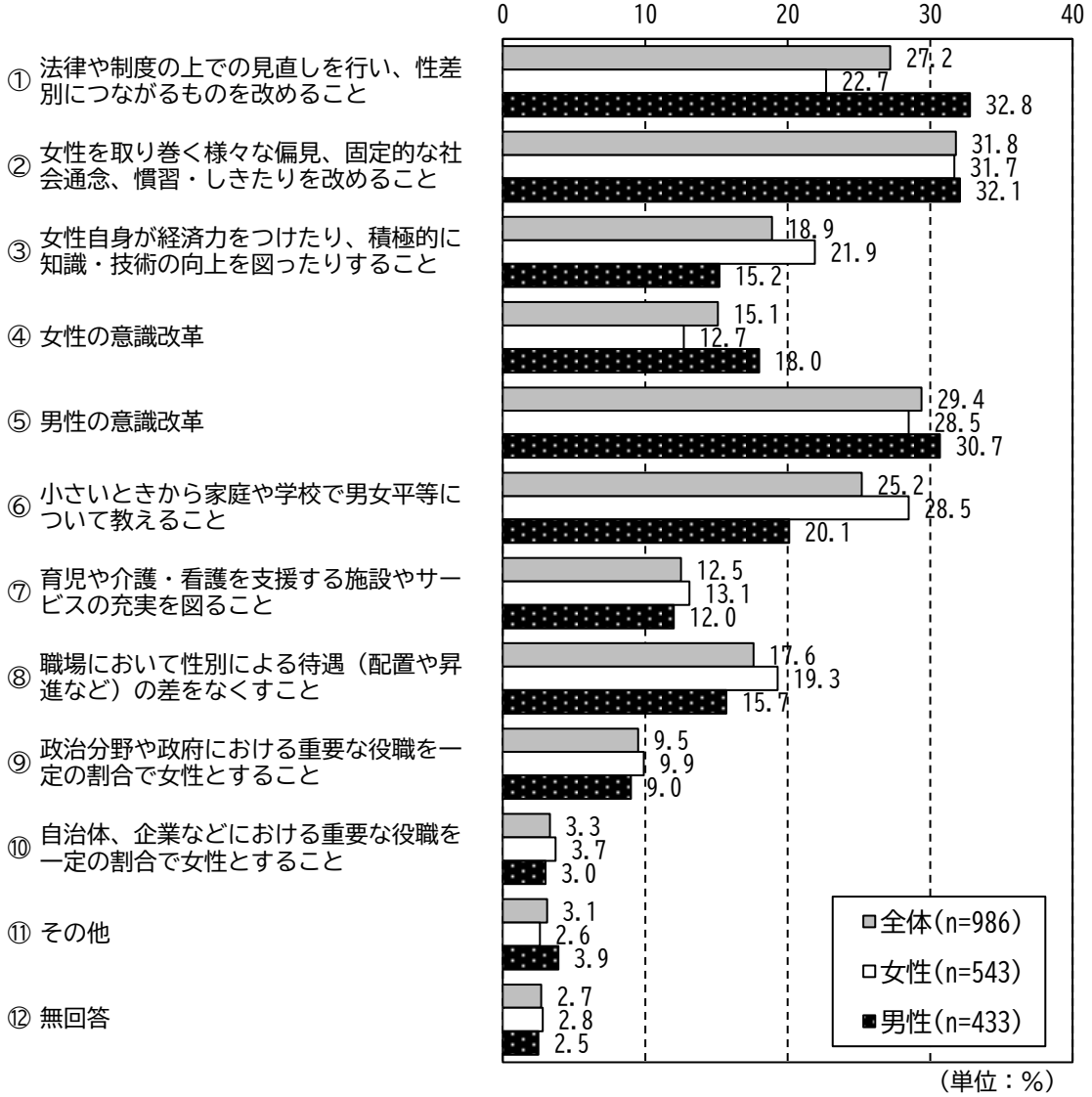


※「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた数値
※ 平成 26 年度及び令和元年度との比較ができる項目のみを抜粋

（２）男女平等の実現にとって最も重要なこと

問２３　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。（○は２つまで）

〔図表 8-2　男女平等の実現にとって最も重要なこと（性別）〕



男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 31.8%、次いで「男性の意識改革」が 29.4%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が 27.2%となっている。

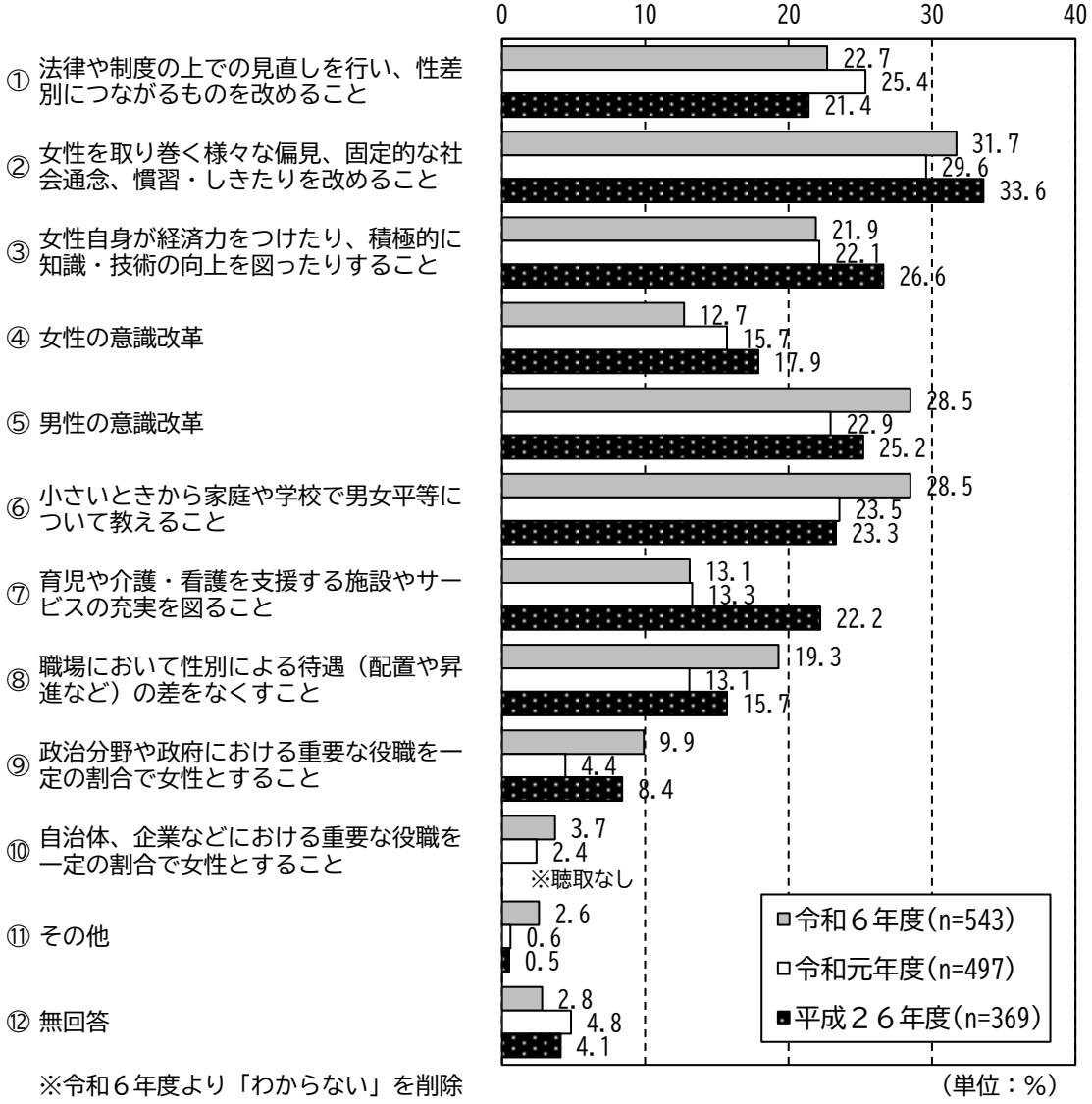
また、「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」は女性 28.5%、男性 20.1%で女性の方が 8.4 ポイント高くなっており、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」は女性 22.7%、男性 32.8%で男性の方が 10.1 ポイント高くなっている。（図表 8-2）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男性で「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が増加傾向にあり、女性では「女性の意識改革」が減少傾向。「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」は女性では増加しているものの、男性では減少している。（図表 8-2-1）

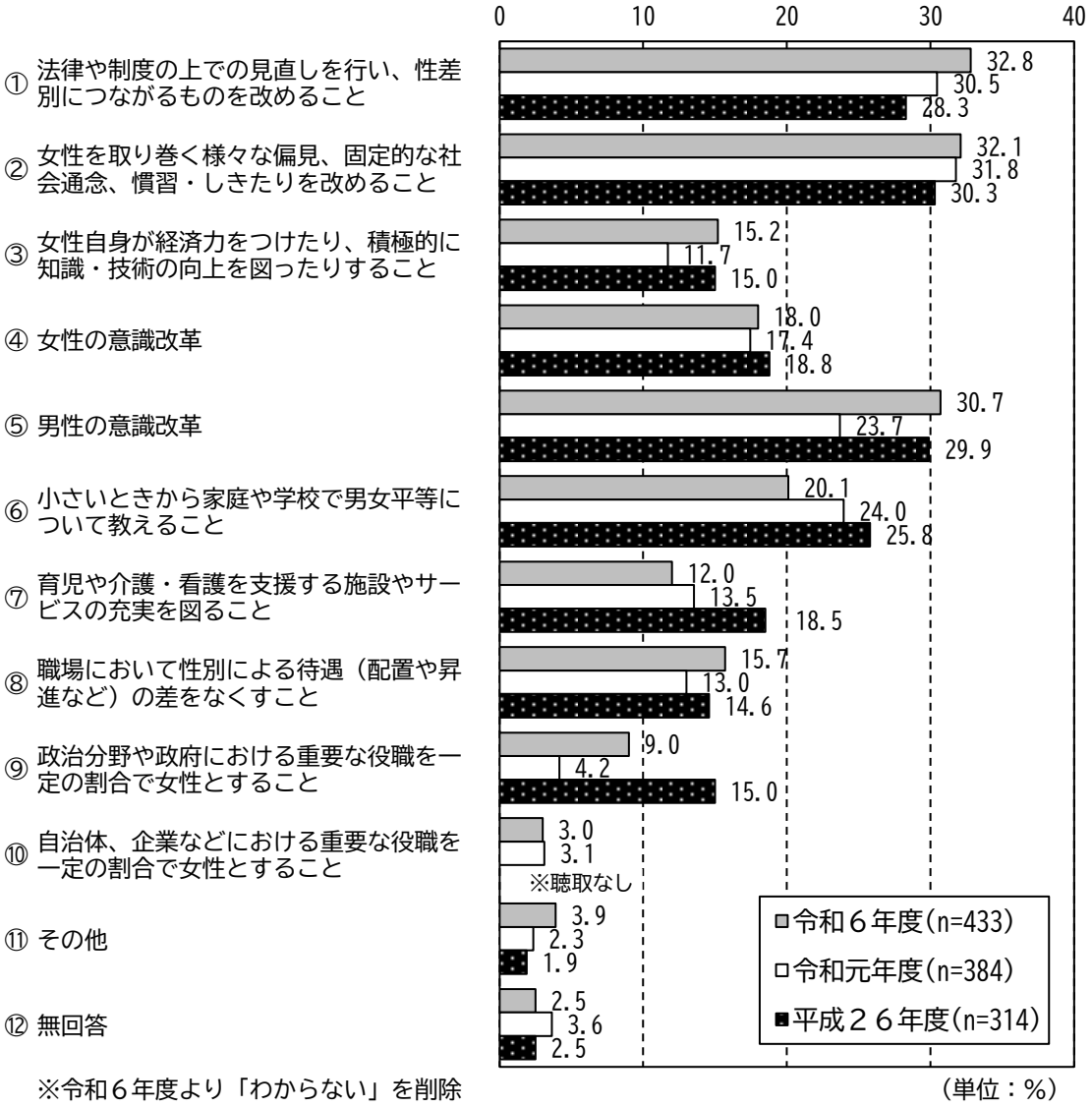
〔図表 8-2-1　男女平等の実現にとって最も重要なこと（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



※令和６年度より「わからない」を削除

〈男性〉



※令和６年度より「わからない」を削除

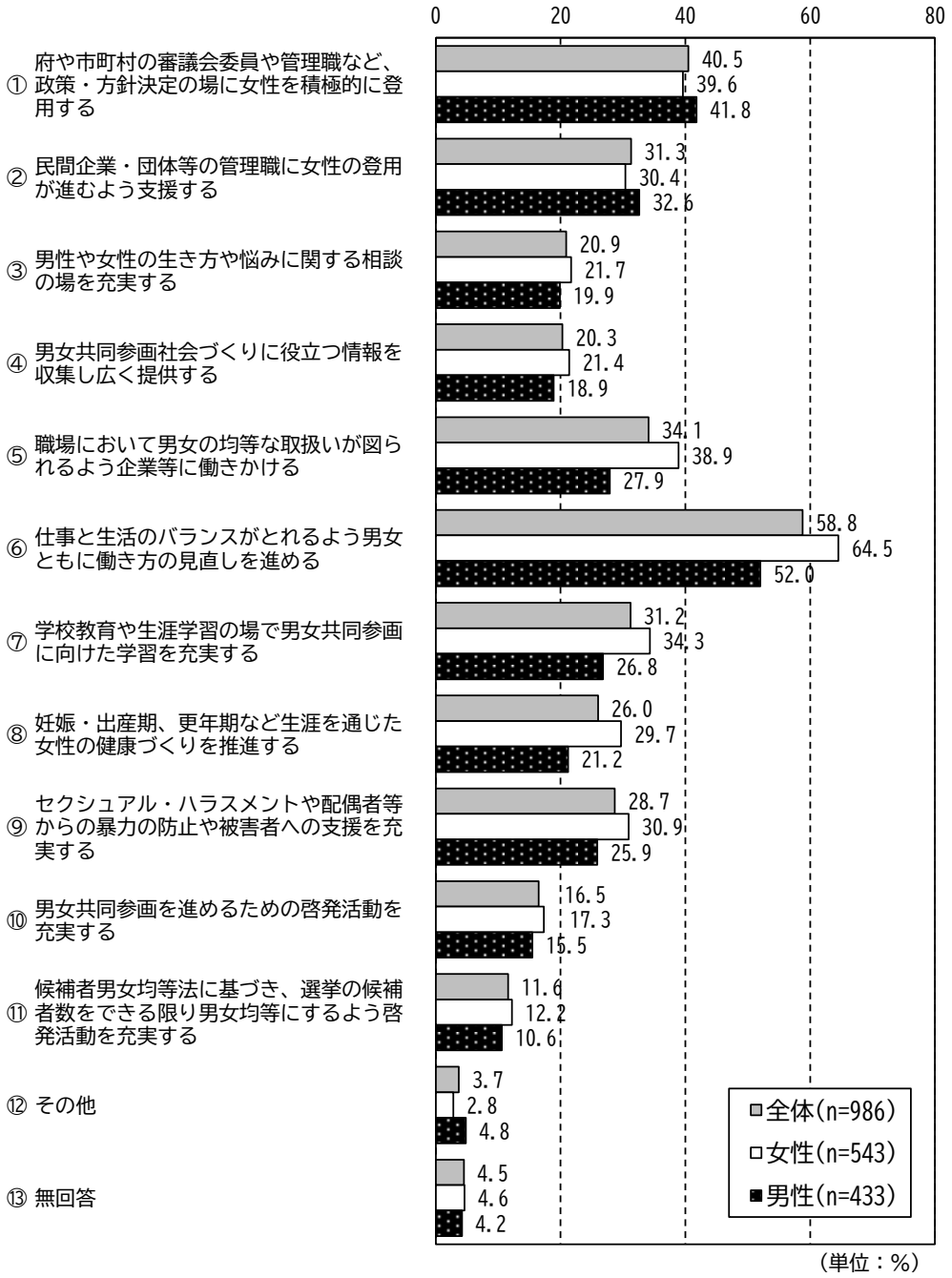
（単位：％）

9　男女共同参画社会の推進に向けて

（1）男女共同参画社会を推進するために府や市町村がするべきこと

問２４　あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、府や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○はいくつでも）

〔図表 9-1　男女共同参画社会を推進するために府や市町村がするべきこと（性別）〕



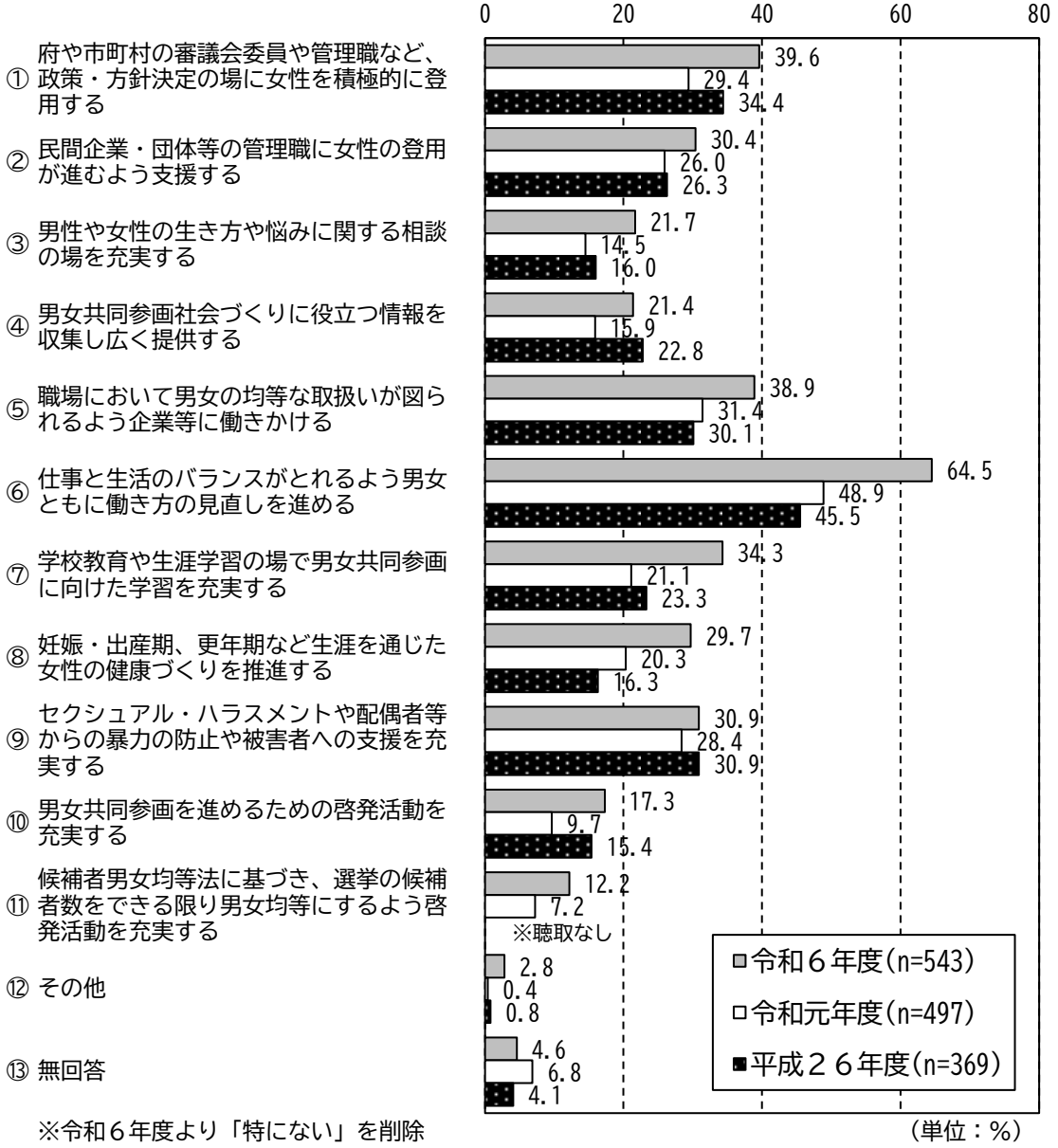
男女共同参画社会の推進に向けて、府や市町村が力を入れていくべきことは、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が 58.8%で最も高く、次いで「府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が 40.5%となっている。性別でみると、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」は女性の方が男性より 10 ポイント以上高くなっている。（図表 9-1）

【過去の調査との比較】

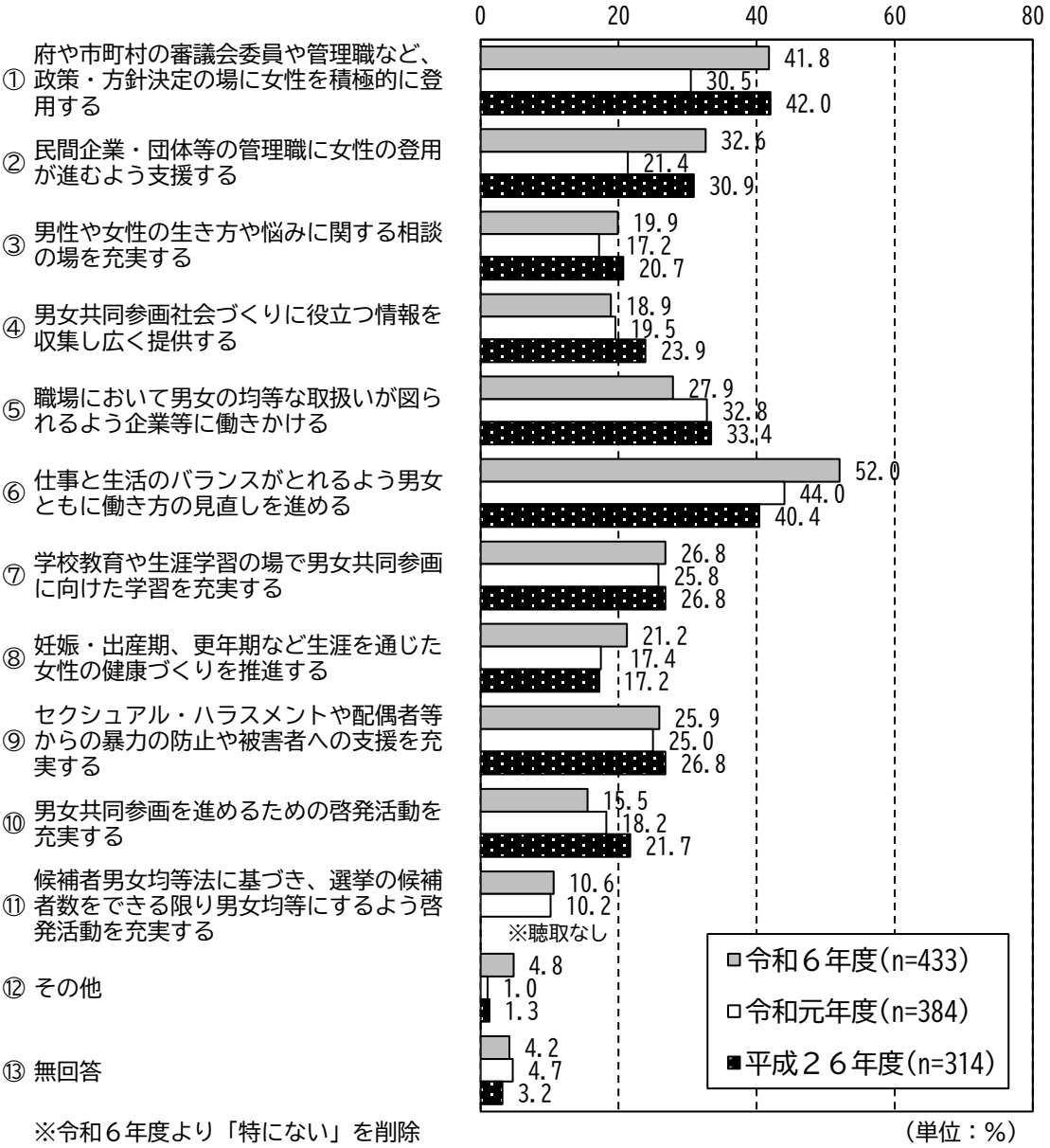
令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女とも「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が増加傾向にあり、前回から女性で 15.6 ポイント、男性で 8.0 ポイント増加している。女性では、「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する」も 13.2 ポイント増加している。(図表 9-1-1)

〔図表 9-1-1　男女共同参画社会を推進するために府や市町村がするべきこと（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



〈男性〉



※令和６年度より「特にない」を削除

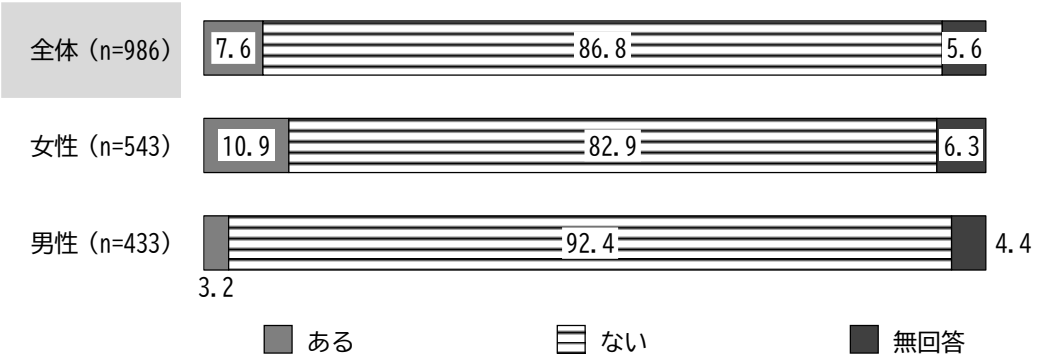
（単位：％）

１０　暴力の被害経験について

（１）性暴力・性犯罪被害経験

問２５　あなたはこれまでに、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。あてはまる番号１つに〇をつけてください。

〔図表 10-1　性暴力・性犯罪被害経験（**性別**）〕

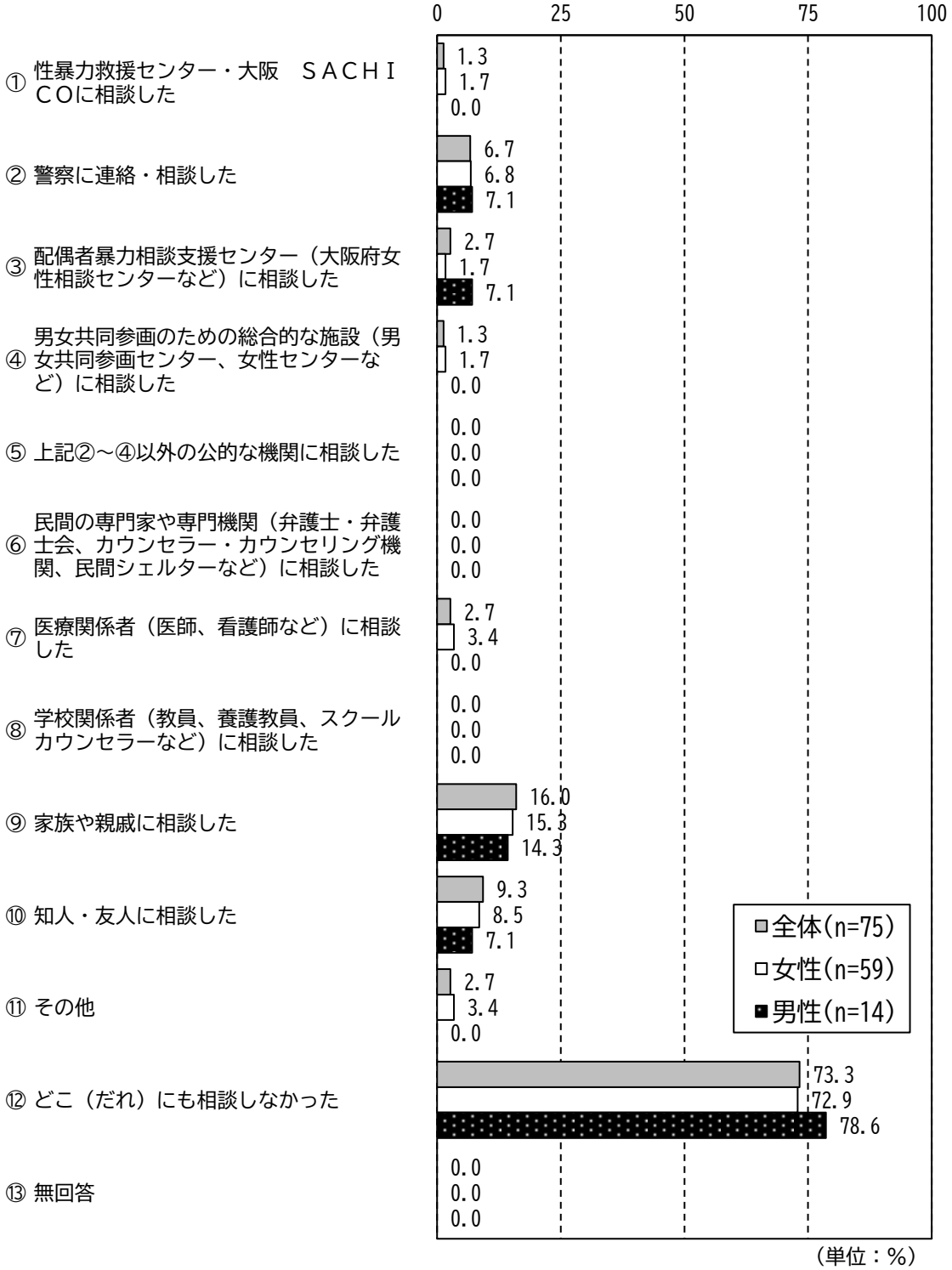


性暴力・性犯罪被害経験が「ある」女性は 10.9%、男性は 3.2%である。（図表 10-1）

（２）性暴力・性犯罪被害の相談先

問２５－１　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

〔図表 10-2　性暴力・性犯罪被害の相談先（**性別**）〕

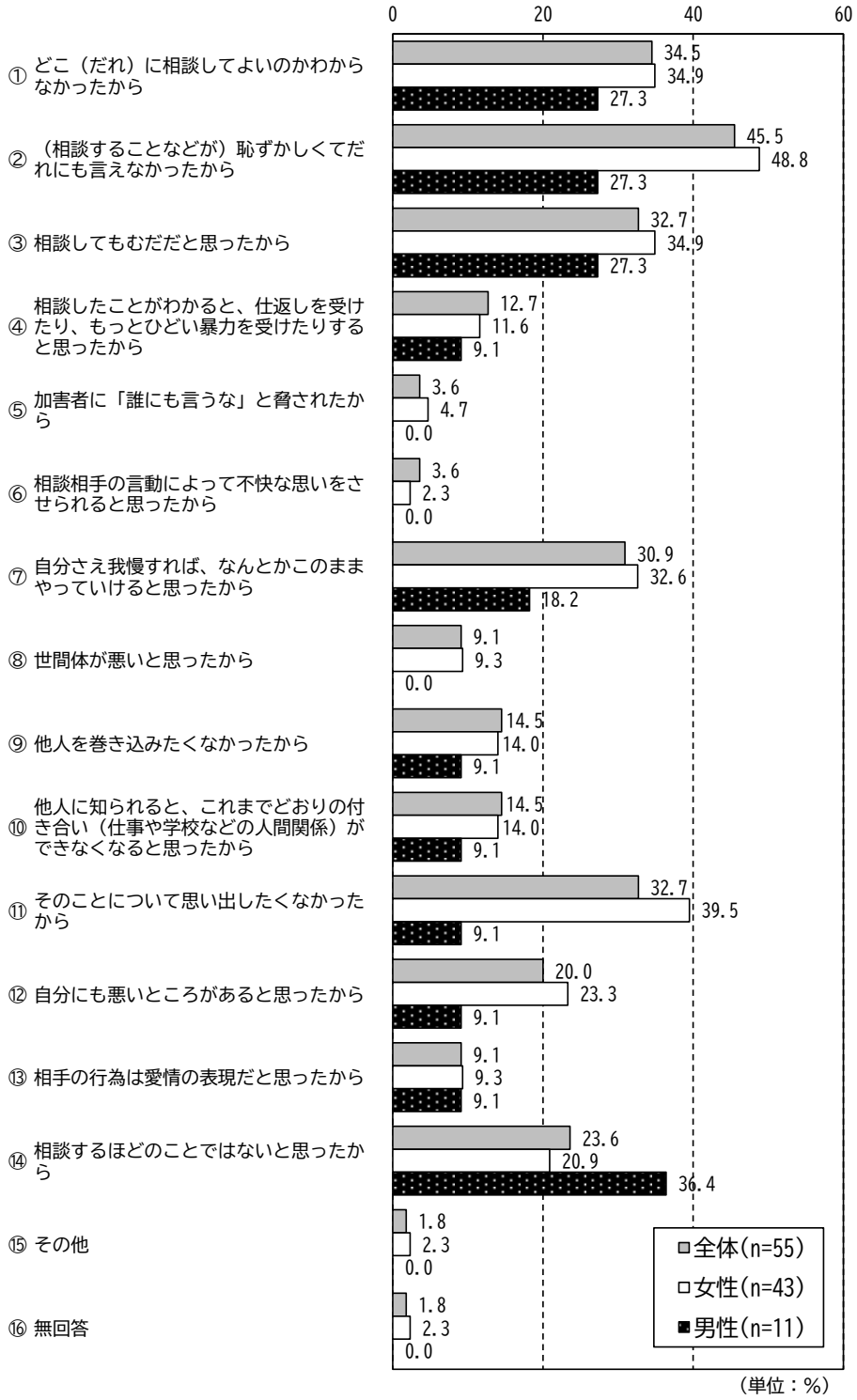


性暴力・性犯罪被害については「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 73.3％で最も高い。次いで「家族や親戚に相談した」が 16.0％、「知人・友人に相談した」が 9.3％となっている。（図表 10-2）

（３）性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由

問２５－２　あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

〔図表 10-3　性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由（性別）〕

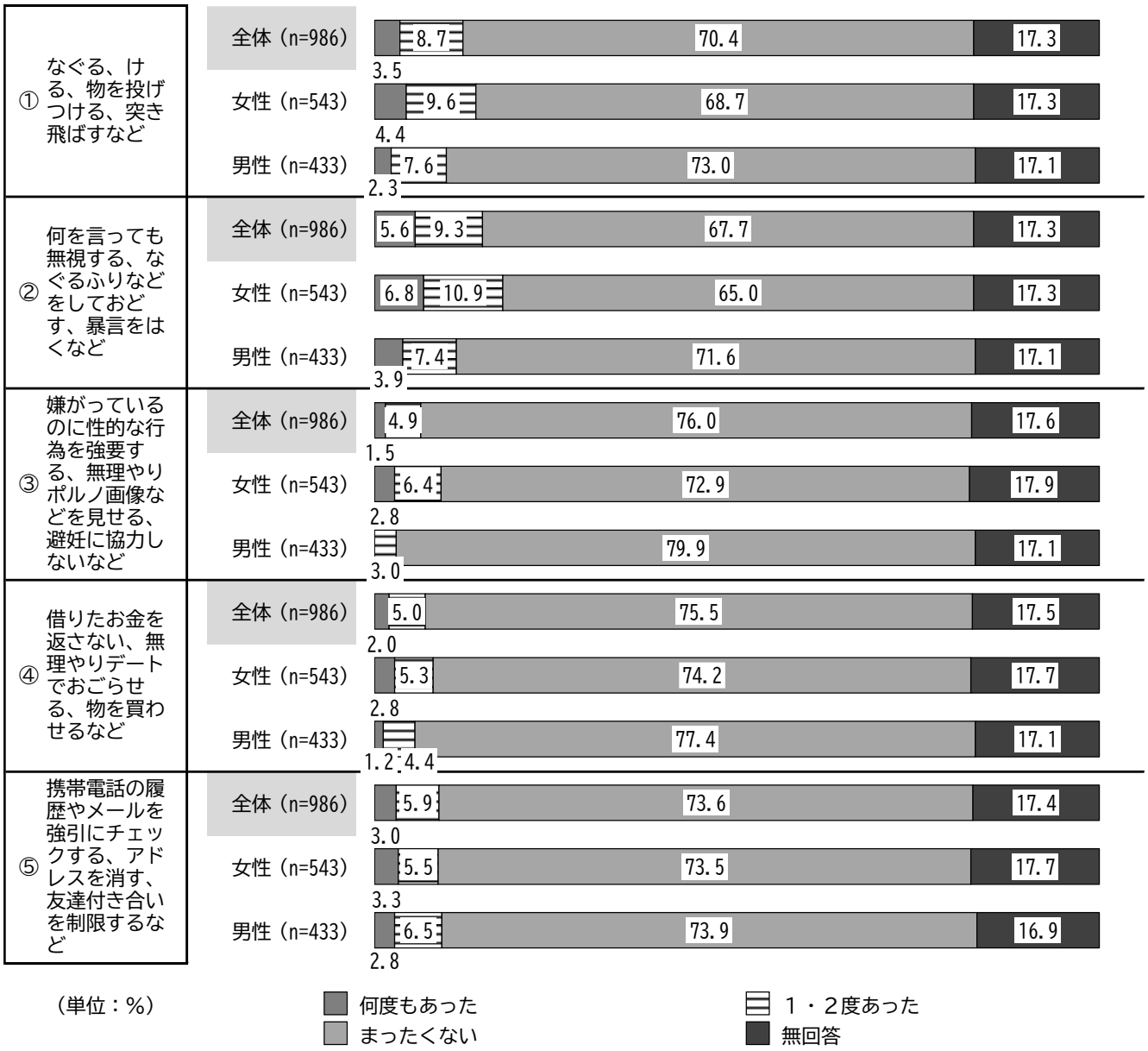


性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由は、「（相談することなどが）恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 45.5％で最も高く、次いで「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」（34.5％）、「相談してもむだだと思ったから」（32.7％）、「そのことについて思い出したくなかったから」（32.7％）、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（30.9％）が 3 割台で続いている。（図表 10-3）

（４）交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験

問２６　交際相手から、次のようなことを受けた・されたことがありますか。（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 10-4　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験（**性別**）〕



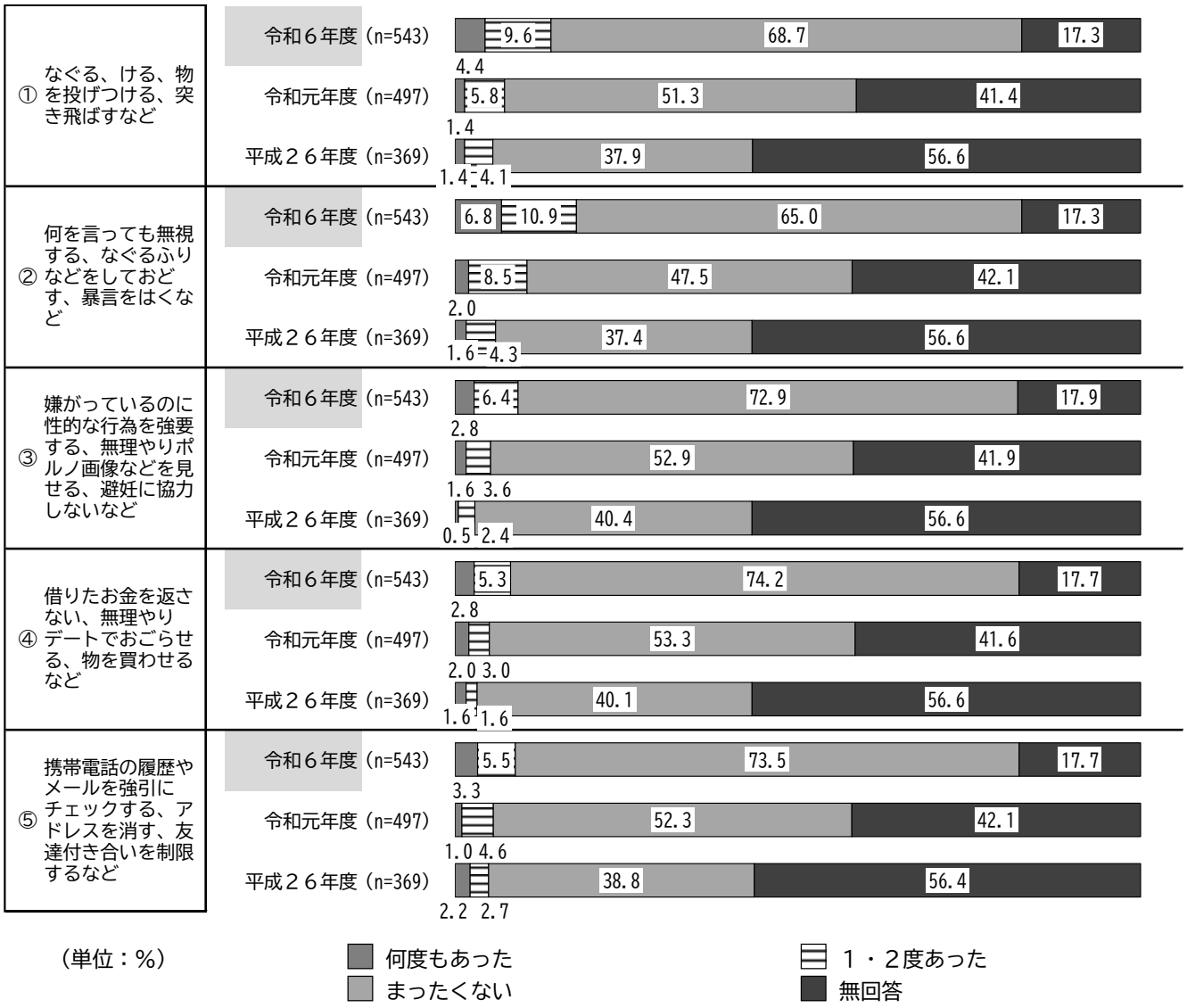
交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験について「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 5.6%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 3.5%となっている。『あった』（「何度もあった」と「１・２度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 14.9%で最も高い。（図表 10-4）

【過去の調査との比較】

令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、男女ともに『あった』は全ての項目で増加している。（図表 10-4-1）

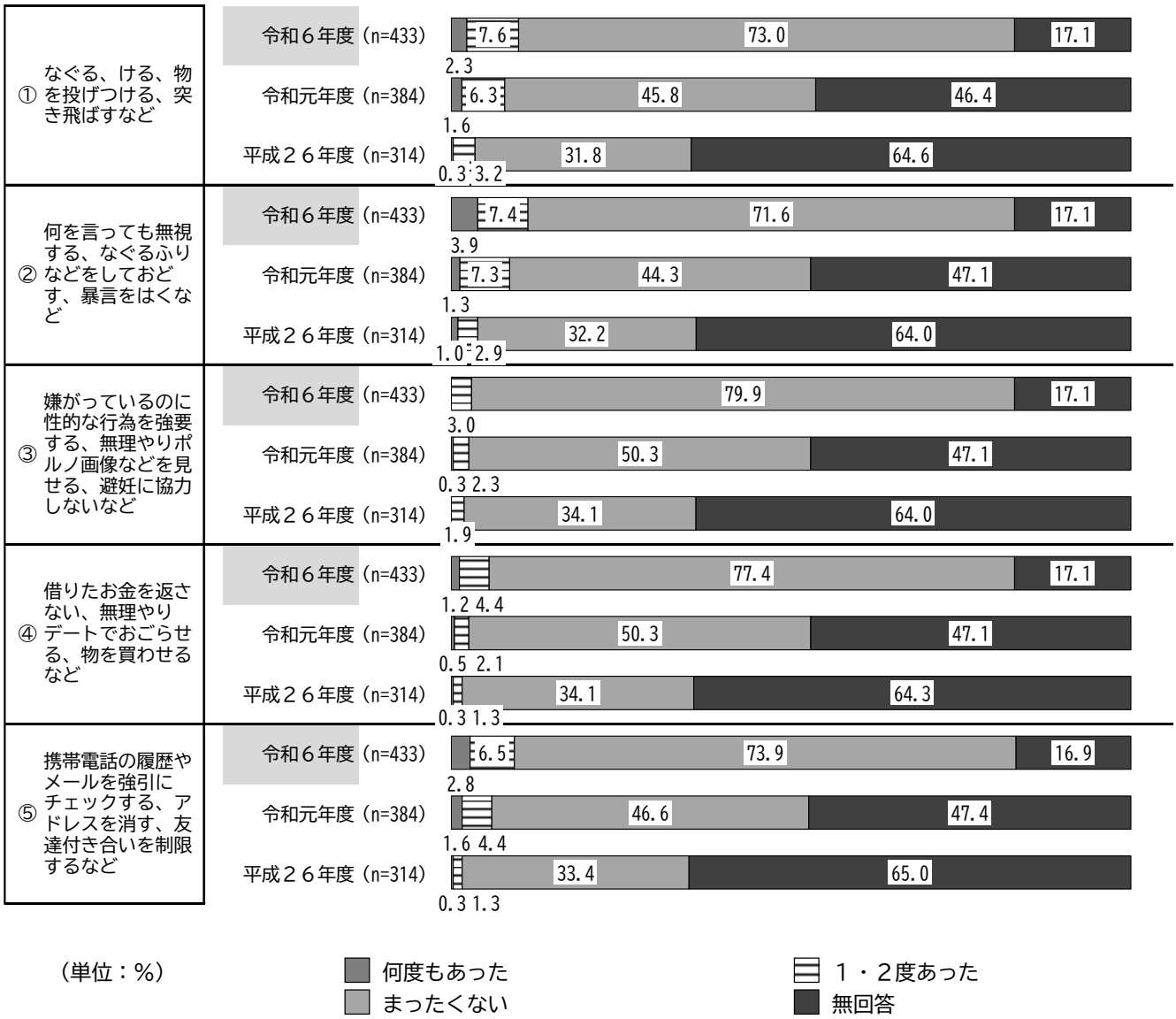
〔図表 10-4-1　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験(**過去調査との比較**)〕

〈女性〉



※令和６年度より質問文を変更
　過去調査の質問文：10 代、20 代に、交際相手があなたに対して、次のようなことをしたことがありますか。

〈男性〉



※令和６年度より質問文を変更
　過去調査の質問文：10 代、20 代に、交際相手があなたに対して、次のようなことをしたことがありますか。

①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど

〔図表 10-4-2　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験識（性・年代別）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	3.5	8.7	70.4	17.3
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	7.8	82.4	9.8
		30歳代	74	8.1	14.9	74.3	2.7
		40歳代	86	5.8	11.6	75.6	7.0
		50歳代	115	4.3	11.3	73.0	11.3
		60歳以上	215	3.7	6.5	58.6	31.2
	男性	18～29歳	41	－	4.9	75.6	19.5
		30歳代	52	11.5	11.5	67.3	9.6
		40歳代	62	4.8	8.1	77.4	9.7
		50歳代	92	－	14.1	79.3	6.5
		60歳以上	186	0.5	3.8	69.4	26.3

※ ▭ は、属性中トップの項目

②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど

〔図表 10-4-3　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験識（性・年代別）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	5.6	9.3	67.7	17.3
性×年代別	女性	18～29歳	51	2.0	9.8	78.4	9.8
		30歳代	74	16.2	13.5	67.6	2.7
		40歳代	86	8.1	15.1	69.8	7.0
		50歳代	115	6.1	10.4	72.2	11.3
		60歳以上	215	4.7	8.8	55.3	31.2
	男性	18～29歳	41	2.4	4.9	73.2	19.5
		30歳代	52	13.5	13.5	63.5	9.6
		40歳代	62	4.8	8.1	77.4	9.7
		50歳代	92	2.2	9.8	81.5	6.5
		60歳以上	186	2.2	4.8	66.7	26.3

※ ▭ は、属性中トップの項目

③嫌がっているのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど

〔図表 10-4-4　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	1.5	4.9	76.0	17.6
性×年代別	女性	18～29歳	51	2.0	7.8	80.4	9.8
		30歳代	74	6.8	10.8	78.4	4.1
		40歳代	86	3.5	10.5	77.9	8.1
		50歳代	115	4.3	6.1	78.3	11.3
		60歳以上	215	0.5	3.3	64.7	31.6
	男性	18～29歳	41	－	2.4	78.0	19.5
		30歳代	52	－	5.8	84.6	9.6
		40歳代	62	－	3.2	87.1	9.7
		50歳代	92	－	5.4	88.0	6.5
		60歳以上	186	－	1.1	72.6	26.3

※ ▒ は、属性中トップの項目

④借りたお金を返さない、無理やりデートでおごらせる、物を買わせるなど

〔図表 10-4-5　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	2.0	5.0	75.5	17.5
性×年代別	女性	18～29歳	51	2.0	2.0	86.3	9.8
		30歳代	74	6.8	10.8	78.4	4.1
		40歳代	86	4.7	9.3	79.1	7.0
		50歳代	115	3.5	4.3	80.9	11.3
		60歳以上	215	0.5	3.3	64.7	31.6
	男性	18～29歳	41	－	2.4	78.0	19.5
		30歳代	52	3.8	11.5	75.0	9.6
		40歳代	62	3.2	6.5	80.6	9.7
		50歳代	92	1.1	3.3	89.1	6.5
		60歳以上	186	－	2.7	71.0	26.3

※ ▒ は、属性中トップの項目

⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど

〔図表 10-4-6　交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

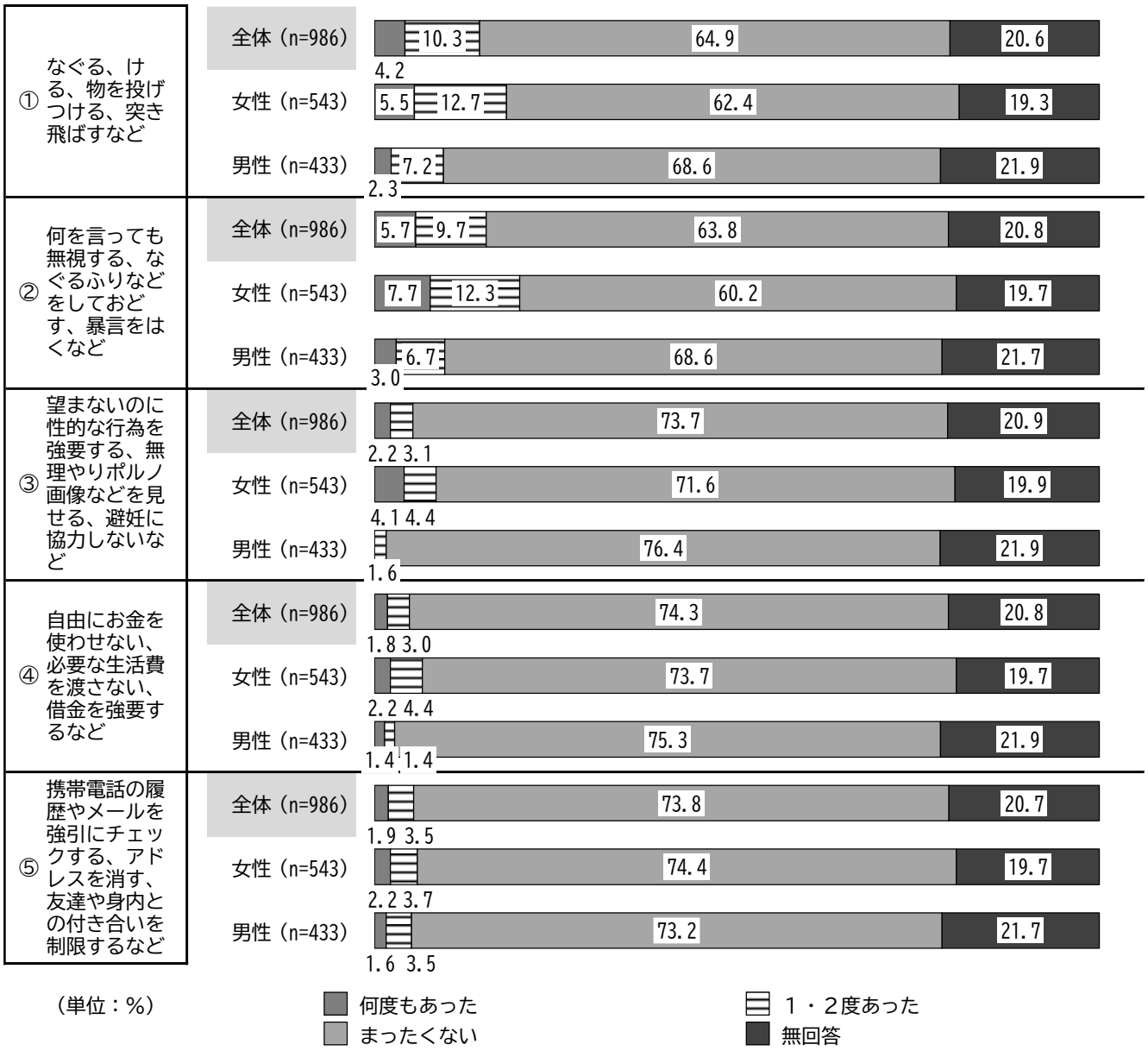
			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	3.0	5.9	73.6	17.4
性×年代別	女性	18～29歳	51	3.9	9.8	76.5	9.8
		30歳代	74	6.8	13.5	75.7	4.1
		40歳代	86	5.8	7.0	80.2	7.0
		50歳代	115	3.5	7.0	78.3	11.3
		60歳以上	215	0.9	0.5	67.0	31.6
	男性	18～29歳	41	4.9	7.3	68.3	19.5
		30歳代	52	7.7	19.2	63.5	9.6
		40歳代	62	3.2	12.9	74.2	9.7
		50歳代	92	2.2	5.4	85.9	6.5
		60歳以上	186	1.1	1.1	72.0	25.8

※ ▒ は、属性中トップの項目

（５）配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験

問２７　これまでに配偶者・パートナーから、次のようなことを受けた・されたことがありますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

〔図表 10-5　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験（**性別**）〕



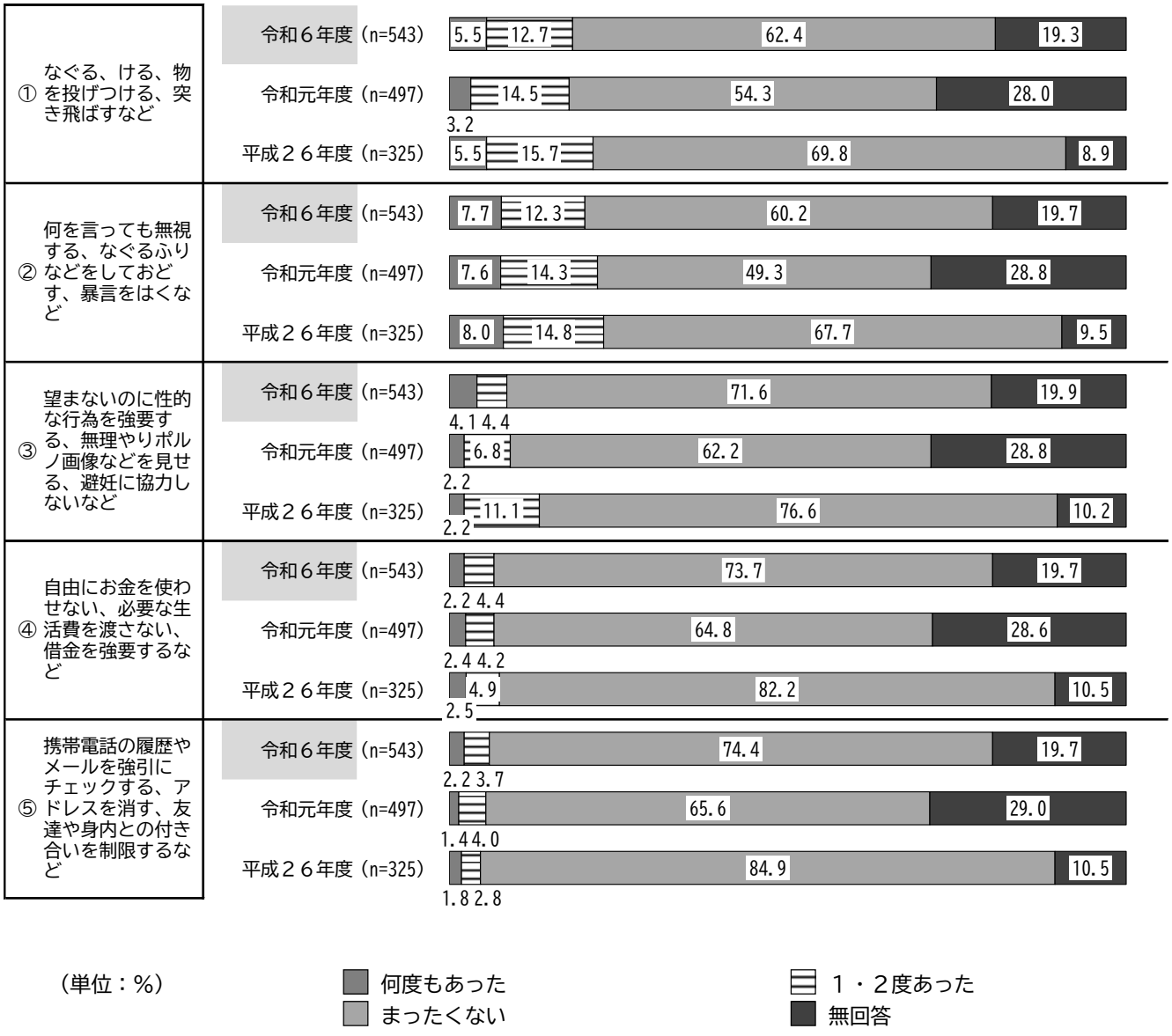
配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験を「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 5.7%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 4.2%となっている。『あった』（「何度もあった」と「１・２度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 15.4%で最も高い。（図表 10-5）

【過去の調査との比較】

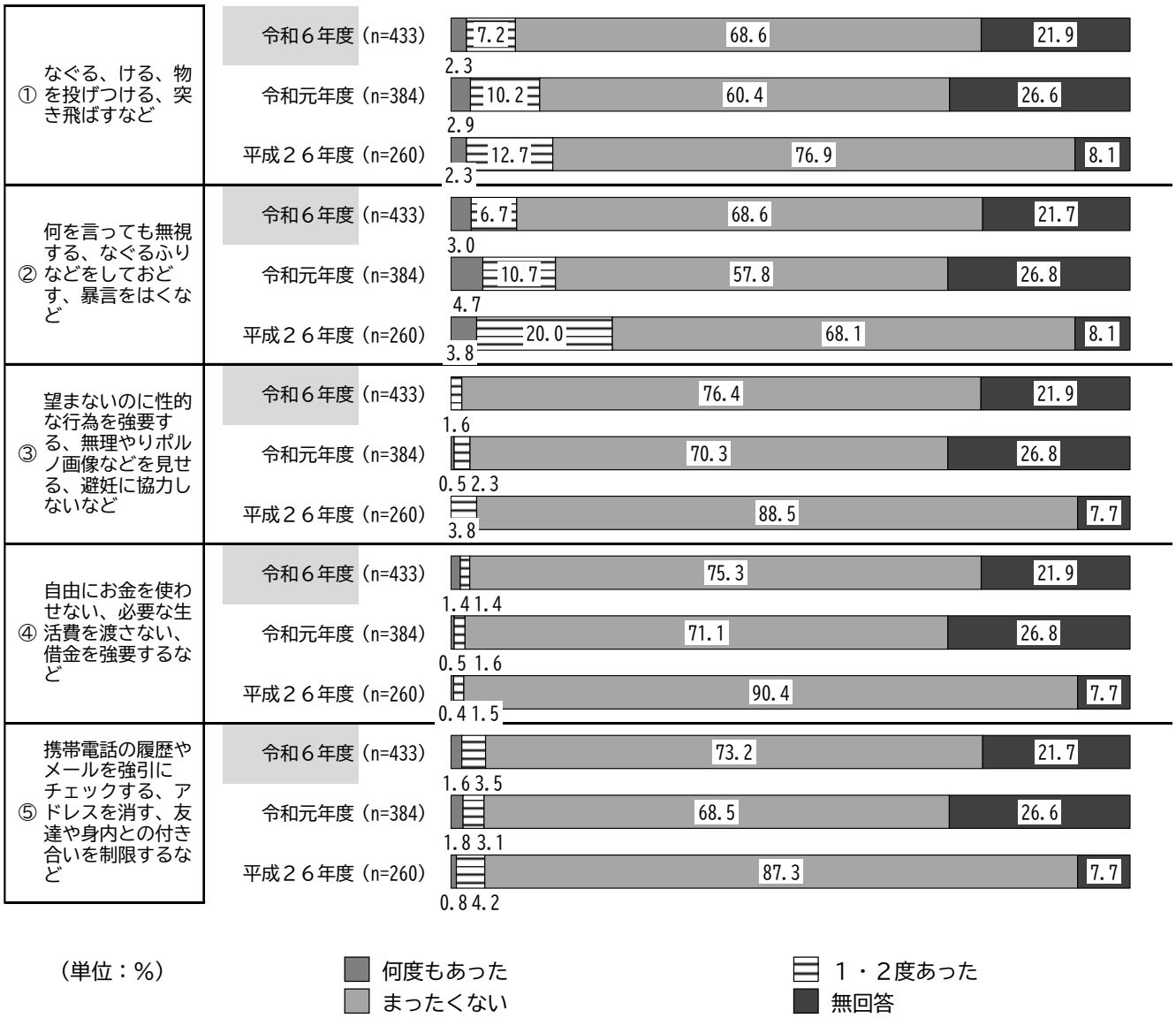
令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、『あった』は男女とも「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」で減少しており、女性では「望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど」、男性では「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」も減少傾向にある。（図表 10-5-1）

〔図表 10-5-1　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験（**過去調査との比較**）〕

〈女性〉



〈男性〉


① なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど
令和６年度（n=433）
7.2
68.6
21.9
2.3
令和元年度（n=384）
10.2
60.4
26.6
2.9
平成２６年度（n=260）
12.7
76.9
8.1
2.3
② 何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど
令和６年度（n=433）
6.7
68.6
21.7
3.0
令和元年度（n=384）
10.7
57.8
26.8
4.7
平成２６年度（n=260）
20.0
68.1
8.1
3.8
③ 望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど
令和６年度（n=433）
76.4
21.9
1.6
令和元年度（n=384）
70.3
26.8
0.5 2.3
平成２６年度（n=260）
88.5
7.7
3.8
④ 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど
令和６年度（n=433）
75.3
21.9
1.4 1.4
令和元年度（n=384）
71.1
26.8
0.5 1.6
平成２６年度（n=260）
90.4
7.7
0.4 1.5
⑤ 携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど
令和６年度（n=433）
73.2
21.7
1.6 3.5
令和元年度（n=384）
68.5
26.6
1.8 3.1
平成２６年度（n=260）
87.3
7.7
0.8 4.2
（単位：％）
何度もあった
１・２度あった
まったくない
無回答

①なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど

〔図表 10-5-2　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	4.2	10.3	64.9	20.6
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	－	41.2	58.8
		30歳代	74	5.4	14.9	60.8	18.9
		40歳代	86	4.7	10.5	64.0	20.9
		50歳代	115	5.2	14.8	65.2	14.8
		60歳以上	215	7.4	14.9	66.0	11.6
	男性	18～29歳	41	－	4.9	39.0	56.1
		30歳代	52	7.7	9.6	61.5	21.2
		40歳代	62	6.5	6.5	69.4	17.7
		50歳代	92	－	12.0	65.2	22.8
		60歳以上	186	1.1	4.8	78.5	15.6

※ ▭ は、属性中トップの項目

②何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど

〔図表 10-5-3　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	5.7	9.7	63.8	20.8
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	2.0	39.2	58.8
		30歳代	74	13.5	14.9	52.7	18.9
		40歳代	86	9.3	16.3	53.5	20.9
		50歳代	115	8.7	14.8	61.7	14.8
		60歳以上	215	6.5	11.2	69.8	12.6
	男性	18～29歳	41	－	2.4	41.5	56.1
		30歳代	52	5.8	9.6	63.5	21.2
		40歳代	62	3.2	6.5	72.6	17.7
		50歳代	92	1.1	10.9	65.2	22.8
		60歳以上	186	3.8	4.8	76.3	15.1

※ ▭ は、属性中トップの項目

③望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど

〔図表 10-5-4　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	2.2	3.1	73.7	20.9
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	－	41.2	58.8
		30歳代	74	8.1	5.4	67.6	18.9
		40歳代	86	3.5	3.5	72.1	20.9
		50歳代	115	5.2	6.1	73.9	14.8
		60歳以上	215	3.3	4.7	79.1	13.0
	男性	18～29歳	41	－	－	43.9	56.1
		30歳代	52	－	1.9	76.9	21.2
		40歳代	62	－	1.6	80.6	17.7
		50歳代	92	－	3.3	73.9	22.8
		60歳以上	186	－	1.1	83.3	15.6

※ ▭ は、属性中トップの項目

④自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど

〔図表 10-5-5　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	1.8	3.0	74.3	20.8
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	－	41.2	58.8
		30歳代	74	2.7	5.4	73.0	18.9
		40歳代	86	1.2	4.7	73.3	20.9
		50歳代	115	3.5	3.5	78.3	14.8
		60歳以上	215	2.3	5.6	79.5	12.6
	男性	18～29歳	41	－	2.4	41.5	56.1
		30歳代	52	7.7	3.8	67.3	21.2
		40歳代	62	3.2	1.6	77.4	17.7
		50歳代	92	－	1.1	76.1	22.8
		60歳以上	186	－	0.5	83.9	15.6

※ ▭ は、属性中トップの項目

⑤携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど

〔図表 10-5-6　配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験識（**性・年代別**）〕

（単位：％）

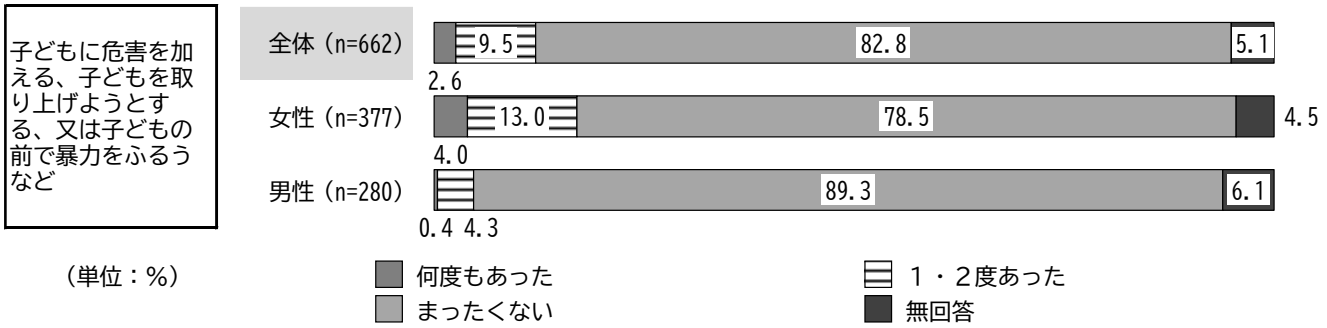
			サンプル数	①何度もあった	②1・2度あった	③まったくない	④無回答
全　体			986	1.9	3.5	73.8	20.7
性×年代別	女性	18～29歳	51	－	－	41.2	58.8
		30歳代	74	5.4	4.1	71.6	18.9
		40歳代	86	3.5	3.5	72.1	20.9
		50歳代	115	1.7	7.8	75.7	14.8
		60歳以上	215	1.4	2.3	83.7	12.6
	男性	18～29歳	41	－	7.3	36.6	56.1
		30歳代	52	7.7	5.8	65.4	21.2
		40歳代	62	3.2	3.2	75.8	17.7
		50歳代	92	－	5.4	71.7	22.8
		60歳以上	186	0.5	1.1	83.3	15.1

※ ▭ は、属性中トップの項目

（６）配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験

問２８　これまでに配偶者・パートナーから、次のようなことを受けた・されたことがありますか。
（○は１つだけ）

〔図表 10-6　配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験（**性別**）〕



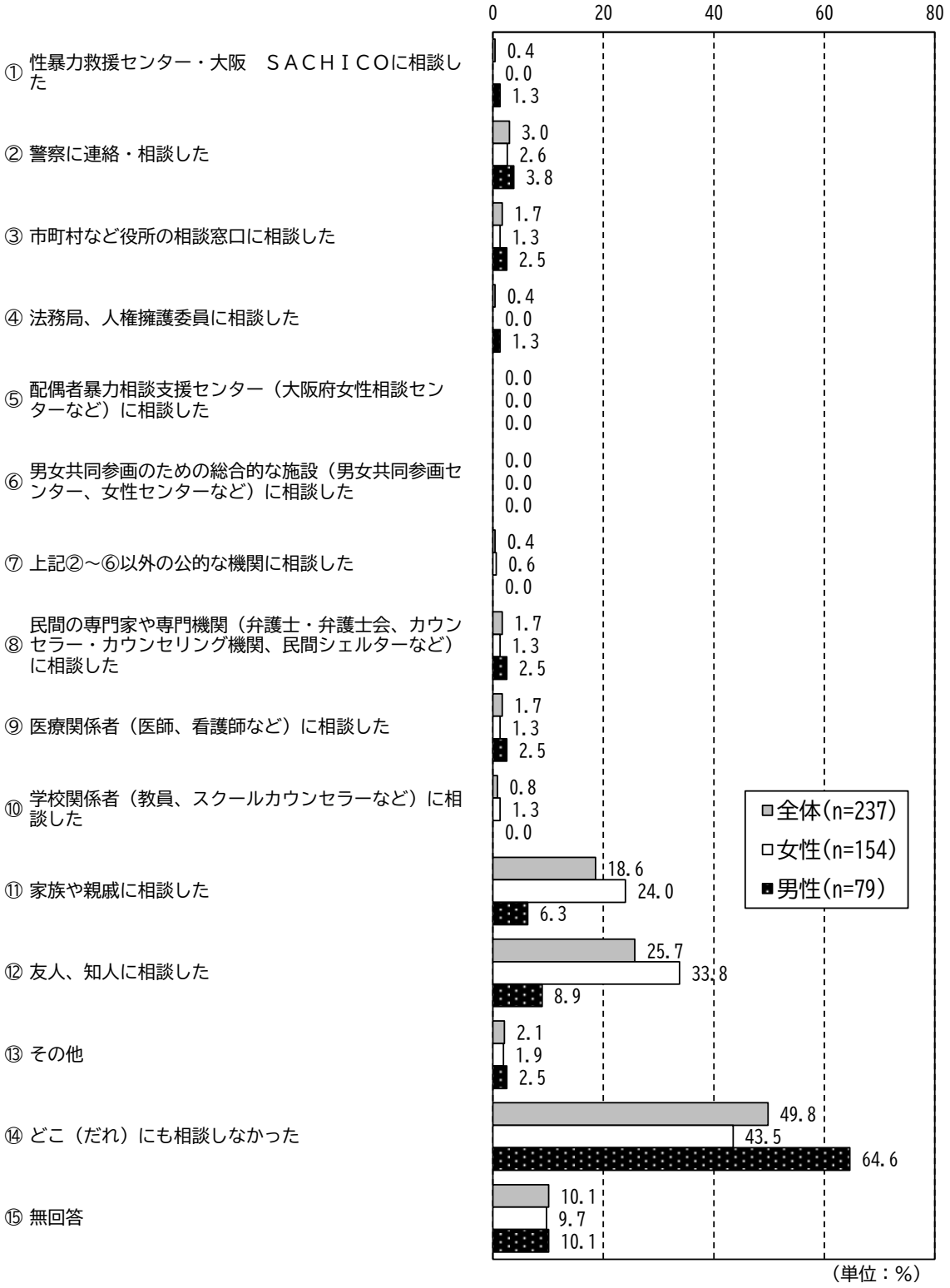
配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験は、「何度もあった」が 2.6%、「１・２度あった」が 9.5%となっており、性別でみると女性のほうが「何度もあった」が 4.0%と、男性より 3.6 ポイント高い。（図表 10-6）

（7）デートＤＶ、ＤＶの被害の相談先

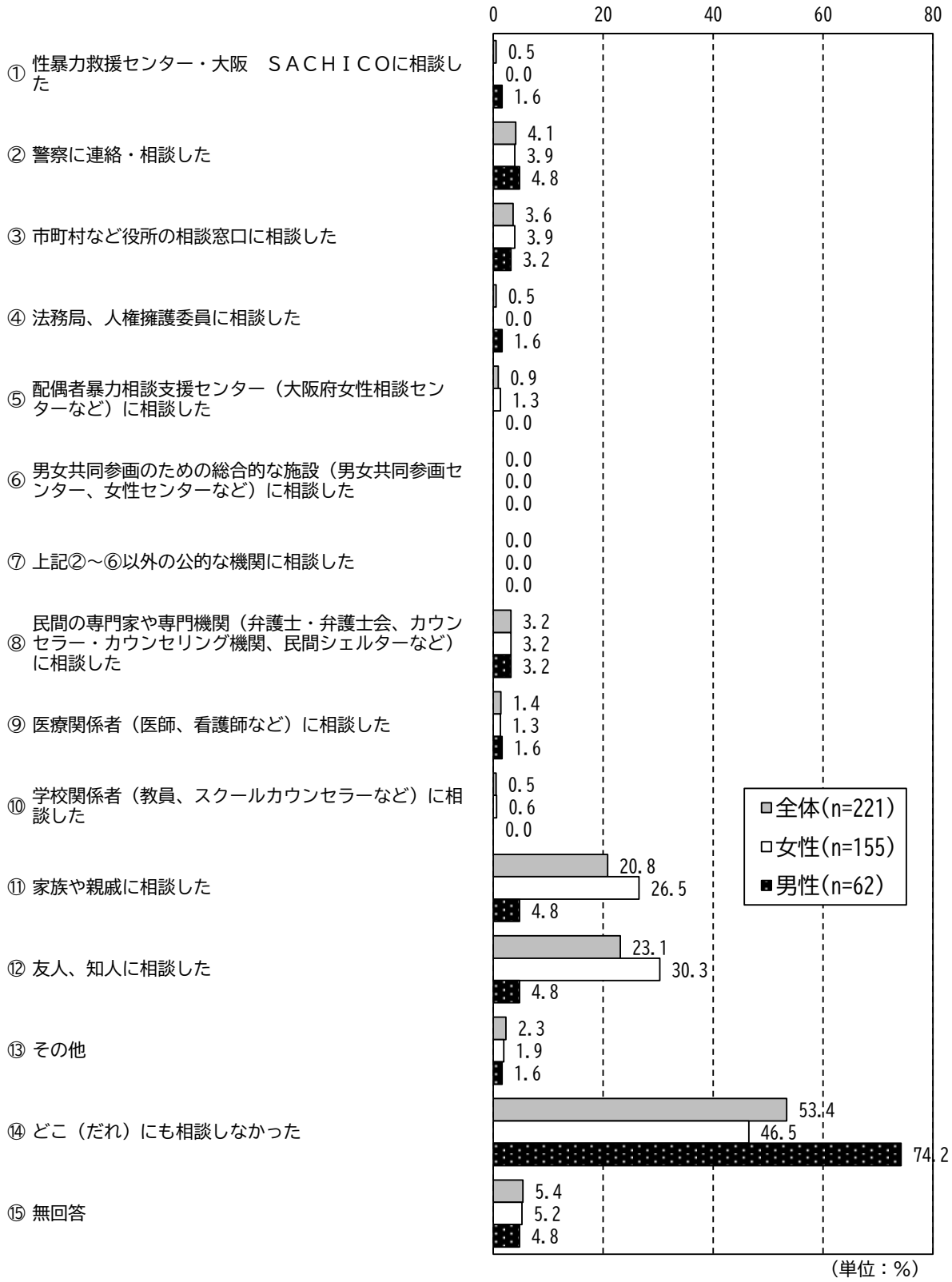
問２９　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

〔図表 10-7　デートＤＶ、ＤＶの被害の相談先（性別）〕

〈交際相手からの暴力（デートＤＶ）〉



〈配偶者等からの暴力（ＤＶ）〉



被害の相談先をみると、デートＤＶ、ＤＶとも約 5 割が「どこ（だれ）にも相談しなかった」としており、ＤＶ被害の場合、特に男性の割合が高くなっている。

相談先は、デートＤＶ被害の場合は「友人、知人」(25.7％) が最も高く、次いで、「家族や親戚」(18.6％) で、相談機関では「警察」が 3.0％となっている。

ＤＶ被害の場合も、主な相談先は「友人、知人」(23.1％)、「家族や親戚」(20.8％) となっている。相談機関では「警察」が 4.1％、「市町村など役所の相談窓口」が 3.6％となっている。(図表 10-7)

【過去の調査との比較】

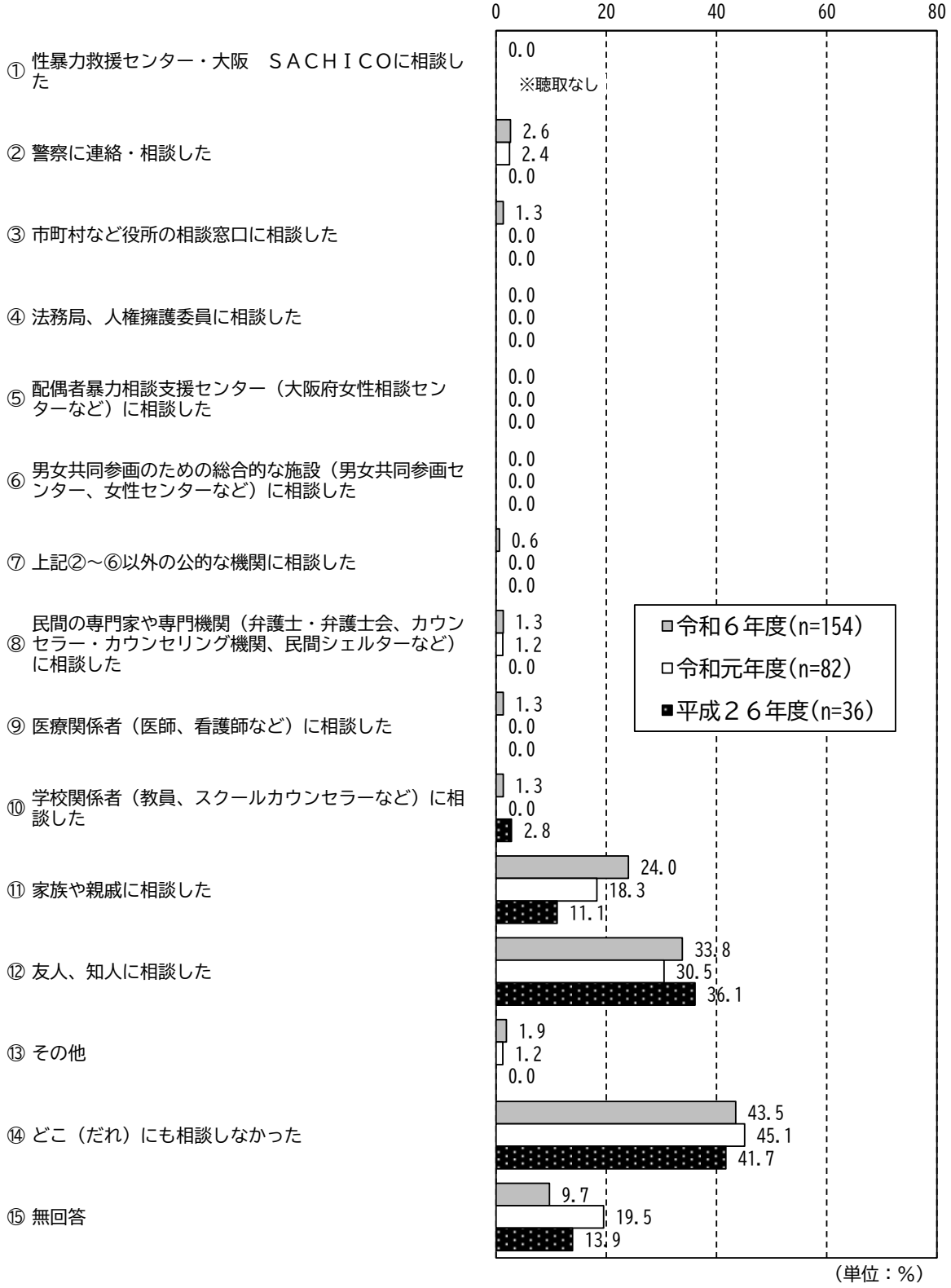
令和元年度及び平成 26 年度調査と比較をすると、デートＤＶでは、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が前回から女性でやや低下、男性で増加している。相談先は「家族や親戚」が女性で増加傾向。

ＤＶでは男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が前回から増加しており、相談先は「友人、知人」が男性で減少傾向となっている。（図表 10-7-1）

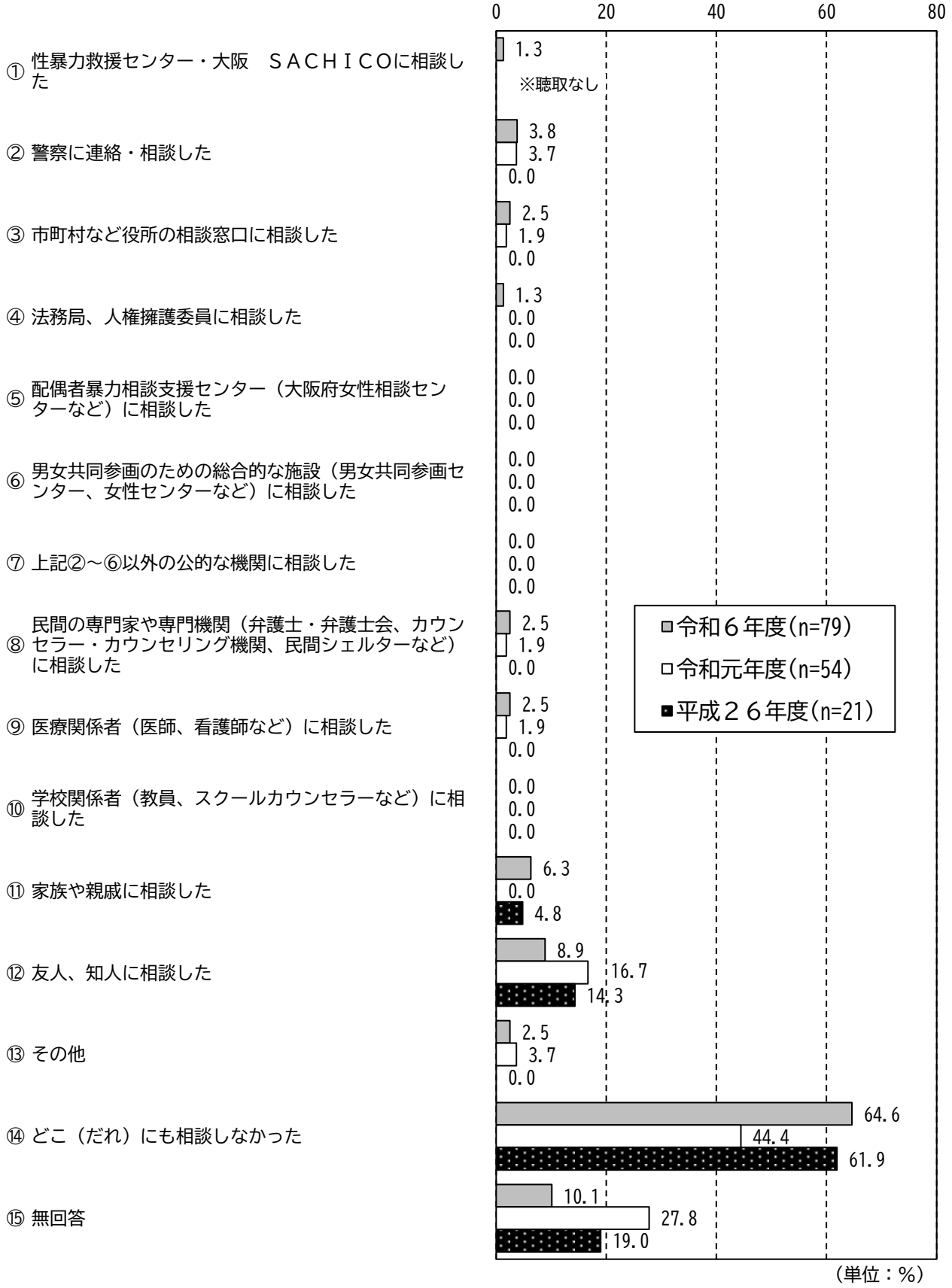
〔図表 10-7-1　デートＤＶ、ＤＶの被害の相談先（**過去調査との比較**）〕

〈交際相手からの暴力（デートＤＶ）〉

〈女性〉

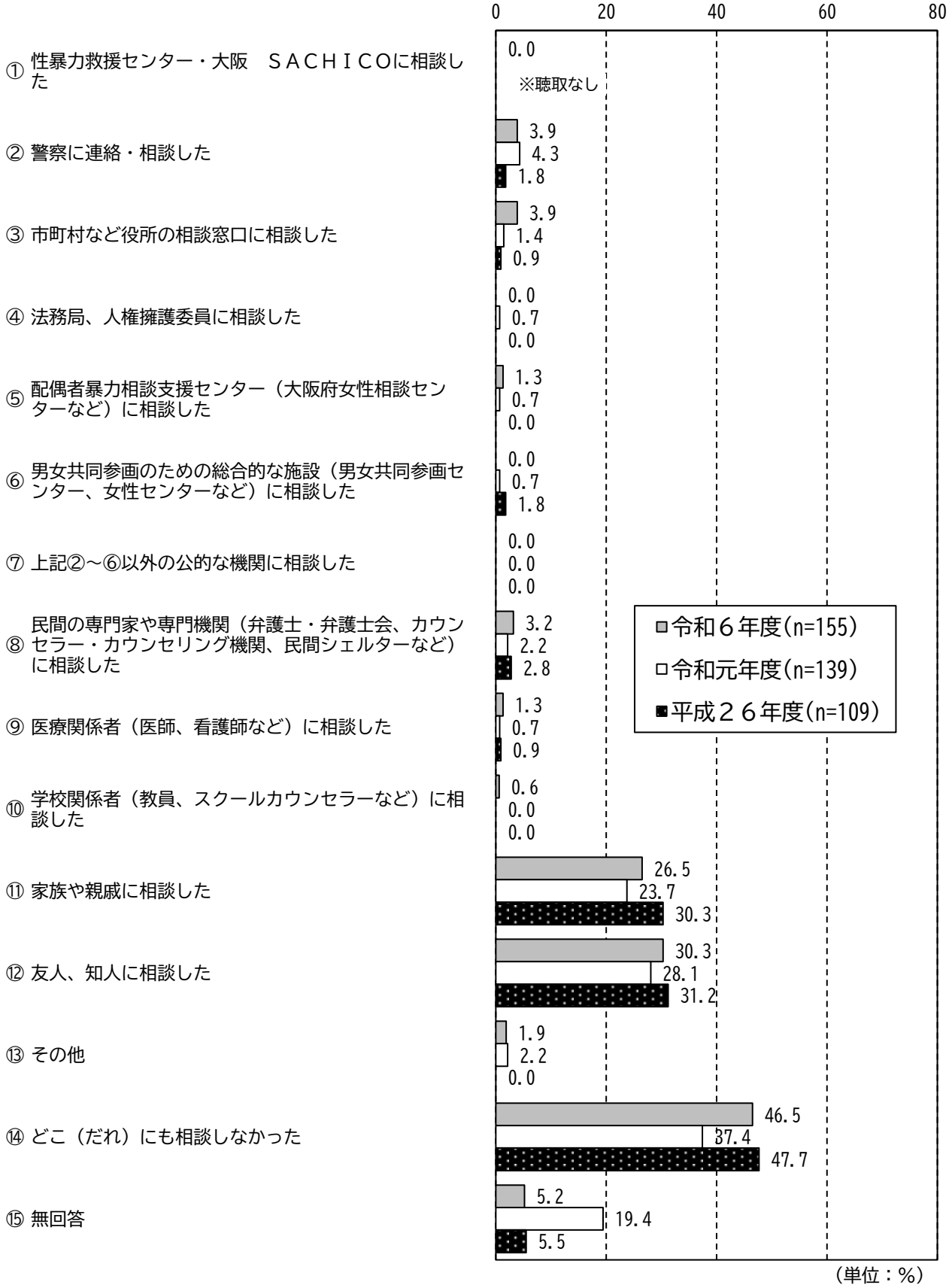


〈男性〉

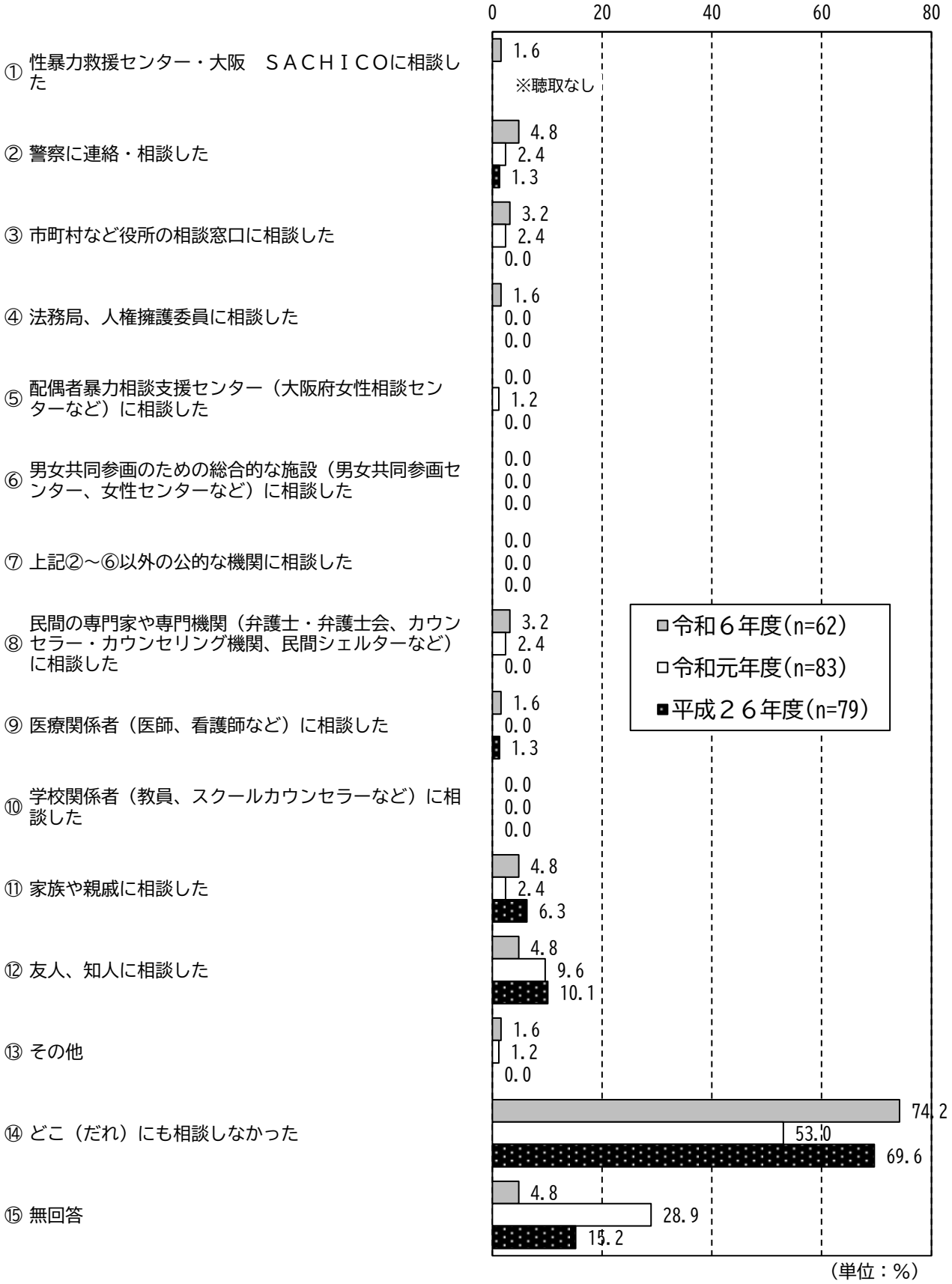

0
20
40
60
80
① 性暴力救援センター・大阪　ＳＡＣＨＩＣＯに相談した
1.3
※聴取なし
② 警察に連絡・相談した
3.8
3.7
0.0
③ 市町村など役所の相談窓口に相談した
2.5
1.9
0.0
④ 法務局、人権擁護委員に相談した
1.3
0.0
0.0
⑤ 配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）に相談した
0.0
0.0
0.0
⑥ 男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）に相談した
0.0
0.0
0.0
⑦ 上記②～⑥以外の公的な機関に相談した
0.0
0.0
0.0
⑧ 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
2.5
1.9
0.0
令和６年度(n=79)
令和元年度(n=54)
平成２６年度(n=21)
⑨ 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
2.5
1.9
0.0
⑩ 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
0.0
0.0
0.0
⑪ 家族や親戚に相談した
6.3
0.0
4.8
⑫ 友人、知人に相談した
8.9
16.7
14.3
⑬ その他
2.5
3.7
0.0
⑭ どこ（だれ）にも相談しなかった
64.6
44.4
61.9
⑮ 無回答
10.1
27.8
19.0
（単位：％）

〈配偶者等からの暴力（ＤＶ）〉

〈女性〉



〈男性〉

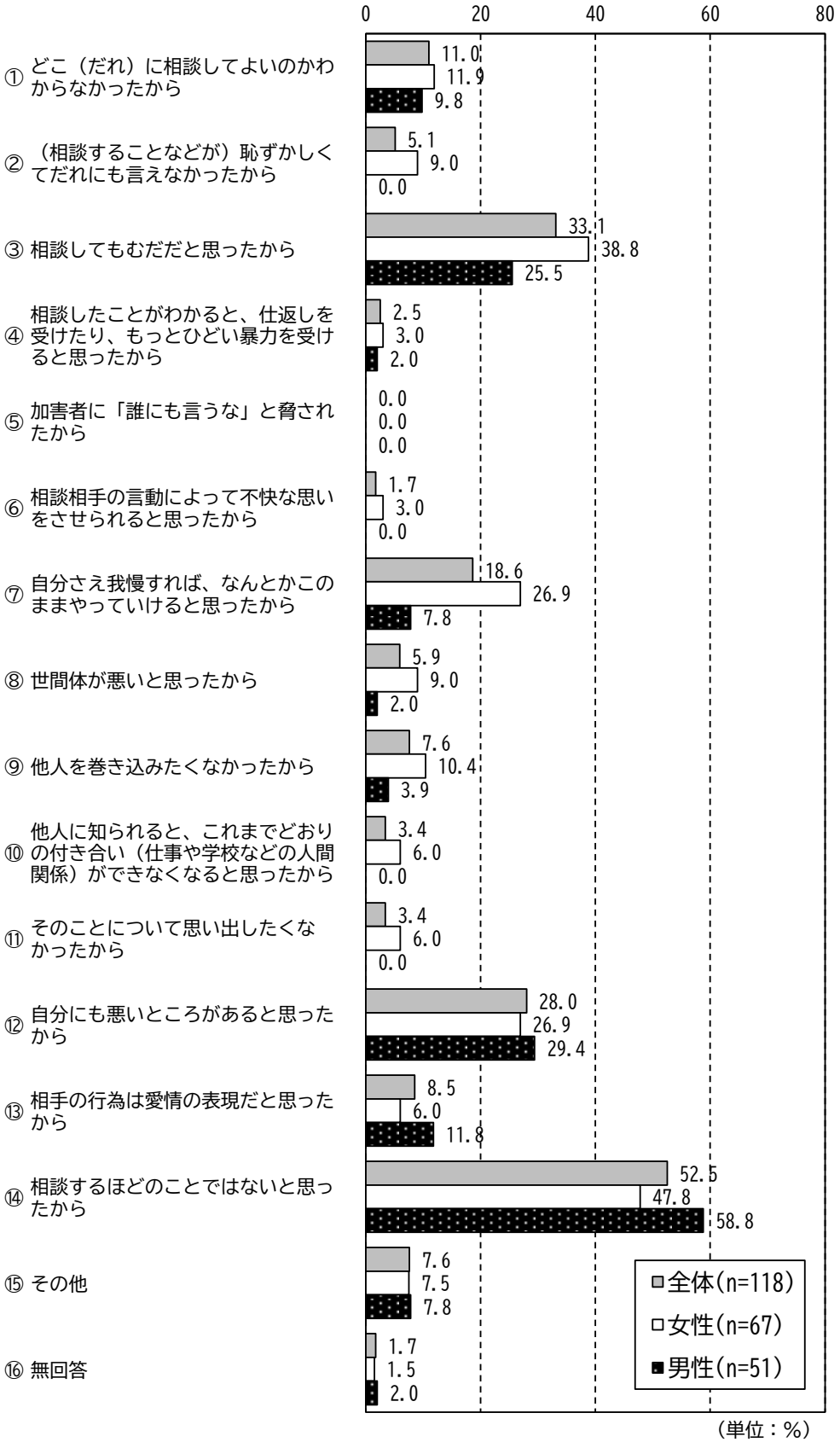

0
20
40
60
80
① 性暴力救援センター・大阪　ＳＡＣＨＩＣＯに相談した
1.6
※聴取なし
② 警察に連絡・相談した
4.8
2.4
1.3
③ 市町村など役所の相談窓口に相談した
3.2
2.4
0.0
④ 法務局、人権擁護委員に相談した
1.6
0.0
0.0
⑤ 配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）に相談した
0.0
1.2
0.0
⑥ 男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）に相談した
0.0
0.0
0.0
⑦ 上記②～⑥以外の公的な機関に相談した
0.0
0.0
0.0
⑧ 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
3.2
2.4
0.0
⑨ 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
1.6
0.0
1.3
⑩ 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
0.0
0.0
0.0
⑪ 家族や親戚に相談した
4.8
2.4
6.3
⑫ 友人、知人に相談した
4.8
9.6
10.1
⑬ その他
1.6
1.2
0.0
⑭ どこ（だれ）にも相談しなかった
74.2
53.0
69.6
⑮ 無回答
4.8
28.9
15.2
令和６年度(n=62)
令和元年度(n=83)
平成２６年度(n=79)
（単位：%）

（８）デートＤＶ、ＤＶの被害を相談しなかった理由

問３０　あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

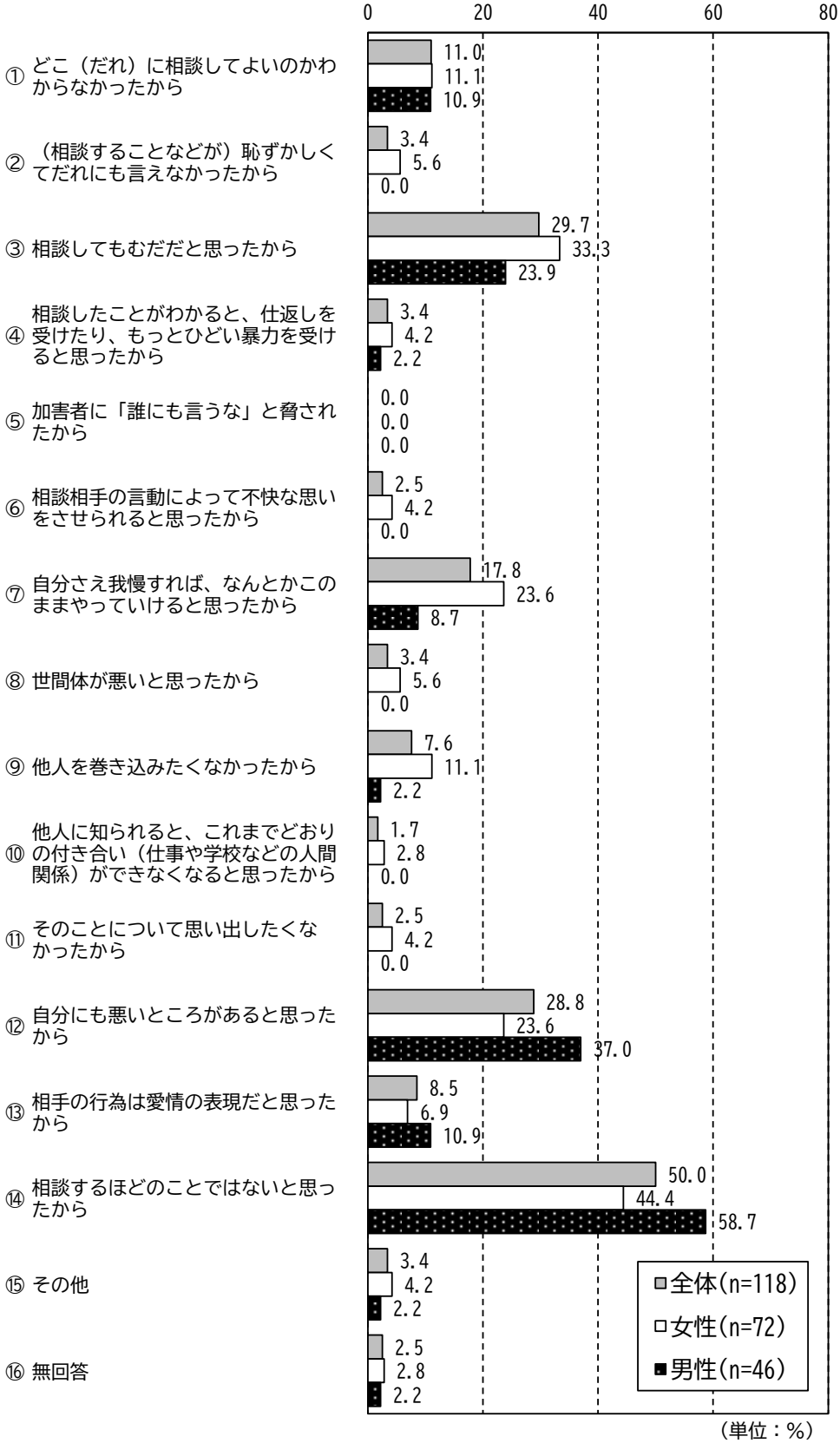
〔図表 10-8　デートＤＶ、ＤＶの被害を相談しなかった理由（**性別**）〕

〈交際相手からの暴力（デートＤＶ〉



（単位：％）

〈配偶者等からの暴力（ＤＶ）〉



被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性のデートＤＶ被害者で 58.8%、ＤＶ被害者で 58.7%、となっている。次いで、デートＤＶ、ＤＶともに「相談してもむだだと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。「相談してもむだだと思ったから」は女性で、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性でより高い。（図表 10-8）

Ⅳ．調査結果のまとめ

回答者の属性について

本調査の回答者の属性については、性別は女性が 55.1%、男性が 43.9%、年齢構成については、「70 歳以上」が 22.0%、「50 歳代」が 21.1%、「60 歳代」が 19.0%、「40 歳代」が 15.2%となっている。

配偶関係では、「結婚している(配偶者・パートナーがいる)」が 65.6%と最も高い。また就労形態は、自身は「勤め人(正規社員・職員)」34.7%、「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員)」23.0%、「無職(家事専業を除く)」16.3%と続いている。子どもの有無については、「2 人」が 35.2%と最も高い。また、家族構成は「二世代世帯(親と子)」が 44.9%と最も高い。

1　男女の地位の平等について

（1）男女平等の現状認識【問１】

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で、『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）が特に高く、女性で約 8 割、男性で約 6～7 割となっている。「全体として」は、女性の 76.6%、男性の 57.7%が『男性優遇』と感じている。「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性 43.1%、男性 55.2%となっている。(P.10)

（2）女性の増加が望まれる職業・役職【問２】

女性が増える方が良いと思う職業や役職は、「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が 57.0%、「都道府県の知事、市（区）町村長」が 54.9%、「企業の管理職、役員」が 50.8%となっている。(P.16)

2　男女の役割分担について

（1）性別役割分担意識【問３】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は 27.9%、『同感しない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合）は 71.4%となっている。性別でみると、『同感する』は、女性 24.3%、男性 32.4%で、女性の方が 8.1 ポイント低くなっている。(P.17)

（2）「男は仕事、女は家庭」と思う理由【問３－１】

「男は仕事、女は家庭」と思う理由は、「子どもの成長にとって良いと思うから」が 44.0%で最も高くなっている。次いで、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が 42.9%となっている。性別でみると、「個人的にそうありたいと思うから」は女性の方が 8.4 ポイント高く、22.0%となっている。(P.21)

（3）「男は仕事、女は家庭」と思わない理由【問３－２】

「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 65.9%で最も高い。次いで、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が 44.7%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が 39.3%となっている。(P.22)

3　家庭生活について

（１）結婚、離婚に関する考え方【問４】

結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の『そう思う』(「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた割合）は 83.4%、「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」の『そう思う』は 83.2%となっている。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」について、『そう思う』は、それぞれ 72.8%、71.0%となっている。(P.23)

（２）家庭の仕事の役割分担【問５】

家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』(「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が 49.3%で最も高くなっている。

一方、「乳幼児の世話」は、『女性の役割』(「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人が 45.7%で最も高くなっている。

また、「日常の家事（炊事、洗濯、掃除以外の家事)」「老親や病身者の介護・看護」「子どもの教育としつけ、学校行事への参加」「自治会、町内会など地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が高くなっている。(P.25)

（３）仕事、家事、育児、介護に要する時間【平日】【問６】

仕事に要する時間をみると、平日で『8 時間以上』が女性は 31.3%、男性で 52.1%となっている。家事に要する時間をみると、女性は「2 時間～3 時間未満」が 23.8%で最も高く、『2 時間以上』でみると 58.6%となっている。一方、男性では『2 時間以上』は 9.9%にとどまり、『 1 時間未満』が 68.1%となっている。育児に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 68.2%となっているが、「5 時間以上」は女性で 9.2%、男性で 0.7%となっている。介護に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 81.6%となっている。(P.29)

（４）仕事、家事、育児、介護に要する時間【休日】【問６】

仕事に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 58.6%、次に「4 時間未満」が 18.3%となっている。家事に要する時間は、女性は平日とほとんど変わらず「2 時間～3 時間未満」が 21.7%で最も高く『2 時間以上』でみると 59.3%となっている。男性は「30 分～1 時間未満」「1 時間～2 時間未満」がそれぞれ約 2 割で高くなっている。育児に要する時間をみると、平日と同様に「なし」が最も高く 66.3%となっているが、「5 時間以上」は女性で 13.6%、男性で 5.5%となっている。介護に要する時間をみると、男女とも「なし」が最も高く 79.0%となっている。(P.38)

４　介護について

（１）介護される場合の希望【問７】

介護される場合の希望は、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 47.7%、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が 40.8%となっている。

性別でみると、女性は「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が 53.8%で最も高く、男性は「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい」が 44.6%で最も高くなっている。また、「行政や外部のサービスには頼らず、在宅で家族・親族等から介護してもらいたい」と望む割合は、男性では 7.9%となっており、女性(2.6%)の約 3 倍となっている。(P.47)

（２）介護してもらいたい相手【問７－１】

介護してもらいたい相手は、男女とも「配偶者」が最も高く（46.3%)、女性 30.1%、男性 62.1%となっている。女性では次いで「家族・親族等以外の人」(24.7%)、「娘」(22.8%)が高くなっている。

(P.49)

5　職業生活について

（1）女性の働き方についての考え【問8】

女性の働き方についての考えは、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が38.1%で最も高く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が20.9%となっている。性別でみると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」は、女性の方が男性より8.1ポイント高くなっている。(P.51)

（2）実際の女性の働き方【問8－1】

実際の女性の働き方をみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり)」が29.4%で最も高い。次いで、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり)」が22.2%となっている。

性別でみると、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり)」は、女性の方が男性より9.6ポイント高くなっている。(P.54)

（3）男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因【問9】

男性が家事、育児、介護・看護をすることへの阻害要因は、「職場の人員配置に余裕がないこと」が28.6%で最も高く、次いで「休暇が取りにくいこと」が26.6%となっている。(P.56)

（4）女性が働き続けるために必要なこと【問10】

女性が働き続けるために必要なことは、「育児、介護・看護休暇制度の充実」(53.2%)、「企業経営者や職場の理解」(52.0%)、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」(50.6%)が5割を超え高くなっている。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は女性の方が男性より16.7ポイント高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」も12.6ポイント高くなっている。(P.57)

（5）女性が再就職しやすくなるために必要なこと【問11】

女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(43.7%)、「企業経営者や職場の理解」(41.9%)、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」(40.7%）が高くなっている。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加」は女性の方が男性より22.3ポイント高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入」も13.3ポイント高くなっている。(P.60)

（6）男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要なこと【問12】

男性が家事、育児、介護・看護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(47.0%)、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(46.1%）が高くなっている。

性別でみると、「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」は女性の方が男性より20.6ポイント高く、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」も11.0ポイント高くなっている。(P.63)

（7）社会・職場・家庭における男女共同参画の進展【問１３】

社会・職場・家庭における男女共同参画の進展について、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合をみると、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」が 79.5%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている」が 68.0%、「男性の育児への参画が以前より進んでいる」が 66.7%、「男性の介護･看護への参画が以前より進んでいる」が 35.1%、「地域活動が以前より活性化している」が 18.5%となっている。

性別でみると、「男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる」は女性の方が男性より 15.7 ポイント低く、「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」も 11.2 ポイント低くなっている。(P.66)

（8）職場において男女格差を感じること【問１４】

「男性の方が優遇されている」では「管理職への登用」（女性 36.3%、男性 34.2%）が最も高く、次いで「昇進・昇格」（女性 33.7%、男性 27.0%）となっている。

「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性 24.1%、男性 23.7%）が高くなっている。また「平等である」は、「研修の機会や内容（キャリア支援)」（女性 51.7%、男性 57.6%）が高くなっている。(P.67)

（9）生活の中で優先すること【1】希望【問１５】

生活の中で優先したいことは、『「個人の生活」を優先したい』(25.9%）と、『「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい』(24.1%）が高く、次いで、『「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしたい』が 20.7%となっている。性別でみると、『「仕事」を優先したい』は男性の方が女性より 9.7 ポイント高く、『「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい』は、女性の方が男性より 10.0 ポイント高くなっている。(P.75)

(10) 生活の中で優先すること【2】現実【問１５】

現実に生活の中で優先していることについては、『「仕事」を優先している』が男女とも最も高く 38.3%、特に男性は 47.0%と高くなっている。女性では、『「仕事」を優先している』が 30.5%、次いで『「仕事」と「個人の生活」をともに優先している』が 26.2%となっている。(P.78)

(11) 今後の就労意向【問１６】

今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く 51.3%、「いいえ」が 17.5%、「どちらとも言えない」が 25.0%となっている。(P.81)

(12) 働けない理由【問１６－１】

現在働けない理由を実数でみると、「仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから」が最も多い。次いで、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから」となっている。(P.82)

(13) 働きたくない理由【問１６－２】

働きたくない理由を実数でみると、「介護・看護のため」「知識、能力など仕事に就く自信がないから」が最も多い。次いで、「急いで仕事に就く必要がないから」となっている。(P.83)

6　コロナ禍前後の生活について

（1）コロナ禍間の生活の変化【問１７－１】

コロナ禍間の生活の変化について、「増えた」をみると、男女とも「こころや身体に関する健康への不安感」が最も高く、女性で 53.3%、男性で 39.4%となっている。次いで「仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感」が高くなっている。

「減った」を見ると、男女とも「実際の収入の増減」が 2 割半、「仕事の時間（通勤時間を含む）」が約 2 割で高くなっている。(P.84)

（２）コロナ禍後の生活の変化【問１７－２】

コロナ禍後の生活の変化について、「増えた」をみると、男女とも「こころや身体に関する健康への不安感」が最も高く、女性で 44.0%、男性で 29.5%となっている。次いで「仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感」が 2 割台で高くなっている。

「減った」を見ると、「実際の収入の増減」が女性で 20.2%、男性で 22.9%と高い。(図表 6-2)

コロナ禍間とコロナ禍後で比較すると、「こころや身体に関する健康への不安感」が「増えた」はコロナ禍間からコロナ禍後に、女性で 9.3 ポイント、男性で 9.9 ポイント減少している。「実際の収入の増減」が「減った」はコロナ禍間からコロナ禍後に、女性で 5.6 ポイント、男性で 4.0 ポイント減少している。(P.85)

７　ドメスティック・バイオレンスについて

（１）暴力だと思うこと【問１８】

暴力だと思うことについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」は男女とも 9 割を超え、「子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう」は女性で 9 割を超えている。

性別でみると、全ての項目で女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高く、半数の項目で約 10 ポイント上回っている。特に「友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」は男性と比べて 13.9 ポイント高くなっている。(P.86)

（２）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知度【問１９、問１９－１】

配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口を「知っている」割合は約半数の 51.8%で、女性の方が男性より 3.9 ポイント高い。相談窓口では「警察」が 80.2%(*41.6%*)で最もよく認知されており、「市町村など役所の相談窓口」も 79.5%(*41.2%*)と、認知率が高い。次いで「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）」が 39.1%(*20.3%*)、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）」が 35.6%(*18.5%*)となっている。(P.87)

※カッコ内は「知らない」「無回答」を含む回答者全体における割合

（３）配偶者等からの暴力（ＤＶ）の相談窓口の認知手段【問１９－２】

相談窓口の認知手段は、「テレビ（ニュース、テレビ番組等）」が 57.7%で最も高い。次いで、「インターネット（ホームページ、ＳＮＳ等）」が 38.9%、「パンフレット、リーフレット、相談カード」が 24.3%である。(P.89)

（４）メディアにおける性・暴力表現【問２０】

メディアにおける性・暴力表現について、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）が最も高いのは「性や暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で 54.7%となっており、女性の方が男性より 7.2 ポイント高い。(P.90)

（５）配偶者等からの暴力(ＤＶ)などをなくすためにもっと取組が必要なこと【問２１】

配偶者等からの暴力(ＤＶ)などをなくすために必要な取組は、「法律・制度の制定や見直しを行う」が61.7%で最も高く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 55.9%、「犯罪の取り締まりを強化する」が 55.6%となっている。性別でみると、全ての項目で女性の方が男性より高く、特に「過激な内容の映像やゲームソフト等の販売や配信などを制限する」で 17.4 ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口の充実」で 15.2 ポイント男性より高くなっている。(P.93)

８　男女共同参画に関する用語の認知度

（１）見聞きしたことがある言葉【問２２】

男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合）でみると、「ジェンダー（社会的性別）平等」（女性 88.4%、男性で 87.0%）が女性で最も高く、「男女雇用機会均等法」(女性 84.3%、男性で 87.1%）が男性で最も高い。次いで「ＤＶ防止法」「ＬＧＢＴＱ」が約 8 割で続いている。(P.94)

（２）男女平等の実現にとって最も重要なこと【問２３】

男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 31.8%、次いで「男性の意識改革」が 29.4%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が 27.2%となっている。

また、「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」は女性 28.5%、男性 20.1%で女性の方が 8.4 ポイント高くなっており、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」は女性 22.7%、男性 32.8%で男性の方が 10.1 ポイント高くなっている。(P.96)

９　男女共同参画社会の推進に向けて

（１）男女共同参画社会を推進するために府や市町村がするべきこと【問２４】

男女共同参画社会の推進に向けて、府や市町村が力を入れていくべきことは、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」が 58.8%で最も高く、次いで「府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が 40.5%となっている。性別でみると、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける」は女性の方が男性より 10 ポイント以上高くなっている。(P.99)

１０　暴力に関わる経験について

（１）性暴力・性犯罪被害経験【問２５】

性暴力・性犯罪被害経験が「ある」女性は 10.9%、男性は 3.2%である。(P.102)

（２）性暴力・性犯罪被害の相談先【問２５－１】

性暴力・性犯罪被害については「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 73.3%で最も高い。次いで「家族や親戚に相談した」が 16.0%、「知人・友人に相談した」が 9.3%となっている。(P.103)

（３）性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由【問２５－２】

性暴力・性犯罪被害を相談しなかった理由は、「(相談することなどが）恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 45.5%で最も高く、次いで「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」(34.5%)、「相談してもむだだと思ったから」(32.7%)、「そのことについて思い出したくなかったから」(32.7%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(30.9%）が 3 割

台で続いている。(P.104)

（４）交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験【問２６】

交際相手からの暴力（デートＤＶ）を受けた経験について「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 5.6%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 3.5%となっている。『あった』(「何度もあった」と「１・２度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 14.9%で最も高い。(P.105)

（５）配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験【問２７】

配偶者等からの暴力（ＤＶ）を受けた経験を「何度もあった」でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 5.7%、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が 4.2%となっている。『あった』(「何度もあった」と「１・２度あった」を合わせた割合）でみると、「何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど」が 15.4%で最も高い。(P.111)

（６）配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験【問２８】

配偶者等から子どもを巻き込む・利用した暴力を受けた経験は、「何度もあった」が 2.6%、「１・２度あった」が 9.5%となっており、性別でみると女性のほうが「何度もあった」が 4.0%と、男性より 3.6 ポイント高い。(P.117)

（７）デートＤＶ、ＤＶの被害の相談先【問２９】

被害の相談先をみると、デートＤＶ、ＤＶとも約 5 割が「どこ（だれ）にも相談しなかった」としており、ＤＶ被害の場合、特に男性の割合が高くなっている。

相談先は、デートＤＶ被害の場合は「友人、知人」(25.7%) が最も高く、次いで、「家族や親戚」(18.6%) で、相談機関では「警察」が 3.0%となっている。

ＤＶ被害の場合も、主な相談先は「友人、知人」(23.1%)、「家族や親戚」(20.8%) となっている。相談機関では「警察」が 4.1%、「市町村など役所の相談窓口」が 3.6%となっている。(P.118)

（８）デートＤＶ、ＤＶの被害を相談しなかった理由【問３０】

被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性のデートＤＶ被害者で 58.8%、ＤＶ被害者で 58.7%、となっている。次いで、デートＤＶ、ＤＶともに「相談してもむだだと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。「相談してもむだだと思ったから」は女性で、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性でより高い。(P.124)

Ⅴ．自由意見のまとめ

男女共同参画社会を実現するための意見、要望、提案について自由記述として 135 件の意見が寄せられ、主な内容は以下の通りとなった。なお、意見件数は複数カウントとしている。

＜男女平等をめぐる意識について＞

- 男と女は身体的な差があり、男性に向く役割、女性に向く役割がある（6 件）
- 男女の違いを理解した上で互いに尊重し、協力しあう必要がある（8 件）
- 男女に限らず多様性や個人を尊重する（8 件）
- 男女の不平等を感じている（4 件）
- 行政による広報や情報発信が必要（3 件）
- 家庭や学校での教育が大切（12 件）
- 女性の意識や行動を変える（4 件）
- 男性の意識や行動を変える（2 件）
- その他男女平等をめぐる意識（23 件）

＜就労について＞

- 子育て世代に優しい環境作り（4 件）
- 女性が働き続けられる環境作り（2 件）
- 性別にかかわらない適正な配置（3 件）
- その他就労における男女共同参画への意見（8 件）

＜暴力について＞

- 暴力についての意見（2 件）
- 性暴力・性犯罪についての意見（2 件）

＜その他＞

- 制度や相談・支援窓口の整備が必要（7 件）
- 地域活動への参加についての意見（4 件）
- アンケート・調査について意見（19 件）
- その他意見（35 件）

オンライン回答用 ID：

※ この ID は、重複した回答がないかを確認するためのもので、あなたの個人情報と紐づけるものではありません。

男女共同参画にかかる府民意識調査

ご回答についてのお願い

●本調査について

＊この調査は、男女共同参画に関する府民の皆様のお考えをおたずねするものです。この調査結果は、大阪府において、**今後の男女共同参画施策の基礎資料として活用していきます**。

＊この調査は大阪府民の皆様から無作為に 3,000 人の方を選び、調査票をお送りしています。

＊**無記名**でお答えいただき、**どなたの答えかわからないようになっていますので、回答内容によって不利益を被ることはありませんし、あなた自身にご迷惑をおかけすることは決してありません。**

＊お寄せいただいたご回答は、すべてコンピューターで一括処理を行い、統計的な集計・分析結果のみを公表しますので、個々の回答内容や皆様の個人情報が外部に漏れることは一切ありません。

＊この調査は上記の目的以外に使用することはありません。

＊この調査への回答は任意です。

●回答方法、回答期限

次の２つの方法からいずれか１つをお選びいただき、ご回答ください。

１　郵送による回答

調査票（この冊子）にボールペンまたは鉛筆で直接回答を記入し、同封の返信用封筒（**切手不要**）に封入の上、**８月 30 日（金）まで**にポストに投函してください。**封筒にお名前を書いていただく必要はありません。**

２　オンラインによる回答

パソコン、タブレット、スマートフォンを利用し、**８月 30 日（金）まで**にオンラインでご回答ください。詳細は、同封の「ご回答方法について」をご覧ください。**オンライン回答の場合は、調査票（この冊子）の記入及び返送は不要です。**

●回答時の注意

＊**あて名の方ご自身がお答えください。**

＊回答は問１から順に、質問ごとに用意した答えの中から、〇をつけてお答えください。

＊設問によって、回答できない場合または回答したくない場合は、その設問については飛ばして次の設問へお進みください。

＊回答の選択肢に該当する答えがない場合は、「その他：自由記述」の（　　）内に自由にご記入ください。

＊設問によって回答される方が限られる場合がありますので、設問のことわり書きをお読みいただき、ご回答ください。

お忙しいところお手数ですが、ご協力をお願いいたします。

【お問い合わせ先】
大阪府　府民文化部　男女参画 ・府民協働課　男女共同参画グループ
電話　06-6210-9321

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

a．あなたの性別は。

１．女性	２．男性	３．１、２のどちらでもない	４．答えたくない

※本調査は、男女共同参画や男女の平等に関する意識などを調査するため、性別をご回答いただいています。選択肢の「３．どちらでもない」は、性の多様性を考慮したものです。戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観によりご記入ください。

b．あなたの年齢は。（記入日時点）

１．１８、１９歳	２．２０～２４歳	３．２５～２９歳	４．３０～３４歳
５．３５～３９歳	６．４０～４４歳	７．４５～４９歳	８．５０～５４歳
９．５５～５９歳	10．６０～６４歳	11．６５～６９歳	12．７０歳以上

c．あなたは、どちらにお住まいですか。

１．大阪市域	（大阪市）
２．三島地域	（吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町）
３．豊能地域	（豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町）
４．北河内地域	（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）
５．中河内地域	（八尾市、柏原市、東大阪市）
６．南河内地域	（富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村）
７．泉北地域	（堺市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町）
８．泉南地域	（岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町）

d．あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。またはしていましたか。

１．未婚

２．結婚している（配偶者・パートナー（※）がいる）

３．結婚したが、離婚又は死別した

※パートナー：事実婚、生活の本拠を共にする交際相手のこと

e．あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。
配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。【○はそれぞれ１つずつ】

＜ご自身の職業（○は１つ）＞	＜配偶者・パートナーの職業（○は１つ）＞
１．勤め人（正規社員・職員） ２．勤め人（臨時・パート・アルバイト等 非正規社員・職員） ３．自営業主または家族従業員 ４．家事専業 ５．学生 ６．無職（家事専業を除く） ７．その他（具体的に　　）	１．勤め人（正規社員・職員） ２．勤め人（臨時・パート・アルバイト等 非正規社員・職員） ３．自営業主または家族従業員 ４．家事専業 ５．学生 ６．無職（家事専業を除く） ７．その他（具体的に　　）

f．あなたにはお子さんがいますか。（別居を含む）【○は１つだけ】

１．１人　２．２人　３．３人　４．４人以上　５．子どもはいない

＜お子さんがいる方にお聞きします。＞

g．一番下のお子さんは何歳ですか。（別居を含む）【○は１つだけ】

１．３歳未満　２．３歳以上就学前　３．小学生
４．中学生　５．高校生　６．それ以上

h．あなたの家族構成は次のどれですか。【○は１つだけ】

１．１人世帯　２．一世代世帯（夫婦だけ）
３．二世代世帯（親と子）　４．三世代世帯（親と子と孫）
５．その他：自由記述（　　）

i．昨年のあなたご自身の年間所得は、税込みでいくらでしたか。【○は１つだけ】

１．200 万円未満　２．200 万円以上 400 万円未満
３．400 万円以上 600 万円未満　４．600 万円以上 800 万円未満
５．800 万円以上 1,000 万円未満　６．1,000 万円以上

j．あなたが最後に通われた学校（中退を含む）はどれにあてはまりますか。
在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。【○は１つだけ】

１．中学校、旧制小学校、旧制高等小学校
２．高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校
３．短期大学、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校
４．四年制大学
５．大学院
６．その他：自由記述（　　）

続いて、質問にはいります。

問1　次にあげる分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
あなたのお考えに近いものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
（1）家庭生活で	1	2	3	4	5	6
（2）職場の中で	1	2	3	4	5	6
（3）地域活動（※）の場で	1	2	3	4	5	6
（4）学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
（5）政治の場で	1	2	3	4	5	6
（6）法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
（7）社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
（8）全体として	1	2	3	4	5	6

※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

問2　次にあげるような職業や役職において、今後女性がもっと増える方が良いと思うのはどれですか。
この中からいくつでもあげてください。【○はいくつでも】

1．都道府県の知事、市(区)町村長
2．国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員
3．国家公務員・地方公務員の管理職
4．裁判官、検察官、弁護士
5．学校長、大学学長、大学教授
6．国連などの国際機関の管理職
7．企業の管理職、役員
8．起業家・経営者
9．労働組合の幹部
10．農協・漁業・林業などの事業組合の役員
11．新聞・放送などマスメディア関係者
12．自治会長、町内会長等
13．地域の防災組織など災害対応に携わる者
14．理工系分野の研究者・技術者
15．特にない
16．その他：自由記述（　　）

問3　「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。【○は１つだけ】

1．そう思う
2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない
4．そう思わない

＜問3で「1」または「2」と回答した方にお聞きします。＞

問3－1　そう思う理由を教えてください。【○はいくつでも】

1．日本の伝統・慣習だと思うから
2．性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
3．子どもの成長にとって良いと思うから
4．個人的にそうありたいと思うから
5．その他：自由記述（　　）

＜問3で「3」または「4」と回答した方にお聞きします。＞

問3－2　そう思わない理由を教えてください。【○はいくつでも】

1．男女平等に反すると思うから
2．女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3．男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4．少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから
5．一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6．その他：自由記述（　　）

問4　次にあげることがらについて、どのように思いますか。
あなたのお考えに近いものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
（1）結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
（2）結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
（3）結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
（4）希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない	1	2	3	4	5

問5　次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。
あなたのお考えに近いものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	主に男性の役割	どちらかといえば男性の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば女性の役割	主に女性の役割	いずれにも該当しない
（1）生活費をかせぐ	1	2	3	4	5	6
（2）日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
（3）日常の家事（炊事）	1	2	3	4	5	6
（4）日常の家事（洗濯）	1	2	3	4	5	6
（5）日常の家事（掃除）	1	2	3	4	5	6
（6）日常の家事（（3）～（5）以外の家事）	1	2	3	4	5	6
（7）老親や病身者の介護・看護	1	2	3	4	5	6
（8）子どもの教育としつけ、学校行事の参加	1	2	3	4	5	6
（9）乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
（10）自治会、町内会など地域活動（※）への参加	1	2	3	4	5	6

※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

問6　１日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事、育児、介護に要する平均時間は、
通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。【○はそれぞれ１つずつ】

（1）仕事（通勤時間を含む）

① 平日（○は1つ）	② 休日（○は1つ）
1．なし 2．４時間未満 3．４時間～６時間未満 4．６時間～８時間未満 5．８時間～１０時間未満 6．１０時間～１２時間未満 7．１２時間以上	1．なし 2．４時間未満 3．４時間～６時間未満 4．６時間～８時間未満 5．８時間～１０時間未満 6．１０時間～１２時間未満 7．１２時間以上

（2）家事

① 平日（○は1つ）	② 休日（○は1つ）
1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上	1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上

（3）育児

① 平日（○は1つ）	② 休日（○は1つ）
1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上	1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上

（4）介護

① 平日（○は1つ）	② 休日（○は1つ）
1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上	1．なし 2．ほとんどない 3．３０分未満 4．３０分～１時間未満 5．１時間～２時間未満 6．２時間～３時間未満 7．３時間～４時間未満 8．４時間～５時間未満 9．５時間以上

問7　もしあなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。
【○は１つだけ】

1．行政や外部のサービスには頼らず、在宅で家族・親族等から介護してもらいたい
2．ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に在宅で介護してもらいたい
3．特別養護老人ホーム等の施設に入所したい
4．その他：自由記述（　　）

＜問7 で「1」または「2」と回答した方にお聞きします。その他の方は問8へお進みください。＞

問7－1　在宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。【○は１つだけ】

1.配偶者　　2.息子
3.娘　　4.息子の配偶者
5.娘の配偶者
6.その他の家族・親族等（女性）（自由記述：　　）
7.その他の家族・親族等（男性）（自由記述：　　）
8.家族・親族等以外の人
9.その他：自由記述（　　）

問8　女性の働き方について、あなたはどのようにお考えですか。【○は１つだけ】

1．結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
2．結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい
3．子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や育児に専念する方がよい
4．育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
5．育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
6．仕事には就かない方がよい
7．その他：自由記述（　　）

問8－1

＜２ページのａ「性別」で「１．女性」と回答した方にお聞きします。＞
あなたの場合、次のどれにあてはまりますか。又は、どのようにされるつもりですか。

＜２ページのａ「性別」で「２．男性」と回答した方にお聞きします。＞
あなたの配偶者・パートナーの場合、次のどれにあてはまりますか。（配偶者・パートナーがいない場合は、いるとした場合、どのようにされると思うかをご回答ください。）

【○は１つだけ】

1．結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている　（続けていた／続けるつもり）
2．結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）
3．子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や育児に専念している（専念していた／専念するつもり）
4．育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）
5．育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）
6．仕事に就いたことはない（就くつもりはない）
7．その他：自由記述（　　）

＜２ページのａ「性別」で「２．男性」と回答した方にお聞きします。他の方は問10へお進みください。＞

問9　あなたが今以上に家事、育児、介護・看護、地域活動（※）をすることを難しくしている理由は何ですか。【○はいくつでも】
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

1．超過勤務が多いこと
2．休暇が取りにくいこと
3．休暇を取得した場合の所得保障がない（少ない）こと
4．職場の人員配置に余裕がないこと
5．フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方を可能とする制度や、業務分担上の配慮、転勤への配慮など、家庭と仕事の両立支援制度がないこと
6．職場で男性が家事、育児、介護・看護、地域活動をすることへの理解がない（少ない）こと
7．仕事を優先しないと昇進・昇級、人事評価などへの悪影響があること
8．配偶者・家族・親族等から仕事に専念するよう（仕事を優先するよう）期待されていること
9．配偶者・家族・親族等から家事、育児、介護・看護、地域活動に取り組むことを期待されていないこと
10.家事、育児、介護・看護、地域活動のスキルがないこと
11.その他：自由記述（　　）

問10　出産、育児、介護・看護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○は３つまで】

1．育児、介護・看護休暇制度の充実
2．企業経営者や職場の理解
3．労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入
4．育児や介護・看護のための施設やサービスの充実
5．夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加
6．その他：自由記述（　　）

問11　出産、育児、介護・看護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○は３つまで】

1．就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
2．技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3．育児や介護・看護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
4．企業経営者や職場の理解
5．労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務などの多様な勤務制度の導入
6．育児や介護・看護のための施設やサービスの充実
7．夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、介護・看護などへの参加
8．その他：自由記述（　　）

問12　今後、男性が家事、育児、介護・看護、地域活動（※）などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○は３つまで】
※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

1．男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2．男性が家事、育児、介護・看護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3．夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4．労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5．小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
6．男性が育児や介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
7．家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
8．その他：自由記述（　　）

問13　あなたご自身の経験に照らして、次のことがらについて、あなたのお考えに最も近いと思われるものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（1）以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている	1	2	3	4	5
（2）以前に比べて、男女とも働き続けやすい社会になっている	1	2	3	4	5
（3）男性の育児への参画が以前より進んでいる	1	2	3	4	5
（4）男性の介護・看護への参画が以前より進んでいる	1	2	3	4	5
（5）地域活動（※）が以前より活性化している	1	2	3	4	5

※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

＜現在仕事をしている方にお聞きします。その他の方は問16へお進みください。＞

問14　あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。【○はそれぞれ１つずつ】

	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	わからない
（1）募集・採用	1	2	3	4
（2）賃金	1	2	3	4
（3）仕事の内容	1	2	3	4
（4）昇進・昇格	1	2	3	4
（5）管理職への登用	1	2	3	4
（6）能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4
（7）研修の機会や内容（キャリア支援）	1	2	3	4
（8）家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備	1	2	3	4
（9）育児、介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ	1	2	3	4

問15　あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動（※）」、「個人の生活」で何を優先しますか。
あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ１つお答えください。

※「地域活動」とは、自治会、ＰＴＡ、民生委員、ＮＰＯやボランティアでの活動などを指します。

（１）希望として【○は１つだけ】

1.「仕事」を優先したい
2.「家庭や地域活動」を優先したい
3.「個人の生活」を優先したい
4.「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい
5.「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
6.「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
7.「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしたい
8．その他：自由記述（　　）

（２）現実（現状）として【○は１つだけ】

1.「仕事」を優先している
2.「家庭や地域活動」を優先している
3.「個人の生活」を優先している
4.「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している
5.「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
6.「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している
7.「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の３つとも大切にしている
8.その他：自由記述（　　）

＜64歳以下の方で、現在、家事専業または、無職の方（学生は除く）にお聞きします。それ以外の方は、問17-1へお進みください。＞

問16　あなたは今後働きたいとお考えですか。あてまるものの番号を１つだけ選んでください。

1．はい　　2．いいえ　　3．どちらとも言えない
4．その他：自由記述（　　）

＜問16で「1．はい」と回答した方は問16-1へ、「2．いいえ」と回答した方は問16-2へ、その他の方は問17-1へお進みください。＞

問16－1　今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由は何ですか。
あてはまるものの番号をすべて選んでください。【○はいくつでも】

1．保育施設に入所できなかったから
2．延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから
3．仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから
4．家事について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
5．育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
6．介護・看護について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
7．介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから
8．働くことについて配偶者、パートナー等家族の同意が得られないから
9．働くことで家族に迷惑がかかると感じるから
10．仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから
11．仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから
12．職場での人間関係をうまくやっていけるか不安を感じるから
13．その他：自由記述（　　）

問16－2　「いいえ」と回答された理由は何ですか。【○はいくつでも】

1．出産・育児のため　　2．介護・看護のため　　3．病気・怪我のため
4．学校以外で進学や資格取得などの勉強をしているから
5．急いで仕事に就く必要がないから
6．希望する仕事、条件に合う仕事がありそうにないから
7．知識、能力など仕事に就く自信がないから
8．その他：自由記述（　　）

問 17―1　**新型コロナウイルス感染症拡大（以下「コロナ禍」）前**と比べ、**コロナ禍の間**の生活に変化がありましたか。【○はそれぞれ１つずつ】

コロナ禍前（概ね 2019 年まで）とコロナ禍（概ね 2020 年から 2022 年の間）の比較	コロナ禍前に比べて			
	増えた	変わらない	減った	もともとしていない・ない
1．仕事の時間（通勤時間を含む）	1	2	3	4
2．家事の時間	1	2	3	4
3．育児の時間	1	2	3	4
4．介護の時間	1	2	3	4
5．仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感	1	2	3	4
6．家事・育児・介護への不安感	1	2	3	4
7．こころや身体に関する健康への不安感	1	2	3	4
8．配偶者・パートナーなどからの暴力の不安感	1	2	3	4
9．実際の収入の増減	1	2	3	4

問 17―2　**コロナ禍前**と比べ、**現在（５類感染症への移行後）**の生活に変化がありましたか。【○はそれぞれ１つずつ】

コロナ禍前（概ね 2019 年まで）と現在の比較	コロナ禍前に比べて			
	増えた	変わらない	減った	もともとしていない・ない
1．仕事の時間（通勤時間を含む）	1	2	3	4
2．家事の時間	1	2	3	4
3．育児の時間	1	2	3	4
4．介護の時間	1	2	3	4
5．仕事（雇用・自営業の経営など）への不安感	1	2	3	4
6．家事・育児・介護への不安感	1	2	3	4
7．こころや身体に関する健康への不安感	1	2	3	4
8．配偶者・パートナーなどからの暴力の不安感	1	2	3	4
9．実際の収入の増減	1	2	3	4

問 18　あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
（1）平手で打つ	1	2	3
（2）なぐる、ける	1	2	3
（3）家具などの物にあたる、壊す	1	2	3
（4）なぐるふりをして、おどす	1	2	3
（5）望まないのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない	1	2	3
（6）無理やりポルノ画像などを見せる	1	2	3
（7）何を言っても無視し続ける	1	2	3
（8）暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3
（9）自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3
（10）友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする	1	2	3
（11）本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する	1	2	3
（12）子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう	1	2	3

問 19　あなたは、配偶者・パートナーからの暴力（なぐる、ける、無視するなど身体的、精神的な暴力等）について、相談できる窓口があることを知っていますか。

１．知っている　　２．知らない

＜問 19 で「１．知っている」と回答した方は問 19－１へ、「２．知らない」と回答した方は問 20 へお進みください。＞

問19－1　相談窓口としてどのようなものを知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．警察
2．市町村など役所の相談窓口
3．法務局、人権擁護委員
4．配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）
5．男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）
6．１～５以外の公的な機関
7．民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）
8．その他：自由記述（　　）

問19－2　相談窓口をどのような手段で知りましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．インターネット（ホームページ、ＳＮＳ等）
2．パンフレット、リーフレット、相談カード
3．ポスター
4．テレビ（ニュース、テレビ番組等）
5．ラジオ
6．知り合いからの紹介
7．その他：自由記述（　　）

問20　テレビ、新聞、雑誌、書籍（本）、インターネットなどメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように思いますか。【○はそれぞれ１つずつ】

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（1）性別に対するイメージについて偏った表現をしている	1	2	3	4	5
（2）性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	1	2	3	4	5
（3）社会全体の性や暴力に関する道徳感・倫理観を損なうおそれがある	1	2	3	4	5
（4）犯罪（性犯罪を含む）を助長するおそれがある	1	2	3	4	5
（5）性や暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	1	2	3	4	5

問21　配偶者等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などをなくすために、もっと取組を進める必要があるのはどのようなことですか。【○はいくつでも】

1．法律・制度の制定や見直しを行う
2．犯罪の取り締まりを強化する
3．暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする
4．被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる
5．加害者のためのカウンセリングや相談の窓口の充実
6．家庭や学校において男女平等についての教育を充実させる
7．メディアが自主的に倫理規定を強化する
8．過激な内容の映像やゲームソフト等の販売や配信などを制限する
9．その他：自由記述（　　）

問22　次にあげる項目のうち、あなたがご存じのものはありますか。あてはまるものを選んでください。【○はそれぞれ１つずつ】

	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	聞いたことがなく内容を知らない
（1）男女共同参画社会	1	2	3
（2）ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
（3）ジェンダー（社会的性別）平等	1	2	3
（4）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
（5）ダイバーシティ（多様な人材の活用）	1	2	3
（6）ＬＧＢＴＱ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングまたはクィアの頭文字を並べた呼称）	1	2	3
（7）ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）	1	2	3
（8）女子差別撤廃条約	1	2	3
（9）男女雇用機会均等法	1	2	3
（10）女性活躍推進法	1	2	3
（11）候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）	1	2	3
（12）ＤＶ防止法　（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
（13）困難女性支援法　（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）	1	2	3
（14）大阪府男女共同参画推進条例	1	2	3
（15）おおさか男女共同参画プラン（2021－2025）	1	2	3
（16）大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）	1	2	3

問23　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。【○は２つまで】

1．法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
2．女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3．女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ったりすること
4．女性の意識改革
5．男性の意識改革
6．小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること
7．育児や介護・看護を支援する施設やサービスの充実を図ること
8．職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと
9．政治分野や政府における重要な役職を一定の割合で女性とすること
10．自治体、企業などにおける重要な役職を一定の割合で女性とすること
11．その他：自由記述（　　）

問24　あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、府や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【○はいくつでも】

1．府や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
2．民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
3．男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する
4．男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する
5．職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業等に働きかける
6．仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める
7．学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する
8．妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する
9．セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力の防止や被害者への支援を充実する
10．男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する
11．候補者男女均等法に基づき、選挙の候補者数をできる限り男女均等にするよう啓発活動を充実する
12．その他：自由記述（　　）

ここからは、ＤＶや性暴力・性犯罪（配偶者やパートナーからの暴力を含む）について、あなたのこれまでの経験をお聞きします。回答したくない質問は、飛ばしてください。

＜子どもの頃も含めて、これまでの経験についてお聞きします。＞

問25　あなたはこれまでに、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。
あてはまる番号１つに○をつけてください。

1．ある　　2．ない

＜問25で「1.ある」と回答された方にお聞きします。「2.ない」と回答された方は問26へお進みください。＞

問25－1　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．性暴力救援センター・大阪 SACHICO（※）に相談した
2．警察に連絡・相談した
3．配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）に相談した
4．男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）に相談した
5．上記２～４以外の公的な機関に相談した
6．民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
7．医療関係者（医師、看護師など）に相談した
8．学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
9．家族や親戚に相談した
10．知人・友人に相談した
11．その他：自由記述（　　）
12．どこ（だれ）にも相談しなかった

※「性暴力救援センター・大阪 SACHICO」とは、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターで、病院の中にあり NPO 法人が運営しています。

＜問25－1で「12. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。その他の方は問26へお進みください。＞

問25－2　あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2．（相談することなどが）恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3．相談してもむだだと思ったから
4．相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
5．加害者に「誰にも言うな」と脅されたから
6．相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7．自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8．世間体が悪いと思ったから
9．他人を巻き込みたくなかったから
10．他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11．そのことについて思い出したくなかったから
12．自分にも悪いところがあると思ったから
13．相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14．相談するほどのことではないと思ったから
15．その他：自由記述（　　）

＜交際相手のいる（いた）方にお聞きします。＞

問26　交際相手から、次のようなことを受けた・されたことがありますか。
【○はそれぞれ１つずつ】

	何度もあった	１・２度あった	まったくない
（1）なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど	1	2	3
（2）何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど	1	2	3
（3）嫌がっているのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど	1	2	3
（4）借りたお金を返さない、無理やりデートでおごらせる、物を買わせるなど	1	2	3
（5）携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達付き合いを制限するなど	1	2	3

＜これまでに結婚（事実婚を含む）したことのある方にお聞きします。＞

問27　これまでに配偶者・パートナーから、次のようなことを受けた・されたことがありますか。
【○はそれぞれ１つずつ】

	何度もあった	１・２度あった	まったくない
（1）なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど	1	2	3
（2）何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど	1	2	3
（3）望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せる、避妊に協力しないなど	1	2	3
（4）自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど	1	2	3
（5）携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど	1	2	3

＜子どもがいる方にお聞きします。＞

問28　これまでに配偶者・パートナーから、次のようなことを受けた・されたことがありますか。
【○は１つだけ】

	何度もあった	１・２度あった	まったくない
子どもに危害を加える、子どもを取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるうなど	1	2	3

<問26、問27、問28で、１つでも「１．何度もあった」、「２．１・２度あった」と回答した方にお聞きします。>

問29　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．性暴力救援センター・大阪 SACHICO（※）に相談した
2．警察に連絡・相談した
3．市町村など役所の相談窓口に相談した
4．法務局、人権擁護委員に相談した
5．配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センターなど）に相談した
6．男女共同参画のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）に相談した
7．上記２～６以外の公的な機関に相談した
8．民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
9．医療関係者（医師、看護師など）に相談した
10．学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
11．家族や親戚に相談した
12．友人、知人に相談した
13．その他：自由記述（　　）
14．どこ（だれ）にも相談しなかった

※「性暴力救援センター・大阪 SACHICO」とは、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターで、病院の中にあり NPO 法人が運営しています。

<問29で「14．どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。>

問30　あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2．（相談することなどが）恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3．相談してもむだだと思ったから
4．相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5．加害者に「誰にも言うな」と脅されたから
6．相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7．自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8．世間体が悪いと思ったから
9．他人を巻き込みたくなかったから
10．他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11．そのことについて思い出したくなかったから
12．自分にも悪いところがあると思ったから
13．相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14．相談するほどのことではないと思ったから
15．その他：自由記述（　　）

○男女共同参画社会の実現や本調査に関することについて、ご意見・ご要望・ご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れ、８月30日（金）までに投函してください。